文部科学省認可通信教育

学習の手引き

テキスト履修科目編

2025

ともに学び ともに成長する
神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY
通信教育部

『学習の手引き 2025』の

「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」の分冊について

『学習の手引き』は、「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」に分冊しています。分冊にあたり、下記内容について注意してください。

❶. テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞〔例：教育学科・児童教育学科専門教育科目群「子どもと人間関係」「教科教育法・外国語（英語）」など〕については、テキスト履修科目分とスクーリング履修科目分をそれぞれ冊子を分けて掲載しています。レポート作成・提出、科目修了試験受験、スクーリング受講の際には、該当の『学習の手引き』を必ず確認してください。

❷. 実習科目については、「テキスト履修科目編」に掲載しています。ただし、スクーリング履修科目である「教育実習事前・事後指導（初等）」「特別支援学校教育実習事前事後指導」「保育実習指導ⅠA（保育所）」「保育実習指導Ⅱ（保育所）」「保育実習指導ⅠB（施設）」は、「スクーリング履修科目編」に掲載していますので注意してください。

＜10月入学生への「学習の手引き」配付について＞

10月入学生には、『学習の手引き2025 テキスト履修科目編』（レポート課題有効期限：2025年10月～2026年10月レポート提出受付期間。詳しくは、『親和通信』にて連絡。）を2025年９月（予定）に配付します。2025年４月～2026年２月開講のスクーリング履修科目については、『学習の手引き2025　スクーリング履修科目編』掲載の内容となります。なお、2026年４月～2027年２月開講分の『学習の手引き2026 スクーリング履修科目編』は2026年３月（予定）に配付します。

テキスト購入の際は、「テキスト購入について」（はじめにⅫ）を確認してください。

目　　次

はじめに…… 2

Ⅰ 『学習の手引き テキスト履修科目編』について

Ⅱ レポート作成について

Ⅲ レポート作成時・提出時の注意

Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出

Ⅴ 科目修了試験の受験資格・単位修得について

Ⅵ レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について

Ⅶ 2025年度科目修了試験について

Ⅷ 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて

Ⅸ 科目修了試験解答について

Ⅹ レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>

Ⅺ カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

Ⅻ テキスト購入について

XIII 参考文献について

XIV 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

XV 単位数と必要な学習時間について

XVI テキスト履修科目 学習の流れ

XVII カリキュラムマップ

科目別索引（五十音順）…… 22

共通教育科目群…… 25

教育学科・児童教育学科専門教育科目群…… 73

福祉臨床学科専門教育科目群…… 253

幼稚園教諭・保育士特例制度科目…… 331

・様式

「音楽」用五線紙

テキスト購入FAX（郵送）申込書

はじめに

Ⅰ『学習の手引き テキスト履修科目編』について

『学習の手引き テキスト履修科目編』には、テキスト履修科目を共通教育科目群、教育学科・児童教育学科専門教育科目群、福祉臨床学科専門教育科目群、特例制度（幼稚園教諭免許状取得・保育士資格取得）に分け、科目コード順に掲載しています。

テキスト履修科目は、科目ごとに設定されたすべて（単位数分）のレポート課題についてレポートを作成・提出・合格し、その科目の科目修了試験に合格することにより単位を修得することができます。なお、**当該科目の最終評価は、科目修了試験の結果（成績）での評価となります。（※レポート評価は、最終評価には影響しません。）**科目修了試験を受験するには、申請が必要です。申請方法等については、『学生要覧』、『親和通信』で確認してください。

本冊子には、テキスト、科目の目的、到達目標、学習テーマ、ワープロソフト使用の可否、レポート課題、課題の留意点、レポートの評価基準、科目修了試験「答案」作成の留意点、科目修了試験の評価基準、参考文献等を記載しています。科目の目的、到達目標、学習テーマをもとにテキストを熟読し、内容を十分理解するとともに、レポート課題の趣旨をよく理解したうえで、課題の留意点やレポートの評価基準等を参考に、レポート作成に取り組むようにしてください。

Ⅱ レポート作成について（１単位につき１課題・１課題につき2,000字程度＜ワープロソフト使用または自筆＞）

課題レポートの作成・提出は、通信教育の根幹となる学習方法です。テキストや参考文献等を熟読しながら、課題に対してレポートを作成します。作成したレポートは、本学通信教育部事務室宛に本学所定のレポート提出用封筒で送付し、担当教員による添削指導および評価を受けます。

テキストによる学習の状況を課題レポートの提出により担当教員に報告し、担当教員からその内容を評価・添削され、その後の学習の進め方などをアドバイスされることにより、科目修了試験に向けて学習を深めていくことになります。

テキストの学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、**「質問票」**（『親和通信』巻末様式）に必要事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

以下、本学通信教育部のレポートに要求されていることを説明します。

１．レポート作成の基本

レポートは、テキストや参考文献等を読んで学んだことを課題について作成し、担当教員に報告するものです。まずは当該科目の内容（科目の目的、到達目標、学習テーマ、レポート課題、課題の留意点、評価基準等）を理解したうえで、テキストの内容を自分のことばで要約して、課題の趣旨に沿って自分で考え（考察し）て論理的にまとめることが必要になります。自分が理解したことを第三者にも不足なく伝わるようにまとめることが、何よりも大切になります。

テキストを丸写ししたり、書き直したり、十分にテキストを読まずに、ただ自分の実体験や感想をまとめただけのレポートでは、合格評価を得ることはできません。レポートは、自分の主観を述べるものでも、感想文でもなく、課題に対して体系立てて論述しなければなりません。このことは、学習の成果をまとめるレポートとしては、必要最低限のことになります。大切なことは、**テキストの内容を理解**したうえで、自分なりに考察などを加えることです。

テキストや参考文献等を読むことによって得た知識や考え方などを通して、自分の考えをまとめ、第三者に伝わるように論理的で説得力のある文章で表現することが、レポート作成の基本となります。

本学では、**１単位につき１課題・１課題につき2,000字程度＜ワープロソフト使用または自筆（ペン書き）［自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度］＞で作成**します。（※ワープロソフト使用の可否については、本冊子で担当教員が指定。）

なお、**通信教育部事務室に届いたレポートが下記に該当する場合は、受付せずに返送**します。

- 極端な文字数不足のレポート
- レポート課題に関して白紙に等しいとみなされる（課題に対して記述していないなど）レポート
- ［ワープロソフト使用の場合］指定された様式で作成されていないレポート
- ［ワープロソフト使用不可］の課題をワープロソフトでの作成によるプリントアウト分で提出されたレポート

2．作成の手順

①下書きをする

レポートを作成する際には、テキストを読んだ際に大切だと感じた箇所に下線を引いたり、ノートやカードにポイントになる箇所を書き写したりして、それらを基にどのようなことをどういう順序でレポートにするのかを考えてみてください。そして、考えがまとまってきたら、**下書き**をするようにしてください。下書きをする方が、最終的には効率良くレポートが作成できることになります。

②レポートの構成

レポートでは、「序論－本論－結論」の構成が一般的となります。

「序論」では、これからレポートで述べようとすることを書きます。

「本論」は、課題に対する解答やその理由を述べていくレポートの中心部分となります。

「結論」では、全体をまとめたり、このレポート課題を通じてわかったことや今後の課題などをまとめます。

また、レポート作成の際に引用（他人の文章、他人の説や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いること。）する場合は、**必ず引用であることが分かるように**該当箇所を**「　」でくくり**、出典（著者名・書名・出版社名、出版年、引用ページ等）を明示してください。（Webサイトから引用する場合も同様。）**引用について明示されていない場合は、剽窃・盗用**となります。

レポートの書き方の注意事項

（1）文体

すべて「である」調とする。（「です」「ます」調は用いない。）

（2）段落

行頭１マス空けて記入する。５～６行に１回段落をとる。（1ページにつき4つぐらいの段落をとる。）

（3）疑問符、感嘆符、句点、読点

文末に疑問符（？）や感嘆符（！）をつける場合、その後は、１マス空けて文章を続ける。

また、句点(。)、読点(、)は、１文字扱いとする。

（4）引用

引用文は必ず「　」でくくり、自身の文章と区別できるようにする。筆者の考えと他者の考えとを読み手が区別できるようにするためである。引用文のあとに注番号を打ち、引用文出典を明示する。（Webサイトから引用する場合も同様。）引用は長くならないように心がけること。10行以上もの長い引用は、筆者（レポートの書き手）の意図が読み手に伝わりにくくなり、ページ稼ぎをしている印象を与えてしまう。また長文の引用は著作権の侵害になるおそれもある。

（脚注例）

○本文中

今日の社会福祉の動向について山田（2009）は、「少子・高齢社会、緊縮財政のもとで利用者の負担が年々増加している」と指摘している（1）。

○出典明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。］

注（1）山田太郎『○○○入門』　△△社　2009年　60ページ

【Web サイトから引用した場合の記載項目】
著者名 (更新日) .「ページ名」. サイト名 . 入手先 URL , (閲覧日) .

【例】
中央教育審議会 (2019) .「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問）」. 文部科学省 . https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm , (参照 2022-05-29) .

なお、要約の場合は「　」でくくらない。文末に引用文と同様に注番号を打ち、要約であることを明示する。

○要約文献明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。※要約の場合は　参照　と入れるところが引用と異なる。］

（2）参照　親和鈴子、『△△学』　○○社　2010年　20ページ

（5）参考文献

文末（最終ページ）に参考文献をまとめて挙げる。

＜注意：剽窃・盗用について＞

次のような場合が、**剽窃・盗用**になり、懲戒処分の対象となります。

○**第三者が作成した文章や資料・データ等について、出典を明示せずにそのまま用いたり、前後の関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。**

○**第三者が作成したレポート等を入手（友人・知人から借りる、インターネットで公開されているものを写すなど）し、自分が作成したレポートとして提出すること。または、第三者が作成したレポートの前後関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。**

＜注意：レポート作成について＞

レポート作成の際には、課題の趣旨に関係のない**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。また、レポートに手紙を添えるなど、レポート以外のものを同封することもしないでください。**

Ⅲ レポート作成時・提出時の注意

1．レポートの課題と文字数について

各科目のレポート課題は、本冊子の「レポート課題」欄に掲載していますので、「課題の留意点」、「レポートの評価基準」などをよく読んでからレポート作成に取り掛かってください。**レポートは、1課題（1単位分）2,000字程度でまとめてください。**（科目によっては、作成にあたっての指示がある場合があります。「課題の留意点」等で確認してください。）

レポート課題は、科目の単位数に応じて課題数が決められています。例えば、2単位の科目は2つの課題レポートを作成、提出しなければなりません。

また、レポートの提出要領を定めていますので、後述の要領に従って提出してください。

2．レポート作成について

自筆でのレポート作成

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

本冊子で担当教員が『ワープロソフト使用不可』と指定した場合は、本人自筆による作成のみとなります。
自筆でのレポート作成の場合は、次の要領で作成してください。

①筆記具について

レポート記述は、**黒インクペンまたは黒ボールペンを使用のうえ、本人自筆**に限ります。

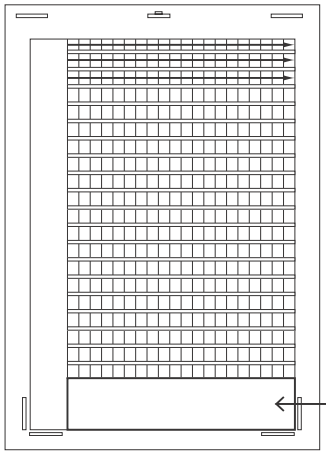
＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞

②レポート用紙について

レポート用紙は、本学所定用紙（400字詰／タテ型横書き）を使用してください。本学所定のレポート用紙は、コピー使用不可です。

③レポート本体の様式

本学所定レポート用紙
（400字詰／タテ型横書き）



ワープロソフト使用が認められた場合のレポート作成

ワープロソフト使用可

本冊子で担当教員の指示のある科目については、ワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認めます。担当教員がワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認める場合は、『ワープロソフト使用可』と記載があります。（※『ワープロソフト使用可』の場合は、ワープロソフト（Word等）での作成、本人自筆での作成のどちらも可能となります。『ワープロソフト使用不可』の場合は、本人自筆による作成（本学所定レポート用紙使用・ペン書き）のみとなります。）

なお、ワープロソフト（Word等）での作成の場合のレポート様式については、**【次表】**のとおり指定します。必ず指定された様式で作成してください。

指定された様式で作成されていない場合、または『ワープロソフト使用不可』の課題をワープロソフトでの作成によるプリントアウト分で提出した場合は、レポート受付をせずに返送しますので注意してください。

用紙・用紙サイズ		A4（市販のコピー用紙・縦型・片面のみ使用） **（※両面印刷不可・裏紙の使用不可）**	
書字方向		横書き	
フォント		明朝体	
文字色		黒	
文字サイズ		10.5ポイント	
文字数		2,000字程度 ※図表を中心とする課題の場合は、A4用紙5枚程度とする。	
1行の文字数		40文字	レポート様式の設定方法（パソコンの「Word」を使用）については、『学生要覧』（第1章　Ⅳ）を参照してください。
1ページの行数		30行	
余白	上	25mm	
	下	25mm	
	左	30mm	
	右	30mm	
ヘッダー		10mm	
フッター		10mm　※ページ番号を付ける。	
引用文献、参考文献記載箇所		文末（最終ページ）に記載（文末脚注）	

※「報告課題評価票」と「レポート表紙」については、本人自筆による作成及びホッチキス留めが必要です。

また、レポート提出時には本学所定の「レポート提出用封筒」を使用してください。

◎本学所定のレポート用紙、報告課題評価票、レポート表紙、レポート提出用封筒を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。
（金額については、下表参照。）

種　類		金額（円）	申込方法	備　考
3種セット	レポート用紙（30枚）	250	所定申込書に必要分の手数料（切手、郵便小為替または現金＜現金を郵送する場合は現金書留を利用＞）を添えて申込（返信用封筒不要） ※郵送の場合は、いずれもお釣りをお返しできません。また、通信教育部事務室での授受の場合でも現金以外はお釣りをお返しできません。お釣りがないように注意してください。	通信教育部事務室窓口でも購入可能
	報告課題評価票（6枚）			
	レポート表紙（6枚）			
2種セット	報告課題評価票（6枚）	150		
	レポート表紙（6枚）			
レポート用紙（30枚/1セット）		150		
レポート提出用封筒（6枚/1セット）		150		
報告課題評価票（6枚/1セット）		150		
レポート表紙（6枚/ 1セット）		50		

3．レポート表紙について

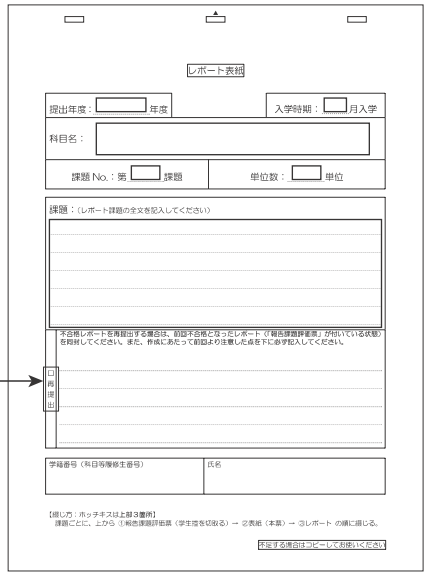
完成したレポートには、課題ごとに**本学所定の「レポート表紙」**を作成して付けてください。「レポート表紙」の記述は、**黒インクペンまたは黒ボールペンを使用のうえ、本人自筆**に限ります。＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞）

右図の項目「提出年度」（課題を掲載している『学習の手引き テキスト履修科目編』の年度、本冊子掲載課題については“2025”と記入）、「入学時期」（4月又は10月）、「科目名」、「第○課題」、「単位数」、「課題（提出する課題の全文）」、及び「学籍番号（科目等履修生番号）」、「氏名」、**再提出の場合**は前回より改善した点などを記入し、後述する「報告課題評価票」とあわせてレポート本文にホッチキスで留めてください。（※レポート再提出についての要領は、p.9参照。）

「レポート表紙」は、本学所定用紙を使用してください。本学所定の「レポート表紙」を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。また、「親和deネット」からダウンロード（プリントアウト）可、コピー可です。下記の＜「レポート表紙」について＞も参照してください。

＜「レポート表紙」について＞

「レポート表紙」は、1セット（6枚）50円で購入できます。また、「報告課題評価票」や「レポート用紙」とセットで購入（2種または3種セット）することもできます。

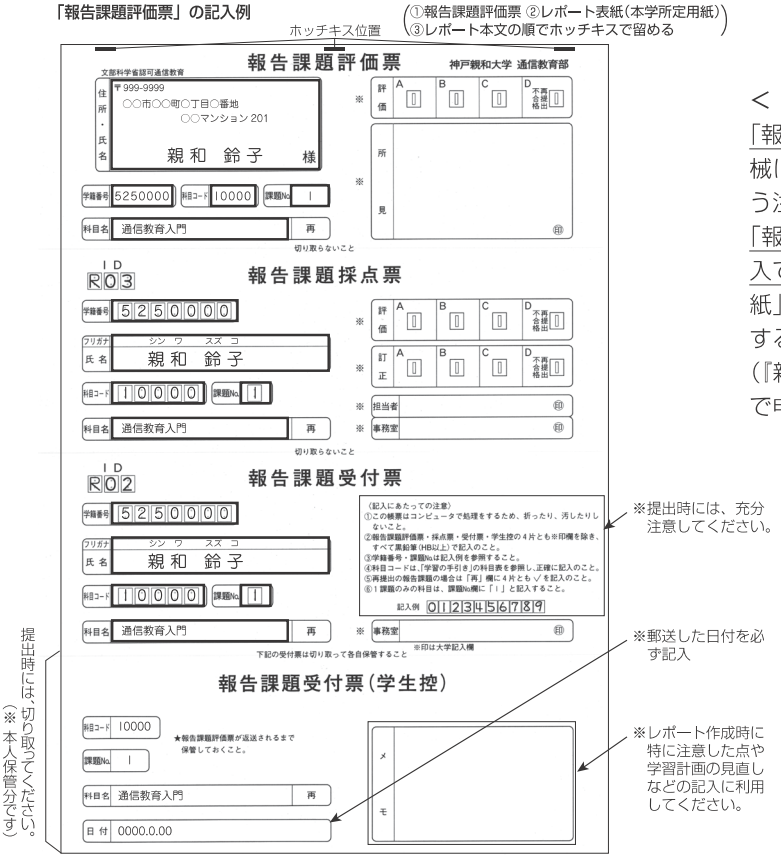


※再提出の場合は、「☑再提出」とし、「作成にあたって前回より注意した点」を必ず記入。また、不合格になったレポートを必ず添付。なお、添付する際は、新規提出分の後に返却された状態の不合格レポートをホッチキスやクリップ等でまとめてください。

4．報告課題評価票（コンピュータ用紙）について

課題ごとに作成したレポート本文と「レポート表紙」の上には、さらに**「報告課題評価票」**に必要事項を正確に記入し、付けてください。

「報告課題評価票」は、「報告課題評価票」「報告課題採点票」「報告課題受付票」「報告課題受付票（学生控）」が連票になっています。**「報告課題評価票」については、本人自筆でHB以上の黒鉛筆を使用**し、正しく丁寧に記入してください。科目コードは本冊子を参照（科目名の前の5桁の数字）のうえ、正しく記入してください。



＜「報告課題評価票」について＞

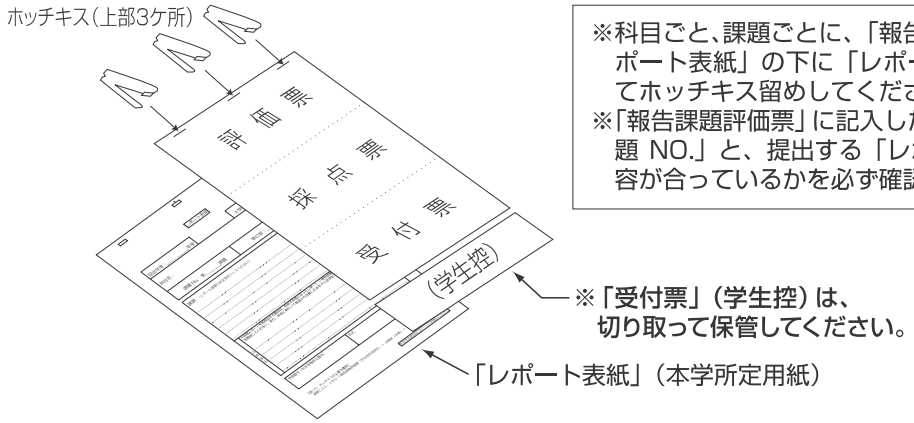
「報告課題評価票」は、コピー使用不可です。直接機械にかけるため、折り曲げたり、汚したりしないよう注意してください。

「報告課題評価票」は、1セット（6枚）150円で購入できます。また、「レポート表紙」や「レポート用紙」とセットで購入（2種セットまたは3種セット）することもできます。購入の際は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。

5．レポートの郵送（提出）方法について

レポートを郵送（提出）する際には、下図のとおり「報告課題評価票」→「レポート表紙」（本学所定用紙）→「レポート本文」の順に**科目ごと、課題ごと**にホッチキス留め（上部3ケ所）し、本学所定の「レポート提出用封筒」を使用して郵送（提出）してください。

①「報告課題評価票」の向き



※科目ごと、課題ごとに、「報告課題評価票」「レポート表紙」の下に「レポート本文」を付けてホッチキス留めしてください。
※「報告課題評価票」に記入した「科目名」や「課題 NO.」と、提出する「レポート本文」の内容が合っているかを必ず確認してください。

＜提出上の注意事項＞

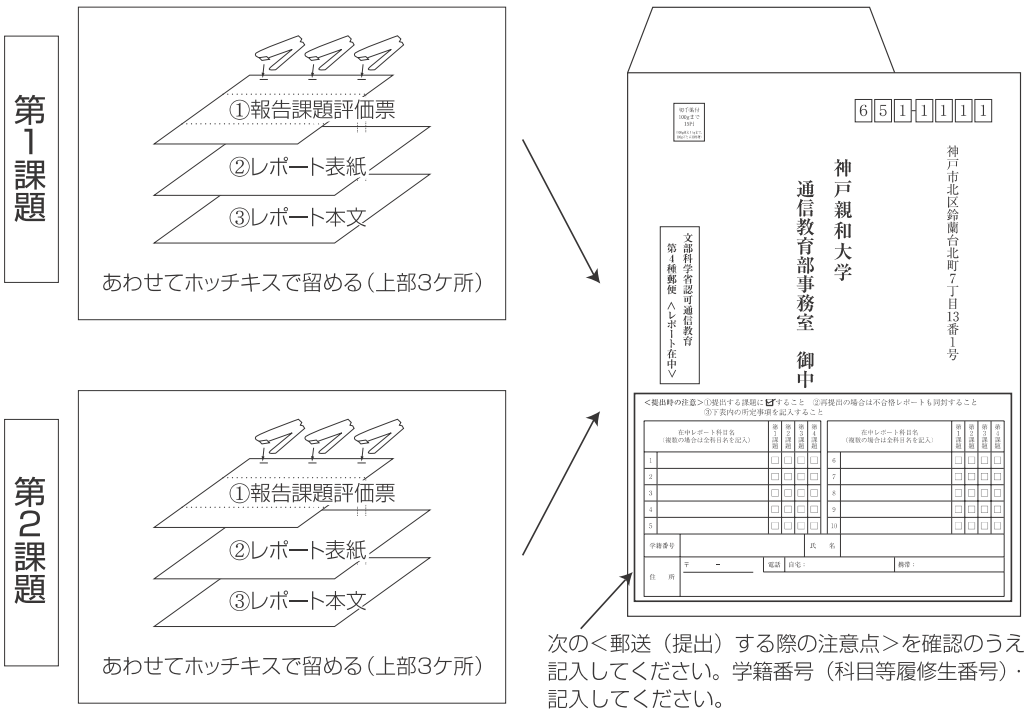
レポートは、次の要領で提出してください。

1）**科目ごと、課題ごとに「報告課題評価票」**に必要事項を正確に記入し、付けてください。
2）**科目ごと、課題ごとに「レポート表紙」**（本学所定用紙）に必要事項を記入し、付けてください。
3）**科目ごと、課題ごとに、**上から①「報告課題評価票」→②「レポート表紙」（本学所定用紙）→③「レポート本文」の順にホッチキスで留めてください。
4）**「報告課題受付票」（学生控）**は、郵送した日付やメモ書きなどを記入し、必ず切り取って本人の控えとしてレポートが返却されるまで保管してください。

以上の提出条件を満たしていない場合は、受付せずに返送しますので提出したことにはなりません。返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて提出しなければなりません。

②**提出の基本様式**（下図は複数課題をまとめて提出する場合です。封入する課題数に制限はありませんが、前述の＜提出上の注意事項＞を順守して提出してください。）

●「レポート提出用封筒」の様式（表面記入欄）について



次の＜郵送（提出）する際の注意点＞を確認のうえ、必要事項をもれなく記入してください。学籍番号（科目等履修生番号）・氏名・住所なども必ず記入してください。

＜郵送（提出）する際の注意点＞

1）**レポート以外の手紙や文書を同封しないでください。**
2）レポート提出用封筒（表面記入欄）には、提出するレポートのすべての「科目名」とその課題に☑を記入してください。
3）レポート提出時には、**スクーリング申請票や科目修了試験受験申請票などは、同封しない**でください。（同封についての指示がある場合を除く。）
4）ホッチキス（上部3ケ所）は**科目ごと、課題ごと**に留めてください。
5）返信用封筒は必要ありません。
6）郵便料金については、次の第4種郵便料金表を参照してください。

【第4種郵便物の料金表（2024年12月末現在）】
100gまで15円。100gを超えるものは100g超過ごとに10円を加算してください。

重　量	料　金
100gまで	15円
200gまで	25円
300gまで	35円

重　量	料　金
400gまで	45円
⋮	⋮
1kgまで	105円

6．レポートの返却について

レポートの添削・採点および返却には、日数を要します。返却日の目安は、**提出期限締切後、約1ヵ月半（提出月の翌月末頃）**になります。2月および8月に提出（本学受付済）したレポートについては、翌々月の上旬の返却となります。（詳しくは、『親和通信』でお知らせします。）ただし、担当教員の添削等の関係（提出レポートが多いなどの理由）で返却が遅れる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

7．下書き（コピー）の保管について

添削・評価済レポートが返却されるまで、提出したレポートの下書きまたはコピーを必ず保管しておいてください。

8．資料・図表など添付する場合について

資料や図表は本文の文字数には算入できませんが、本冊子で担当教員から指示がある場合は、その指示に従ってください。

9．「質問票」の利用について

テキスト学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、**「質問票」**（『親和通信』巻末様式）に必要事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

＜注意：「質問票」の記入について＞

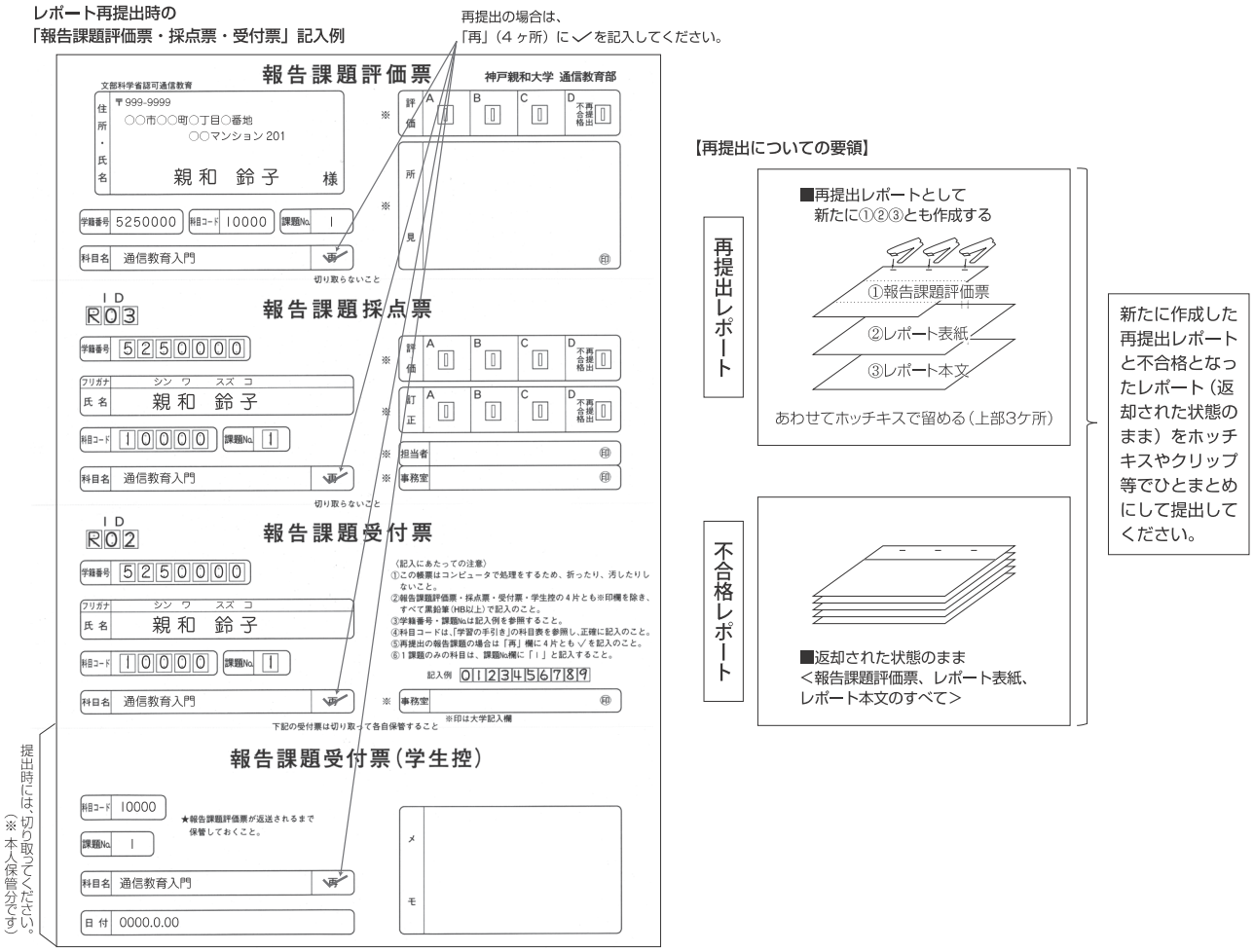
「質問票」には、**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。**

Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出

返却されたレポート（添削・評価済分）の評価が「D」（不合格）の場合、担当教員の所見、添削内容に従って、再度レポートを作成・提出し、合格しなければなりません。

1．再提出時の注意事項

再提出する場合は、不合格になったレポート（「報告課題評価票」が付いた状態）を添付（クリップ等でまとめる）し、再提出分「レポート表紙」の再提出欄に「✓」を記入し、「作成にあたって前回より注意した点（担当教員からの添削指導内容に従って、どのような点に注意して今回再提出分を作成したか）」を簡潔に記入してください。また、「報告課題評価票」の「再」欄に「✓」を記入し、その他は前述のレポート提出の要領に従ってください。（※不合格レポート（報告課題評価票が付いた状態）が添付（クリップ等でまとめる）されていない場合は、受付せずに返送します。返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて再提出しなければなりません。）



2．再提出レポート課題の有効期限

不合格により再提出が必要になったレポート課題の有効期限（「X.レポート課題の有効期限について」 参照）が切れた場合、再提出の際は、新年度の「学習の手引き」記載のレポート課題での作成・提出となります。なお、課題が変わった場合でも、不合格になったレポート（「報告課題評価票」が付いた状態）は必ず添付（クリップ等でまとめる）してください。（新規提出分の後に返却された状態の不合格レポートをホッチキスやクリップ等でまとめてください。）

Ⅴ 科目修了試験の受験資格・単位修得について

科目修了試験は、テキスト履修科目の単位修得のために必要な試験であり、テキスト全体の学習を通して、必要とされる知識が修得できたかどうかを判断するための試験です。

科目修了試験を受験する際は、テキスト等を読み深めることが何よりも重要です。テキストは、レポート作成のために部分的に読むのではなく、『学習の手引き　テキスト履修科目編』記載の「科目の目的」「到達目標」「学習テーマ」をもとに全体を読み込み、参考文献やその他の関係資料も利用して理解を深めてください。テキスト全体の内容を十分理解することにより、科目修了試験の解答が、自身の意見や感想ではない、論述としてまとまったものになります。また、『学習の手引き　テキスト履修科目編』記載の「科目修了試験『答案』作成の留意点」、「科目修了試験の評価基準」を参考に試験対策を練って受験に臨んでください。

テキスト履修科目の最終評価は、科目修了試験の結果での評価となります。レポートの評価は、最終評価には影響しません。レポート作成・提出は、テキスト学習の状況（途中経過）を担当教員に報告するためのものです。

テキスト履修科目の単位修得のためには、その科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験の両方が合格しなければなりません。科目修了試験を受験するには、受験希望試験日の受験申請期間以前のレポート提出受付期間までに、受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出（本学受付済）している必要があります。

レポートが不合格になった場合は、科目修了試験が合格でも単位修得はできません。当該科目のすべて（単位数分）のレポートが合格するまで単位修得はできません。

なお、レポートの合格実績は、在学（在籍）期間中のみ有効です。

※卒業判定・実習受講資格判定や単位認定処理を受けるためには、当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験について、本学が定める**最終期限**までに、いずれも合格しなければなりません。**最終期限**については、『親和通信』でお知らせします。

Ⅵ レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について

レポート提出については、提出受付期間を指定**【毎月1日～5日**<最終日消印有効>ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効**】**しています。**必ず、提出受付期間内に提出**してください。

郵便局の消印が提出受付期間外の場合、または提出受付期間外に**「通信教育部生専用ポスト」**（本学正門守衛室前）に投函された場合は、受付せずに返送します（提出したことにはなりません）。返送されたレポートは、翌月以降の提出受付期間内に提出要領に即してあらためて提出しなければなりません。

なお、**科目修了試験を受験するには、受験希望試験日の受験申請期間までに、受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートをレポート提出受付期間内に提出（本学受付済）して受験資格を得た後、指定申請期間内に受験申請する必要があります。**

レポート提出と科目修了試験受験（申請）は、密接に関係していますので、充分注意して学習計画を立てるようにしてください。［科目修了試験実施月の前月までのレポート提出受付期間に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出してから、科目修了試験受験申請期間内に受験申請をする必要があります。（場合によっては、前々月までにレポート提出および受験申請をする必要があります。）］

科目修了試験受験申請方法については、『学生要覧』（第1章）を参照してください。

科目修了試験日程、当該試験日の受験資格を得るためのレポート提出受付最終期間、受験申請期間等については、『親和通信』でお知らせします。

※本学正門守衛室前の「通信教育部生専用ポスト」に提出する場合の注意事項

①郵送提出と同様に**レポート提出用封筒**に入れ、封をのりづけして、投函してください。（切手貼付不要）

②午前9時から午後5時までに投函されたものを当日（含む提出受付期間最終日）の提出分とします。

Ⅶ 2025年度科目修了試験について

本冊子の掲載内容から出題される科目修了試験は次のとおりです（2026年4月・5月は未定）。ただし、日程・試験会場に変更が生じることもありますので、あらかじめご了承ください。変更が生じた場合は、『親和通信』でお知らせします。学習年間計画を立てて、レポート提出・科目修了試験に臨んでください。（※下表の「試験日」が本学規定（気象警報等発表時など）により延期となった場合の予備日については『親和通信』でお知らせします。）

<table>
<tr><th></th><th>試験日</th><th>左欄「試験日」の
受験資格を得るための
レポート提出受付最終期間</th><th colspan="2">会　場</th><th>＜4月入学生＞
出題について</th><th>＜10月入学生＞
出題について</th></tr>
<tr><td>4月</td><td>4月 6日</td><td>2/1 ～ 2/5</td><td>本学</td><td>―</td><td rowspan="2">『学習の手引き2024』
の掲載内容からの出題</td><td rowspan="6">『学習の手引き2024』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5月</td><td>5月 4日</td><td>3/1 ～ 3/5</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>5月18日</td><td>4/1 ～ 4/7</td><td>本学</td><td>―</td><td rowspan="10">『学習の手引き2025』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td>6月</td><td>6月15日</td><td>5/1 ～ 5/7</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>7月 6日</td><td>6/1 ～ 6/5</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>8月</td><td>8月 3日</td><td>7/1 ～ 7/7</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>9月</td><td colspan="4">―</td></tr>
<tr><td>10月</td><td>10月 5日</td><td>8/1 ～ 8/5</td><td>本学</td><td>―</td><td rowspan="6">『学習の手引き2025』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td rowspan="2">11月</td><td>11月 2日</td><td>9/1 ～ 9/5</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>11月16日</td><td>10/1 ～ 10/6</td><td>本学</td><td>大阪</td></tr>
<tr><td>12月</td><td>12月14日</td><td>11/1 ～ 11/5</td><td>本学</td><td>大阪</td></tr>
<tr><td>1月</td><td>1月11日</td><td>12/1 ～ 12/5</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>2月 8日</td><td>1/1 ～ 1/5</td><td>本学</td><td>―</td></tr>
<tr><td>3月</td><td colspan="4">―</td></tr>
</table>

◎**レポート提出受付期間は、毎月1日～5日**（最終日消印有効※ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効）

Ⅷ 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて

「気象警報等発表時」または「災害等による交通機関途絶の場合」の科目修了試験の取り扱いについては、別に定めます。詳しくは、『学生要覧』（第7章）を参照してください。

Ⅸ 科目修了試験解答について

試験中は、テキスト、参考書、辞書等の参照は認められません。

科目修了試験解答用紙は、B4サイズで両面使用可です。表面には約800字、裏面には約1,000字記入することができます。文字数等の指定（例：「800字程度」等）が問題や本冊子にある科目は指示に従って解答し、文字数等の指定がない科目については、適切な文字サイズ、文字間で解答用紙表面が埋まる程度（1行30字×27行[810字程度]）記入するよう努めてください。

科目修了試験解答の際には、設題の趣旨に関係のない**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。**

Ⅹ レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>

本冊子掲載分のレポート課題には、**有効期限**があります。次のとおり4月入学生・10月入学生で異なりますので注意してください。有効期限を過ぎた課題で提出されたレポートは**無効**になります。

なお、**レポート課題の有効期限と、卒業・修了・各実習判定を受けるためのレポート提出最終期限は異なります。各最終期限については、『親和通信』で確認してください。**

【4月入学生の場合】

①本冊子掲載分のレポート課題の有効期限は、2026年4月レポート提出受付期間までです。

②不合格になったレポートを2026年5月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』（4月入学生には2026年3月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。

③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。

（例）4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2026年4月のレポート提出受付期間までに提出できない場合

→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2026年5月以降のレポート提出受付期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2026年4月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験日程については、『親和通信』でお知らせしますのであらためて確認してください。

【10月入学生の場合】

①『学習の手引き2025　テキスト履修科目編』（10月入学生には2025年9月配付予定）掲載分のレポート課題の有効期限は、2026年10月のレポート提出受付期間までです。

②不合格になったレポートを2026年11月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』（10月入学生には2026年9月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。

③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。

（例）4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2026年10月のレポート提出期間までに提出できない場合

→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2026 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2026年11月以降のレポート提出期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2026年10月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験については、『親和通信』であらためて確認してください。

テキスト履修科目は、課題だけでなくテキストも変わる場合があります。本冊子記載のテキストを購入した場合は、レポート課題の有効期限内に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出・合格、科目修了試験受験・合格して、単位を修得するようにしてください。

XI カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

カリキュラム改正が行われた場合、指定年度から新しい科目名での開講となります。科目の読み替え、レポート提出時・科目修了試験受験時の留意事項については、次のとおりです。これから履修する場合や継続履修科目の場合は、注意してください。対象科目については、科目別索引（p.22）の＜注意：カリキュラム改正について＞、『学生要覧』を参照してください。

①テキスト履修科目

カリキュラム改正後の新しい科目名でのレポート提出・合格と科目修了試験受験・合格によりカリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（科目修了試験については、受験申請時は自身の入学時（旧科目）の科目名・科目コードによる申請となります。）

合格していないレポート課題については、カリキュラム改正後の新科目名分の課題で作成・提出してください。

なお、すでに合格したカリキュラム改正前の旧科目のレポートは、有効です。あらためて新科目のレポートを提出する必要はありません。

（例）　カリキュラム改正前（旧科目）の第１課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第１課題

カリキュラム改正前（旧科目）の第２課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第２課題

②スクーリング履修科目

カリキュラム改正後の新科目名で開講するスクーリングを受講・合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。

③テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞

上記の①と②の両方が合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（単位を分割して修得することはできません。）

XII テキスト購入について

テキストは、各自で必要分を実費購入することになります。テキストを購入する際は、それぞれの科目について本冊子のテキスト欄記載分を購入してください。テキストについては、2025年1月現在のものになっており、期中に新版が発行される場合がありますので、購入の際には**新版を購入**するようにしてください。

本学大学生協への注文の際は、本冊子巻末の「テキスト購入FAX(郵送)申込書」を使用のうえ、**直接本学大学生協に注文**してください。※用紙が不足する場合は、各自でコピーを取って使用してください。また、「親和deネット」の「お知らせ」からダウンロード（プリントアウト）することもできます。

一般書店・ネット通販での購入など購入方法は他にもありますが、本学大学生協のみでの取り扱いとなるテキストもありますので注意してください。

※ほとんどが専門書のため、本学大学生協や一般書店等に在庫がなく、取り寄せとなります。取り寄せには日数（2週間程度）がかかることがありますので、購入に際しては、日程に余裕をもってください。

●テキスト購入に関する問い合わせ先●

〒651-1111　兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号　学生会館地下1階
神戸親和大学生協　書籍部（担当：木村）　URL. https://shinwa.u-coop.net
TEL.078-595-0303　FAX.078-595-0565

<テキストの購入は計画的に>

まず、自身で卒業・修了までの学習計画を立て、その中で本学年の学習計画をさらに練り、本学年にレポート提出、科目修了試験受験する科目のテキストだけを購入されることをお勧めします。こうした方が、無理なく学習を進めることができると思われます。なお、**次学年以降、テキストが変更になることもあります**ので、注意してください。

（例）

科目コード	10000	科目名［単位数／学習時間］	通信教育入門［2単位／90時間］			
テキスト	● 『自立学習の手引き』私立大学通信教育協会					
ISBN	生協のみで販売	本体価格（円）（2025年1月現在）	510	生協 テキストNo.	25001	生協へお申し込みください

一般書店等で購入する際は、確認のために必要となります。

本学大学生協で購入の際は、必ず記入してください。

本学大学生協のみでの販売となります。

XIII 参考文献について

本学図書館に蔵書がありますが、科目修了試験前などは貸出中のことが多く、予約待ちになることをあらかじめご了承ください。本学図書館利用については、『学生要覧』を参照してください。

XIV 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

本学通信教育部学生及び科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における次の不正な行為、不適切な学習態度には、本学では、**懲戒処分、厳重注意や履修登録の取り消し**といった厳しい態度で臨みます。

真摯な態度で学習に取り組んでください。

<注意：レポート作成時の不正な行為、不適切な学習態度について>

レポート作成時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となります。

- 第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為。
- 自身のレポートを第三者に貸す行為、ＳＮＳやインターネット等でレポートの内容を公開・提供する行為。
- 第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
- 本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。

など

＜注意：科目修了試験受験時の不正な行為、不適切な学習態度について＞

科目修了試験受験時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度になり、懲戒処分等の対象となります。

・他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、もしくは答案用紙を交換する行為。
・カンニングペーパーの所持、受験許可証・学生証等や机上・手掌等への書き込み、又はこれに類する行為。
・スマートフォン（携帯電話・PHS を含む）、モバイルパソコン、タブレット端末等の通信機器、携帯音楽プレイヤー等の携帯型録音再生機器等を身に付けていたり、指示された以外の場所や状態で保管している行為。
・試験問題を受験許可証・学生証等や机上・手掌等に書き込む行為。
・本学教職員からの指示、注意に従わない行為。
・SNS やインターネットなどを利用して試験問題を書き込む行為。
・他の受験者への迷惑になる言動。
など

学生懲戒規程<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（懲戒の対象となる行為）
第4条　懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。
（4）　通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
（9）　その他学生の本分に反する行為
2　前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。
（懲戒の種類）
第5条　学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。
（1）　退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
（2）　停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。
（3）　譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

通信教育部学生および科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における不正行為に対する取扱要項<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（処分の対象となる不正行為）
第4条　不正行為の種類は、次の各号のとおりとする。
（1）　科目修了試験時及びスクーリング試験時にカンニングペーパー、机上・手掌等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成する行為。
（2）　科目修了試験時及びスクーリング試験時に他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、若しくは答案用紙を交換する行為。インターネット等を利用した同様の行為(含む公開・提供する行為)。
（3）　第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為、及びインターネット等でレポートを公開・提供する行為。
（4）　第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
（5）　本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。ただし、「学習の手引き」で自筆でのレポート作成が指定されているが、事故、病気等で自筆が困難な状態にある場合は、レポートを提出する以前に、医師の診断書を添えて通信教育部長に文書で願い出ることにより、代理の者による清書を認めることがある。
（7）　科目修了試験における代理受験、スクーリングにおける代理受講。
（8）　その他、前各号の一つに類すると認められる行為。
（履修の取扱い）
第5条　不正行為を為した学生及び不正行為に関与した学生の履修の取り扱いについては、次の各号とする。
（1）　レポートで不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月、前月、翌月の３か月に提出があったすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。
（2）　科目修了試験で不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月、前月の2か月に受験したすべての科目の履修を無効とする。無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。

XV 単位数と必要な学習時間について

文部科学省が定める大学通信教育設置基準により、本学通信教育部では単位制としています。「単位」とは、科目を修了するために必要な学習量（時間数）となります。

本学通信教育部では、すべての授業科目に対して、学習時間数に応じて単位数を設定し、45時間の学習時間をもって１単位と定めています。

テキスト履修科目では、当該科目を修了するためには、**①『学習の手引き テキスト履修科目編』の掲載内容を充分理解する、②テキストや参考文献等を精読する、図書館等で調べものをする、③レポートを下書きする、推敲（加筆修正）する、仕上げる、④返却されたレポートの添削内容やコメントを読み込んで復習する、⑤科目修了試験に向けて学習を深める、⑥その他『学習の手引き テキスト履修科目編』で担当教員から指示のある事項**など、自主的な学習時間が必要となります。

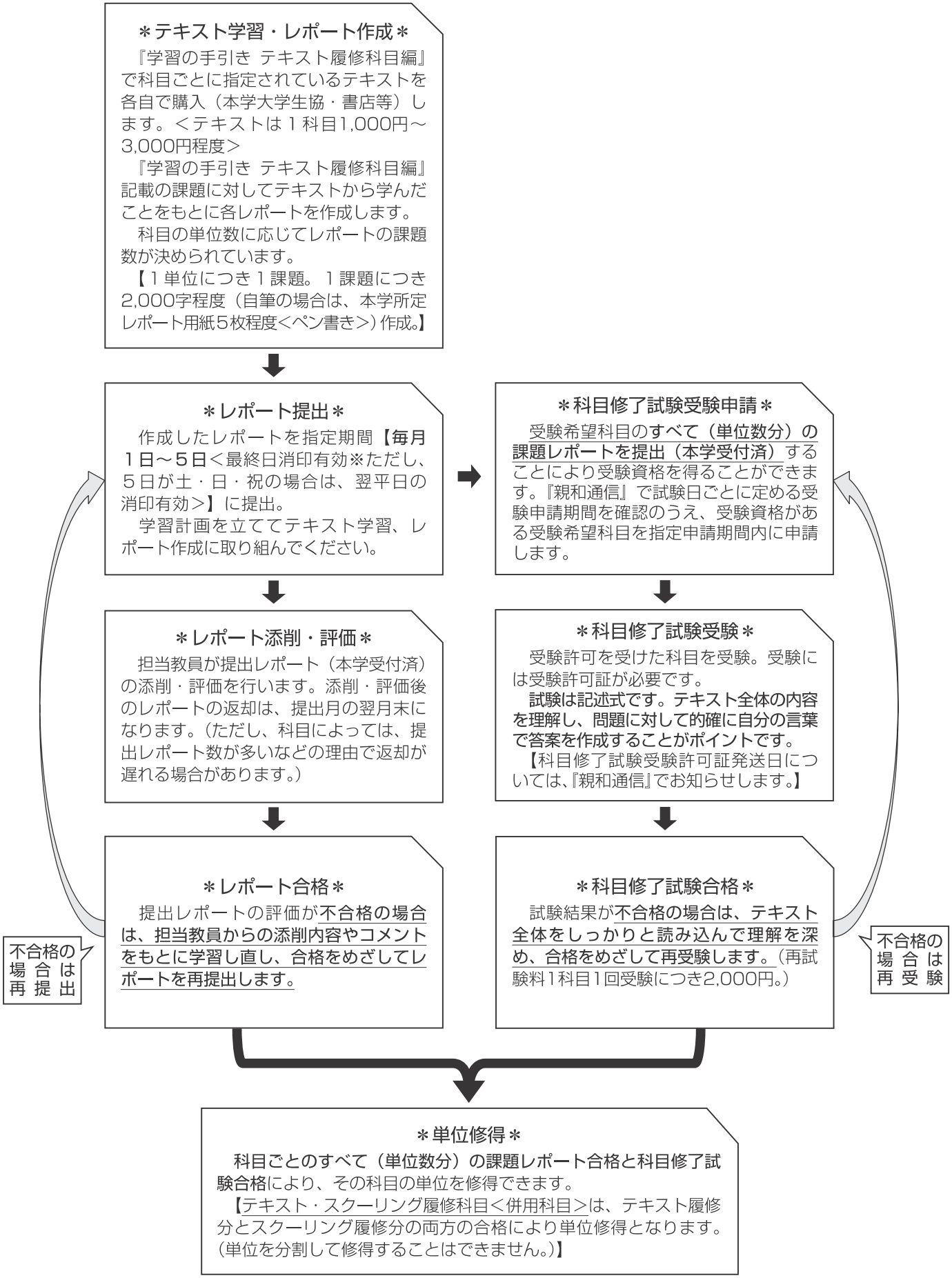
学習時間については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて積極的に確保するよう努めてください。

なお、テキスト履修科目の単位数と学習時間数については、下表のとおりとなります。

単位数	必要な学習時間
１単位	45 時間
２単位	90 時間

単位数	必要な学習時間
３単位	135 時間
４単位	180 時間

XVI テキスト履修科目 学習の流れ



XVII カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは、科目区分の下に科目を構成し、科目区分間、科目間の関係性や配当年次等を記し、科目と修得できる知識・能力との対応関係等を示したもので、科目に係る体系性・有機的連携を確保するためのものです。

学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、各科目の学習によって『修得できる力』を表記していますので、確認のうえ学習を進めてください。

1．教育学科・児童教育学科　カリキュラムマップ

		授業科目名（※【　】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
共通教育科目群	ベイシック・スキル	通信教育入門	2		1	○			○	○	○	○					
		日本語表現	2		1				○	○	○	○	○	○	○		
		総合英語＜2025年度入学生対象科目＞		2	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語コミュニケーションⅠ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語コミュニケーションⅡ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語	2		1				○	○	○					○	
		スポーツ実技＜2025年度入学生対象科目＞		2	1				○	○	○		○	○	○		
		基礎体育学		1	1				○	○	○		○	○	○		
		健康行動学	2 or 2		1	○			○	○	○						
		情報基礎	2		1				○		○						
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1				○		○					○	
		文学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		心理学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		哲学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		経済学	4		1				○		○					○	
		法学	4		1				○		○					○	
		社会学	4		1				○		○					○	
		地理学	4		1	○			○	○	○					○	○
		文化人類学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		数学	4		1				○	○	○						
		生物学	4		1				○	○	○					○	
		栄養学	4		1				○	○	○			○			
	総合学習	多文化社会	2 or 2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		情報と社会	2 or 2		2				○	○	○						
		国際理解教育論	2 or 2		2		○	○	○		○		○		○	○	
		環境教育論	2 or 2		2	○	○	○	○	○	○		○			○	○
専門教育科目群	基本科目	教育原理	2 or 2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		教育心理学	2		1				○		○						
		教育哲学	2		3	○	○		○		○		○			○	
		人権教育	2		3	○		○	○		○		○	○			○
	演習科目	児童教育学演習Ⅰ【2025年度以降：教育学演習Ⅰ】		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○		
		児童教育学演習Ⅱ【2025年度以降：教育学演習Ⅱ】		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○		
		教育学演習Ⅰ＜2025年度入学生対象科目＞		2	1			○	○	○	○	○	○	○	○		
		教育学演習Ⅱ＜2025年度入学生対象科目＞		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○		
	基幹科目・発展科目	国語	2		2		○		○		○	○		○			
		算数	2		2			○	○	○		○			○		
		生活	2		2	○		○	○		○		○	○			○
		社会	2		2			○	○		○		○			○	○
		理科		2	2				○	○	○					○	
		家庭	2		2				○	○	○				○		
		外国語（英語）	2		2	○		○	○	○	○	○		○		○	
		体育	1	1	1	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
		音楽	1	1	1			○	○	○	○	○			○		
		美術	1	1	1		○	○	○	○	○	○					
		児童体育＜2025年度入学生対象科目＞		2	1	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
		児童音楽＜2025年度入学生対象科目＞		2	1			○	○	○	○	○			○		
		図画工作＜2025年度入学生対象科目＞		2	1		○	○	○	○	○	○					
		子どもと健康	1	1	1				○	○			○				
		子どもと人間関係	1	1	1				○	○				○			
		子どもと環境	1	1	1				○	○			○				
		子どもと言葉	1	1	1				○	○				○			
		子どもと音楽表現	1	1	2				○	○					○		
		子どもと造形表現	1	1	2				○	○					○		
		子どもと身体表現	1	1	2				○	○					○		

		授業科目名（※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	児童心理学	2		2			○	○	○				○	○		
		幼児心理学	2		2			○	○	○	○						
		学習心理学	2		3				○		○						
		健康心理学	2		3				○		○						
		教育臨床心理学	4		3	○		○			○			○	○		
		発達心理学	2		2			○	○		○						
		子ども家庭支援の心理学	2		1	○	○	○	○	○	○				○		○
		子どもの理解と援助		1	1			○	○		○		○	○			
		社会心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○
		青年心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		
		家族心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○
		教職論	2		1	○	○	○	○	○	○				○	○	○
		幼児教育原理	2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		初等教育原理	2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		教育法規	2		3	○			○	○	○		○				
		教育社会学	2		3				○		○					○	○
		教育方法論	2		3			○	○	○	○						
		特別支援教育入門（初等）		1	2	○		○	○								
		教育課程論（初等）	2		3	○	○		○		○		○			○	
		幼児教育課程論	2		2	○		○	○	○							○
		道徳教育の指導法（初等）	2		3	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
		総合的な学習の時間の指導法（初等）	2		2	○		○	○	○	○		○		○	○	○
		特別活動の指導法（初等）	2		3	○		○		○	○		○	○	○		○
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		子ども家庭福祉Ⅱ	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育者論	2		1	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○
		保育原理	2		1	○	○		○		○		○			○	○
		養護原理	2		2	○	○	○	○	○	○		○	○			○
		子どもの保健	2		3			○	○	○	○						○
		子どもの健康と安全		1	3			○	○	○	○						○
		子どもの食と栄養	1	1	3			○	○	○	○						○
		教職実践演習（幼・小）		2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		保育・教職実践演習（幼）		2	4	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
		教科教育法・国語	2		2	○		○	○	○	○	○		○			
		教科教育法・社会	2		2	○		○	○	○	○	○	○			○	○
		教科教育法・算数	2		2	○		○	○	○	○	○			○		
		教科教育法・理科		2	3			○	○	○	○						
		教科教育法・生活	2		2	○		○	○	○	○	○	○	○			○
		教科教育法・音楽		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		教科教育法・図画工作		2	3	○		○	○	○	○	○					
		教科教育法・家庭	2		2			○	○	○	○				○		
		教科教育法・体育		2	3	○		○	○	○	○				○		
		教科教育法・外国語（英語）	1	1	2	○		○	○	○	○	○		○		○	
		保育内容（健康）	1	1	2	○		○	○	○			○			○	
		保育内容（人間関係）	1	1	2		○	○	○		○		○	○	○		
		保育内容（環境）	1	1	2		○	○	○	○	○						
		保育内容（言葉）	2		2	○	○		○	○		○	○				○
		保育内容（表現）		2	2			○	○	○	○	○	○	○	○		
		保育内容（総論）	2		4	○	○	○	○	○							
		教育方法・ICT活用論（初等）	2		2			○	○	○	○				○		
		生徒・進路指導論（初等）	2		3	○	○		○		○		○			○	○
		教育相談（初等）	2		3			○		○	○			○	○		
		幼児理解	2		3		○	○	○		○			○			
		社会福祉論	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		子育て支援		1	3	○	○	○	○	○	○			○			○
		子ども家庭支援論	2		3		○	○	○	○	○				○		○
		乳児保育演習		1	2	○			○	○							
		乳児保育論	2		1	○			○	○	○				○		○
		障害児保育論Ⅰ	1	1	3			○	○	○	○				○		○
		障害児保育論Ⅱ	2		3			○	○	○	○				○		○
		社会的養護Ⅱ	1	1	2	○	○	○	○	○	○		○	○			○
		子どもと人権	2		2	○		○	○		○			○	○		○

		授業科目名（※【　】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
専門教育科目	基幹科目・発展科目	現代保育論	2		4			○	○		○		○				○
		西洋教育史	2		3				○		○		○			○	
		日本教育史	2		4				○		○		○				
		社会福祉援助総論	2		3	○	○	○	○	○	○						○
		子育て相談・支援の理論と実際	2		4	○	○	○	○	○	○				○		○
		児童教育学特殊講義Ⅰ		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○		
		児童教育学特殊講義Ⅱ		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○		
		教育実習事前・事後指導（初等）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		教育実習（初等）	実習4		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		保育実習ⅠA（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導ⅠA（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習ⅠB（施設）	実習2		4	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導ⅠB（施設）		1	4	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習Ⅱ（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		特別支援教育基礎理論	1	1	1	○			○								
		知的障害児の心理A	1		1			○	○	○					○		
		知的障害児の心理B		1	2			○	○	○					○		
		知的障害児の生理・病理	2		1			○	○	○					○		
		肢体不自由児の心理・生理・病理A	1		1			○	○	○					○		
		肢体不自由児の心理・生理・病理B		1	2			○	○	○					○		
		病弱児の心理・生理・病理A	1		1			○	○	○					○		
		病弱児の心理・生理・病理B		1	2			○	○	○					○		
		知的障害児教育論ⅠA	1		1	○	○	○	○	○					○		
		知的障害児教育論ⅠB		1	2	○	○	○	○	○					○		
		知的障害児教育論Ⅱ	2		1	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		肢体不自由児教育論A	1		1	○			○								
		肢体不自由児教育論B		1	2	○			○								
		病弱児教育論	2		1	○			○						○		
		視覚障害児の心理・生理・病理		1	1			○	○	○					○		
		聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1			○	○	○					○		
		視覚障害児教育指導法		1	2	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		聴覚障害児教育指導法	1		2	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		発達障害児教育論A	1		1	○	○	○	○	○					○		
		発達障害児教育論B		1	2	○		○	○	○	○	○			○		
		特別支援学校教育実習事前事後指導		1	4	○		○	○	○		○			○		
		特別支援学校教育実習	実習2		4	○		○	○	○		○	○		○		

2. 福祉臨床学科　カリキュラムマップ

		授業科目名	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 価値・原理 対象者理解	倫理観・人権尊重	福祉の知識と技能	専門性 社会情勢の把握	対人援助の技術	プレゼンテーション力	社会への参画 コミュニケーションスキル	社会活動への貢献	社会人基礎力
共通教育科目群	ベイシック・スキル	通信教育入門	2		1									○
		日本語表現	2		1							○		○
		英語コミュニケーションⅠ		1	1							○		○
		英語コミュニケーションⅡ		1	1							○		○
		英語	2		1							○		○
		基礎体育学		1	1									○
		健康行動学	2 or 2		1			○						
		情報基礎	2		1			○						○
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1		○							○
		文学	4		1									○
		心理学	4		1	○								○
		哲学	4		1	○	○							○
		経済学	4		1				○					○
		法学	4		1			○						○
		社会学	4		1				○					○
		地理学	4		1				○					○
		文化人類学	4		1				○					○
		数学	4		1									○
		生物学	4		1									○
		栄養学	4		1									○
	総合学習	多文化社会	2 or 2		2			○						○
		情報と社会	2 or 2		2									○
		国際理解教育論	2 or 2		2									○
		環境教育論	2 or 2		2				○					○
専門教育科目群	基本科目	社会福祉概論	4		1	○	○		○					
		社会保障論	4		2				○					○
		児童福祉論	4		2	○	○	○						
		障害者福祉論	4		2	○	○	○						
		老人福祉論	4		2	○	○	○	○					
		地域福祉論	2		3	○			○				○	
		人体の構造と機能及び疾病	1	1	3	○		○						
		公的扶助論	2		3	○	○		○					
	演習科目	社会福祉学演習Ⅰ		2	3		○	○		○	○		○	○
		社会福祉学演習Ⅱ		2	4		○	○		○	○		○	○
	基幹科目・発展科目	福祉レクリエーション論	2		1	○				○			○	
		福祉コミュニケーション論	2		1	○				○			○	
		社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2	2	○	○	○		○				
		社会福祉援助技術論Ⅱ	4		2	○	○	○		○				
		福祉行財政と福祉計画	2		2			○	○					○
		福祉サービスの組織と経営	2		2			○	○					○
		社会調査の基礎	2		3				○					○
		保健医療サービス	2		3	○		○						
		介護概論	2		3	○	○	○		○				
		相談援助演習Ⅰ	2		2					○				
		相談援助演習Ⅱ		4	2					○	○			
		相談援助実習	実習4		3	○	○	○		○	○			○
		相談援助実習指導Ⅰ	1		3	○	○	○		○				○
		相談援助実習指導Ⅱ		3	3	○	○	○		○	○			○
		障害児保育論Ⅰ	1	1	3	○	○	○						
		障害児保育論Ⅱ	2		3	○	○	○						
		ボランティア論	1	1	2	○							○	

		授業科目名	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 価値・原理 対象者理解	価値・原理 倫理観・人権尊重	価値・原理 福祉の知識と技能	専門性 社会情勢の把握	専門性 対人援助の技術	専門性 プレゼンテーション力	社会への参画 コミュニケーションスキル	社会への参画 社会活動への貢献	社会への参画 社会人基礎力
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	福祉と人権	2		2		○	○						
		時事問題からみる社会福祉	1	1	2				○					○
		子育てと社会	2		2				○					○
		子どもと人権	2		2	○	○							
		発達心理学	2		2	○		○						
		社会心理学	2		2	○		○						
		家族心理学	2		2	○		○						
		青年心理学	2		2	○		○						
		家族援助論	2		3	○	○							○
		就労支援サービス		1	3				○					○
		公衆衛生論		2	3			○	○					
		権利擁護と成年後見制度	2		4	○	○						○	
		更生保護制度		1	4	○	○						○	
		社会福祉学特殊講義Ⅰ		2	3			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅱ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅲ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅳ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義A（福祉と女性）	2		2			○	○					
		社会福祉学特殊講義B（福祉と歴史）	2		2			○	○					
		社会福祉学特殊講義C（福祉とボランティア）	2		3			○	○					
		社会福祉学特殊講義D（福祉と国際社会）	2		4			○	○					
		医療福祉論	2		2	○		○						
		海外の福祉	1	1	2			○	○					
		生涯スポーツ学習論	2		2			○					○	
		子どもの食と栄養	2		3	○		○						
		子どもの保健	2		3	○		○						
		養護児童援助論	2		3	○	○	○						

科目別索引

五十音順

＜注意：カリキュラム改正について＞

本学ではカリキュラム改正を行いました。このため、入学年度・入学学年により、カリキュラムが異なります。『学生要覧』の入学年度・入学学年・コース別の科目表を必ず確認してください。

なお、Ⓐ欄のカリキュラム改正前科目については、Ⓑ欄の2025年度開講科目として開講しますので、本冊子ではⒷ欄の科目コード・科目名で掲載しています。

Ⓐ　カリキュラム改正前科目		Ⓑ　2025年度開講科目	
科目コード	科目名	科目コード	科目名
20133	教育方法・技術論（初等）	20181	教育方法・ICT活用論（初等）

＜2025年度不開講科目について＞

下記の科目については、2025年度は不開講となります。

科目コード	科目名
20078	日本教育史
20087	保育実習Ⅱ（保育所）
20112	特別支援学校教育実習
20137	保育実習ⅠA（保育所）

［イ］

医療福祉論…… 318

［エ］

英語…… 30
栄養学…… 61

［オ］

音楽【◆1】…… 180

［カ］

介護概論…… 276
外国語（英語）…… 231
学習心理学…… 97
家族援助論…… 296
家族心理学［教育学科・児童教育学科］…… 109
家族心理学［福祉臨床学科］…… 292
家庭…… 89
環境教育論…… 70

［キ］

教育課程論（初等）…… 123
教育原理…… 74
教育実習（初等）〔小学校〕…… 197
教育実習（初等）〔幼稚園〕…… 197
教育社会学…… 119
教育社会学【特例制度】…… 334
教育心理学…… 76
教育相談（初等）…… 140
教育哲学…… 78
教育法規…… 117
教育方法・ICT活用論（初等）…… 249
教育方法・技術特論（初等）【特例制度】…… 340
教育方法論…… 121
教育臨床心理学…… 101
教科教育法・外国語（英語）…… 233
教科教育法・家庭…… 138
教科教育法・国語…… 128
教科教育法・算数…… 133
教科教育法・社会…… 131
教科教育法・生活…… 136
教職論…… 111
教職論【特例制度】…… 332

［ケ］

経済学…… 44
健康行動学…… 32
健康心理学…… 99
現代保育論…… 152
権利擁護と成年後見制度…… 310

［コ］

公的扶助論…… 266
国語…… 80
国際理解教育論…… 68
子育て相談・支援の理論と実際…… 158
子育てと社会…… 284
子ども家庭支援の心理学…… 216
子ども家庭支援特論【特例制度】…… 350
子ども家庭支援論…… 225

子ども家庭福祉Ⅰ…… 223
子ども家庭福祉Ⅱ…… 229
子どもと音楽表現…… 244
子どもと環境…… 241
子どもと健康…… 237
子どもと言葉…… 243
子どもと人権［教育学科・児童教育学科］…… 150
子どもと人権［福祉臨床学科］…… 286
子どもと身体表現…… 248
子どもと造形表現…… 246
子どもと人間関係…… 239
子どもの食と栄養［教育学科・児童教育学科］…… 193
子どもの食と栄養［福祉臨床学科］…… 322
子どもの食と栄養特論【特例制度】…… 348
子どもの保健［教育学科・児童教育学科］…… 227
子どもの保健［福祉臨床学科］…… 325
子どもの保健特論【特例制度】…… 346

［サ］
算数…… 83

［シ］
肢体不自由児教育論A【特支】…… 171
肢体不自由児の心理・生理・病理A【特支】…… 165
児童心理学…… 93
児童福祉論…… 258
社会…… 87
社会学…… 48
社会心理学［教育学科・児童教育学科］…… 105
社会心理学［福祉臨床学科］…… 290
社会調査の基礎…… 304
社会的養護Ⅰ…… 220
社会的養護Ⅱ…… 222
社会福祉援助技術論Ⅰ…… 272
社会福祉援助技術論Ⅱ…… 274
社会福祉援助総論…… 156
社会福祉概論…… 254
社会福祉学特殊講義A（福祉と女性）…… 312
社会福祉学特殊講義B（福祉と歴史）…… 314
社会福祉学特殊講義C（福祉とボランティア）…… 329
社会福祉学特殊講義D（福祉と国際社会）…… 316
社会福祉論…… 144
社会保障論…… 256
障害児保育論Ⅰ［教育学科・児童教育学科］…… 146
障害児保育論Ⅰ［福祉臨床学科］…… 278
障害児保育論Ⅱ［教育学科・児童教育学科］…… 148
障害児保育論Ⅱ［福祉臨床学科］…… 280
障害者福祉論…… 260
生涯スポーツ学習論…… 320
情報基礎…… 34
情報と社会…… 66
初等教育原理…… 115
人権教育…… 208
人体の構造と機能及び疾病…… 298
心理学…… 40

［ス］
数学…… 55

［セ］
生活…… 85
生徒・進路指導論（初等）…… 195
青年心理学［教育学科・児童教育学科］…… 107
青年心理学［福祉臨床学科］…… 294
生物学…… 59
西洋教育史…… 154

［ソ］
総合的な学習の時間の指導法（初等）…… 235
相談援助演習Ⅰ…… 308

［タ］
体育【◆1】…… 91
多文化社会…… 64

［チ］
地域福祉論…… 264
知的障害児教育論ⅠA【特支】…… 167
知的障害児教育論Ⅱ【特支】…… 169
知的障害児の心理A【特支】…… 162
知的障害児の生理・病理【特支】…… 163
聴覚障害児教育指導法【特支】…… 177
聴覚障害児の心理・生理・病理【特支】…… 175
地理学…… 51

［ツ］
通信教育入門…… 26

［テ］
哲学…… 42

［ト］
道徳教育の指導法（初等）…… 210
特別活動の指導法（初等）…… 212
特別支援教育基礎理論【特支】…… 160

［ニ］
日本国憲法…… 36
日本語表現…… 28
乳児保育論…… 218
乳児保育特論【特例制度】…… 352

［ハ］
発達障害児教育論A【特支】…… 178
発達心理学［教育学科・児童教育学科］…… 103
発達心理学［福祉臨床学科］…… 288

［ヒ］
美術【◆1】…… 186
病弱児教育論【特支】…… 173
病弱児の心理・生理・病理A【特支】…… 166

［フ］
福祉行財政と福祉計画…… 300
福祉コミュニケーション論…… 270
福祉サービスの組織と経営…… 302
福祉と人権…… 282
福祉と養護【特例制度】…… 344
福祉レクリエーション論…… 268
文学…… 38
文化人類学…… 53

［ホ］
保育原理…… 190
保育実習ＩＢ（施設）…… 198
保育者論…… 188
保育内容（環境）…… 204
保育内容（健康）…… 199
保育内容（言葉）…… 206
保育内容（総論）…… 214
保育内容（人間関係）…… 202
保育内容の研究・特別総論【特例制度】…… 338
法学…… 46
保健医療サービス…… 306

［ヨ］
養護児童援助論…… 327
幼児教育課程論…… 125
幼児教育課程特論【特例制度】…… 336
幼児教育原理…… 113
幼児心理学…… 95
幼児理解…… 142
幼児理解特論【特例制度】…… 342

［ロ］
老人福祉論…… 262

【◆1】教育学科・児童教育学科2024年度以前入学生対象科目
【特支】「特別支援学校教諭1種免許状取得課程」履修者対象科目＜1年次入学時履修許可者のみ＞
【特例制度】認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生対象科目

共　通　教　育　科　目　群

科目コード	10000	科目名［単位数／学習時間］	通信教育入門［2単位／90時間］			
テキスト	●『自立学習の手引き』 私立大学通信教育協会					
ISBN	生協のみで販売	本体価格（円）（2025年1月現在）	510	生協 テキストNo.	25001	生協へお申し込みください
科目担当	小川内　哲生					

科目の目的

「通信教育入門」が卒業要件になっている人は、他の科目に先立って、最初に取り組むこと。テキスト履修がどのようなものであるか、その学習方法とレポート作成の実際について、基本的な知識と理解を得るためである。「科目の目的」は、専攻分野の課題研究ではなく、一般的に、レポートを書く基本を練習することである。テキストの副題に「読む・書く・問う」とあるように、これらを意識的に行うことが自立的な学びの第一歩となる。レポート作成が自身の成長につながるように、まずは、この科目にしっかり取り組んでほしい。

到達目標

1　通信教育における学び方を学ぶ。
2　通信教育における学びで大きな比重をもつ「レポート」について、その書き方を学ぶ。
テキストをよく読み、基本的な知識を身につける。その上で、「論点」をはっきりさせた文章（レポート）を以下①～③の手順にしたがって書く。
①まずは、自分の取り組みたいテーマを考える。新聞、書籍、ネット等からテーマを見つけ出す。
②そのテーマに関する記事、文献、資料データをできるだけ多く集める。文献等リストをつくり、実物やそのコピーの入手可能なものと困難なものとを区別する。
③入手できた資料を用いることで、論点を整理する。
資料は5点以上集めたい。「論点」は「テーマ」よりもっと小さく絞り込む。取材源は新聞雑誌、書物、ネット情報（責任の所在の明確なもの）など。（「各課題の留意点」必読。）

学習テーマ

1	なぜ「読む」のか　技術としての読書
2	なぜ「読む」のか　大学通信教育と読書
3	何を「読む」か　「読む」参考書
4	何を「読む」か　「引く」参考書
5	何を「読む」か　音声と映像
6	何を「読む」か　本の探し方
7	どう「読む」か　試し読み
8	どう「読む」か　分析読み
9	どう「読む」か　総合読み
10	なぜ「書く」のか
11	何を「書く」か　論文の目的とレポートの性格
12	どのように「書く」か　レポートを書く手順
13	なぜ「問う」のか
14	何を「問う」のか　二種類の問い　質問と疑問　批判的な問い
15	どう「問う」のか

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

レポート課題の出題の意図は説明型と論評型に大別できる。説明型の課題、論評型の課題とはどのようなものなのか、それぞれ具体的に説明しなさい。

第2課題

テキストの内容を理解したうえで自分なりの研究テーマを見つけ、そのテーマについてレポートを作成しなさい。テーマは自分が興味関心のある分野を選択すること。自分なりに読む、書く、問うということを意識して作成すること。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

レポートの作成にあたっては、常時、テキストを参照すること。自筆の場合は、本学所定のレポート用紙（タテ型）に、ペン書きで横書きする（ワープロソフト使用の場合も横書き）。ページ番号をつける。段落をつくり、小見出しをつけるとよい。ワープロソフト使用の場合も、テキストの原稿の書き方に準じて書くこと。本冊子「はじめに」の「Ⅲ　レポート作成・提出時の注意」をよく読むこと。

第1課題の留意点

テキストを参照すること。特に第2章「書く」の第3節を参考にしてまとめると良い。

第 2 課題の留意点

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。（レポートの書き方も習熟する。）

1．序論　このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2．本論　「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3．結論　本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。

＜引用について＞

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。（本冊子の「はじめに」を参照。）

本課題では、レポートの形式にそって「立論すること」を経験し、慣れることが一番の目的である。そのため、1 冊の本のまとめや切り抜きといった文献の丸写しではいけない。自身で、テーマ、論点をつくり、資料を読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」として文献名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合（引用箇所の頁などを示していない場合）は、「文献を用いた考察」とは認めない。

テーマ、論点としては、問題点が明らかで、意見が分かれているようなものが取り組みやすいであろう。1 冊の書物のような大きな論題や、教科書のような解説の類は不適当。タイトルで小さく絞り込むこと。結論の如何よりも、テキストの「読む」「書く」「問う」が十分に実践されているかどうかを、評価のポイントとする。ここでは、あなたの意見をただ述べるのではなく、複数の資料を組み合わせて述べる練習として、引用を的確に、その書き方の習得を心がけること。

ぜひ、この課題で「レポート」の書き方の基本（ここでは、主張と、その理由。さらに理由を確かなモノにする根拠、といった論の立て方、また、序論・本論・結論・引用文献というレポートの形式など）を身につけてほしい。

レポートの評価基準

テキストを正確に読み取り、その実践がきちんとあらわれていること。たとえば、原稿用紙の使い方、改行・段落、引用の仕方などは、レポート作成の基本である。自分の意見だけで引用が活用されていないものも、引用のみ多く自分の意見が乏しいものも、いずれもよくない（何かの資料～ネットの「まとめ」など～を丸写ししてもあなたのレポートとして成立しない）。

第 2 課題は、よく調べ、深く考察し、自分の意見・主張が客観的に記されていることが必要である。

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、「質問票」で担当者に質問すること。答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

※添削・評価済みレポートは提出期限の締切約 1 ヵ月半後（提出月の翌月末頃）に返却。ただし、2 月と 8 月に提出したレポートについては、翌々月の上旬に返却。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・内田樹　『下流志向　学ばない子どもたち働かない若者たち』　講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10001	科目名[単位数／学習時間]	日本語表現［2単位／90時間］			
テキスト	●松尾芭蕉　『覚えておきたい芭蕉の名句200』　角川書店					
ISBN	9784044004705	本体価格(円)（2025年1月現在）	680	生協テキストNo.	25002	
科目担当	大村　誠一郎					

科目の目的

日本語による表現の粋といえば、五七五のわずか十七音で森羅万象を表現できる俳句が先ず挙げられよう。無論俳句の表現に通じたところで、直ちにレポートを書く上での参考にはならないが、日本語でこれだけ豊かな表現が出来るということを感得してもらいたい。この科目では「句調はずんば舌頭に千転せよ」と表現を追求した芭蕉の名句を鑑賞し、その表現の巧みさを自ら発見してもらいたい。また上手下手は問わないが、自分でも作句してみることで、表現の工夫を体感してもらう。

到達目標

テキストに取り上げられている句を順に読み、それぞれの句について自分が「表現が巧みだ」と感じたところをノートに取っていく。200句なので、15回に分けると、1回平均13、4句になる。テキストには簡単な句意と説明だけで、いわゆる評釈になっていないので、受講者自身の鑑賞力を発揮しやすいと思う。どこが巧みなのかわからないときは「わからない」で良い。ただし100句につき任意の3句についてレポートを書いてもらうので、自分の力だけでは難しいと感じたときは「凡例」にあるようなものを始め、参考文献を見て良いが、レポートでは必ず何に書かれていた考えかを明記すること。また1つのものを鵜呑みにせず、自分の考えを重視するように。

また俳句の表現というと、切れ字や体言止めなどに目が行きがちかも知れないが、芭蕉も「発句は取り合はせ物と知るべし」と述べているように、言葉と言葉の出会いが重要である点に留意すること。

学習テーマ

1	テキスト8ページの最初の句から13、4句につき、「到達目標」に書いた作業をする。参考文献にあった意見は、何に書かれていたかもメモしておく（Webページの場合も同様）。
2	「1」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。なお、テキストは作句の年代順に並んでいるので、年代による変化などにも気付いたらメモすると良い（レポートや科目修了試験では問わない）。
3	「2」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
4	「3」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
5	「4」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
6	「5」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
7	「6」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
8	「7」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
9	「8」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
10	「9」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
11	「10」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
12	「11」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
13	「12」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
14	「13」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
15	「14」の次の句から最後の句につき、前回と同様の作業をする。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの前半100句（pp. 8 -110）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

第2課題

テキストの後半100句（pp.111-213）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

各課題共通の留意点

「表現が優れている」といってもそれを言葉で説明するのは難しいが、江戸時代の句は言葉の背後に古典のイメージがある場合も多いので、解説を参考に言葉の持つイメージを辞書で探ってみる、他の語に置き換えて感動が同じように伝わるか考えてみるといった点に留意すると良いだろう。なお、「科目修了試験について」を参照し、科目修了試験に出す予定の句についてはレポートで取り上げないこと。

レポートの評価基準

なるべく受講者の感性を尊重したいが、あまりに時代性を無視した、現代的に過ぎる解釈は書き直しを命じる。また科目の性質上、誤字・脱字・誤変換や、慣用表現の誤用、ねじれ表現などがあまりに多い場合にも書き直しを命じることがある。

自作の句については、担当者は俳人ではないので巧拙は問わないが、有季定型に限定する。季節は、立春から立夏の前日までを春とする伝統的な季感に従うこと。季語は歳時記に縛られなくても良いが、うっかり他季の語を勘違いして用いたり、同じ句の中に他季の語が混じったりしないよう、インターネットでも良いので歳時記を参照することを勧める。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト16ページ「芭蕉野分して」、50ページ「古池や」、80ページ「草臥れて」、90ページ「吹き飛ばす」、102ページ「夏草や」、105ページ「涼しさを」、113ページ「荒海や」、117ページ「あかあかと」、134ページ「薦を着て」、152ページ「梅若菜」、189ページ「春雨や」、210ページ「此の秋は」。

以上12句の中から 2 句出題し、表現の巧みさを中心とした鑑賞文を書いてもらう。

科目修了試験の評価基準

概ねは非常に有名な句なので、探せば評釈は山のようにあると思う。科目修了試験受験の前にそれらを参照しておくことはもちろん結構であるが、最終的に自分の鑑賞文となっていること。いろんな批評が混在して何が言いたいのかわからないような答案はもちろん不合格となる。試験時には何も持ち込めないので、他人の考えを書くとき、誰の文章だったかわからなくなることもあると思うが、「誰の文章だったか忘れたが」というような形にして、他人の説であること自体は明記するように。

参考文献

テキストの「凡例」参照。『おくのほそ道』の注釈なども無数に存在する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10004	科目名[単位数／学習時間]	英語［2単位／90時間］			
テキスト	● 阿野幸一　上田倫史 『Journeys Communication for the Global Age　グローバル社会へのコミュニケーション英語』 朝日出版社					
ISBN	9784255157047	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25005	
科目担当	平松　さやか					

科目の目的

健康、ファッション、ボランティア活動、カルチャーショックなどの身近な話題を取り上げ、対話文と短めの読み物で構成されたテキストである。英語を知識として終わらせるだけでなく、リスニング部分（無料でダウンロード可）、英作文、さらに各自の意見を述べることで、活用出来るスキルとしての英語の四技能を強化することを目的としている。ここで扱う英文のレベルは、英語検定準2級から2級程度、TOEIC TESTスコア300～450程度としている。

到達目標

テキストの英文読解、リスニング問題を通して社会事情に関心を寄せるだけでなく、critical thinking（批判的論理思考）を養うことも目標とする。テキストの各章の補助問題を解いていくと、受講生が自分自身の意見や考察を表明できるようになっていく。英文アカデミックライティング形式（結論先行方式）を段階的に習得していくことを目標としている。（第2課題参照）

学習テーマ

1	Lesson 1 ：Communication　現在形【現在に関わることを述べる表現】
2	Lesson 2 ：Friendship　過去形・過去進行形【過去のことを述べる表現】
3	Lesson 3 ：Health and Environment　現在完了形【すでに終えていることや、経験を伝える表現】
4	Lesson 4 ：Gender Equality　未来形【未来のことを伝える表現】
5	Lesson 5 ：Fashion　助動詞 ① can, may【可能性や推量】
6	Lesson 6 ：Food　助動詞② should, must【相手に助言したり、すべきことを伝えたりする表現】
7	Lesson 7 ：History of YouTube　比較【比較をする表現①】
8	Lesson 8 ：Study Abroad　比較【比較をする表現②】
9	Lesson 9 ：College Life in the U.S.　受け身,使役【視点を変えて説明したり、～させると伝える表現】
10	Lesson 10：Olafur Eliasson　関係詞①　【情報を加えて説明する表現】
11	Lesson 11：Volunteer Work　関係詞②　【時・場所・理由などの情報を加える表現】
12	Lesson 12：Career　形容詞用法【言葉に情報を加える表現】
13	Lesson 13：Travel　仮定法【自分の願いを伝える表現】
14	Lesson 14：Culture　話法【人の言葉を伝える表現】
15	Lesson 15：An International World　ディスコース標識　【論理的に伝える表現】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

Lesson 1 - 7 より任意で1つ、Lesson 8 -15（作文ではなく履歴書作成をする12は選択しないこと）より任意で1つ、合計2つの Lesson を選ぶこと。

（1）Warm-Up Question（短い英文で解答すること）
（2）Keywords（各単語の訳出をおこなう）
（3）Conversation（話の内容を日本語で要約。一語一句訳出しないこと）
（4）Useful Expressions（各表現を個別に使い、各自で考えた短い対話文を作成）
（5）Reading（段落ごとに日本語で要約文を作成すること。翻訳ソフトなどの使用が判明するような、全文訳のみの提出は行わないように）
（6）Comprehension（表全体は写さず、表の中の空欄の表現をそれぞれ解答。）
（7）Answer the Questions, Let's Try（指示に従って短い英作文をおこなう）を解答する。
Grammar for Communication/ Retelling / Speaking Task 口頭練習は各自で振返るのみで、提出は不要。

第2課題

第1課題で選んだ2つの Lesson より、Lessonページ最後部の[Writing Task]を1つ選び、英語で 120 words程度で、自らの意見や考察をアカデミックライティング形式で述べる。

各課題の留意点

第1課題の留意点

選んだ Lesson ごとに解答を作成するとよい。英単語などを本学所定のレポート用紙のマス目に合わせる必要は無く、文書の作成を行うこと。ページ数と問題名、番号を記載してから解答する。少し行間があれば、担当者が添削時にこの部分にコメントを入れることができるため、余白があると良い。

第 2 課題の留意点

英語で論旨を述べる時は、academic writing（paragraph writing）の方式をとる。 paragraph とは「段落」のことで、 1 つの段落に 1 topic（最も主張したいテーマ）のみ扱うのがルールである。topicを冒頭で提示した上で、その後にtopic を説明する具体的な理由を述べるという、日本語作文の「起承転結」とは正反対の展開法である。理由や説明を入れるときは、First, Second, Next,などのつなぎ語を文頭に置いてから文章を展開すると論理的で説得力ある文章が完成する。以下は明快なparagraph の見本として参考にしてもらいたい。

Why Convenience Stores Succeed

The main reason for the success of convenience stores in recent years is that they are indeed convenient for every person in each generation. There are several factors that make them useful. One is their location. Unlike large supermarkets, convenience store chains focus on having a large number of small stores. So one city can have hundreds of them and most of the stores are in walking distance. The second reason is the selection of goods that are sold in these convenience stores. You are able to buy not only groceries but also vegetables, liquor, magazines and underwear. The third reason is the hours they keep. Most of the convenience stores open all through the year and are open late at night or all night. So you may go there without any worries about closed days nor the hour you shop. In conclusion, convenience stores location, business hours and their variety of items fit for today's people and they have made a great success in Japan.

（170 words ）

○書式フォーマット【ワープロソフト使用の場合】

Word文書で提出の場合、正式な字体はTimes / Times New Romanを使用する。文字サイズは12-14ポイントの半角に設定。上下左右に 2 - 3 ㎝程度の余白を取り、用紙（A4用紙）の中央にタイトル（題目）をつける。 1 行分下がって、冒頭部のみ、5 スペース分右の場所から 1 行目を書き始める。

1 行ごとの改行はせずに、文章は余白分を残して端から端まで書くが、右側がきちんと揃わなくてもよい。ピリオドの後は 2 スペース空けて次の文を書くこと。また、英語の字数の数え方は 1 単語を 1 word とし、例えば I have a dream. であれば 4 words となる。日本語の作文のように空白のスペースや、ピリオド、コンマ、クォーテーションマーク、クエスチョンマークなどはカウントしない。上記のパラグラフはタイトルを含めて170語である（字数は文章の終わり、右下に記載しておく）。

レポートの評価基準

第 1 課題について：各自選んだ 2 つの章の問題を写し間違いや不備もなく、正しく解答していること。和訳した部分のミスの数や、英単語や英文のつづり間違いが多すぎる場合はマイナス評価の対象となる。もちろん、未解答部分がある場合は再提出の対象となる。

第 2 課題について：academic writing の正式なフォーマットで文章を作成し、書式と構成を守って作成していることが前提となる。英語の語彙の高度さ、文法の複雑さなどでプラス評価にはせず、いかに各自の今持てる力で意見を述べることができているかを評価する。文章が120 words の 8 割以下では内容不十分として不合格（再提出）の対象となる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

試験範囲は Lesson 1 -15の広範囲に渡るが、出題はランダムに選んだ 2 章分となる。つまり、「Reading」部分の文章内容理解、文法や語彙力を問う大問が 2 つとなる。その章と関連するComprehension, Answer the Questions 部分からも出題される。ランダムに Grammar for Communication からも文法問題が出題される。テキストで扱った文法事項はよく復習しておくこと。

さらに、第 2 課題と類似した、自らの意見や考察を100 wordsで書くacademic writingの問題もある（与えられるトピックは選択方式）。例年この部分の白紙解答の結果、点数が合格ラインに届かない場合もある。平易な語彙でもミスを恐れず、何か具体的な事例や自分の意見をできる限り書いて提出すること。

科目修了試験の評価基準

英語の読解力、文法、語法、英作文などを出題した部分が約85点（小問の配点は異なるが、 1 問 3 ～ 4 点が大半）。例えば試験内での動詞の活用ミス、前置詞選択が不適切な場合は減点につながる。また、意見をacademic writingの大問は約15点配点（英語のつづりや誤字脱字だけでは大きな減点にはならない。）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10007	科目名[単位数／学習時間]	健康行動学［2単位／90時間］			
テキスト	●安部孝　琉子友男　『これからの健康とスポーツの科学　第5版』　講談社					
ISBN	9784065180952	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25006	
科目担当	「親和通信」で連絡					
実務経験のある教員による科目	スポーツ関連企業にて全世代の健康づくり（健康増進・競技力向上）サポート業務に従事					

科目の目的

わが国の平均寿命はここ数十年で飛躍的に伸び、世界でも有数の健康水準を誇る国となっている。しかし、豊かさがもたらす食べ過ぎや運動不足が引き起こす生活習慣病の増加や、それに伴う国民医療費の高騰など現代社会において多くの問題を抱えている。こうした現状で健康を維持・増進するには然るべき理論を理解し、実践方法を身につけることが必要となる。そこで本科目では、健康の問題を自分自身の生活を振り返ることから始め、今後の生活の中で健康を増進するための考え方を身につけるべく基本的な知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

今日の情報化社会では健康に関する情報が溢れている。おもにデジタルメディアから届けられるたくさんの健康情報を、キャッチーなコピーに惑わされることなく正否の判断を下すために必要な知識を身につけること。商業ベースのまことしやかな情報に流されない知的体力をつけることが、一つ目の到達目標である。

二つ目は、運動実践への意欲と積極的な態度を身につけること。デジタルメディアの出現など様々な分野での「便利化」は、今も着実に進行中である。身体をそれほど使わなくてもすむ現代社会では、健康を維持するためには運動実践が必要不可欠である。そのためには、多くの人が抱えている「スポーツや体育への苦手意識」を払拭することも必要で、競技力を高めるための運動と、健康を維持・増進するためのそれとは根本的に異なる。この違いを理解することにより、運動実践への一歩を踏み出せるようになる。以上が本科目の到達目標である。

学習テーマ

1	健康を推進するための生活スタイルとは①【日本人は健康といえるのか？食生活・飲酒と喫煙＜テキストpp. 1 - 9 ＞】
2	健康を推進するための生活スタイルとは②【休養の取り方・健康を脅かすものから身を守る·環境と健康·日本人のライフスタイル＜テキストpp. 7 -18＞】
3	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？①【運動不足が生活習慣病を招く・三大死因とライフスタイル＜テキストpp.19-20、pp.28-31＞】
4	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？②【運動習慣と死亡率の関連性・健康づくりのための身体活動基準および運動指針＜テキストpp.32-37＞】
5	肥満を改善するための方法【安静時エネルギー代謝を高める・運動と肥満の関係・食事と運動と肥満の関係＜テキストpp.54-62＞】
6	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは①【猛暑での運動（暑熱環境）＜テキストpp.144-149＞】
7	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは②【寒い環境での運動（寒冷環境）＜テキストpp.152-155＞】
8	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは③【山地などでの運動（高所環境）＜テキストpp.156-159＞】
9	ストレスと運動①【運動はストレス解消に役立つか？なぜ運動はストレスに対して効果的なのか？＜テキストpp.172-182＞】
10	ストレスと運動②【運動の負の側面・どのような生活をすればストレスに強くなれるのか？＜テキストpp.183-188＞】
11	栄養とスポーツ①【五大栄養素の役割＜テキストpp.189-192＞】
12	栄養とスポーツ②【エネルギーや栄養素の摂取量・バランスのよい食事＜テキストpp.193-198＞】
13	高い持久力は何によって決まるのか？①【有酸素的なエネルギー供給機構・糖や脂肪の代謝＜テキストpp.87-91＞】
14	高い持久力は何によって決まるのか？②【酸素摂取からみた持久力・エネルギー代謝からみた持久力＜テキストpp.92-98＞】
15	加齢による筋萎縮に対する運動と栄養摂取の役割【加齢による筋萎縮と身体障害・高齢者における運動処方＜テキストpp.127-128、pp.131-133＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

健康的な生活習慣を阻害する要因をいくつか挙げ、それを乗り越える手立てを提案しなさい。

第2課題

適切な運動の仕方と効率的な休養の取り方について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

なぜ健康的な生活習慣が身につきにくいのか。この問いから出発し、それを阻害する要因をエピソードを交えるなどしていくつか挙げること。そこから、どうすればそれを克服することができるのかについて、私論で構わないので自らの言葉でレポートする。

第 2 課題の留意点

一口に運動といっても様々である。行い方によっては効果も変わる。心身のリフレッシュを目的にした場合の適切な運動の仕方について、休養の取り方にも触れながら述べること。それから、多忙な日常生活においていかにして運動を行い、休養を取るための時間を捻出すればよいのかについてレポートする。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、参考文献などの情報を加味して課題について論述しているかどうか。
・論理的に述べられているかどうか。
・引用、注釈の仕方が正しいかどうか。
・適切に段落をつけているかどうか。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないかどうか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われているテーマから出題する。テキストをよく読んで理解を深めておくことが大切である。とくにレポート課題で提示した、生活習慣病や、運動の様々な効果についてよく理解しておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握した上で、理論と実践を結びつけるべく経験的に学んだ内容を整理することも重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説のみを展開しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・福岡伸一　『動的平衡　生命はなぜそこに宿るのか』　木楽舎
・岩田健太郎　『食べ物のことはからだに訊け！　健康情報にだまされるな』　筑摩書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の[X]）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10008	科目名[単位数／学習時間]	情報基礎［2単位／90時間］			
テキスト	●大嶋淳俊 『情報リテラシーを超えて　情報活用学入門　情報化社会の「攻め方」・「守り方」』 学文社					
ISBN	9784762023118	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	25007	
科目担当	中尾　尊洋					
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（情報担当）					

科目の目的

「情報社会」にあって、情報の活用能力、科学的理解、情報社会に参画する態度について学ぶ。
パソコンやインターネットを用いた情報の活用のための基本的な知識・技能を前提とする。情報の科学的な理解では、簡単なディジタル技術の仕組みを学び、参画する態度では情報モラルの基本を学ぶ。実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

・ほとんどは、高等学校教科「情報」の復習である。辞書や用語辞典などを参考にテキストをよく読み、自分にとっての情報の活用力を身につける。
・この分野の情報は、更新されることが多くある。テキストに書かれていない内容でも、テレビや新聞、Webページなどから、関連する項目についての情報を主体的に習得し、その内容理解に努めること。

学習テーマ

1	「情報リテラシー」から「情報活用力」へ【学習のポイント：情報リテラシーとはどのようなものか。】
2	情報化社会の現状とインターネットの影響【学習のポイント：現在の情報化社会を理解する。】＜テキストだけでなくWebも参照＞
3	メディアの特徴と情報の収集・選択【学習のポイント：収集に関する留意点を理解する。】
4	インターネットの活用と新しい動き【学習のポイント：インターネット上のサービスとはどのようなものか。】
5	情報化社会のルールとマナー【学習のポイント：情報活用のルールやマナーについて理解する。】
6	情報化社会の権利【学習のポイント：個人情報・知的財産権に関する留意点を理解する。】
7	情報セキュリティ【学習のポイント：コンピュータウィルスとその対策について理解する。】
8	ビジネスと情報化【学習のポイント：ビジネスにおける情報活用について理解する。】
9	教育と情報化【学習のポイント：eラーニングについて理解する。】
10	安心・安全と情報化【学習のポイント：医療・防災分野での情報活用を理解する。】
11	防災・災害対策と情報化【学習のポイント：災害時の情報活用から防災での活用方法を考える。】
12	情報技術の基礎知識（ハードウェア・ソフトウェア・記録メディア）【学習のポイント：コンピュータハードウェア、ソフトウェア、記録メディアの知識を得る。】
13	情報技術の基礎知識（インターネットの仕組みとWebサイト）【学習のポイント：インターネットやWebサイトの技術に関する知識を得る。】
14	情報技術の基礎知識（Webアプリケーションとクラウドコンピューティング）【学習のポイント：Webアプリケーションの技術に関する知識とクラウドコンピューティングのイメージを得る。】
15	教育の情報化の背景【学習のポイント：社会的背景の変化と教育の情報化に関して理解を深める。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

「従来型メディア」と「ネット系」のそれぞれの特徴についてまとめた上で、「ネット系」において情報収集する際に留意点しておくべきことについて2,000字程度で考察しなさい。

第2課題

情報セキュリティの脅威およびその対策についてまとめた上で、情報セキュリティに対する意識を向上させるための方法について検討し2,000字程度で説明しなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

書籍、論文の文献や新聞記事、Webの記事等を参考にすることが望ましい。なお、テキスト以外の引用（参考）した文献の該当部分のコピーを必ず添付し、引用（参考）先をレポート内に明示すること。引用（参考）の記載方法は、バンクーバー方式とする。レポートは横書きとし、ページ番号を必ず打つこと。なお、参考文献であっても、どこでどの内容を参考にしたのかを明示する。よって、引用、参考の区別をせず、全ての文献について提示すること。文献記載がバンクーバー方式となっていない場合は評価せずに返却するので、特に注意すること。
※引用（参考）の文献記載の方法（バンクーバー方式）については、Webサイト等で確認し、適切に記載すること。

第1課題の留意点

・テキストpp.29-35及び自分で探した文献を参照し、各メディアの特徴を踏まえた上で、自分が考える「ネット系」による情報収集の適切なあり方について論じること。
・持論に対して、論の根拠となる文献を明示すること。

第 2 課題の留意点

・テキストpp.78-92、及びWeb等により自分で文献を探して参考にすること。
・検討にあたって、文献の論述をそのまま論旨としないこと。文献は根拠となるものであり、それを根拠として自分の考えを論じること。
・持論に対して、論の根拠となる文献を明示すること。

レポートの評価基準

・テキスト等から学んだ内容が、的確に理解されているかを評価する。
・文献を適切に引用（参考）できているか、自分の考えが適切に表現されているかを評価する。
・次の 3 点を評価の基準とする。
①テキストを精読のうえ、参考文献などの情報を加味して論述できている。
②内容に一貫性があり、わかりやすい論述になっていること。
③誤字、脱字がなく、英語なども正確に記載され、丁寧に作成できていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストp.167以降の【資料編　情報技術の基礎知識】に扱われている用語について説明できるようにしておくこと。
・新聞やWebの記事から情報に関する最新のトピックを調べ、その内容を理解しておくこと。特に、「Society5.0」、「教育の情報化」等、参考文献として挙げている『教育の情報化に関する手引』の第 1 章に記載されている言葉について、説明できるようにしておく。
・テキスト、レポート課題の全範囲から出題するので、テキストを熟読し、レポート内容の復習をしておくこと。
・用語については、テキスト記載以外の最新の情報の用語も出題される。
・レポート課題の周辺のトピックに関してもその出題の対象とする。

科目修了試験の評価基準

・キーワードの説明 4 題×15点、論述問題 1 題×40点の配点で採点する。
・キーワードについては、それぞれテキスト記載や辞書等に記載された内容で正しく理解されていること。満点でない場合は、内容によって部分点を加点する。
・論述については、理解したキーワードを用い、自分の考え方を取り入れて作成されたものであること。その際、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自説のみを記入しても評価しない。また、設題内容を正しく理解し、求めに応じた解答であるかも評価対象である。

参考文献

・文部科学省HP　『教育の情報化に関する手引（追補版）』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10010	科目名[単位数/学習時間]	日本国憲法［2単位／90時間］			
テキスト	●君塚正臣　大江一平　松井直之　『大学生のための憲法　第2版』　法律文化社					
ISBN	9784589043344	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	25008	
科目担当	小野　晃正					

科目の目的

憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。こうした理由から憲法の条文の大半は権力機関を主な名宛人としている。

日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。

これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標

指定テキストを読み込み、日本国憲法の諸規定をめぐる紛争はどのようなものなのかについて、具体的事例をイメージできるようになる。その上で、具体的事例から憲法上の争点を抽出し、この争点を解決するための理論（判例や学説）を理解する。さらに、これらを論理的にまとめ、自分なりの結論を提示する能力を身につける。

本科目はレポート課題および科目修了試験を通じて、こうした諸点の能力を向上させることを最終的な到達目標とする。

学習テーマ

1	憲法と立憲主義【学習のポイント：テキスト第1章を参照し、憲法の基本概念と立憲主義の意義を理解する。】
2	日本憲法史と平和主義【学習のポイント：テキスト第2章、第3章および第4章を参照し、憲法の成り立ちや日本における憲法の制定過程解釈、平和主義に内容を理解する。】
3	人権総論について【学習のポイント：テキスト第5章を参照し、人権の沿革、自由権と社会権の沿革、人権の享有主体、人権の制約を理解する。】
4	幸福追求権と法の下の平等について【学習のポイント：テキスト第6章を参照し、新しい人権と平等を理解する。】
5	精神的自由権と思想良心の自由について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、精神的自由権の概要や思想良心の自由を理解する。】
6	学問の自由について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、学問の自由の理解を深める。】
7	信教の自由と政教分離について【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、憲法20条の解釈を理解する。】
8	表現の自由について①【学習のポイント：テキスト第7章該当部分を参照し、表現の自由の意義と限界、規制方法を理解する。】
9	表現の自由について②【学習のポイント:テキスト第7章該当部分を参照し、集会･結社の自由、通信の秘密を理解する。】
10	経済的自由権について【学習のポイント：テキスト第8章を参照し、経済的自由権の重要性とその限界を理解する。】
11	人身の自由と適正手続の保障について【学習のポイント：テキスト第6章を参照し、人身の自由と適正手続の保障を理解する。】
12	社会権について【学習のポイント：テキスト第9章を参照し、社会権の展開を理解する。】
13	国務請求権と参政権について【学習のポイント：テキスト第10章および第11章を参照し、外国人の人権享有主体性を理解する。】
14	統治機構について【学習のポイント：テキスト第12章、第13章および第14章を参照し、わが国の統治機構の概要を理解する。】
15	裁判所と地方自治について【学習のポイント：テキスト第15章および第16章を参照し、裁判所と地方自治の概要を理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

憲法14条が定める法の下の平等における「平等」の概念には、複数の考え方がある。これら複数の考え方を具体例を挙げつつ、それぞれ説明しなさい。また、判例における法の下の平等における違憲審査基準について説明しなさい。

第2課題

日本国憲法は死刑制度の存在を前提としている憲法であるといえるか。関連する憲法の条文を検討し論じなさい。また、死刑制度に関する私見を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・複数の平等概念について分けて内容を論じること。法の下の平等をめぐる違憲審査基準にも必ず言及すること
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 2 課題の留意点

・憲法の条文をしっかりと読み込むこと。死刑関連条文は憲法36条のみではない。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読したうえで、情報を整理し、課題について正面から論述しているか。
・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
・レポートを作成する際に参考にした文献は、必ず明示すること。インターネット上の記事は引用文献として認めない。参考文献のないレポートは、評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

以下の 2 点に留意すること。
・問いに無関係な内容や個人的な体験談で字数を稼いでいないか。
・テキストの内容を理解しているか。

科目修了試験の評価基準

以下 2 点を成績評価の基準とする。
・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。　20%
・テキストの内容を理解しているか。　80%

参考文献

・芦部信喜『憲法　第 8 版』岩波書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10011	科目名[単位数／学習時間]	文学［4単位／180時間］			
テキスト	●菅原孝標女　原岡文子　『更級日記』　角川学芸出版					
ISBN	9784043734016	本体価格(円)(2025年1月現在)	760	生協テキストNo.	25009	
科目担当	大村　誠一郎					

科目の目的

『更級日記』は平安時代のある一女性が自分の生涯を振り返って書いたもの。人生上の大きな出来事のリアルな記録になっている上、その時思ったこと、考えたことが率直な言葉で綴られ、深い思いは和歌となった。文芸としての評価は高い。その『更級日記』を原文で読んで、現代に通じる点、現代と異なる点などについて考えてほしい。当時の女性に自分で選ぶ人生とか自由な生き方などという概念は存在しないのだが、彼女はこうありたいと思う生き方を繰り返し考えていた。親しい人との別れがあればさびしさや悲しみを印象深い文章に綴り、和歌を残す。つらい時には友と歌の贈答で語り合う。千年もの時を隔てていながら、現代の私たちにとっても身近に感じられる存在だ。原文で味わうことでいっそうそう思えることだろう。

到達目標

『更級日記』は平安時代のかな文学の文章としては比較的読みやすいが、作品全部を読もうとすると、高校で一通り古典を学んだ程度では難しく感じられる部分もあると思う。テキストには注釈も現代語訳もついているので、それらを参照しながら、内容を理解できるようになってほしい。更に原文を味読できるようになれば完璧である。

また、平安時代は今とはまったく違う社会環境にあり、実像を知るのは案外難しい。注釈や現代語訳だけではわかりにくいところは、自ら積極的に調べる習慣を身につけてもらうことも目的とする。

学習テーマ

1	1～4までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
2	5～7について、前回と同様の作業をする。
3	8～13について、前回と同様の作業をする。
4	14～23について、前回と同様の作業をする。
5	23までの内容で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
6	24～33までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
7	34～45について、前回と同様の作業をする。
8	46～52について、前回と同様の作業をする。
9	53～62について、前回と同様の作業をする。
10	62までの内容で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
11	63～67までを注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
12	68～73について、前回と同様の作業をする。
13	74～82（最終章）について、前回と同様の作業をする。
14	上記1～13で区切った単位の内容を梗概としてまとめ、研究文献等を参考にしながら、作品全体の振り返りをする。
15	科目修了試験に備えて十分な学習をする。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

1～23までを読んだ感想を述べる。1～23で更にテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。従って調べるテーマ（事項）は、本文の注釈（解釈）を前提で調べる。

第2課題

24～62までを読んだ感想を述べる。24～62で更にテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。従って調べるテーマ（事項）は、本文の注釈（解釈）を前提で調べる。

第3課題

63～82までを読んだ感想を述べる。63～82で更にテーマを一つ設定し、それについて調べ、調べたことを本文内容に関連させてまとめる。従って調べるテーマ（事項）は、本文の注釈（解釈）を前提で調べる。

第4課題

『更級日記』全体から印象深かった章を選び、感想を述べる。複数の章を取りあげて論じることを条件とするが、列挙ではなく、テーマを意識してまとまりのある内容にすること。調べたことも反映させる。

各課題共通の留意点

感想はもちろんどんなものでもかまわないが、必ず原文を引用し、「……」とある部分についてどう感じたというように具体的に書くこと。またテーマとは、作品中の重要な話題（たとえば、「源氏物語」「信仰」「法華経」「阿弥陀仏」「仕事（宮仕え）」「夢」「家族」「乳母」…）や作品の背景となる事柄（作者の父の階層、「極楽往生」…）などの中から、自分が興味を持ったものを取り上げて、それについて調べ、わかったことを作品に関連させて書く。なお第 1 課題～第 3 課題ではテーマを課題ごとに変更するように。

レポートの評価基準

感想は自由だが、原文を理解できているかどうかを問う意味がある。原文の引用がないものや、あまりにも内容とかけ離れたものは不合格とし、書き直してもらう。テーマレポートは、必ず複数の文献を見て、書籍の場合は著者・出版社・刊行年を、ウェブの場合はURLと参照日時を参考文献として明示すること。一つの文献だけを丸写ししているような場合は不合格（再提出）となる。

なお、テーマ設定も自由であるが、作品の読みにかかわる視点を持つことを条件とする。例えば作者の父について調べるのもテーマになるが、作品内容と関わることを必ず書くこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

『更級日記』は作者が晩年に自分の人生を振り返って書いたもの。科目修了試験では、筆者が自分の人生をどのように評価しているかを論述することとする。出題は、作品を考える際にキーとなる「源氏物語」「信仰」「仕事（宮仕え）」「夢」「家族」といったことがらにかかわっている特定の一つの章をベースとして視点を示すので、それに応じて作品全体を視野に入れて論述する。

科目修了試験の評価基準

作中のエピソードにふれる場合、確実に読んだことがわかる程度のもので構わない。夢や信仰についても事前に調べて記憶しておける範囲で書けばよいが、作品中のどの部分に関わっているかまで指摘してあれば、より高く評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10012	科目名[単位数／学習時間]	心理学［4単位／180時間］

テキスト	●鹿取廣人　杉本敏夫　鳥居修晃　『心理学　第5版　補訂版』　東京大学出版会					
ISBN	9784130121170	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25010	
科目担当	吉田　絵美					
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー、心理判定員					

科目の目的

心理学の研究領域は、人間の性格や知的能力、知覚、感情、発達等、広範囲にわたっているが、人間のこころの仕組みや働きについて研究しているところが共通点として挙げられる。スクールカウンセリングや教育等に携わるにあたり、その基礎となる人間の心とその仕組みに広く触れ理解しておくことは言うまでもない。実務にあたり駆使した人をより理解するために必要な心理学全般についての基本的な知識を教え、受講生に理解してもらうことを本科目の目的とする。

到達目標

心理学が「こころの科学」であることを正しく理解し、学術的な視点で心理学を修める。行動や発達、学習、記憶、感覚、知覚、思考、言語、動機づけ、情動、個人差、社会行動など、多岐にわたる領域での心の仕組みに関する諸理論を理解し、今を生きる人間の「何故」に興味関心を抱くことができるようになること。

学習テーマ

1	心理学の視点【学習のポイント：こころの科学としての心理学の成立を、研究例を通して学ぶ。】
2	行動の基本様式【学習のポイント：反射や本能行動からはじまり意識の成立過程についても探る。】
3	発達ー遺伝と環境【学習のポイント：遺伝と環境による心と行動の発達的変化の仕組みを考える。】
4	学習・記憶①ー条件づけ【学習のポイント：（無）意識の学習による行動の変化について学ぶ。】
5	学習・記憶②ー記憶と脳【学習のポイント：記憶の仕組みと神経学的基礎について理解を深める。】
6	感覚・知覚①ー分化と統合【学習のポイント：8系統の感覚とその測定方法について簡潔に学ぶ。】
7	感覚・知覚②ー視・聴・触覚【学習のポイント：3領域を通して感覚知覚の機能とその本性を探る。】
8	思考・言語①ー思考【学習のポイント：言語を用いた思考とその可能性を考える。】
9	思考・言語②ー言語【学習のポイント：思考による言語の広がりと高次脳機能障害を学ぶ。】
10	動機づけ・情動【学習のポイント：食や性をはじめとした動機づけと基本的情動の働きを探る。】
11	個人差①ー知能の発達【学習のポイント：知能の発達とその測定について理解を深める。】
12	個人差②ー性格の発達【学習のポイント：類型・特性論に基づく測定、性格の発達と変容方法論を学ぶ。】
13	社会行動①ー個人内【学習のポイント：基礎となる自己と帰属等の認知過程について理解を深める。】
14	社会行動②ー対人・集団【学習のポイント：他者との交流に内在する要因とその影響を諸理論に学ぶ。】
15	心理学の歴史【学習のポイント：紀元前から現代に至るこころの探求の流れを把握する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

記憶のメカニズムについて詳述せよ。

第2課題

聴知覚について詳述せよ。

第3課題

知能の発達とその測定について詳述せよ。

第4課題

対人魅力と対人関係について説明し、いわゆる『モテ』る人は何故『モテ』るのか考察せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト4章（pp.80-100）を中心によく学習し、記憶と忘却の基礎、そして障害による影響についてポイントをおさえつつまとめること。

第2課題の留意点

テキスト5章（pp.150-160）を中心によく学習し、聞こえの仕組みから障害による影響まで幅広くまとめること。

第3課題の留意点

テキスト8章（pp.235-244）を中心によく学習し、知能とは何か、その構造と発達の要因についても言及しまとめること。

第 4 課題の留意点

テキスト 9 章（pp.279-282）を中心によく学習し知識をまとめたうえで、独自の具体例を交えながら考察すること。対比として『モテ』ない人がどうして『モテ』ないのかを分析し添えるのもよい。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の 4 点を評価基準とする。

・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、心理学に関する理解を深める。特に、 2 章pp.21-25、 3 章pp.47-61、 4 章pp.65-75、 6 章pp.165-168、pp.187-195、 8 章pp.244-pp251の知識は確実に獲得しておくこと。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10013	科目名［単位数／学習時間］	哲学［4単位／180時間］		
テキスト	●ジェームズ・レイチェルズ　スチュアート・レイチェルズ『新版　現実をみつめる道徳哲学　安楽死・中絶・フェミニズム・ケア』 晃洋書房				
ISBN	9784771027619	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25011
科目担当	隈元　泰弘				

科目の目的

科学技術が著しく発達し、高度な交通手段・通信手段によってグローバル化が進む現代、私たちは、脳死やクローンなどの新しい問題から、宗教や差別などの古い問題に至るまで、これまでにないほど複雑な倫理的思考・判断を迫られている。こうした現実的な問題に対して、道徳哲学はどのように答えうるだろうか。道徳哲学上の様々な立場とそれぞれの長所・短所について、テキストの熟読を通じて学習する。

到達目標

テキストでは、道徳哲学の諸問題について、様々な立場や考え方が紹介・吟味される。それぞれの立場の特徴や長所・短所について、現代的な視点から理解を深め、自分自身の人生を生きるための指針へと昇華させることが目標である。

学習テーマ

1	テキスト第1章「道徳とは何か、何のためにあるのか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳の定義・意味と道徳にかかわる現実問題を理解する。】
2	テキスト第2章「文化相対主義の挑戦」を学ぶ。【学習のポイント：文化相対主義の意義と教訓を理解する。】
3	テキスト第3章「倫理における主観主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的主観主義の基本思想と倫理の否定について理解する。】
4	テキスト第4章「道徳は宗教に基づくか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳と宗教との関係並びに神の命令理論について理解する。】
5	テキスト第5章「倫理的利己主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的利己主義の擁護論と倫理的利己主義への批判について理解する。】
6	テキスト第6章「社会契約説」を学ぶ。【学習のポイント：社会契約説の長所と問題点を理解する。】
7	テキスト第7章「功利主義者のアプローチ」を学ぶ。【学習のポイント：倫理学の革命としての功利主義の意義を理解する。】
8	テキスト第8章「功利主義をめぐる論争」を学ぶ。【学習のポイント：古典的功利主義と新たな功利主義との意義と問題点を理解する。】
9	テキスト第9章「絶対的道徳規則はあるか」を学ぶ。【学習のポイント：定言命法の意義と規則同士の衝突の問題について理解する。】
10	テキスト第10章「カントと人格の尊重」を学ぶ。【学習のポイント：カントの中心思想と人格の尊重ということの本質を理解する。】
11	テキスト第11章「フェミニズムとケアの論理」第1節「男女間での倫理観の相違」を学ぶ。【学習のポイント：男女間の倫理観の相違の現状と本質、並びにその克服への道について理解する。】
12	テキスト第11章「フェミニズムとケアの倫理」第2節「道徳的判断にとっての意味」、第3節「倫理説にとっての意味」を学ぶ。【学習のポイント：ケアの倫理の本質と現代的意義を理解する。】
13	テキスト第12章「徳倫理」を学ぶ。【学習のポイント：様々な徳の様相と徳倫理の長所と短所を理解する。】
14	テキスト第13章「満足のゆく道徳説はどんなものか」を学ぶ。【学習のポイント：傲慢なき道徳と道徳的共同体の可能性について理解する。】
15	解説「レイチェルズの倫理説の統一」を学ぶ。【学習のポイント：レイチェルズの倫理説のねらいと長所並びに問題点を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「文化相対主義」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第2課題

「功利主義」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第3課題

「フェミニズムとケアの倫理」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第4課題

レイチェルズの主張する「満足のゆく道徳説」とはどのような考え方か、テキストに即して説明せよ。また、あなた自身はこの考え方をどう思うか、論述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章を参考にして論述すること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 8 章を参考にして論述すること。

第 3 課題の留意点

テキスト第11章を参考にして論述すること。

第 4 課題の留意点

テキスト第13章を参考にして論述すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
・評価基準は次の 3 点である。
①テキストを精読して、キーワード・キーセンテンスを押さえつつ課題について論理的に記述している。
②十分な内容的理解に基づき、一文一文において主語ー述語の関連に留意しつつ、かつ全体の整合性にも配慮してまとめている。
③文字の書き順やとめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませることを意識して丁寧に清書している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、テキストの中で言及される基本概念を 2 つ、それぞれ400～500字程度でテキストに即して説明することが求められる。出題範囲はテキストの全体で、出題されるのは下記の概念のいずれかである。どの概念が出題されても対応できるように、テキストを十分に学習しておくこと。

出題される概念：「文化相対主義」、「倫理的主観主義」、「倫理的利己主義」、「社会契約説」、「功利主義」、「フェミニズムとケアの倫理」、「徳倫理」、「満足のゆく道徳説」

科目修了試験の評価基準

テキストの記述内容と説明のために用いられる実例とを適切に把握して、テキストに即して論述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容を踏まえずに、自らの主観的な経験や考えを記入しても評価しない。指定された文字数の記述があることを前提とする。なお、テキストから離れて、哲学事典等の内容を丸暗記した記述では、合格しない。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅪ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10014	科目名[単位数／学習時間]	経済学［4単位／180時間］			
テキスト	● N・グレゴリー・マンキュー 『マンキュー入門経済学 第4版』 東洋経済新報社					
ISBN	9784807918119	本体価格(円)（2025年1月現在）	3,600	生協テキストNo.	25012	
科目担当	河村 朗					

科目の目的

経済学には2つのアプローチがある。ミクロ経済学とマクロ経済学である。ミクロ経済学では、個々の企業や家計が合理的な経済行動をしていく時に、市場経済がいかに重要な役割を果たしていくかを明らかにしていく。一方、マクロ経済学では、全体としての経済の動きを、GDP（国内総生産）、失業率、インフレ率、利子率などの経済変数を用いて明らかにしていく。

到達目標

・まず、経済学の基礎となる原理、経済学の論理的な考え方などについて学習した後、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの領域に関する理論、さらに国際経済学に関する理論を学ぶ。
・ミクロ経済学の理論として、まず、需要・供給曲線を用いて消費や生産の基本について学習した後、市場経済のしくみについて学ぶ。また、市場の効率性、市場の失敗などについても学習する。
・マクロ経済学の理論として、まず、GDPなど基本的な用語を学んだ上で、生計費、経済成長、金融システム、総需要曲線と総供給曲線、開放マクロ経済学などを学習する。
・国際経済学の理論として、比較優位の原理、開放マクロ経済学を学習する。

学習テーマ

1	経済学入門①【学習のポイント：経済学の基本的な原理について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	経済学入門②【学習のポイント：経済学的な考え方を理解する。＜テキスト第2章＞】
3	ミクロ経済学①【学習のポイント：ある財の需要量・供給量とその価格との間の関係について理解する。＜テキスト第4章＞】
4	ミクロ経済学②【学習のポイント：市場の均衡について理解する。＜テキスト第4章＞】
5	ミクロ経済学③【学習のポイント：政府による政策と弾力性について理解する。＜テキスト第5章＞】
6	ミクロ経済学④【学習のポイント：消費者余剰・生産者余剰と市場の効率性について理解する。＜テキスト第6章＞】
7	ミクロ経済学⑤【学習のポイント：市場の失敗と外部性について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	マクロ経済学①【学習のポイント：国内総生産（GDP）について理解する。＜テキスト第8章＞】
9	マクロ経済学②【学習のポイント：物価指数について理解する。＜テキスト第9章＞】
10	マクロ経済学③【学習のポイント：経済成長と生産性について理解する。＜テキスト第10章＞】
11	マクロ経済学④【学習のポイント：失業問題について理解する。＜テキスト第10章付論＞】
12	マクロ経済学⑤【学習のポイント：金融的なシステムと貨幣の機能について理解する。＜テキスト第11章＞】
13	マクロ経済学⑥【学習のポイント：総需要曲線と総供給曲線について理解する。＜テキスト第12章＞】
14	国際経済学①【学習のポイント：比較優位と交易・貿易について理解する。＜テキスト第3章＞】
15	国際経済学②【学習のポイント：開放マクロ経済学の基礎理論について理解する。＜テキスト第13章＞】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

市場における価格の役割と市場の失敗について説明しなさい。

第2課題

消費者余剰と生産者余剰について説明しなさい。

第3課題

貨幣の3つの機能について説明しなさい。

第4課題

総需要曲線とそのシフトについて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストの第1章、4章、6章、7章を読んで、ミクロ経済学の観点から市場における価格の役割を明らかにしたうえで、市場の失敗について説明することが重要である。

第2課題の留意点

テキストの第6章を参照して、消費者余剰、生産者余剰について需要曲線や供給曲線と関連付けて論じることが重要である。

第3課題の留意点

テキストの第11章を参照して、貨幣について説明したうえ、その機能について説明することが重要である。

第 4 課題の留意点

テキストの第12章を参照して、まず総需要曲線について説明した後、総需要曲線がシフトする理由について説明することが重要である。

レポートの評価基準

それぞれの課題に対してテキストで学習した内容をもとに、キーワードを用いて、いかに論理的な説明ができているかどうかに関して評価を行う。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト第 1 章～第 2 章の経済学の基礎的な内容について学習をしたうえで、ミクロ経済学の理論については、テキスト第 4 章～第 7 章を全て論理的に理解することが必要である。一方、マクロ経済学の理論については、テキスト第 8 章～第12章を全て論理的に理解することが必要である。また、国際経済学の理論については、テキスト第 3 章、第13章を全て論理的に理解することが必要である。

科目修了試験は、テキスト全般からの出題となる。そのため、レポート課題に関連する一部の章や箇所だけでなく、テキストの全章（第 1 章～第13章）を読んで論理的に理解したうえで受験すること。テキストの内容をベースにして、論理的に説明できているかどうかは重要なポイントである。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容に沿って、適切なキーワードを使用し論理的に記述されているかどうかについて主に評価する。本科目はテキストの全てのページが科目修了試験の範囲である。その内容を理解したうえで、受験すること。テキストの内容をふまえないで、自説を記載しても評価しないので注意すること。

参考文献

・ポール・クルーグマン　ロビン・ウェルス　『クルーグマン　ミクロ経済学　第 2 版』　東洋経済新報社
・中谷巌　『入門マクロ経済学　第 6 版』　日本評論社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10015	科目名[単位数／学習時間]	法学［4単位／180時間］		
テキスト	●大谷實 『エッセンシャル法学 第7版』 成文堂				
ISBN	9784792306403	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,900	生協テキストNo.	25013
科目担当	小野 晃正				

科目の目的

法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための規則である。このような法の特色と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている争いごとに、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかに解決しているか、について理解することを主たる目的とする。

到達目標

レポート課題を通じて、様々な法領域に関する知識の修得に加えて、各法分野の根本にある共通の基本的な考え方や、各法分野固有の基本的原理の理解につとめることを到達目標とする。

学習テーマ

1	法の意義、法とは何か（法学概論）について【学習のポイント：テキストChapter 1 を参照し、他のルールと法の違いを理解したうえで、法の意義を学修する。】
2	立憲主義的憲法（憲法概論）について【学習のポイント：テキストChapter 4 を参照し、憲法における立憲主義を理解する。】
3	財産と法の関係（民法ー財産法）について【学習のポイント：テキストChapter11を参照し、債権と物権の違いを理解する。】
4	家族と法の関係（民法ー家族法）について【学習のポイント：テキストChapter13を参照し、婚約、婚姻および離婚や相続の制度とその法的効果を理解する。】
5	経済取引と法について【学習のポイント：テキストChapter12を参照し、会社法の仕組みや消費者保護を理解する。】
6	犯罪と法①（刑事法ー刑法総論）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、全ての犯罪に共通する「犯罪の成立要件」を理解する。】
7	犯罪と法②（刑事法ー刑法各論）について【学習のポイント：テキストChapter14を参照し、殺人の罪や傷害の罪など個別具体的な犯罪類型について理解する。】
8	刑事手続と法（刑事訴訟法）について【学習のポイント：テキストChapter 8 を参照し、憲法上に定められている刑事手続きの概要を理解する。】
9	労働と法（労働法）について【学習のポイント：テキストChapter15を参照し、労働者保護の概要について理解する。】
10	事故と法（民法ー不法行為法）について【学習のポイント：テキストChapter16を参照し、不法行為法の仕組みについて理解する。】
11	社会保障と社会福祉（社会保障法）について【学習のポイント：テキストChapter17を参照し、社会保障法制の概要について理解する。】
12	医療と法（医事法）について【学習のポイント：テキストChapter18を参照し、医療訴訟、精神医学と法、安楽死と法について理解する。】
13	情報化社会と法（情報法）について【学習のポイント：テキストChapter19を参照し、情報に関する法制度について理解する。】
14	国際社会と法（国際法）について【学習のポイント：テキストChapter20を参照し、国際社会と法制度について理解する。】
15	総まとめ【学習のポイント：テキスト全体を復習し、法学の全容を理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

民法における「信義誠実の原則」と「権利濫用の禁止」について、それぞれ説明しなさい。

第2課題

刑法における、判例・通説上の「正当防衛の成立要件」について説明しなさい。

第3課題

「不当労働行為」および「不当労働行為の救済方法」の内容をそれぞれ説明しなさい。

第4課題

犯罪の成立要件である構成要件該当性、違法性および責任の関係をわかりやすく説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第2課題の留意点

テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 3 課題の留意点

テキストや参考文献、あるいはネット記事をも参照したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 4 課題の留意点

テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

レポートの評価基準

以下の 4 点を評価基準とする。

・テキストを精読したうえで、参考文献などの情報を整理して課題について正面から論述しているか。
・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
・ネット記事の丸写しは 0 点とする。なお、参考文献を必ず明示すること。参考文献を明示していないものは評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の設題の多くは、レポート課題の内容をふまえて出題する予定である。

科目修了試験の評価基準

以下 2 点を成績評価の基準とする。

・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。　20%
・テキストの内容を理解しているか。　80%

参考文献

・西村健一郎　西井正弘　初宿正典　『判例法学』　有斐閣
　※各法学の基本原理を基本判例と結びつけて、わかりやすく具体的に解説している。
・池田真朗　『プレステップ法学』　弘文堂
　※ビジュアル的にわかりやすい。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10016	科目名［単位数／学習時間］	社会学［4単位／180時間］
テキスト	●筒井淳也 『数字のセンスを磨く　データの読み方・活かし方』 光文社		
ISBN	9784334046484	本体価格（円）（2025年1月現在）	900
生協テキストNo.	25014		
科目担当	湊　邦生		

科目の目的

社会学は、われわれが暮らす社会の成り立ちや、社会が抱える問題の背景を理解し、社会の未来について考えるための学術的な営みである。社会学に関わる広大な領域のうち「社会統計学」と「計量社会学」に焦点を当て、数量データに基づく社会への探究について考えていく。そのために、本科目では指定したテキストによって、社会の現状や成り立ちについて、統計・調査による数量データを基に理解するための心構えや注意点、限界等を学んでいく。テキスト学習を通じて、世にあふれるデータや統計、数値やそれらの分析結果への向き合い方や読み解き方、それらの限界の見極め方の基礎を受講生それぞれが身につけることが、本科目の目的である。受講生にはそのような基礎を身につけることで、社会のあり方やその背景を理解し、あるべき変化や未来像、それらを実現する方策について考えるという社会学の営みの一端に触れることを期待している。

到達目標

到達目標として下記（1）から（4）を定める。これらの目標は、それぞれの番号のレポート課題と関わりが深くなっている。かつ、いずれの目標も科目修了試験に向けて重要なポイントとなる。レポート課題作成や復習の際には留意しておくこと。

（1）ある社会・集団・個人におけるさまざまな事物・事象を「数える」＝数量化して測定する際の心構えや注意点を学び、説明できる。
（2）数量化して測定した結果を他の社会・集団・個人と比較する際の心構えや注意点を学び、説明できる。
（3）比較の結果から、社会・集団・個人間におけるさまざまな差異の原因となるものを解明する際の心構えや注意点を学び、説明できる。
（4）比較から得られた社会・集団・個人間の差異や、差異の原因の解明結果について、それらが偶然生じたものでしかないのか、そうではないと言い得るのかを判断する際の心構えや注意点を学び、説明できる。

学習テーマ

1	数量化のセンス①【学習のポイント：数える＝数量化して測定するとはどういうことかを理解する＜テキスト第1章＞】
2	数量化のセンス②【学習のポイント：数量化を適切に行う上での課題を理解する＜テキスト第1章＞】
3	数量化のセンス③【学習のポイント：社会調査の現場における数量化の実際について学ぶ＜テキスト第1章＞】
4	数量化のセンス④【学習のポイント：「数える」ためのセンスを持つことの必要性を理解する＜テキスト第1章＞】
5	比較のセンス①【学習のポイント：適切な比較を行うことの難しさを理解する＜テキスト第2章＞】
6	比較のセンス②【学習のポイント：数量的な比較研究を行う上での「ジレンマ」を理解する＜テキスト第2章＞】
7	比較のセンス③【学習のポイント：数量的な比較研究を行う上での「パラドックス」を理解する＜テキスト第2章＞】
8	比較のセンス④【学習のポイント：比較にまつわる困難を踏まえ、適切な比較を行うための考え方を学ぶ＜テキスト第2章＞】
9	因果のセンス①【学習のポイント：因果推論を行うための条件を理解する＜テキスト第3章＞】
10	因果のセンス②【学習のポイント：因果推論の条件を満たす際の課題を理解する＜テキスト第3章＞】
11	因果のセンス③【学習のポイント：因果推論が意味を持つための前提を理解する＜テキスト第3章＞】
12	確率のセンス①【学習のポイント：日常生活につきまとう「偶然」とその分類について学ぶ＜テキスト第4章＞】
13	確率のセンス②【学習のポイント：統計学的検定の考え方について、テキストの議論を理解する＜テキスト第4章＞】
14	確率のセンス③【学習のポイント：統計的研究で無作為性を確保することの必要について、テキストの説明を理解する＜テキスト第4章＞】
15	確率のセンス④【学習のポイント：無作為性が実際にどのように用いられているかについて、テキストの説明を理解する＜テキスト第4章＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章（pp.17-66）を要約しなさい。

第2課題

テキスト第2章（pp.67-101）を要約しなさい。

第3課題

テキスト第3章（pp.103-152）を要約しなさい。

第4課題

テキスト第4章（pp.153-210）を要約しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

第 1 課題で指定した第 1 章は、数値に基づいて社会を理解するための前提となる「数量化」、さらには数量化されたものを計測する「数える」ことがキーワードとなる。課題作成の際には、「数量化」「数える」という作業を著者がどう説明しているのか、「数量化」「数える」上でどのような課題があるのか、それらの課題に「数量化」の現場がどう対処しているのか、そして「数える」ための（良識、分別）がなぜ必要なのかを意識して読むと、適切なレポートが作成しやすくなるだろう。特に、今後の研究や仕事等で調査票（アンケート）を作成する可能性がある人は、作成する前に本章後半（とりわけp.62「『例外』を考える想像力」）を必ず読むべきである。

なお、課題作成の際は「レポートの評価基準」を必ず確認し、題意に即した回答を心掛けること。回答とは無関係のイントロダクションや読後の感想、自身の意見の開陳は減点の対象となるので注意すること。

第 2 課題の留意点

第 2 課題の範囲であるテキスト第 2 章は「比較のセンス」と題されている。われわれは意識・無意識にかかわらず、さまざまな「比較」を行いながら日常生活を送っている。しかし、意味のある比較を行うためには、実は解決困難な問題に対処しなければならず、そのためには複雑な作業が必要となる。テキストでは、そのような問題を 2 つ取り上げて解説し、その上で、それらの問題に対処するための心構えを示している。それらを的確に読み解けるかどうかが、第 2 課題のカギを握っている。

この章の記述は実例が多く、他と比較しても平易なものと言えよう。ただそのために早く読み進めてしまい、上記の問題について見落としてしまうかも知れない。かつ、課題に取り組む際にも実例に気をとられてしまい、それらが並んでいるだけで、要点がどこなのかが分からないレポートを作成してしまう恐れもある。さまざまな実例が何を示そうとしているのかを考えながら読んでいこう。

第 3 課題の留意点

第 3 課題の対象である第 3 章では「因果」がテーマとなる。受講生の中には「統計的因果推論」という言葉を見聞きした方もいるかも知れない。それだけ「因果」は近年の統計学において脚光を浴びている。ただし、本科目では具体的な分析手法の解説ではなく、統計的に因果関係をとらえるための心構え（テキストの表現では「分別＝センス」）について考えることを目的とする。

本章は冒頭から耳慣れない用語や概念が続出することであろう。ただ、それらの理解が不十分なまま課題に取り組んでも、でき上がるのは要約どころか、読み手にも書き手にも意味不明な文言の羅列だけである。そのため、知らない言葉については辞典を調べ、意味を押さえておくことを推奨する。いくつか登場するグラフの意味内容を考えておくことも、テキストの議論を整理する際に助けとなろう。その上で、統計的に因果をとらえるために必要な条件や存在する困難について、理解しておこう。

第 4 課題の留意点

第 4 課題では第 4 章を取り上げる。本章で登場する確率の考え方とその応用は、社会統計学の中でも難解なものであり、一読しただけで理解できなくてもおかしくない。その場合も決して諦めず、時間をかけてテキストを読み返すことを勧める。その際、テキストの流れに沿って、まずは「偶然」と「偏り」についての本章の説明を理解しておこう。その上で、どのような「偶然」を利用してどのような「偏り」に対処するのか、そのロジックを読み解き、具体的な方法を押さえていこう。これらを意識すると、本章は比較的読みやすくなるであろう。

なお、課題には指定されていないが、第 5 章と第 6 章も「数字のセンスを磨く」上では欠かせない内容になる。とりわけ、第 6 章は第 1 章の内容を発展させたものであり、ゆえに第 1 章で行われた議論が理解できているのかを確認する上でも重要なので、課題提出後に一読しておくことを推奨する。

レポートの評価基準

評価は以下の 4 つの基準によって行う。

①課題に対応した内容になっているか。特に、課題とは無関係の記述が入り込んでいないか。
②テキストの内容に基づいた記述になっているか。特に、テキストから導き出せない議論、テキストと矛盾する内容がないか。
③論理構成は適切か。特に、論旨が一貫しているか、矛盾や主題・項（「～は」「～が」）と述語（「～である」「～する」）のズレ、意味の通らない記述がないか。
④原稿用紙の使い方に則して作成しているか。特に、誤字脱字・カッコ書きの扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章、文字数の極端な過不足（±10%超を目安とする）はないか。

なお、4 つの課題は全てテキストの理解度を問うものである。テキストとは関係のない自説の展開や感想の吐露等は、無条件で減点対象となる。著しい場合は不合格になり、改められない限り合格することはない。改善する姿勢が見られず不合格を繰り返した受講生は実際に存在する。くれぐれも注意すること。

また、文体はテキストに関わらず「だ・である」調でまとめること。レポート作成の際には事前に下書きを作り、下書き完成後に一読してから修正し、仕上げることを推奨する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストのうち 4 つのレポート課題で指定した章から、ランダムに 1 問出題する。いずれの問題もレポート課題と直接関連するものであるため、レポート作成のための学習と、レポート返却後の復習を計画的に行っていくことが重要である。

レポートを返却する際には、所見欄に試験問題に関わるポイントを示すので、必ず確認すること。レポート課題終了後は、指定箇所、とりわけ各レポート課題について主に述べられている箇所を中心に、テキストを必ず読み直すこと。その際、テキストでの論理の展開を理解することと、レポート課題に関連する用語・概念の意味を必ず調べ、説明できるようにすることが重要である。

なお、これまでの試験では、的外れな記述や支離滅裂な文言の羅列、さらには棄権（白紙）等の答案が提出され、不合格になる例が相次いでいる。いずれもテキストを十分に読まず、内容を理解する努力を欠いたことが原因と考えられる。そうならないためにも、レポート提出後も決して気を抜かず、復習に努めること。

科目修了試験の評価基準

評価はレポートの評価基準と同様、以下 4 点に基づいて行う。

①設題に対応した内容になっているか（設題とは無関係の記述が入り込んでいないか）。

②テキストの内容に基づいた記述になっているか。テキストから導き出せない議論、矛盾する内容がないか。

③論理構成は適切か。論旨が一貫しているか、意味の通らない内容になっていないか。

④解答用紙の使い方は適切か。誤字脱字・カッコ書き等の扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章はないか。

以上 4 つの基準のうち、評価の中心となるのが①、②、③である。④については、特に目立つ場合に減点対象とする。ただし、長文の解答でも評価基準に照らして不十分と判断すれば不合格となる一方、短くとも十分な解答であれば、合格点を得ることが可能である。

参考文献

・筒井淳也　前田泰樹　『社会学入門』　有斐閣
・筒井淳也　『社会を知るためには』　筑摩書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10017	科目名[単位数／学習時間]	地理学［4単位／180時間］			
テキスト	●今井良一　『環境教育学と地理学の接点　増補改訂版』　ブイツーソリューション					
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,250	生協テキストNo.	25015	生協へお申し込みください
科目担当	今井　良一					

科目の目的

環境問題は、私たちが早急に解決しなければならない問題である。地理学は自然と人文両方にまたがるほとんど唯一の学問分野であり、環境問題を理解するのに最も適している。したがって、地理学こそ環境問題の解決にむけて積極的に貢献しなければならない。本科目では、地理学の基礎を踏まえながら、地球温暖化や人口問題、輸入食品の氾濫、水質汚染、放射能汚染などの諸問題が、私たちにいかなる影響をおよぼしているかを知るとともに、「環境問題の本質」を理解して、環境問題を解決する行動力を身につけることを目的とする。

到達目標

必ず次の点を念頭に考察すること。

①環境問題に限らず、多くの問題が社会的弱者や生理的弱者、特に子どもに深刻な被害をもたらすということに常に思いをはせる。②できるだけ多角的な視野からものごとをとらえる能力を養う（たとえば、地球温暖化の原因やその解決の方法を車のみに求めるという狭い視野ではなく、水の使い方や農業のあり方、私たちの食生活のあり方など、様々な視点から考えてみてほしい）。私たちの大量生産・大量消費・大量廃棄社会のあり方がいかに環境を悪化させているかをしっかりと認識する。③環境問題の理解と解決に対して、従来の地理学がいかに役立つかを知るとともに、その限界を知り、さらに今後の地理学のあり方について考える。

学習テーマ

1	ケッペンの気候区分について【世界にはどのような気候があるかを理解する。】
2	地球温暖化について【地球温暖化による被害としてどのようなものがあるか、また地球温暖化の原因となる様々な温室効果ガスの性質について理解する。】
3	地球温暖化対策について【家庭からの温室効果ガスの主要な発生源である車について理解するとともに、地球温暖化対策の難しさについて理解する。】
4	世界における穀物生産について【世界で、なぜ多数の飢餓人口が存在するのかを理解する。】
5	日本の食料事情について【なぜ日本では食料自給率が低いのかを理解する。】
6	日本による食料輸入の実態について【日本が食料を大量に輸入していることが、どのような被害をもたらしているかについて理解する。】
7	日本農業の実態について【農業の縮小によって何が失われるのかを理解する（農業の多面的機能について理解する）。】
8	国土保全の方法について【農（生産）と食（消費）の視点から、国土保全の方法について理解する。】
9	砂漠化について【砂漠化進行の深刻さとその理由について理解する。】
10	日本における水質の悪化について【水質汚染の深刻さとその理由について理解する。】
11	水質改善対策について【水質を改善するための生活のあり方について理解する。】
12	放射線について【放射線の種類や性質について理解する。】
13	放射線による人体への影響【人間はどれだけ放射線を浴びても大丈夫なのかについて理解する。】
14	原子力発電所誘致による影響について【日本における原子力発電所の立地条件とともに、原発を誘致することで、その地域の農漁業にどのような影響をおよぼすのかを理解する。】
15	内部被曝について【内部被曝の脅威とともに、放射線が子どもになぜ深刻な被害をもたらすのかを理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

現在の世界人口と食料需給のあり方について述べるとともに、将来の世界人口と食料需給のあり方について説明せよ。

第2課題

地球温暖化によってもたらされると考えられている様々な被害について述べるとともに、その対策についても説明せよ。

第3課題

日本における原子力発電所の立地条件について述べるとともに、放射能による人体への影響（特に子どもへの深刻な影響）について説明せよ。

第4課題

日本が食料を海外から輸入しすぎていることで、世界で引き起こされている諸問題について述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

特に、次の点に留意して記述すること（テキストpp.47-49、p.52）。
①現在、食料を平等に分配すれば足りるはずなのに、膨大な飢餓人口が存在するのはなぜか。
②将来、世界的には食料が不足すると予測されているが、一方でそうはならないとする説もある。どちらも記述すること。

第 2 課題の留意点

特に、次の点に留意して記述すること（テキストpp.18-21、pp.36-38、p.57、pp.70-71）。
①私たちの生活に密接な車について触れること。
②農業のあり方や私たちの食生活のあり方について触れること。
③なぜ地球温暖化をとめることが困難なのかについて触れること。

第 3 課題の留意点

特に、次の点に留意して記述すること（テキストpp.113-114、pp.121-127）。
①内部被曝の恐ろしさについて触れること。
②放射能はなぜ大人よりも子ども・乳幼児・胎児に影響が大きいのかについて触れること。
③原発を稼働させるべきか否かについて、自分の意見を述べること。

第 4 課題の留意点

特に、次の点に留意して記述すること（テキストpp.62-65、pp.76-82）。
食料輸出国の土地を利用しているだけではなく、水、土地の栄養分を「奪い」、そこに暮らす人々を貧困に陥らせていることに触れること。

レポートの評価基準

主に、次の点を基準に評価する。
・課題に対して、できるだけ具体的に、そして論理的に記述していること。
・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。
・「各課題の留意点」を踏まえて記述していること。
・引用文献を必ず明示すること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」および「到達目標」をしっかり認識した上で、テキストをよく読む（特に、テキストのpp.18-28、pp.30-38、pp.47-82、pp.83-86、pp.89-100、pp.104-127を熟読のこと）とともに、特にレポート課題の内容について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているか否かを中心に評価する。テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。もちろん、それらの事項を踏まえた上であれば、自説等を展開しても差し支えない。（むしろ望ましい。）
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることと、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・試験は論述問題 2 題（60点＋40点）の配点で採点する。前述のとおり、テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案ほど高得点となる。

参考文献

・今井清一　今井良一　『環境教育学　気候変動～食の安全・安心』　鳥影社
・江守正多　『地球温暖化はどれくらい「怖い」か？　温暖化リスクの全体像を探る』　技術評論社
・杉浦俊彦　『温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？』　技術評論社
・鈴木宣弘　木下順子　『食料を読む』　日本経済新聞出版社
・池本廣希　『地産地消の経済学　生命系の世界からみた環境と経済』　新泉社
・生源寺眞一　『日本農業の真実』　筑摩書房
・中島紀一　『食べものと農業はおカネだけでは測れない』　コモンズ
・田代洋一　『反TPPの農業再建論』　筑波書房
・斎藤勝裕　『知っておきたい放射能の基礎知識』　ソフトバンククリエイティブ
・小出裕章　黒部信一　『原発・放射能　子どもが危ない』　文藝春秋
・河野直践　『食・農・環境の経済学』　七つ森書館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10018	科目名[単位数／学習時間]	文化人類学［4単位／180時間］		
テキスト	●綾部恒雄　桑山敬己　『よくわかる文化人類学　第3版』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623097234	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25016
科目担当	鈴木　亜望				

科目の目的

文化人類学は異なる文化の人々の生活を知ることで、諸社会の共通性および多様性を探求する学問である。 本科目では、文化人類学で扱われてきた文化、家族、親族、儀礼、宗教などのテーマを取り扱い、日本の内外の様々な社会文化的な状況への理解を深めていく。それと同時に、自らの「当たり前」を見つめ直し、文化人類学的なものの見方を獲得することを目指す。

到達目標

・文化人類学の基本的な概念について説明することができる。
・異文化の事例について、事象の背景と文脈を踏まえて論理的な考察ができる。
・自らが持つ周囲の世界に対する「当たり前」に疑問を投げかけ、これまでとは異なる視点で他者に対する想像力を働かせることができる。

学習テーマ

1	「文化」とは何か？【学習のポイント：文化人類学で対象となる「文化」とは何かを、日常使われる「文化」との違いに留意しながら理解する。＜テキスト：「Ⅰ 文化人類学とは」「Ⅱ 言語と文化／社会」＞】
2	文化人類学の方法論【学習のポイント：文化人類学のフィールドワークの方法を理解する。＜テキスト：「ⅩⅨ フィールドワーク」＞】
3	生業【学習のポイント：諸社会の人々が生きるためにどのような仕事をしているのかを理解する。＜テキスト：「Ⅲ 生業」＞】
4	経済と文化【学習のポイント：お金だけでなく贈り物が社会にとって重要であることを理解する。＜テキスト：「Ⅳ 経済と文化」＞】
5	生殖と家族【学習のポイント：生殖と親子の概念の多様性を知る。＜テキスト：「Ⅴ 性と婚姻」＞】
6	家族と親族【学習のポイント：親族のたどり方を理解する。＜テキスト：「Ⅵ 家族と親族」＞】
7	ジェンダーとは何か【学習のポイント：性が社会的・文化的に構築されることを理解する。＜テキスト：「Ⅶ ジェンダーとセクシュアリティ」＞】
8	人種とは何か【学習のポイント：人種主義の問題について理解し、我々の周りにある人種差別について理解する。＜テキスト：「Ⅷ 人種とは何か」＞】
9	民族とエスニシティ【学習のポイント：民族やエスニシティという言葉の意味を理解する。＜テキスト：「Ⅸ 民族とエスニシティ」】
10	法と秩序【学習のポイント：法やルールが社会や文化とどのように関わり、社会の秩序を保っているかを学ぶ。＜テキスト：「Ⅹ 法律・秩序・社会統制」＞】
11	政治と権力【学習のポイント：さまざまな社会における政治の仕組みや権力のあり方を学ぶことで、現代の紛争や人権問題を考える。＜テキスト：「Ⅺ 政治と権力」＞】
12	人とモノの移動【学習のポイント：グローバルな人とモノの移動の現象を理解する。＜テキスト：「ⅩⅤ 人とモノの移動」＞】
13	観光と文化【学習のポイント：観光によって文化がいかにつくりだされるのかを理解する。＜テキスト：「ⅩⅥ 観光と文化」＞】
14	先住民【学習のポイント：先住民とは何かを理解し、日本の先住民について説明できる。＜テキスト：「ⅩⅧ 先住民」＞】
15	文化の表象【学習のポイント：民族誌とは何かを理解し、書くことと書かれることの問題について理解する。＜テキスト：「ⅩⅧ 民族誌と文化の表象／展示」＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

文化人類学における「文化」とは何か説明せよ。また、生業や経済の文化的な多様性について説明せよ。

第2課題

婚姻や親子の関係がどのように多様であるか説明せよ。

第3課題

「人種」と「民族」の用語の意味をそれぞれ説明した上で、「人種」や「民族」をめぐる現代社会の問題点を説明せよ。

第4課題

文化観光および博物館での表象や展示をめぐる問題点について説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

「学習テーマ」 1 ～ 4 を踏まえて課題を提出すること。

文化人類学は、異文化を理解するための学問である。まず、文化人類学であつかう「文化」がどのようなものであり、「文化」をどのように調査研究するのかをまとめる。その上で、人間社会の基盤の一つである生業、贈り物や貨幣をめぐる経済活動についてどのようなものがあるのかテキストをよく読み込んで端的にまとめる。

第 2 課題の留意点

「学習テーマ」 5 ～ 7 を踏まえて課題を提出すること。

一見奇妙に見える異文化の親子、夫婦関係であってもその社会においては明確なルールが存在している。それを自分の常識で判断するのではなく、その社会の社会的文脈を踏まえて理解することを目指す。自分の考える親子、夫婦関係との相違点や共通点も踏まえてその違いをまとめることが望ましい。

第 3 課題の留意点

「学習テーマ」 8 ～11を踏まえて課題を提出すること。

「人種」と「民族」を区別して説明し、その後に問題点を述べる。現代社会における問題点は具体的に例を出して詳しく説明する。例えば人種差別や偏見、民族をめぐる紛争や分断、グローバル化による文化の衝突や均質化、移民・難民問題やアイデンティティの多様性に関連する課題などが考えられる。偏見や主観的な判断を避け、信頼できる情報源やテキストで学んだ内容を根拠として使うこと。また、人種や民族の多様性を理解し、受け入れることの意義についてまとめるようにする。

第 4 課題の留意点

「学習テーマ」12～15を踏まえて課題を提出すること。

表象や展示が持つ政治的、経済的、社会的な影響について考える。文化観光や博物館での展示が、誰の視点で作られ、何を意図しているのかを批判的に分析する。特に、地元の住民や少数民族、観光客、博物館の運営者など、異なる立場の視点を考慮し、特定の視点だけに偏らず、さまざまな角度から検討することを心がける。それによって、「文化は誰のものか」や「文化の表象をめぐる権力性」について視野を広げて検討する。

レポートの評価基準

・課題の意図を理解し、キーワードや事項を正確にとらえて説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストをただ丸写しするのではなく、自らの言葉で記入されていること。
・他者に伝わる文章になっていること（提出前に必ず全体を読み直すこと）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

重要なテーマや用語について、テキストで学習した内容を理解できているかと、それらを具体的な例を用いて説明できているかを科目修了試験では評価する。テキストの内容をしっかりと理解し、さらにはテキストで出されている異文化の具体的な事例をその背景も含めて理解をしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、キーワードや事項を正確にとらえて、論理的に記述できているかどうかを評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提とする。これよりも文章が多くなる場合には特に制限はない。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを根拠も含めて説明ができていることで満点に近づく。

参考文献

・綾部恒雄　『文化人類学のフロンティア』 ミネルヴァ書房
・太田好信　浜本満　『メイキング文化人類学』 世界思想社
・綾部恒雄　『文化人類学20の理論』 弘文堂
・梅屋潔　シンジルト　『新版　文化人類学のレッスン　フィールドからの出発』 学陽書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10019	科目名[単位数／学習時間]	数学［4単位／180時間］			
テキスト	●岡本和夫　『新版　基礎数学　改訂版』　実教出版					
ISBN	9784407348873	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25017	
科目担当	馬場　裕					

科目の目的

本科目は、大学文系の学生が最低でも身につけておくべき教養としての基礎数学を学習する。高校数学の学習が不十分な学生やずっと以前に数学を学習して再学習をしたい学生にも十分理解できる内容である。具体的には高校1年程度の数学で、「数と式、2次関数とグラフ」「方程式・不等式」「高次方程式・式と証明」「関数とグラフ」「指数関数・対数関数」「三角関数」「図形と方程式」「集合・場合の数・命題」である。

到達目標

1章　計算の規則を理解し、式の特徴をつかみ公式を利用して計算することを学ぶ。
2章　2次関数のグラフ、方程式や不等式について学ぶ。
3章　剰余の定理、因数定理について学ぶ。
4章　べき関数、分数関数、無理関数を理解し、簡単なグラフが描けるようにすること。
5章　指数関数、対数関数の基礎を学び簡単なグラフが描けるようにすること。
6章　三角関数の基礎を学習し、加法定理についても学ぶ。
7章　円や楕円の図形を方程式で表すことを学ぶ。
8章　場合の数、順列・組合せ・命題について理解する。

学習テーマ

1	整式の加法・減法・因数分解の手順を習得する。＜テキスト pp.8-19 ＞
2	整式の除法、分数式の計算、平方根の計算方法を習得する。＜テキスト pp.20-31 ＞
3	2次関数のグラフを描いて最大値、最小値を求めることを学習する。＜テキスト pp.34-46 ＞
4	2次方程式、2次不等式の解き方を学習する。＜テキスト pp.48-72 ＞
5	剰余の定理と因数定理について理解すること。＜テキスト pp.76-89 ＞
6	べき関数・分数関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.92-96 ＞
7	無理関数・逆関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.97-103 ＞
8	指数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.106-115 ＞
9	対数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.117-127 ＞
10	sin, cos, tan の三角関数の基本を理解すること。＜テキスト pp.132-147 ＞
11	三角関数のグラフが描けるようになること、また加法定理について理解する。＜テキスト pp.150-171 ＞
12	座標平面上の点と直線について学習する。＜テキスト pp.178-184 ＞
13	円、放物線、楕円の方程式の基礎を学習する。＜テキスト pp.190-205 ＞
14	集合と要素について学習する。ド・モルガンの法則を覚えること。＜テキスト pp.216-222 ＞
15	順列・組合せの基礎を学習する。命題の逆・裏・対偶についても学習する。＜テキスト pp.223-245 ＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

自筆でレポートを作成する場合も、A4用紙の白紙を用いること。なお、計算、表、図（グラフなど）については鉛筆書きを認める。ワープロソフト使用、自筆のいずれの場合も答えのみの解答は認めない。解答のプロセス（途中の計算過程など）を詳しく述べること。（電卓は用いないこと、Excel などの表計算ソフトを用いることは認めない。）ページ番号をつけること。

第1課題（数と式）

（1）次の式を展開せよ。

① $(3x+y)^2$　② $(2x+y)(2x-y)$　③ $(2x+1)^3$　④ $(x-2y)^3$

（2）次の式を因数分解せよ。

① x^2-4x+4　② $9x^2-16$　③ x^3-27　④ $x^2-4x-21$

（3）次の値を求めよ。

① $|5-7|$　② $\sqrt{(1-\sqrt{5})^2}$

（4）次の計算をせよ。

① $(3+\sqrt{2})(5-2\sqrt{2})$　② $(\sqrt{3}+1)^3$

(5) 分母を有理化して式を計算せよ。

① $\dfrac{\sqrt{3}}{1-\sqrt{3}}$　　② $\dfrac{1}{1+\sqrt{2}-\sqrt{3}}$

(6) $X=\dfrac{1+\sqrt{3}}{1+\sqrt{2}}$　$Y=\dfrac{1-\sqrt{3}}{1-\sqrt{2}}$ のとき、次の値を求めよ。

① $X+Y$　　② XY

第 2 課題（2 次関数とグラフ、方程式と不等式）

(1) 次の二次関数の頂点の座標を求め、そのグラフを描け。

$y=-x^2+1$

(2) 次の二次関数のグラフを描いて最大値と最小値を求めよ。

$y=x^2-2x-3$　　$(-1\leqq x\leqq 4)$

(3) 頂点が点 $(1,-1)$ で点 $(0,-4)$ を通る二次関数を求めよ。

(4) グラフが 3 点 $(-3,4)(1,0)(2,-6)$ を通るとき、その二次関数を求めよ。

(5) 解の公式を用いて次の 2 次方程式を解け。

① $x^2-7x+9=0$　　② $2x^2-3x-1=0$

(6) 二次方程式 $x^2-8x+7=0$ の二つの解を a, β とするとき、次の式の値を求めよ。

① $\dfrac{1}{a}+\dfrac{1}{\beta}$　　② $(a-\beta)^2$

第 3 課題（指数関数、対数関数、三角関数）

(1) 次の計算をせよ。

① 3^{-3}　　② 5^0

(2) 次の計算をせよ。

① $x^4\times x^{-2}\div x$　　② $(x^3y^2)^3\div x^2$

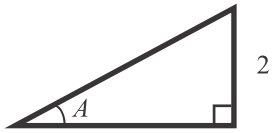
(3) 次の値を求めよ。

① $\sqrt[6]{64}$　　② $\sqrt[3]{3}\,\sqrt[3]{9}$　　③ $\log_2 16$

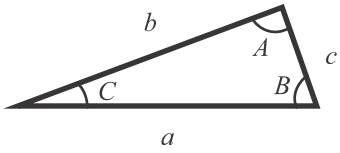
(4) 弧度法であらわされた次の角を度数法で表せ。

① $\dfrac{1}{3}\pi$　　② 2π

(5) 次の直角三角形において $\sin A, \cos A, \tan A$ の値を求めよ。



(6) 三角形ABCにおいて$a=5, b=2\sqrt{3}, \angle C=30°$のとき、c の長さを求めよ。



(7) 加法定理を用いて次の値を求めよ。

① $\cos 15°$　　② $\sin 75°$

第 4 課題（図形と方程式、集合、場合の数、命題）

（1）次の二点間の距離を求めよ。

$(2, 3), (4, 6)$

（2）次の直線の方程式を求めよ。

点 $(-1, 4)$ を通り、傾きが -3 の直線

（3）次の円の方程式を求めよ。

中心が点 $(2, 5)$、半径が 5 の円

（4）全体集合 $U = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10\}$ の部分集合 A, B について

$A \cup \overline{B} = \{1, 2, 4, 5, 8, 10\}$

$\overline{A} \cap \overline{B} = \{2, 5, 10\}$

のとき次の集合を求めよ。

① $\overline{A \cup B}$　　② A

（5）順列の問題

①10人のマラソン選手から第一、第二、第三の 3 人の代表を選ぶとき、選び方の総数を求めよ。

② 1 から 5 までの 5 個の数字のすべての順列の総数を求めよ。

（6）組合せの問題

① 8 人の水泳選手から 2 人の代表を選ぶ組合せの数はいくらか。

② ${}_{10}\mathrm{C}_3$ の値を求めよ。

（7）次の命題の逆、裏、対偶を示せ。

$x > 4 \Longrightarrow y \leqq 0$

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

（1）テキストpp.8-13参照　式の展開
（2）テキストpp.14-19参照　因数分解
（3）テキストpp.28-30参照　絶対値と平方根
（4）テキストpp.29-30参照　平方根の計算
（5）テキストp.31参照　分母の有理化
（6）テキストp.31参照　例題 1

第 2 課題の留意点

（1）テキストpp.37-40参照　2 次関数のグラフ作成
（2）テキストpp.45-46参照　2 次関数の最大・最小
（3）テキストpp.43-44参照
（4）テキストpp.43-44参照
（5）テキストpp.48-49参照　解の公式
（6）テキストpp.56-57参照　2 次方程式の解と係数の関係

第 3 課題の留意点

（1）テキストpp.106-107参照
（2）テキストpp.106-107参照
（3）テキストpp.108-110参照
（4）テキストpp.150-151参照　弧度法と度数法
（5）テキストpp.132-133参照　三角関数
（6）テキストpp.144-145参照　余弦定理
（7）テキストpp.168-170参照　加法定理

第 4 課題の留意点

（1）テキストpp.182-183参照　2 点間の距離
（2）テキストpp.184-185参照
（3）テキストpp.190-191参照　円の方程式
（4）テキストpp.216-222参照　集合
（5）テキストpp.225-227参照　順列
（6）テキストpp.230-232参照　組合せ
（7）テキストpp.244-245参照　命題

レポートの評価基準

答えだけでなく途中のプロセスも書いておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・答えだけでなく解法のプロセスも書くこと。
・レポート課題を復習しておくこと。

科目修了試験の評価基準

各設題にきちんと解答できていること。答えだけでなくプロセスも含めて解答できているかがポイントとなる。

参考文献

高等学校数学教科書、参考書など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10020	科目名[単位数／学習時間]	生物学［4単位／180時間］		
テキスト	●桑村哲生　『生命の意味　進化生態からみた教養の生物学』　裳華房				
ISBN	9784785350482	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25018
科目担当	掛澤　明弘				

科目の目的

本科目のテーマは「生物の進化と適応」である。生物がさまざまな興味深い姿形になり、また振る舞いをする理由についての理解をめざす。地球上のあらゆる生物は、それぞれの生息環境や生活様式にうまく適応しながら生きている。この生物の適応現象は長い進化の歴史を経て生まれてきたものであり、その背景には何らかの合理的な理由が存在するはずである。このような進化生物学的な視点を習得することで、人間の行動や社会、文化などの適応的な意義についても考えられるようになってほしい。

到達目標

本科目では、以下の4項目について重点的に学習する。

①なぜ地球に生物がいるのか。
　生命の定義と起源、異なる生物どうしの種間関係、大絶滅と地球環境の変化などについて理解する。
②なぜ生物は進化するのか。
　遺伝子の構造と働き、自然淘汰による進化のしくみ、適応戦略論、種分化などについて理解する。
③なぜ性が必要になったのか。
　無性生殖と有性生殖、性の起源、性決定様式、性比の理論、性差の進化などについて理解する。
④なぜ生物は利他的にふるまえるのか。
　子の保護の進化、利他行動の進化、類人猿と人類の社会、遺伝子と文化などについて理解する。

学習テーマ

1	生物の定義とは【学習のポイント：生物と無生物の違いを理解する。＜テキストpp. 1 - 4 ＞】
2	生物の起源とは①【学習のポイント：原始地球と初期の生命について理解する。＜テキストpp. 5 -10＞】
3	生物の起源とは②【学習のポイント：遺伝子の構造と起源について理解する。＜テキストpp.35-44＞】
4	生物の歴史とは【学習のポイント：光合成生物の誕生や絶滅について理解する。＜テキストpp.11-34＞】
5	生物の進化とは①【学習のポイント：遺伝のしくみについて理解する。＜テキストpp.35-50＞】
6	生物の進化とは②【学習のポイント：突然変異と自然選択について理解する。＜テキストpp.51-58＞】
7	生物の進化とは③【学習のポイント：適応度について理解する。＜テキストpp.59-66＞】
8	生物の進化とは④【学習のポイント：最適戦略と種分化について理解する。＜テキストpp.67-83＞】
9	生物の性とは①【学習のポイント：性と生殖について理解する。＜テキストpp.85-95＞】
10	生物の性とは②【学習のポイント：性の起源について理解する。＜テキストpp.96-102＞】
11	生物の性とは③【学習のポイント：性決定と性比について理解する。＜テキストpp.103-113＞】
12	生物の性とは④【学習のポイント：性差の進化について理解する。＜テキストpp.114-121＞】
13	生物の社会とは①【学習のポイント：子の保護の進化について理解する。＜テキストpp.123-131＞】
14	生物の社会とは②【学習のポイント：利他行動の進化について理解する。＜テキストpp.132-145＞】
15	生物の社会とは③【学習のポイント：人類の社会について理解する。＜テキストpp.146-164＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

生態系を構成する生物どうしの種間関係について、具体例をあげて説明せよ。

第2課題

自然選択（自然淘汰）による生物の進化のしくみについて、具体例をあげて説明せよ。

第3課題

生物の性（雄と雌）の起源とメリットについて説明せよ。また、性決定様式にはどのようなタイプがあるのか、具体例をあげて説明せよ。

第4課題

ダーウィンの自然選択理論は、より多く子供を残すような性質が進化すると予測しているが、社会性昆虫であるミツバチでは、働きバチは自分では繁殖せずに女王の繁殖を手助けしている。このような利他行動が進化するしくみについて、血縁選択説に基づいて説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

種間関係の主なタイプを3つあげ、それぞれの種間関係について個別に記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみること。

課題内容について身近な人に問われたときに、「どのように説明したら伝わるのか」を考えながら学習すると、より理解が深まりレポートとしてもまとめやすくなるはずである（第 2 課題～第 4 課題についても同様）。

第 2 課題の留意点

まず、進化の定義について簡潔に述べ、次に、自然選択により進化が起こるプロセスについて「遺伝子の突然変異」と「適応度」の観点から記述すること。テキストで紹介されているオオシモフリエダシャクの体色変化を具体例として用いてもよいが、その際、テキストの抜粋にならないようにできるだけ自分の言葉に直して説明すること。

第 3 課題の留意点

前半は、「無性生殖のデメリット」「有性生殖のメリット」「同形配偶子から異形配偶子への進化」について考えること。後半は、「遺伝的に性が決まる場合」と「環境条件で性が決まる場合」について記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみること。

第 4 課題の留意点

まず、ミツバチの社会について簡潔に述べよ。次に、働きバチが母親の繁殖の手助けに専念するメリットについて、「血縁度」と「包括適応度」の観点から記述すること。その際、できるだけテキストの抜粋にならないように自分の言葉に直した説明を心がけること。

レポートの評価基準

以下の 3 点を評価基準とする。

- 「各課題の留意点」の内容を含み、課題に対して情報の過不足なく的確に論述している。
- 単にテキストを抜粋するのではなく、自分の考えや表現にもとづいて記述している。
- 参考文献やインターネット等から引用をする際には、脚注などで出典を明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全般が出題範囲である。レポート課題の復習をまずは怠らず、テキスト巻末の「各章の復習問題」についてもよく学習しておくこと。特に、個体の利益や適応度を中心にした考え（自然選択、性選択、血縁選択）は正しく理解しておくこと。

答案の作成に際しては、具体的な例をあげながら、論理的な説明を心がけること。

科目修了試験の評価基準

設題内容を正しく理解した上で論理的に記述できているかどうかを中心に評価する。文字数は特に定めないが、解答内容に過不足がないように注意すること。

参考文献

- 長谷川眞理子　『進化とはなんだろうか』　岩波書店
- カール・ジンマー　ダグラス・J・エムレン　『カラー図解　進化の教科書　第 1 ～ 3 巻』　講談社

その他、テキストの巻末にも多数紹介されている。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10021	科目名[単位数／学習時間]	栄養学［4単位／180時間］		
テキスト	●小林修平　『健康づくりの栄養学　第4版』　建帛社				
ISBN	9784767907680	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25019
科目担当	廣田　有加里				
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

・健康づくりの時代に、一人ひとりが自分の健康を自身で守るためのツールとしての知識を身につけることにより、積極的に取り組む努力をすることができる。
・各栄養素の構造と機能、消化と吸収のメカニズム、エネルギー代謝、栄養状態の評価、人体の構造と生理機能などの概要を説明できる。
・ライフステージの特定の時期に重要となる栄養素について考え、自らの生活習慣に生かすことができる。
・健康栄養情報を正しく認識し、健康に役立てることができる。

学習テーマ

1	生体リズムについて【学習のポイント：朝食の欠食の生体への影響について理解する。】
2	健康三原則について【学習のポイント:日本における健康増進施策（健康日本21〔第三次〕について参考資料を確認する）の内容を理解し、方向性と現状について理解を深める。】
3	エネルギー産生栄養素の成分と機能について【学習のポイント：三大栄養素の機能と主な供給源について理解する。】
4	ビタミン、ミネラル、体内の水分の機能について【学習のポイント：栄養素の機能と主な供給源について理解する。】
5	からだの仕組みと消化器の機能について【学習のポイント:消化器の機能と栄養素の働きとの関連性について理解する。】
6	主要な栄養素の消化と吸収のしくみについて【学習のポイント:口から摂取した栄養素が消化管内でどのように消化され、吸収されるかを理解する。】
7	エネルギー代謝について【学習のポイント:食物から摂取したエネルギーが体内でどのように利用されるかを理解する。】
8	栄養状態の評価の意義と方法について【学習のポイント：栄養状態を適切に評価する必要性とライフステージ別評価の方法について理解する。】
9	『日本人の食事摂取基準』について【学習のポイント:食事摂取基準の策定の目的とその活用方法について理解する。『日本人の食事摂取基準（2025年版）』については参考資料を確認する。】
10	『食事バランスガイド』と『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』について【学習のポイント：食事バランスガイドの目的と活用方法ならびに健康づくりのための身体活動の意義について理解する。『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』については参考資料を確認する。】
11	ライフステージ･ライフスタイルと栄養について【学習のポイント:ライフステージの特徴と栄養摂取について理解する。】
12	運動、ストレス、免疫と栄養の関連性について【学習のポイント：運動時の栄養管理、ストレスによる心身の影響と食欲のメカニズムおよび免疫機能について理解する。】
13	生活習慣病の発症と栄養の関連性について【学習のポイント：生活習慣病の病態や発症原因および予防するための食生活について理解する。】
14	現代社会の食と栄養【学習のポイント：多様化する食品の機能を活かした食生活および栄養摂取の現状と課題について理解する。】
15	食生活と健康増進【学習のポイント：食品の安全性と健康増進をするための食事のバランスについて理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

栄養アセスメントの種類と意義について述べよ。

第2課題

エネルギー産生栄養素の種類と供給源について述べよ。

第3課題

生活習慣病の食事療法のポイントを述べよ。

第4課題

発育期の生理的特徴と栄養管理について述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

栄養アセスメントの種類と指標を調べて、各種類の特徴と評価方法を理解する。超高齢社会において、高齢者の栄養障害は、生活の質の低下および認知機能の低下を引き起こす社会問題になっていることから、さまざまな面で重要となっている栄養アセスメントについて理解をする。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 2 課題の留意点

エネルギー産生栄養素とは何かを理解し、健康を保持・増進するために必要な栄養素の種類とそれぞれの機能および過不足による生体への影響について述べる。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 3 課題の留意点

生活習慣が発症や進行に関与する病気を選び、病気の概要と食事療法の要点をまとめる。生活習慣病については、参考文献に記載している書籍や官公庁のWebサイトなども含め多数の参考文献に目を通し、理解を深め論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 4 課題の留意点

ライフステージごとに生理的特徴があり、それぞれの特徴に沿った栄養管理が必要になることを理解した上で、乳幼児期、学童期の発育期を中心に身体的特徴と栄養管理の重要性を理解する。発育期の食習慣が生涯にわたって与える影響について考え、それぞれの特定した時期に重要となる栄養素についてまとめ、学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

レポートの評価基準

・指定テキストだけでなく、多数の最新の参考文献に目を通し、理解を深めた上で、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
・レポートの課題の趣旨を理解し、論理的にわかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。
※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・健康状態を良好に保つためには、時間栄養学の考え方が活用されている。生体リズムを整えるために重要な要素は何か、健康の保持・増進に関わる生活習慣について理解を深めておく。そして、食生活の現状と課題についても確認する。（テキストpp.13-20）
・食物を摂取した後、口から肛門に至る消化管で、どのように消化され、栄養素として吸収されるのか、栄養素に関する基礎知識の理解を深めておく。（テキストpp.44-47）
・ライフステージ別（妊娠期～高齢期）に生理的特徴と栄養管理の留意点などの理解を深めておく。（テキストpp.77-96）
・消費者が安心して、食品の選択ができるよう適切な情報提供を行うことや安全性を確保する目的で、さまざまな法律によって健康や栄養に関する表示制度がある。上手に食品を選択する力を身につけるためには、栄養成分表示の見方や機能性が表示されている食品について理解を深めることは重要である。新しい情報にも関心を持ち、新知見による解答も歓迎する。（テキストpp.119-130）

答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：生体リズム、健康づくり、消化器官、妊娠期、高齢期、食品機能、ストレス

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・指定文字数の 9 割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得られた基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・字は読みやすく、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
・厚生労働省 『健康日本21（第三次）の概要』
https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001158810.pdf
・厚生労働省 『健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023』
https://www.mhlw.go.jp/content/001194020.pdf
・厚生労働省 『リーフレット 妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf
・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf
・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省 『令和４年「国民健康・栄養調査」結果の概要』
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001296359.pdf
・農林水産省 『食事バランスガイドと従来の分類法との関連』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省 『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
・子ども家庭庁 『乳幼児期の栄養について』
https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyou
・消費者庁 『栄養や保健機能に関する表示制度とは』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/health_and_nutrition_labelling
・消費者庁 『食品表示について』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/
・日本ユニセフ協会 『SDGs17の目標』
https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10023	科目名［単位数／学習時間］	多文化社会［2単位／90時間］			
テキスト	●高谷幸　『移民政策とは何か　日本の現実から考える』　人文書院					
ISBN	9784409241240	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25020	
科目担当	日比野　純一					
実務経験のある教員による科目	特定非営利活動法人理事、社会福祉法人評議員（在日外国人への多言語での情報提供事業、多文化共生のコミュニティづくり事業、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援事業など）					

科目の目的

多文化社会とは、多数者とは生活条件の異なる少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指し、本科目では、社会の周縁に位置づけられがちな人達（外国人、先住民族、女性、LGBTQ、貧困層、障害者など）の中で、特に外国人及び外国にルーツのある人達に焦点を当て、政治的・社会的・文化的な権利擁護、共存と相互理解について学ぶ。世界の多くの文化について学ぶ科目ではない。多文化共生のコミュニティづくり、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援、在日外国人等の生活相談、多文化共生のアドボカシーといった実務経験を活かして教授する。

到達目標

同質性の居心地の良さとその裏側にある異質な者を外国人、障害者、LGBTQ、ホームレス、被差別部落出身者、先住民族、イスラム教徒などとレッテルを貼り排除してしまう現実が社会には依然として存在する。そこには“異質な者”も自分と同じ一人の人間であり、地域社会における生活者である視点が抜けており、無知とメディアからのステレオ的な情報がそれを後押しする。多文化社会の根幹をなす人権について深く理解し、異文化間対話を促進する力を身につけることが到達目標である。

学習テーマ

1	外国人の定住化について【学習のポイント：日本における外国人の定住化と、それを社会が阻止してきた結果、もたらされている問題点について理解する。＜テキスト序章＞】
2	外国人労働者について【学習のポイント：日本の外国人労働者の受け入れの問題点について理解する。＜テキスト第1章＞】
3	外国人とジェンダーについて【学習のポイント：日本の外国人女性が移民であることに加えて、女性であることによって二重の不利益を被っていることについて理解を深める。＜テキスト第2章＞】
4	出入国在留管理について【学習のポイント：外国人に対する日本の出入国在留管理行政について理解を深める。＜テキスト第3章＞】
5	外国人への社会保障について【学習のポイント：日本の社会保障制度についての外国人への適用について理解を深める。＜テキスト第4章＞】
6	非正規外国人の人権について【学習のポイント：非正規外国人は同じ人間でありながらなぜ人権が保障されにくい状況に置かれるのかについて理解を深める。＜テキスト第3章とテキスト第4章＞】
7	学校教育と外国人児童・生徒について【学習のポイント：学校現場での外国人児童・生徒の受け入れについての現状と課題について理解する。＜テキスト第5章＞】
8	多文化教育について【学習のポイント：日本で草の根で実践されている多文化教育について理解する。＜テキスト第5章＞】
9	政府と地方自治体の多文化共生施策について【学習のポイント：政府、自治体の多文化共生施策の違いについて理解する。＜テキスト第6章＞】
10	強靭な多文化共生の確立について【学習のポイント：日本の多文化共生施策に抜け落ちがちな在日コリアンの歴史と人権擁護について理解する。＜テキスト第6章＞】
11	外国人排斥について【学習のポイント：日本における外国人排斥が起こる要因について理解する。＜テキスト第7章＞】
12	移民差別への対応【学習のポイント：欧州における移民差別とそれに対する反差別アクションについて理解する。＜テキスト第8章＞】
13	国民と外国人の境界について【学習のポイント：国籍や市民権と、国民と外国人の境界を管理する「装置」について理解する。＜テキスト第9章＞】
14	技能実習制度について【学習のポイント：外国人技能実習制度の問題点について理解する。＜テキスト第1章、テキスト第10章、テキスト終章＞】
15	多文化共生社会の強みについて【学習のポイント：多様性のある社会がなぜ強いのか、その社会を実現するにはどんな取り組みが必要になるか、理解を深める。＜テキスト終章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

日本の学校では、外国にルーツがある児童・生徒が自らのルーツを隠すことを良しとすることが多く見られる。なぜそうした状況になるのか。そして、外国にルーツがある児童・生徒が自分らしく日本社会で生きていけるようになるには、どのような教育が必要であるか記述すること。

第 2 課題

日本の社会保障制度の多くにおいては、（外国人を除外する）国籍条項は撤廃されている。それにもかかわらず、外国人が社会保障制度を外国人に適用することに対して否定的な声が社会には一定程度あり、政府は社会保障制度の外国人への適用については近年、管理を厳しくしている。外国人が社会保障を受けることができる根拠はどこにあるのか、また政府がなぜ近年、適用を厳しくしているのか記述すること。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキストの序章、第 5 、 6 章をよく読んで理解を深めておくこと。とくに第 5 章の子どもの自己実現のための言語と文化の保障について、学校現場での課題を草の根の取り組みがどう解決していったか、その取り組みについて、具体的な事例をインターネットなどで調べて、より深く考察すること。

第 2 課題の留意点

テキストの序章、第 4 、 6 、 7 章、終章をよく読んで理解を深めておくこと。とくに第 4 章の日本の社会保障制度の基本的な枠組みについて理解した上で、国籍要項撤廃の歴史について考察すること。さらに、第 7 章の移民排斥に関する社会統計分析結果についても、理解を深めておくこと。

レポートの評価基準

・文字数は2,000字程度とすること。
・指定文字数の 9 割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキストから学んだ内容の理解が十分にできているかについて評価する。
・課題に対して自分の考えを的確に記入できているかについて評価する。
・文献の引用が全体文字数の15%以上を超えるレポートは不合格とする。なお、文献の引用箇所は「 」でくくり、引用文献名等を必ず明示すること。
・漢字を適切に使い、誤字、脱字が無いこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・政府や自治体の多文化共生の取り組みについての理解を深めておくこと。
・外国にルーツがある子ども達の状況についてテキストから考察しておくこと。
・外国人労働者の状況についてテキスト（特に第 1 章）を読み込み、理解を深めておくこと。
・テキスト第 4 章の社会保障について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・出題内容を正しく理解し、テキスト学習により得た知識を基本に、論理的に記述できていること。
・設題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
・指定文字数の90%に達しない場合は評価しない。

参考文献

・吉富志津代 『同級生は外国人！？多文化共生を考えよう①②③』 汐文社
・吉富志津代 『多文化共生社会と外国人コミュニティの力 ゲットー化しない自助組織は存在するか？』 現代人文社
・落合知子 『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー NPOと学校、子どもたちの育ちゆく現場から』 現代人文社
・吉富志津代 日比野純一『兵庫県さんだ発！社会福祉×多文化共生 ひろがる支え合いの輪』 PHD協会
・萱野茂 『アイヌの碑』 朝日新聞出版
・田中宏 『在日外国人 法の壁、心の溝』 岩波書店
・毛受敏浩 鈴木江理子 『「多文化パワー」社会 多文化共生を超えて』 明石書店
・駒井洋 鈴木江理子 『東日本大震災と外国人移住者たち』 明石書店
・加藤直樹 『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』 ころから
・宗田勝也 『誰もが難民になりうる時代に一福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 現代企画室
・安田浩一 『ネットと愛国』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10025	科目名[単位数/学習時間]	情報と社会［2単位／90時間］			
テキスト	●駒谷昇一　山川修　『IT Text　一般教育シリーズ　情報とネットワーク社会』　オーム社					
ISBN	9784274211218	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	25021	
科目担当	河原　優子					

科目の目的

情報技術やインターネットの発展に伴い、社会生活は大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術とコミュニケーションの方法、社会の変化について理解するとともに、社会を支え、企業活動に利用されている情報システムの役割と性質について学ぶ。

到達目標

・コンピュータやインターネットなどの情報技術がどのように発展したのかを説明することができる。
・情報技術の進展によって、日常生活と社会にどのような変化が起きたのか、具体例を用いて述べることができる。
・情報社会の利点と問題点について、さまざまな視点から記述することができる。

学習テーマ

1	身近な情報機器の変化【学習のポイント：通信機器の発展とメディアの変化を理解する。＜テキストpp. 2 - 8 ＞】
2	情報の取り扱いの変化【学習のポイント：情報プロシューマ、情報に関する考え方の変化を理解する。＜テキストpp. 8 -15＞】
3	情報社会の課題【学習のポイント：情報格差、個人情報の流出と保護について理解する。＜テキストpp.15-19＞】
4	情報社会とは何か【学習のポイント：情報技術の発展と社会の変化を理解する。＜テキストpp.19-25＞】
5	知的財産【学習のポイント：著作権の内容を理解する。＜テキストpp.28-32＞】
6	著作権の新しい流れ【学習のポイント：クリエイティブ・コモンズなど、著作物の共有のあり方を理解する。＜テキストpp.32-38＞】
7	インターネット上のトラブル【学習のポイント：ネット被害と対策について理解する。＜テキストpp.38-47＞】
8	インターネットの利用マナー【学習のポイント：ネット上のマナーと情報セキュリティについて理解する。＜テキストpp.47-55＞】
9	情報コミュニケーション【学習のポイント：コミュニケーションの性質とメディアの違いを理解する。＜テキストpp.62-69＞】
10	インターフェース【学習のポイント：入力・出力装置とアクセシビリティについて理解する。＜テキストpp.82-95＞】
11	インターネットの歴史【学習のポイント：インターネットの歴史を理解する。＜テキストpp.101-106＞】
12	インターネットサービス【学習のポイント：メールなどのインターネットアプリケーションとwebサービスについて理解する。＜テキストpp.106-117＞】
13	データベース【学習のポイント：データベースの概要を理解する。＜テキストpp.120-132＞】
14	情報システム①【学習のポイント：生活や社会インフラに利用されている情報システムを理解する。＜テキストpp.150-161＞】
15	情報システム②【学習のポイント：企業や学校の情報システムを理解する。＜テキストpp.161-170＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

インターネットの歴史について、テキストを参考に説明しなさい。

第2課題

情報社会が抱えている課題について、「著作権」または「個人情報」という言葉を用いて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

日本におけるインターネットの普及は2000年頃からといわれている。それまでのインターネットの発展の経緯と、そのあとの社会の変化について記述すること。

第2課題の留意点

情報社会はさまざまな問題を抱えている。「著作権」や「個人情報」に関する問題を、テキストを参考にしながら、具体的な事例を入れて説明すること。

レポートの評価基準

課題についてテキストから学んだ内容をふまえ、情報社会に関する知識を自分の言葉で説明できているかを評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

現代の社会では生活の様々な場面でインターネットや情報システムの技術を利用したサービスに接している。テキストの内容を自分の生活に結びつけて考え、理解を深めること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードを用いて正確に説明ができているかどうかを評価する。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10027	科目名［単位数／学習時間］	国際理解教育論［2単位／90時間］			
テキスト	●田中治彦　三宅隆史　湯本浩之　『SDGsと開発教育―持続可能な開発目標のための学び』　学文社					
ISBN	9784762026492	本体価格（円）（2025年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	25022	
科目担当	江原　等子					

科目の目的

本科目では、現在私たちが生きている時代の特徴と置かれている状況を知り、人類共通の課題をグローバルな視点から考察する。開発教育は、国際理解や開発援助、多文化共生についての学習にとってきわめて重要である。開発教育に関するテキストを読むことを通じて、一人の地球市民として他者と共に生きていくあり方を探究する。貧富の格差や環境問題、戦争と平和、男女格差、移民や難民といった地球規模の問題を、自らの生活を振り返りながらグローバルな視点をもって考える機会とする。

到達目標

人類共通の課題を知り、これから未来を共にどう生きていけばよいのかを、自分自身の考え方や感じ方、生活の仕方を振り返りながら考えること。地球規模の諸問題を考えるときに不可欠なグローバルな視点や、問題を克服するあり方を模索するために必要な基礎的な知識を、テキストを読み課題にまとめることで身につける。

学習テーマ

1	開発教育とは何か【学習のポイント：開発教育の定義や5つの教育目標を理解する（テキスト第1章pp.2-8）。】
2	ローカルとグローバルの関係性【学習のポイント：テキスト第3章「1地球的（グローバル）と地域（ローカル）の関係」（pp.38-41）を読んで、ローカルな諸問題はグローバルな構造を持つということ、すなわち地球規模の諸問題は私たちの暮らしに結びついているということを知る。】
3	“Think globally, act locally”という言葉を理解する【学習のポイント：テキスト第3章「2地域の捉え方の変遷」（pp.41-44）を読んで、「構造的に理解するということ」が「対岸の火事的に理解するということ」とどのように異なるのかを把握する。英和辞書を用いて“Think globally, act locally”という言葉の意味を理解する。】
4	グローバル化が地域にもたらす影響【学習のポイント：テキストで取り上げている、タイにおけるエビとマングローブの事例（pp.30-32）や宮城県農村部への大型店の進出の事例（pp.47-48）を読み、それぞれの事例においてグローバリゼーションが私たちの生活にどのように結びついているのかを考える。】
5	自分の食で考える【学習のポイント：あなたが今日食べた食べ物の産地と、それがどこで作られたものなのかを書き出す。】
6	3つの教育アプローチ【学習のポイント：テキスト第2章（pp.18-29）を読んで、開発教育の方法や教材について知る。とくに、「5開発教育の学びの文脈づくりと地域と世界がつながるカリキュラム」を読み、「相互依存アプローチ」と「参加型学習」、「PRAとアクションリサーチ」という三つの教育アプローチを知る。】
7	SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）とは何か【学習のポイント：SDGsの17の目標と5つの特徴を熟読する。とくに第一の特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」をしっかりと把握し、SDGsが先進国にも関係するものであることを理解する（テキスト第4章pp.63-70）。】
8	環境の保全と経済的利益の追求の対立【学習のポイント：テキスト第6章の「2開発教育の内容としての環境問題」（p.98）と「3 MDGsからSDGsの環境問題」（pp.98-101）を読み、経済的利益の追求が人や環境・社会を押しつぶすという状況を理解する。また、テキストの図6-2（p.100）から、環境問題に向けられた、SDGsの10の目標を確認する。】
9	倫理的消費【学習のポイント：テキスト第6章の「5「エコ」から「エシカル」へ」（pp.103-105）を読み、人や環境・社会に配慮した消費行動（倫理的消費）および環境倫理の評価基準である「エシスコア」の5つのカテゴリーを知る。エシスコアに照らし合わせて、どのような消費行動をとるのが望ましいかを書き出してみる。】
10	貧困と格差について【学習のポイント：テキスト第8章の「1貧困と格差の現実」（pp.136-142）と「2貧困の多元性」（pp.143-146）を読み、貧困は単に「お金がない」という状態なのではなく、疎外や社会制度をめぐる問題でもあることを理解する。】
11	SDGsを通じた貧困と格差拡大の克服【学習のポイント：第8章の「4貧困と格差拡大の克服に向けて」（pp.151-155）を読み、SDGsの目標10「格差是正」の重要性を理解する。貧困と格差拡大は、私たち自身の社会の問題であるとともに、発展途上国などの他の国々と構造的につながっていることを知る。】
12	紛争と平和について【学習のポイント：テキスト第10章の「2「平和」の意味」（pp.183-185）と「3平和構築へのアプローチ」（pp.185-190）を熟読し、「構造的暴力」と「積極的平和」という概念を理解する。】
13	移民・難民【学習のポイント：テキスト第14章の「1難民問題は国際問題か国内問題か」（pp.255-256）と「4日本にみる国際的な移動」（pp.260-270）を読み、移民や難民の人々が直面する問題が私たちの社会といかに結びついているのかを理解する。】
14	多文化共生社会の実現【学習のポイント：テキスト第14章の「5日本における多文化共生社会の実現に向けて」（pp.270-271）を読み、難民問題や外国人労働者の背景にある問題が私たちの社会の「構造的暴力」（テキストpp.183-185）であることを知る。それとともに、様々な「外国人」に対する自分の価値観を見つめ直す。】
15	これからの世界と私たち【学習のポイント：テキスト終章「2グローバル化社会と私たち」（pp.277-280）と「3「居場所の必要性」」（pp.280-283）を読んで、誰にとっても「居場所」のある社会を作るために私たちに何ができるのかを考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

開発教育（国際理解教育）の定義と 5 つの教育目標について説明しなさい（1,000字）。
また、SDGs（持続可能な開発目標）の主要な特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」について、幾つかの具体的な目標を挙げながら説明しなさい（1,000字）。

第 2 課題

テキスト第 2 章で取り上げられている「エビとマングローブータイを事例に」（pp.30-32）を具体例として用いて、以下の項目を説明しなさい（2,000字）。

- グローバリゼーションとは何か。（タイのエビ養殖業が私たちの生活にどのように結びついているか。）
- グローバリゼーションが生み出す問題はどのようなものか。（エビの大量消費は、日本の生活やタイの人々の暮らしをどのように変化させたか。）
- 問題の克服に向けて、どのような方法がとられたか。（エビ養殖のためのマングローブの伐採と森林の減少に対して、タイと日本の双方でどのような見直しがおこなわれたか。）
- その問題はSDGsとどのように関わっているか。（マングローブ林の伐採と森林の減少という問題は、SDGsのどの目標に関係しているか。）

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章と第 4 章を熟読して、要点をまとめること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章をよく読んで、グローバルとローカルの関係性を適切に理解すること。グローバルとローカルの関係性に留意しながら、テキスト第 2 章の「エビとマングローブータイを事例に」を読解すること。テキスト第 4 章のSDGsの内容と照らし合わせること。

レポートの評価基準

- テキストをしっかり読みこんで、正確に理解しているか。
- グローバルな視点から地球規模の問題や人類共通の課題について考えられているか。
- SDGsの目標内容が地球規模の問題の克服に向けられていることを把握しているか。
- 他者の言葉ではなく、自分自身の言葉を使って記述しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- 問われている内容を正確に把握し、項目ごとに具体的に論述すること。
- 重要ポイントは次の通りである。①開発教育（国際理解教育）の内容、②SDGsの特徴、③SDGsの各目標、④世界各地の課題や問題を「構造的に理解するということ」の重要性、⑤人類共通の課題や地球規模の問題の持つ特徴や構造、⑥SDGsと、人類共通の課題や地球規模の問題の克服・解決との関係性。

科目修了試験の評価基準

- 設問の趣旨を理解し、要点を整理して論述しているか。
- 開発教育（国際理解教育）の視点や方法を理解しているか。
- SDGs（持続可能な開発目標）を理解しているか。
- 人類共通の課題や地球規模の問題の特徴や構造を理解しているか。
- 自分自身の暮らしを振り返りながら、自分の言葉で論じているか。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10029	科目名[単位数／学習時間]	環境教育論［2単位／90時間］			
テキスト	● 今井清一　今井良一　『環境教育論　現代社会と生活環境　増補改訂版』　鳥影社					
ISBN	9784862658104	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	25023	
科目担当	天野　雅夫					

科目の目的

日本における環境問題は、はじめは地域的な公害として顕在化したが、近年では新たな問題として地球規模の環境問題が現われてきた。それらは、大気・土壌・海洋汚染、森林破壊、ダイオキシンの脅威、オゾン層の破壊、地球温暖化の問題など、多様化し深刻化しつつある。こうした環境問題を解決するためには、各人が人間と環境とのかかわりについて理解し、行動力を身につけることが必要である。そこで本科目では、実際の環境教育活動を紹介し、感じ、考え、行動し、持続可能な社会をつくるために必要な環境教育について考究する。

到達目標

環境教育とは、環境全体とそれに関連する問題に対する「①気づき」と感性を身につけ、自らが責任ある存在であり役割を負うことを「②知識」として理解し、環境に対する社会的価値基準と環境を気づかう気持ち、および環境の保護と改善に積極的に参加する「③態度」を養い、環境問題を解決する「④技能」を身につけ、環境対策や教育プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的、教育的観点から「⑤評価」し、そして最後にこれらの活動に「⑥参加」し、適切な行動をとれるようにすることがその目標である（ベオグラード憲章）。従って、本科目では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。

学習テーマ

1	地球温暖化･気候変動について【学習のポイント:地球温暖化の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.11-25＞】
2	自動車公害について【学習のポイント：自動車の問題を社会問題として理解し、その原因について知る。＜テキストpp.47-72＞】
3	PM2.5について【学習のポイント：PM2.5の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.73-78＞】
4	異常気象について【学習のポイント：異常気象とはどのような現象かを知り、その原因について理解する。＜テキストpp.27-44＞】
5	水の消費について【学習のポイント：水の消費について学び、水をどのように保全し水不足を防ぐかを理解する。＜テキストpp.253-266＞】
6	水の汚染について【学習のポイント：水の汚染の問題について知り、水の適切な使い方について理解する。＜テキストpp.267-288＞】
7	放射線について【学習のポイント：放射線、放射能、半減期などの言葉を理解し、環境や人間にどのような影響を与えるかを知る。＜テキストpp.83-112＞】
8	日本の食生活の変化について【学習のポイント：戦後、日本の食生活がどのように変化したかを知り、それが私たちの生活にどのように影響したかを理解する。＜テキストpp.117-127＞】
9	フードマイレージ・食品ロスについて【学習のポイント：フードマイレージとは何かを理解し、消費者としてどのように食品ロスを防ぐかを知る。＜テキストpp.127-137＞】
10	残留農薬、ポストハーベストについて【学習のポイント：農薬がどのように使用されているか、その効果と問題点について理解する。＜テキストpp.138-145＞】
11	輸入食品について【学習のポイント：輸入食品による環境問題や国内問題について理解する。＜テキストpp.145-149＞】
12	食品の汚染について【学習のポイント：食品汚染の問題点について理解する。＜テキストpp.149-156、pp.234-243＞】
13	食品表示について【学習のポイント：食品表示について理解し、消費者として食品をどのように選択するかを知る。＜テキストpp.161-192＞】
14	遺伝子組み換え食品について【学習のポイント：遺伝子組み換え食品とは何か、その問題点と環境や健康への影響を理解する。＜テキストpp.192-209＞】
15	食品添加物について【学習のポイント:食品添加物の種類と現状を理解し､その問題点を知る。＜テキストpp.211-249＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

地球温暖化とはどのような現象か、またその対策としておこなわれている取り組みを記せ。

第2課題

輸入農産物の増加によって、どのように食品の流通や貯蔵が変化したか、その問題点について記せ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章「地球温暖化と気候の変動」（pp.11-26）、第 2 章「異常気象ー災害の安全学」（pp.27-46）を参照のうえ、地球温暖化を防ぐためにどのような取り組みがあるか、日本だけでなく世界の状況を把握すること。これらの問題を知識として理解したうえで、自らがどのように行動できるかを考察し記述すること。

理解を深めるためのキーワードは、「先進国」、「途上国」の取り組みについて特に注目する必要がある。また、京都議定書とパリ協定の違いを理解し、それぞれの取り組みにおいてどのような対応がとられてきたか、その経緯と現状について論理的に記述し、自分たちの生活においてそれを活かすためには、どのような工夫をすればよいかを記載すること。そのとき、具体的で分かりやすい文章にすることが重要である。

第 2 課題の留意点

テキスト第 5 章「食料の輸入大国日本の現実」（pp.117-159）を参照のうえ、日本の食生活がどのように変化したか、それによってどのような問題が起こったかを知り、人々の健康に与える影響などについて考察すること。

理解を深めるためには、「洋風化」、「外部依存化」、「簡便化」、「インスタント化」などの言葉を理解し、輸入農産物の増加が何をもたらしたのか、食生活が豊かになる一方で食への不安が増加したことについても注目する必要がある。

レポートがより高く評価されるためには、自分たちの食生活を改善するにはどのような工夫が必要かを記述すること。そのとき、具体的で分かりやすい文章にすることが大切である。

レポートの評価基準

評価基準としては、主として以下の点を考慮する。

- 誤字脱字には十分注意し、自分の考えを具体的に説明していること。
- テキストの内容を理解したうえで、テキストの註を参考にしてテキスト以外の情報を広く収集し、それを自らの知識として活かすことができているか。
- 自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを読み、特にコラム欄（四角で囲まれていて数字のついている部分）は熟読すること。また、テキストの章末にある註を参考にして、テキスト以外の文献・情報について調べてみることも重要である。これらの内容を理解したうえで、その他、現実に起こっている環境問題を解決するためにはどのようにするべきか、自らの考えを理論的、具体的に論述すること。これらを踏まえたうえで、①環境問題を自らの生活と関連づけて理解できているか、②それらを理論的・科学的な知識として理解しているか、③これらについてどのような態度をとるべきか考えているか、④それらを解決するための技能を身につけているか、⑤それらを評価する能力を身につけているか、⑥環境問題を解決するための行動に参加しているか、を留意する必要がある。

科目修了試験の評価基準

- テキストの内容を正確に理解できているか。
- 自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

参考文献

- 日本環境教育学会 『環境教育』 教育出版
- 水山光春 『よくわかる環境教育 やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

教育学科・児童教育学科専門教育科目群

科目コード	20001	科目名[単位数/学習時間]	教育原理［2単位／90時間］			
テキスト	●広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 上巻』 風間書房					
ISBN	9784759922172	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,700	生協テキストNo.	25024	
科目担当	廣岡 義之					

科目の目的

今日、教育と子どもをめぐる問題がクローズアップされている。教育の在りようはもとより社会の在り方が根本的に問われているといえる。このような社会的背景をもとに、本科目では、教育とはなにか、について、さまざまな観点からアプローチし、その原理的な理解を深めることを目的とする。そのことによって、教育に関する基本的な知識と知見を養う。

到達目標

とにかく、テキストを精読することが大切である。また、この章立てには順序性もあり、この順序で読むことが重要である。もう1つの目標として、テーマが教育なので、自分なりの問題意識の射程内で、読み、論述することが必要である。

学習テーマ

1	教育学の根本問題① 開かれた問いの原理 【テキスト第2章第1節1～3を熟読すること。】
2	教育学の根本問題② 教育の連続性と非連続性 【テキスト第2章第1節6を熟読すること。】
3	現代における教育の時間論 【テキスト第2章第2節1～4を熟読すること。】
4	現代における教育の空間論 【テキスト第2章第3節1～5を熟読すること。】
5	言語の教育学的意義 【テキスト第2章第4節1～4を熟読すること。】
6	教育における真理論 【テキスト第2章第5節1～4を熟読すること。】
7	危機概念の教育学的意義 【テキスト第2章第6節1～5を熟読すること。】
8	教育における経験論 【テキスト第3章第2節1～4を熟読すること。】
9	教師と生徒の信頼関係 【テキスト第4章第1節1～4を熟読すること。】
10	自立性への教育 【テキスト第4章第2節1～5を熟読すること。】
11	「練習の精神」の教育学的意義① 【テキスト補論第1章はじめに～第2節1～3を熟読すること。】
12	「練習の精神」の教育学的意義② 【テキスト補論第1章第3節～第5節を熟読すること。】
13	教育学における徳論① 【テキスト補論第2章はじめに～第2節1～3を熟読すること。】
14	教育学における徳論② 【テキスト補論第2章第3節1～5を熟読すること。】
15	教育学における徳論③ 【テキスト補論第2章第4節～第5節を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第2章第2節1～4に即しつつ、現代における教育の時間論について論じなさい。

第2課題

テキスト第2章第3節1～5に即しつつ、ボルノーにおける現代における教育の空間論について論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章第2節1～4をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第2章第3節1～5をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註を付記しつつ、課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・それぞれ課題、その中の設問に着目して、テキストの精読を深めることを勧める。
・15回の「学習テーマ」に即して、内容を理解し、まとめておくことが大切である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年３月＞』　東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20002	科目名［単位数／学習時間］	教育心理学［2単位／90時間］

テキスト	●多鹿秀継　上淵寿　堀田千絵　津田恭充 『ライブラリ読んでわかる心理学5　読んでわかる教育心理学』 サイエンス社					
ISBN	9784781914244	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25025	
科目担当	小川内　哲生					

科目の目的

・幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を学ぶとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を熟読する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を学ぶとともに、子どもの発達を踏まえた学習支援の基礎概念に関係する章をしっかりと理解する。さらに保育現場、教育現場でそれを活かすという実践的な視点から教育を捉えていくことを目的とする。

到達目標

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

学習テーマ

1	心理学における発達と学習の概念の理解【学習のポイント：テキスト第1章を理解する。】
2	発達の遺伝と環境の理解【学習のポイント：テキスト第2章の前半を理解する。】
3	発達段階の理解【学習のポイント：テキスト第2章の後半を理解する。】
4	学習の基礎の理解【学習のポイント：テキスト第3章の前半を理解する。】
5	学習を支える指導法の理解【学習のポイント：テキスト第3章の後半を理解する。】
6	言語の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第4章を理解する。】
7	知性の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第5章を理解する。】
8	パーソナリティの発達と適応の理解【学習のポイント：テキスト第6章を理解する。】
9	知識の獲得と活用の理解【学習のポイント：テキスト第7章の前半を理解する。】
10	長期記憶とメタ認知を理解する【学習のポイント：テキスト第7章の後半を理解する。】
11	認知の個人差と教育の理解【学習のポイント：テキスト第8章を理解する。】
12	学習の動機づけの理解【学習のポイント：テキスト第9章を理解する。】
13	自己調整学習の理解【学習のポイント：テキスト第10章を理解する。】
14	発達と学習の障害の理解【学習のポイント：テキスト第11章を理解する。】
15	測定と評価の理解【学習のポイント：テキスト第12章を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

発達障害とは何か説明しなさい。また発達障害に含まれる自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習症についてその特徴をそれぞれ簡潔にまとめなさい。

第2課題

ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、ルーブリックとは何か、それぞれ簡潔に説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

発達障害の定義と自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習症についてテキスト第11章「発達と学習の障害を理解する」や章末の参考図書を参考にしてまとめると良い。

第2課題の留意点

現代の評価方法の中でポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、ルーブリックの3つを取り上げ、テキスト第12章「測定と評価を理解する」や章末の参考図書を参考にして、それぞれの特徴についてまとめると良い。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。特に第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 8 章、第11章、第12章を重点的に学習しておくこと。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

第 1 課題、第 2 課題どちらの課題の参考文献も、テキスト各章末に詳しく掲載している。それらを参考にしてほしい。
その他、『幼稚園教育要領』（幼保連携型認定こども園教育・保育要領を含む）、『小学校学習指導要領』も参考にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20003	科目名[単位数／学習時間]	教育哲学［2単位／90時間］			
テキスト	●広岡義之 『ボルノー教育学研究 増補版 下巻』 風間書房					
ISBN	9784759922745	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,700	生協テキストNo.	25026	
科目担当	廣岡 義之					

科目の目的

「教育哲学」は、教育現実から出発し、教育や人間の生き方に関する理論に基づいて教育諸問題の解決の仕方や方法を教示し、教育活動や人間の本質的なあり方を究明することを課題としている。現代社会の激しい変化のなかで、人間や子どもを理解して受け止めることはきわめて重要な教師の資質能力でもある。こうした社会の激変のなかで起きている教育や人生の諸問題について、教育哲学的に根源的に問いながらその本質を解明し、解決の糸口を見出すことをねらいとする。

到達目標

・教育の現実に対する関心だけでなく、その理念に目を向け、普遍を追究する努力が大切である。
・テキストを熟読し、何が書かれているか具体例が思い浮かぶぐらいに深めることが重要である。
・テキストを読み込み、自分の生き方と重ね合わせて、テキストの著者が述べていることを熟考することが求められる。

学習テーマ

1	ボルノー教育哲学の徳論 【テキスト第5章第1節を熟読すること。】
2	ボルノー教育哲学における生の哲学と道徳の関わり 【テキスト第5章第2節を熟読すること。】
3	ボルノー教育哲学における実存主義克服の課題 【テキスト第5章第3節を熟読すること。】
4	ボルノー教育哲学の宗教的特質 【テキスト第5章第4節を熟読すること。】
5	現代における「信頼」の教育哲学的課題 【テキスト第5章第5節を熟読すること。】
6	ボルノー教育哲学における「希望」の意味 【テキスト第5章第6節を熟読すること。】
7	教育人間学が問う「死」の意味 【テキスト第5章第7節を熟読すること。】
8	家庭教育の人間学的考察 【テキスト第6章第1節を熟読すること。】
9	ボルノー教育哲学における平和教育論 【テキスト第6章第3節を熟読すること。】
10	ボルノー教育哲学における高齢者教育論 【テキスト第6章第4節を熟読すること。】
11	ボルノー教育哲学における環境教育論 【テキスト第6章第5節を熟読すること。】
12	ボルノーにおけるフレーベル幼児教育思想：理論編 【テキスト補論第1章を熟読すること。】
13	ボルノーにおけるフレーベル幼児教育思想：実践編 【テキスト補論第2章を熟読すること。】
14	西洋教育思想と教育の歴史（1）＜ソクラテス・プラトン・アリストテレス・コメニウス＞ 【テキスト補論第3章第1節から第4節を熟読すること。】
15	西洋教育思想と教育の歴史（2）＜ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・ヘルバルト＞ 【テキスト補論第3章第5節～第8節を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ボルノー教育哲学の徳論について、テキスト第5章第1節に即しつつ論じなさい。

第2課題

ボルノー教育哲学における生の哲学と道徳の関わりについて、テキスト第5章第2節に即しつつ論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第5章第1節全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第5章第2節全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註をつけつつ、必要があれば参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
・「学習テーマ」ごとに、内容をしっかりと把握し、まとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・広岡義之　『ボルノー教育学入門』　風間書房
・広岡義之　『教育の本質とは何か』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20008	科目名［単位数／学習時間］	国語［2単位／90時間］			
テキスト	●柴田義松　阿部昇　鶴田清司　『あたらしい国語科指導法　七訂版』　学文社					
ISBN	9784762032097	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	25027	
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』　東京書籍					
ISBN	9784487287031	本体価格（円）（2025年1月現在）	238	生協テキストNo.	25028	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	齋藤　隆彦					
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（教科「国語科」）					

科目の目的

「国語力」は、自ら考える活動を支える中核となる力であり、全ての教科に生き、すべての学びを支える基礎となる力であると言われる。平成29年に新しい学習指導要領が公示された。そこでは、変化する社会に対応する力を子どもたちに育成することが掲げられ、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直し、より「思考力」という汎用性の高い能力の育成を目指しているようである。国語科でどのような力をどう付けていくのか、テキストや学習指導要領などを用いてその基礎的な理解をすることを本科目では目指す。実務経験（教材や教育方法の開発）を活かして教授する。

到達目標

本科目で取り上げる学習内容の主なものは次の通りである。これらについて自らの経験や授業の具体的なプランなどと結びつけて理解することを到達目標とする。

・国語科教育の目的と学習指導論
・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容と技術（書写を含む）
・話すこと・聞くことの内容と技術
・書くことの内容と技術
・読むことの内容と技術
・メディアリテラシー、読書指導（アニマシオン）など新しい国語科の授業実践

学習テーマ

1	国語科教育の目的について【学習のポイント：二つのテキストやその他を参考に、ことばの働きと国語科教育の目的を考察し理解する。】
2	国語科教育の内容の変遷と基礎・基本について【学習のポイント：「学習指導要領」の変遷から「目標」を相対化し、「基礎・基本」と「言語技術」の関係を考察し理解する。】
3	音声言語について【学習のポイント：話すこと・聞くことの教育の内容と留意点を考察し理解する。】
4	文学の授業について【学習のポイント：「教材内容」「教科内容」「教育内容」という概念を元に、文学の学習の目標と内容を考察し理解する。】
5	説明的文章の授業について【学習のポイント：説明的文章の学習の目標と内容を考察し理解する。】
6	「書くこと」（文章表現）の授業について【学習のポイント：作文の学習の目標と内容を考察し理解する。】
7	「言葉の特徴や使い方・情報の扱い方」について【学習のポイント：「学習指導要領」における「知識及び技能」の内容について、語彙や漢字、言葉の由来、さらには「情報の扱い方」などの学習の内容と方法を考察し理解する。】
8	書写について【学習のポイント：テキスト『学習指導要領解説』を中心に、書写の指導の内容と方法を考察し理解する。】
9	読書指導、古典について【学習のポイント：読書指導、古典の学習の意義と方法について考察し理解する。】
10	教材づくりと教材研究について【学習のポイント：「教材」と「教科内容」の区別、また、「教材解釈」と「教材分析」の区別を中心に、何をどう教えるのか、その構造を考察し理解する。】
11	学習指導論について【学習のポイント：「授業」の構造と方法・技術について、教師の「指導言」やふるまい、学習指導案も含めて考察し理解する。】
12	「言語活動」「主体的・対話的で深い学び」について【学習のポイント：国語科において「言語活動」はどのような目的でどのようになされるのか。国語科において「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びであるか、二つのテキストやその他を参考に考察し理解する。】
13	新しい国語科の授業実践について【学習のポイント：アニマシオン、メディアリテラシー、ディベート、スピーチ、パブリックコミュニケーションゲームについて目的、方法、国語科との関連について考察し理解する。】
14	PISA「読解力」と「言語活動」について【学習のポイント：PISA「読解力」の内容と国語科教育との関係、「言語活動」の内容と「思考力・判断力・表現力」と国語科との関係を考察し理解する。】
15	国語科教育の力量形成【学習のポイント：国語科教師としての力量をどう作っていくか、考察し理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

21世紀を生きる力と国語科教育で育てる力の関連について、二つのテキストやその他の文献の内容をもとにして論じなさい。

第2課題

「説明的文章」の学習の目的を明らかにし、その目的に応じた授業方法について二つのテキストやその他の文献の内容をもとにして論じなさい。その際、必要に応じて、教科書教材や自分で用意した短い文章を「教材」として例示し、説明に使いなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

学習の積み重ねを確認することが課題の主目的である。**本科目のレポート作成の際は文献からの知見も必ず引用として用い、テキストのどの部分をどう読み取り、自分の考えや体験などとどうつないだかが分かるようにする（引用情報が全くない場合は不可とする）。**また、テキストとして挙げたもの以外にも自分で調べ、論を充実されることを強く勧める（学びの対象が広くなる）。

第１課題の留意点

学習の積み重ねを確認することが主目的である。「学習テーマ」１～15に則って、文献（指定したテキストはもちろん、できればその他の資料も）の記述を理解し、解釈し、つなぎ合わせ、まとめて、この問いに答えること。「21世紀を生きる力」とは文献にどう書かれ、それらと国語科教育はどうつながるか。どのような方法でどのような力をつけることが望まれているか。「何のために国語科の授業をするのか」をこの課題を通して考えることで、学習内容の理解が深まる。

第２課題の留意点

国語科の教材として「説明的文章」を用いるのは、どのような力をつけるためなのか。そして、そのような力をつけるためには、どのような授業方法が必要なのか。従来の方法との対比などを用いながら、二つのテキストあるいはテキスト以外にも自分で調べ（学びの対象が広くなる）、論じなさい。また、必要に応じて、その方法の説明として、教科書教材や自分で用意した短い文章を「教材」として例示し、説明に使うこと。レポートの大きな目的は、あなた自身が「学習内容」を理解すること。例文など使って、「このような方法がある」と説明することはあなたのテキストなどの読みを確かなものにするはずである。

※「説明的な文章」の教材は、あなた自身が使いやすいと思うもの選ぶこと。その内容は全部書き写す必要はない。要約等で、内容がレポートの読者にわかるようにすればよい。ただし、その教材の「題名」や掲載されている教科書名、出版社などの書誌情報は書くこと。

レポートの評価基準

＜構成について＞

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。（レポートの書き方も習熟する。）

1．序論　このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2．本論　「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3．結論　本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。
4．引用文献　テキストもここに挙げる。また、文献の内容を本文中に入れる際には必ず、「引用」として、引用のページ数なども示すこと。

＜引用について＞

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。（本冊子の「はじめに」を参照。）

本課題では、「理解しているか」「理解するためにいろいろと見渡しているか」の確認に比重をおいている。よって、「あなたのオリジナルの知見」といったことは求めていない。ただし、どこかの文献の丸写しでは、「あなたが理解しているか」「理解しようとしていろいろと見渡したか」の確認ができない。自身で、読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」としてテキスト名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合は、「文献を用いた考察」とは認めない。あくまで、「テキスト履修」の成果を見たいのであるから、**考察に用いた箇所は「引用」として明示すること。**

＜字数について＞

1,800字から2,000字とする。

＜文章について＞

他人に読ませることを意識して、「読みやすい」文章にすること。そのためには、下書きが大事である。論が通っているか、的確に「問い」に答えているかを確認し、また、文が長すぎないか、段落が内容によって区切られているか、なども意識すること。

＜【自筆の場合】文字について＞

他人に読ませることを意識して丁寧に清書していること。漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。特に、将来国語を教えるための科目でもあるので、くせ字などにも注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。具体的に、明確に伝えようとしているか。
・二つのテキスト及び参考文献をよく読んで理解を深めておくこと。特に「到達目標」としてあげた内容について、理解につとめること。「学習テーマ」１～15について、当然ではあるが、学習し内容を理解しまとめておくこと。また、自分が授業を構想して展開することを想定し、各学年の三領域一事項について、それぞれの指導事項、言語活動例を熟読し理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。（的確に「問い」に答えている。）
・具体的に、明確に伝えようとしているか。（的確に読者・採点者に分かりやすく伝えようとしている。）
・テキストやその他の文献の知見をもとにした考えが書かれている。（独りよがりや、その場の思いつきで書かれていない。）

教育現場に立ち、「国語」の授業ができる、その基礎の力を付けるのが本科目の目的である。その力が付いたかを科目修了試験では見たい。そのため、「学習テーマ」にそって、まずはテキストをもとに、さらには他の文献の内容をもとに、自分なりに理解したことを求める。テキスト及び参考文献等をよく読んで理解を深めておくことが何より大事である。
「自分が授業をするとしたらどうか」という視点を持ち、「学習テーマ」の理解に努めているかも見る。

参考文献

・田近洵一　大熊徹　塚田泰彦　『小学校　国語科授業研究』　教育出版
・鶴田清司　河野順子　『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン　小学校編』　明治図書出版
・浜本純逸　『国語科教育総論』　溪水社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20009	科目名[単位数／学習時間]	算数［2単位／90時間］			
テキスト	●赤井利行　『わかる算数科指導法　改訂版』　東洋館出版社					
ISBN	9784491035048	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	25029	
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年７月＞』　日本文教出版					
ISBN	9784536590105	本体価格(円)(2025年1月現在)	224	生協テキストNo.	25030	文部科学省ＨＰよりダウンロード可能
科目担当	竹内　弘明					
実務経験のある教員による科目	中学校・高等学校教員（数学）、県教育委員会指導主事					

科目の目的

学習指導要領に基づき、算数科が目標とすべきことや算数の各学年における指導内容を学ぶ。その際、子どもたちには前後の学年と関連を図りながら理解させることが重要である。そこで、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の５つの領域でとらえられた指導内容について、数学的な視野に立った意義や重視すべきこと（数学的な見方・考え方、知識、技能など）、学年間の関連を明らかにし、教材研究を進めるための基礎的な力を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

小学校算数で学習する内容について、知識・技能に関わる内容だけでなく、どのような数学的な見方・考え方を育てるのか、といったことについてもテキストから読み取り、教材研究を深めることができる。

具体的には、

・算数科の目標…算数教育のキーワードである「数学的活動」「数学的な見方・考え方」について、具体的な事例を考えながら理解を深める。

・算数の５つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」についてテキストを読み、指導する学年、指導内容（数学的な見方・考え方、知識、技能）を明らかにするとともに、学年間でどのように関連しているのか、ということについても調べ、教材研究を深める。

学習テーマ

1	指導要領改訂の経緯やポイントについて調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第１章、およびテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第１章第１節・第２節§１】
2	「算数科の目標」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第２章第１節・第２節１（pp.21-41）、およびテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第１章第２節§２】
3	各領域の内容の外観、および「数学的な見方・考え方」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第２章第２節２（pp.42-75）、およびテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第１章第３節】
4	第１学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第１節､第１学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
5	第１学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第１節、第１学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
6	第２学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第２節､第２学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
7	第２学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第２節、第２学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
8	第３学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第３節､第３学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
9	第３学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第３節、第３学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
10	第４学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第４節､第４学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
11	第４学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第４節、第４学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
12	第５学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第５節､第５学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
13	第５学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第５節、第５学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
14	第６学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第６節､第６学年の目標と内容A･B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
15	第６学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第３章第６節、第６学年の内容C･D･数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

算数における「数学的な見方・考え方」とはどのようなものか、「図形」領域（学年は任意）の具体的な指導例を示して説明せよ。

第 2 課題

算数科において、問題解決学習を取り入れた授業はどのような授業か、またどのようなことに留意する必要があるか、「数と計算」領域（学年は任意）の授業展開を例に説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『わかる算数科指導法』第 1 章第 3 節やテキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第 2 章をよく読んでまとめる。具体的な例は、授業での指導の場面を例として考えること。

第 2 課題の留意点

テキスト『わかる算数科指導法』第 3 章やテキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』をよく読んでまとめる。例としてあげる授業展開も問題解決学習に沿ったものにすること。

レポートの評価基準

テキストからの引用だけでまとめるのではなく、テキストの内容を自分なりに解釈し、具体例を入れて分かりやすい表現で的確に記述できているかについて評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

2 冊のテキストを熟読し、語句や基本概念とともに、各領域や各学年の指導内容におけるポイントを明らかにしておくこと。用語の意味を理解し説明できることや、指導内容についても、その内容の理解と、どのように指導し、理解させていくか、といったことを具体的に説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・試験は論述問題 4 問。
・設題の趣旨を理解し、テキスト内容に沿った説明が正しく記述できているかどうかを中心に評価する。テキストで説明されているものから逸脱していたり、自説のみで述べられていたりする内容については、減点の対象となる。

参考文献

・鈴木将史　『小学校算数科教育法』　建帛社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20010	科目名[単位数／学習時間]	生活［2単位／90時間］			
テキスト	●岡野聡子 『子どもの生活理解と環境づくり 改訂版 就学前教育領域「環境」と小学校教育「生活科」から考える』 ふくろう出版					
ISBN	9784861867484	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25031	
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編＜平成29年7月＞』 東京書籍					
ISBN	9784487287055	本体価格(円)（2025年1月現在）	183	生協テキストNo.	25032	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	山田 希代子					
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）					

科目の目的

子どもと「生活」全般を理解していく。実務経験を活かして教授する。
・豊かな内容と意義をもつ「生活」という概念全体について理解し、現代の子どもの生活環境の課題等について把握し、その改善策について考察する。
・子どもの成長や生活の充実をもたらす「遊び」の意義等について理解し、幼児期・児童期にふさわしい保育環境・教育環境のあり方を実践的に深め、小学校１・２年生「生活科」の基本理解を深める。
・就学前教育・小学校教育（前期）のそれぞれの学びを理解し、子どもにとって「生活科」の学びやカリキュラムの工夫が保幼小のつながりを滑らかにするために大きな役割を果たすことを学ぶことにより実践上の力をつける。

到達目標

「生活」は、多様な意味を含む概念である。人間の日常的な活動や営みの具体的な姿から生命・生存といった生物としての人間の状態や活動に至るまで、広範な意味をもっている。現代の子どもの実態を把握しながら、幼児期・児童期にふさわしい生活を様々な視点から探究し、子どもの豊かな生活や学びをいかに実現していくかについて考える。

学習テーマ

1	就学前教育と小学校教育とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』巻頭言・第1章第1節】
2	幼稚園・保育所と小学校の違い【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第1章第2節1・2・3】
3	幼稚園・保育所と小学校の連携【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第1章第2節4】
4	子ども理解のあり方と子どもの発達【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第2章第1節・第2節】
5	教師と子どもの関係と教師の役割【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第2章第2節4-2)・第3節】
6	自然環境とのかかわり、自然体験の意義と必要性【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第3章第1節・第2節】
7	就学前教育と小学校教育､｢生活科｣における自然観察とは【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第3章第3節】
8	物的環境、身近な素材とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第4章第1節・第2節・第3節】
9	社会環境とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第5章第1節・第2節・第3節】
10	保育・幼稚園教育と生活科との関連【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第5章第2節4幼児期の教育や中学年以降の学習と関わりを見通すこと関連部分 付録6「幼稚園教育要領」第1章総則第1・第2・第3-5】
11	生活科の果たす役割と育てたい力【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第2章第1節教科目標・第2節学年の目標 第4章（4）低学年教育の充実と生活科の位置付け・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連・小学校入学当初に大切にしたいこと・スタートカリキュラムの編成】
12	生活科の環境づくり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第5章第2節2児童の生活圏である地域の環境を生かすこと 5学校内外の教育資源の活用を図ること】
13	生活科と自然環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第3章第2節生活科の内容(5)(6)(7)】
14	生活科と社会環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』第3章第2節生活科の内容(1)(2)(3)(4)】
15	幼児教育と小学校教育の連携のあり方のまとめと確認【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第1章第2節4・全般及びテキスト『小学校学習指導要領解説 生活編』関連部分振り返り】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

接続期カリキュラムについて、その必要性を述べ、就学前教育と小学校教育双方においての具体例をあげて説明しなさい。

第2課題

子どもにとって自然体験はどのような意義と必要性があるのかを述べなさい。また、より豊かな体験とするために保育士・教師としてどのような点に留意すればよいのかを考えて論じなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 1 章第 1 節（pp. 7 -13）、第 2 節（pp.21-32）、第 5 章第 2 節 3 （pp.158-161）、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編』第 4 章 1 （ 4 ）（pp.57-58、61-64）関連部分・第 5 章第 2 節 4 （pp.82-83）関連部分を熟読し、就学前教育と小学校教育の違いと学びのつながりについて理解すること。特に『子どもの生活理解と環境づくり』「表 5 － 4　幼児期の教育と小学校教育の教育課程・教育方法・学びの形態の違い（p.159）」については読み込んでおくとよい。就学前教育と小学校教育の接続を図ることによって生まれる子どもの育ちについて考えることも重要である。小 1 プロブレムについても着目することを忘れないようにすること。

第 2 課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』の第 3 章第 1 節、『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）生活編』第 3 章第 2 節　内容（ 5 ）（pp.38-41）、（ 6 ）（pp.41-43）関連部分に書かれていることを熟読し、自然とかかわることで子どもはどのようなことを学ぶのかを理解すること。その上で、自然とのかかわりが少なくなった現代の子どもたちにとって、より豊かな自然体験とするために、保育士や教師がどのような点に留意すればよいのかについて説明すること。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、子どもを取り巻く社会の変化に関心をもち、テキスト学習により得た基本的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れ、いかに的確に論述できているのかで評価する。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・インターネット等から引用した場合は「　」でくくり、書名・著者名・出版年・出版社名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。参考文献についても書名等明記すること。
・「はじめに」「本論」「おわりに」など適切に章立てや段落を設定し、主語述語のねじれや誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。
・本学所定レポート用紙を使用する場合は、 5 枚は必ず記述すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』全体が出題範囲であるため、熟読すること。
・子どもと「自然環境・社会環境」とのかかわり、子どもにとって「遊び」や「自然体験活動」の意義とそれが子どもの成長にもたらすものを深く理解しておくこと。
・常に子どもを取り巻く環境の急激な変化を注視し、それらが子どもの生活にどのような影響を与えるのかについて考えるようにすること。
・就学前教育と小学校教育の連携がなぜ必要で、どのような連携の方法があるかについても理解を深めておくこと。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者・教師としてのかかわりを考えながら読み込み、指導上の留意点についても確認しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、テキストに書かれていたキーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。その際の段落の設定についても評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
・漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。

参考文献

・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的ビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園　教育・保育要領＜原本＞』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20011	科目名[単位数／学習時間]	社会［2単位／90時間］			
テキスト	●宮崎猛　吉田和義　『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』　教育出版					
ISBN	9784316804682	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25033	
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編＜平成29年3月＞』　日本文教出版					
ISBN	9784536590099	本体価格(円)（2025年1月現在）	142	生協テキストNo.	25034	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	小林　昌人					
実務経験のある教員による科目	公立小学校長					

科目の目的

この科目は、社会科の授業を担当する際に、直接かつ具体的に役立つことを第一としている。先ず、小学校における社会科教育の成立過程、目標構造や内容構成の特色、学習指導法、評価の視点と方法等について原則的なことを概観する。次に、児童の発達段階に応じた適切な学習指導方法、カリキュラム編成、単元構成、評価の工夫などを習得する。それらを基盤に、時代の要請や社会科の本質を踏まえ、変化する眼前の子ども達に柔軟に対応することができる指導力の育成を目指している。小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

先ず、社会科が戦後新設されるまでの経緯を含め、その時代の政治的・社会的状況を敏感に反映しながら変遷してきたことを理解しなければならない。次に、日本における社会科の成立、その後の学習指導要領の改訂に伴う社会科の変遷、民間教育研究団体の主張等を学ぶ。さらに、小学校社会科の内容構成、学習形態、教材・教具の工夫のあり方等について考察し説明出来るようにする。最後に、具体的な授業作りの理論と方法、指導案の作成、評価の方法等の学習を通して社会科授業のあり方を考察し実践力を身につけなければならない。

学習テーマ

1	社会科教育の歴史①【学習ポイント:日本における社会科の成立を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎･理論･実践　新訂版』pp. 4 - 5 ＞】
2	社会科教育の歴史②【学習ポイント：日本における社会科教育の展開（第1次改訂～第8次改訂の内容）を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp. 6 -14＞】
3	小学校社会科学習指導要領の特徴①【学習ポイント：学習指導要領改訂の基本的方向性を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.16-17＞】
4	小学校社会科学習指導要領の特徴②【学習ポイント：社会科の目標を理解する。＜テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』pp.17-28＞】
5	小学校社会科学習指導要領の特徴③【学習ポイント：改訂のポイント、教科目標、各学年の目標、内容と内容の取扱いを理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.18-24＞】
6	授業づくりの方法・技術と理論①【学習ポイント：授業づくりのプロセスと社会科の目標を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.36-42＞】
7	授業づくりの方法･技術と理論②【学習ポイント:社会科の学習過程について、基本的なことを理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.43-45＞】
8	授業づくりの方法・技術と理論③【学習ポイント：学習形態、指導技術について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.46-51＞】
9	各分野の学習指導の展開【学習ポイント：社会科学習指導の基盤について理解する。地理的内容や歴史的内容、公民的内容の学習指導のあり方を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.52-65＞】
10	指導計画と学習指導案①【学習ポイント:年間指導計画について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎･理論･実践　新訂版』pp.66-69＞】
11	指導計画と学習指導案②【学習ポイント：学習指導案の作成について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.70-79＞】
12	評価の理論と方法①【学習ポイント：評価の意義と種類を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.80-81＞】
13	評価の理論と方法②【学習ポイント:学習指導要領と評価について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎･理論･実践　新訂版』pp.82-84＞】
14	評価の理論と方法③【学習ポイント：評価の方法について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.85-90＞】
15	授業づくりの実際【学習ポイント：小学校の実践例から具体的な授業づくりについて理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.92-115＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

評価の理論と方法について、次の3つの視点から述べなさい。
①行う時期により分類される3種類の評価について
②指導と評価の一体化について
③評価の方法について

第 2 課題

小学校社会科において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業作りにどう取り組むのかを述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・どの時期に、どのような評価が適切であるのかを考え、具体的に説明すること。
・何のために評価を行うのかが分かるような内容であること。
・評価の方法について、できる限り具体例を交えて述べること。
・学習指導要領で評価がどのように位置づけられているのかを理解しておくこと。
・テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』第 2 部第 4 章「評価の理論と方法」、第 3 部実践編第 1 ～ 4 節を参考にすること。

第 2 課題の留意点

・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要とされる背景を理解した上で書くこと。
・小学校社会科授業における「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びや学習活動なのか、説明できること。
・テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』第 3 部実践編での授業例などを参考にして、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業像について具体的に述べること。
・テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』第 1 部第 1 章第 3 節 9 、第 2 部第 1 章第 1 ・ 3 節、第 3 部実践編第 1 ～ 4 節を参考にすること。

レポートの評価基準

・レポートの作成にあたっては、「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。また、引用文、参考文献の明示を必ず行うこと。
・題意を正しく捉え、構成が明確で具体的、かつ論理的に書かれていること。
・文献の引用などは適切であるか。それに対して自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての姿勢・考えが明確に結論づけられているか。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめること。
・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気をつけ、読み手を意識して丁寧に作成されていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておくこと。特に、テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』（第 1 部第 2 章、第 2 部第 1 ・ 3 ・ 4 章）、『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』（第 1 ・ 2 章）については十分理解しておくこと。
・テキストの内容に基づかず、自分の考えばかりを書いても評価しない。テキストの内容を踏まえた上で自分の考えを論じること。
・文章全体が長過ぎると、何を言いたいのかが分かりにくくなる。小見出しや番号を付けるなどの工夫をし、出来るだけ短い文章にまとめること。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・設題の趣旨を理解した上で、論理的に記述されていること。設題の趣旨から逸脱し、自分の考えだけを展開しないこと。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字にも気を付けること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20013	科目名[単位数／学習時間]	家庭［2単位／90時間］			
テキスト	●大竹美登利　倉持清美　『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』　萌文書林					
ISBN	9784893473097	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25036	
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編＜平成29年７月＞』　東京書籍					
ISBN	9784487287062	本体価格(円)（2025年1月現在）	156	生協テキストNo.	25037	文部科学省ＨＰよりダウンロード可能
科目担当	山口　香織					
実務経験のある教員による科目	公立高等学校教諭（家庭）					

科目の目的

社会の影響を受けて変化する家族・家庭生活を主たる対象とする家庭科教育の理論について学ぶ。具体的には、小学校家庭科の意義や教科の目標・内容をふまえ、小学校家庭科を指導するために必要な家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境についての知識を理解する。また、家庭科では、実践的・体験的な学習が重視されている。小学校家庭科の学習内容を実際にやってみることで、家庭科が実技科目であることを実感するとともに、実習指導に必要な基礎的な技能の習得を目指す。さらに、これまでの自分の生活を見直し改善することによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする態度を身につけたい。

到達目標

・平成29年告示の『小学校学習指導要領』で示された小学校家庭科の内容および改訂の要点について説明することができる。
・現在の子どもの家庭生活の問題点と結び付けて、小学校家庭科で取り上げたい題材を考えることができる。
・小学校家庭科を指導するために必要な知識及び技能を身に付けることができる。
・調理の基礎や調理実習指導での留意点について考えることができる。
・「食育」、「家族・家庭に関する教育」、「消費者教育」が重視されている理由について、現在の社会状況に照らして考えることができる。
・衣食住・消費と連携した環境学習について考えることができる。

学習テーマ

1	学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、小学校家庭科の改訂の趣旨及び要点
2	家庭科の目標と内容、指導計画の作成と内容の取扱い
3	家庭科の歴史と意義＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.10-23＞
4	家族・家庭生活①　家庭生活と家庭の仕事、生活時間＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.24-40＞
5	家族・家庭生活②　家族の現状と心理的機能＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.41-50＞
6	食生活①　食生活の課題と食事の役割､日常食の大切さ＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.51-64＞
7	食生活②　栄養を考えた食事と調理の実際＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.65-81＞
8	食生活③　調理実習（ゆでる・炒める）
9	衣生活①　衣服の着用と手入れ＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.82-102＞
10	衣生活②　布を用いた製作学習＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.103-122＞
11	衣生活③　布を用いた製作実習（手縫い教材：並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）
12	住生活①　住まいの働きと役割、室内環境とその調整＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.123-136＞
13	住生活②　住居の管理＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.137-144＞
14	消費生活・環境①　収入と支出、賢い消費者＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.145-157＞
15	消費生活・環境②　環境に配慮した消費や生活＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.158-163＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第１課題

「生活を豊かにするための布を用いた製作」における手縫い学習のオリジナル教材を考案・製作し、次の（１）～（３）の内容について記述しなさい。使用する布は、フェルトなど小学校家庭科で使用するのに適した素材とし、ミシンは使用せず手縫いのみで製作するものとする。最終ページには、完成した教材の写真（表・裏）を添付してください。
（１）学習のねらいと内容
（２）必要な材料と作製手順（布の特徴を含む）
（３）製作のポイントと指導上の留意点

第２課題

小学校家庭科において、食生活と健康をテーマにした授業構想を述べなさい。食育を推進するための指導内容や具体的な活動例を挙げ、児童に育成したい資質・能力について論じなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.103-120の「 3 .布を用いた製作学習」と『小学校学習指導要領解説　家庭編』「衣生活」pp.53-57、「 3　実習の指導」pp.81-83の内容を熟読し、学習内容と効果的な指導法について理解する。

（ 1 ）は、児童が生活を豊かにするための布を用いた製作を学ぶ意義を考え、学習のねらいと内容について述べる。なお、手縫いの基礎的な技術が習得できるような独自の教材を考案すること。

（ 2 ）は、使用する布の特徴や用具の取扱い方について述べる。製作手順（作り方）については、文章のみの記述でもよいが、図やイラスト、写真等を用いた分かりやすい内容でまとめることを推奨したい。目的に応じた縫い方など縫製に関する知識や技能を明記していることが評価のポイントである。また、教材については、実際の小学校家庭科の教科書（例えば、参考文献『新しい家庭　5 ・ 6 』pp.28-31）を参考にするとよい。インターネットや参考図書から引用する場合は、必ず出典を明記すること。

（ 3 ）は、テキストや小学校学習指導要領解説の該当箇所を熟読し、製作実習を伴う授業について、指導計画を作成するうえで大切な視点や指導上の留意点をおさえる。

完成した作品は、形状や縫い目がわかるように**拡大で撮影（表・裏）**し、レポートに添付する。（プリント写真の場合は、裏面に学籍番号と名前を記載し両面テープでしっかりと貼り付けること。）

第 2 課題の留意点

- テキストの内容を熟読し、小学校家庭科の目標や内容を理解すること。
- 学習指導要領や解説書を参照し、家庭科における「食育推進」の意義を明確にする。
- 授業構想では、具体的な教材名（例：「買物の達人になろう！」）を示し、学習指導案の立案を想定してまとめると良い。ここでの「教材」とは、小学校家庭科の題材（単元）のことを意味している。
- 現在の子どもが抱える生活課題（例：偏食、食品ロス、健康問題など）を取り上げ、それに対する家庭科教育の社会的・教育的意義を述べる。
- 学習指導案には、児童が主体的に取り組める工夫や評価方法を含める。
- 独自の授業を考える際、テキストや関連図書、インターネットから授業実践例を探して参考にしてもよいが、テキストやインターネット等にある学習指導案等をそのまま写したレポートは評価しない。
- 参考にした学習指導案がある場合は、出典ならびに参考にした部分を必ず明記すること。

レポートの評価基準

次の 9 点を評価基準とする。

- 2 冊のテキストを精読の上で、参考文献などの情報を吟味して課題に取り組み論述している。
- 課題の意図を的確に捉え、必要な内容を過不足なく述べている。
- 「生活を豊かにするための布を用いた製作」の目標や内容、教材に求められる要件など、正しく理解していること。（第 1 課題）
- 製作の指導に必要な基本的な知識・技能を有しているか、また、指導上の留意点をおさえているかについて評価する。（第 1 課題）
- 論旨をつかみ、レポート形式に従って、自分の考えを的確かつ筋道を立ててまとめている。
- 文書構成、図や表等を用いた表現力など、見やすさや伝わりやすさを評価する。
- 原稿用紙 5 枚程度の文字数で、主語と述語の関係などに留意し、誤字脱字がなく、また適切な文章表現ができていることを評価する。
- テキストの文言やインターネット等にある学習指導案をそのまま写したレポートは評価しない。
- 参考にした学習指導案や文献がある場合は、出典ならびに参考にした部分を必ず明記すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』には、家庭科の内容について全般的な知識がまとめられているが、やや専門的な内容も含まれる。しっかりと読み込んで内容理解に努めること。わからない文章や言葉があれば、キーワードを手がかりに、辞書や教育関連の文献、インターネットなどで調べて理解を深める学習態度が必要である。また、答案は800字以上の文字数を必要とし、問いに対して理論と実践（経験や考え）の両側面から具体的に述べることが重要である。

科目修了試験の評価基準

テキスト学習により得た基礎的な知識を踏まえたうえで、小学校家庭科の内容と関連づけて作成された答案を評価する。また、設題内容を正確に理解し、自分の経験や感想だけの記述に終わらずに論拠が示されているかどうかを評価する。

答案は、常識的な大きさの文字で書かれ、**800字以上**に及んでいることを前提として評価する。

参考文献

- 渡瀬典子　倉持清美　萬羽郁子　藤田智子　『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』 萌文書林
- 『新しい家庭　5 ・ 6 』 東京書籍

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20014	科目名［単位数／学習時間］	体育［1単位／45時間］		
テキスト	●松田恵示 『「遊び」から考える体育の学習指導』 創文企画				
ISBN	9784864130844	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	25038
科目担当	田中 聡				
実務経験のある教員による科目	教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				

科目の目的

生涯スポーツの一環であるこれからの小学校体育における学習指導を考える際の重要な点は、「運動の楽しさ・喜びを味わうこと」と「指導内容が確実に定着すること」が、表裏一体として実現することである。本科目では、以上のような体育授業を実践するための基本的な考え方をテキスト第Ⅰ部理論編の精読により理解すること、そして、体育授業における教材作りとその学習指導の在り方の具体について、テキスト第Ⅱ部展開編より学んでいくことを目的とする。

到達目標

・体育授業が子どもたちにとって主体的な活動になるための原理を理解する。
・体育授業での教材づくり、場づくりの考え方を理解する。
・体育授業での学習過程の考え方を理解する。
・体育授業での「グループ学習」の意味について理解する。

学習テーマ

1	体育になぜ「遊び」の視点が必要なのか【テキスト第Ⅰ部－1＜体育と「遊び」＞を理解する。】
2	体育に対する“思い込み”による認識を疑う【テキスト第Ⅰ部－2＜「ものの見方」と体育の考え方＞を理解する。】
3	「運動の特性」の概念について知る【テキスト第Ⅰ部－3＜「運動の特性」と学習観＞を理解する。】
4	体育における運動教材づくりを考える【テキスト第Ⅰ部－4＜なぜ、子どもにやさしい教材を開発する必要があるのか＞を理解する。】
5	子どもが主体的に活動する教材づくり・場づくりについて【テキスト第Ⅰ部－5＜教材づくり・場づくりを工夫しよう＞を理解する。】
6	子どもが主体的に活動する学習過程について【テキスト第Ⅰ部－6＜「やってみる」「ひろげてみる」「ふかめる」という体育の学習過程＞を理解する。】
7	体育授業と学級経営の関係について考える【テキスト第Ⅰ部－7＜アクティブ・ラーニングと集団づくり・学級経営＞を理解する。】
8	体育授業におけるグループ学習について【テキスト第Ⅰ部－8＜グループ学習の現代的意味＞、9＜グループ学習の考え方・進め方＞を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

全ての子どもが同じく主体的に活動できる体育授業づくりに関する考え方について、「第1課題の留意点」に示される3つの観点により、テキストに記述されている内容をさらにわかりやすく説明、あるいは論評する形で記述しなさい。

第1課題の留意点

レポート作成に関して、次の3点について、テキスト内容を理解した上で説明・論評することとする。
①運動を「運動の世界」と捉えることの意味
②体育授業における場づくり・教材づくりでの留意点
③学習過程（学習のみちすじ）の考え方
この①②③の各観点について述べる際には、第Ⅰ部の特に第Ⅰ部1～6の各章で述べられていることを理解した上で、以下のキーワードを必ず入れ、そのキーワードの意味について、テキストの示すところをわかりやすく説明・論評すること。この記述の際、「レポートの評価基準」を熟読すること。
①については、「運動の世界」（第Ⅰ部4参照）
②については、「子どもに運動をあわせる」「できるかできないかの面白さ」（第Ⅰ部5参照）
③については、「やってみる」「ひろげてみる」「ふかめる」（第Ⅰ部6参照）
※なお、①～③を論述するにあたっては第Ⅰ部1～3の理解も必要になることを補足する。

レポートの評価基準

次の2点をレポートの評価基準とする。
・「第1課題の留意点」で示した①～③の各観点についての記述がなされている。
・テキストで示されている各キーワードの概念を正しく理解し、説明・論評されている。
以上の評価基準に満たないレポート（レポートの内容がテキストのほぼ丸写し・抜書き、テキスト内容の理解不足、キーワードが使用されていない、キーワードの概念の理解不足、等）は再提出とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、「学習テーマ」1～8のいずれかのテーマと、その対象となっているテキストの章を取り上げ、その内容が理解されているかについて問う。テキスト文中での専門的な用語の意味を曖昧にせず、理解できるまで精読しておくことが合格への早道である。テキストは、子どもの運動、遊びといった行為にテキスト著者の価値観が反映された記述になっているので、テキストの内容を知らずに、一般論や受験者個人がその場で考えた内容を解答として記述しても、まず合格はできないと考えてほしい。レポート課題を提出するために読んだところ以外も精読すること。

科目修了試験の評価基準

「学習テーマ」1～8のいずれかを取り上げ、対象となっているテキストの章で述べられている主旨に関する論述問題を出題する。その上で次の観点で評価する。

・出題元となっている章全体の趣旨を理解していると判断される文章表現となっていること。

この観点から論述を総合的に判定する。論述文のボリュームは、解答用紙表面の2/3程度以上の記述を目安とする。テキストの内容の理解不足や、テキストの内容を踏まえない自身の感想・意見・主張のみとなっている記述は不合格とする。

参考文献

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年7月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20017	科目名[単位数／学習時間]	児童心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●櫻井茂男　濱口佳和　向井隆代　『子どものこころ　児童心理学入門　新版』　有斐閣					
ISBN	9784641220119	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25039	
科目担当	吉田　絵美					
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー、心理判定員					

科目の目的

児童心理学は、生得的要因と環境的要因という2つの要因を取り上げて研究を進めている。担当者も日々のスクールカウンセリングのなかで実践しているが、この2つの要因が如何にして子どもの生理的・心理的発達に影響するかを理解することは必須である。この考え方をもとに、育児や教育において先生や親が陥りやすい失敗や困難を知り、それを克服するための知識と技能を提供するのが児童心理学の目的である。

到達目標

子どものとらえ方や子どもの時代の特徴等を理解し、まずは子どもに対するイメージを豊かにすること。次いで、身体と運動・ことば・知性・動機づけ・感情・パーソナリティ・人間関係・思いやり・性の問題等、子どもの心身の発達の基礎を学習し理解する。その上で、学校のみならず家庭でも起こりうる、子どもの心理臨床的問題やその対処法についても広く学び修めることを目標とする。

学習テーマ

1	子どもをどうとらえるのか【学習のポイント：児童期の発達特徴や発達の原理を学ぶ。】
2	現代に生きる子どもたち【学習のポイント：現代の子どもを取り巻く状況とその影響を考える。】
3	からだと運動の発達【学習のポイント：発達加速現象と運動能力の不整合やストレスを考える。】
4	ことばの発達【学習のポイント：書きことばと作文能力の発達を中心に学ぶ。】
5	知的能力の発達【学習のポイント：知能・思考・創造性・学力について考える。】
6	認知と思考の発達【学習のポイント：記憶した情報をもとに思考していく力の仕組みを学ぶ。】
7	動機づけの発達【学習のポイント：人はどのようにして“やる気”ないし“無気力”を得るか。】
8	自己概念とパーソナリティの発達【学習のポイント：“自分とは何か”の芽生えを考える。】
9	人間関係の発達【学習のポイント：親子関係（愛着）から展開する対人関係の広がりを学ぶ。】
10	社会性の発達【学習のポイント：向社会的行動の発達とそれを支える要因について学ぶ。】
11	性の発達【学習のポイント：性同一性と性役割の発達について考える。】
12	子どもの心理臨床【学習のポイント：子どもや保護者、そして周辺への援助について考える。】
13	不登校と非行といじめ【学習のポイント：子どもの不適応行動のメカニズム理解を深める。】
14	児童虐待とPTSD【学習のポイント：環境要因から子どもに与えられる重篤な傷を理解する。】
15	神経発達障害【学習のポイント：一人ひとりのもつ発達のかたよりを正しく理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの動機づけについて説明し、より効果的な学習について考察せよ。

第2課題

子どもを取り巻く人間関係について詳述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

まずは、動機づけに関する諸理論を学習し、基礎を理解することが求められる。その理解をもとに、より効果的な学習について自身の意見を展開してほしい。テキストを中心によく学習し、諸知見の間にある有機的な結びつきを意識しながらまとめること。

第2課題の留意点

テキストを中心によく学習し、家族関係や仲間関係、教師との関係による子どもの発達の特徴に関する知識と理解を広く得ること。そのなかから、特に重要な事柄を整理して記述すること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の4点を評価基準とする。

・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、子どもの発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキスト学習をすることで得た学術的見地からの記述を求める。特に、テキスト第4章「ことばでうまく伝えたい」、第5章「『頭がいい』ってどういうこと」、第8章「自分をよく知りたい」、第10章「人のために何かしたい」、第11章「あの子が好きだ」、第14章「お父さんが怖い」に紹介されている知識は必ず習得すること。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20018	科目名[単位数／学習時間]	幼児心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●岡本夏木 『幼児期 子どもは世界をどうつかむか』 岩波書店					
ISBN	9784004309499	本体価格(円)（2025年1月現在）	880	生協テキストNo.	25040	
科目担当	吉田 絵美					
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー、心理判定員					

科目の目的

現代の子どもは、社会の情報化と能力主義を反映して「何でも一人で早くできること」をより求められるようになった。スクールカウンセリングを行うなかで、定型外の発達や問題行動について考えるとき、まずは定型発達を理解することが必須であることを日々実感している。本科目では「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つを取り上げる。子どもが自分を取り巻く世界に踏み出すための発達的基礎が幼児期にこそ培われることを理解し、その理論と実践を習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

これからの社会を生きていく子どもにとって、幼児期に何を育てておくことが必要か。その答えを「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つの観点から理解する。

①「しつけ」では、規範の教え込みとしてだけ見るのでなく、「自己実現」と「他者の関与」という生きる基本として、「しつけ」の意味を理解する。

②「あそび」では、現実社会への適応準備のみが強調されてはいるが、あそび本来の性質をどう取り戻すかに焦点を当てて学ぶ。

③「表現」では、今日、自己表現ができない子どもが増えているが、幼児期からの「表現」ということが人間にとって持つ意味を学ぶ。

④「ことば」では、現在の大人社会でも「ことば」の問題を抱えている。その原因の1つとして、幼児期における言語教育を検証する。

学習テーマ

1	「しつけ」再考【学習のポイント：しつけのもつ本来的な意味を問い直す意義を考える。】
2	「自己の実現」と「他者の関与」【学習のポイント：しつけのあり方を見直す必要性を理解する。】
3	愛する者と生きる【学習のポイント：しつけの基盤となる愛着関係の重要性を理解する。】
4	しつけと知的発達【学習のポイント：しつけの中で獲得する知的能力を学ぶ。】
5	遊びと発達【学習のポイント：遊びと諸機能発達の相互作用について考えを深める。】
6	遊びの身体性【学習のポイント：子どもが世界を掴む出発点としての遊びと身体性を理解する。】
7	象徴遊び【学習のポイント：象徴機能と言語の発達をもとに展開される遊びについて学ぶ。】
8	遊びの中のルール【学習のポイント：“遊びの倫理”の獲得とそれを遵守した遊びの重要性を学ぶ。】
9	遊びと文化【学習のポイント：幼児期における子どもの遊びと文化、大人の関与の影響性を考える。】
10	生きる証しとしての表現【学習のポイント：子どもの個性を育む表現と自己表現について学ぶ。】
11	表現の過程と表現されたもの【学習のポイント：表現されるまでの内的過程と表現後の自己変容。】
12	イメージと表現【学習のポイント：概念化と柔軟なイメージ及び表現性発揮の両立を考える。】
13	行動とことば【学習のポイント：ことばと行動の循環について理解を深める。】
14	自分に向けてのことば【学習のポイント：自己の発達と自分に向かうことばの影響を考える。】
15	出来事の意味づけ【学習のポイント：ことばの発達と物語化の重要性を学ぶ。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期における「しつけと知的発達」について論述しなさい。

第2課題

幼児期における「イメージと表現」について論述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストⅠ章6節「なぜ『しつけ』かーしつけと知的発達」を熟読してから論述しなさい。

第2課題の留意点

テキストⅢ章4節「なぜ『表現』かーイメージと表現」を熟読してから論述しなさい。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の 4 点を評価基準とする。

・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、幼児の発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。また、幼児期における以下の発達を十分理解しておくこと。

テキストの「『自己の実現』と『他者との関与』」（Ⅰ章 2 節）、「遊びの中のルール」（Ⅱ章 4 節）、「遊びと文化」（Ⅱ章 6 節）、「表現の過程と表現されたもの」（Ⅲ章 2 節）、「行動とことば」（Ⅳ章 1 節）、「自分に向けてのことば」（Ⅳ章 3 節）。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20019	科目名[単位数／学習時間]	学習心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●多鹿秀継 『学習心理学の最先端 学びのしくみを科学する』 あいり出版					
ISBN	9784901903042	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,900	生協テキストNo.	25041	
科目担当	小川内 哲生					

科目の目的

一昔前の学習心理学は、ネズミ（あるいは他の小動物）の行動の仕組みを明らかにし、その行動（学習）過程を包括的に説明する理論を打ちたてようとしていた。今日では、学習心理学のとらえ方が一変し、認知心理学を始めとする多様な視点から、様々な学習過程の特徴を理解するようになった。本科目では、古典的な学習心理学から学校における学習まで、学習心理学を幅広く学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から学習を捉えていくことを目的とする。

到達目標

学習の定義として、（1）経験による比較的永続的な行動の変容（最も古い定義）、（2）経験による知識の獲得過程（やや古い定義）、（3）経験による知識の構成過程（最近の定義）、などが知られている。テキストは、学習の古典的な研究（動物の学習）、動機づけ、記憶、思考、学校学習、コンピュータ利用の学習などで構成されている。中には、比較的最近になって研究が進展した教育実践と結びついた学習の領域も含まれている。学習の理解を広めるものとして、様々な領域に関係する学習心理学を理解する。

学習テーマ

1	学習の概念について【学習のポイント：学習心理学における学習の概念を理解する。】
2	学習の理論について【学習のポイント：学習の基本的な理論を理解する。】
3	連合説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する行動主義心理学を理解する。】
4	認知説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する認知心理学を理解する。】
5	学習の方法について【学習のポイント：学習曲線と学習方法を理解する。】
6	学習の転移について【学習のポイント：学習の転移の概念と規定要因を理解する。】
7	学習と動機づけ【学習のポイント：動機づけの理論と特徴を理解する。】
8	記憶について【学習のポイント：記憶の研究を理解する。】
9	思考について【学習のポイント：思考の中で、問題解決と推理を理解する。】
10	読解について【学習のポイント：読み書きの心理学を理解する。】
11	数概念について【学習のポイント：数概念を理解する。】
12	熟達者の学習について【学習のポイント：熟達者と初学者の対比を通して、知識の獲得を理解する。】
13	授業の学習心理学について【学習のポイント：授業の諸理論を理解する。】
14	コンピュータと学習について【学習のポイント：学習におけるコンピュータ利用を理解する。】
15	学習障害について【学習のポイント：学習障害の概念を理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

動機づけと学習との関連について動機づけに関わる様々な要因から説明するとともに、子どもの学習への動機づけを育むために教師はどのように関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

第2課題

授業における学習理論（学習指導法）にはどのようなものがあるか説明するとともに、子ども達が意欲を持ち、一人ひとりが理解できるような授業を展開するために教師が工夫すべき点としてどのようなことが挙げられるか、具体例を含めて自分の考えを簡潔にまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

動機づけとは何か、動機づけに関わる要因としてどのようなものがあるかについてテキスト第5章「動機づけと学習」pp.50-61や参考文献等を参考にしてまとめると良い。それを基にして教師の立場から子どもの学習への動機づけを育むにはどうすれば良いかについて、テキスト等の丸写しではなく必ず自分の言葉でまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第12章「授業における学習理論」の2.授業における学習理論（学習指導法）pp.134-141を参考にしてまとめると良い。それを参考にして教師の立場からより良い授業を実践するために教師が工夫すべき点について具体例を示しながら自分の言葉でまとめること。

レポートの評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。特に第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 7 章、第12章、第15章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。
答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

第 1 課題の参考文献
・伊藤崇達 『やる気を育む心理学』 北樹出版
・中谷素之 『学ぶ意欲を育てる人間関係づくりー動機づけの教育心理学ー』 金子書房
・上淵寿 大芦治 『新 動機づけ研究の最前線』 北大路書房
第 2 課題の参考文献
・伊藤康児 榎本博明 藤森進 『教育に生かす心理学』 北大路書房
・多鹿秀継 竹内謙彰 『発達・学習の心理学』 福村出版
・武田明典 『教師と学生が知っておくべき教育心理学』 北樹出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20020	科目名[単位数／学習時間]	健康心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●荒木紀幸　倉戸ツギオ　『健康とストレス・マネジメント　学校生活と社会生活の充実に向けて』　ナカニシヤ出版					
ISBN	9784888487320	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25042	
科目担当	古川　心					
実務経験のある教員による科目	臨床心理士、公認心理師（保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、病院臨床、指定大学院附属相談室での臨床心理活動）					

科目の目的

本科目では人間の健康を取り巻く問題を総合的、実践的に取り扱う。まずウェルネスの立場から心の健康を扱い、セルフ・エスティーム（self-esteem）の育成の重要性を指摘する。また健康を阻害する要因であるストレスや不安のメカニズムと適応機制について考える。次いで学校における自尊感情の育成プログラムや子どもの攻撃性を低減する教育実践を示す。実務経験のなかで携わってきた、学校教育の中で子どものウェルネスを保ち、育てるためのストレス・マネジメント（開発的・予防的）教育の実際的な方法を教授する。そして企業や職場における健康教育の取り組みを知る。

到達目標

テキストでは、ウェルネス、ストレス・マネジメント、ラザルス（Lazarus）の認知的なストレス理論、学校内不安、自尊感情をキーコンセプトとして、幅広い年齢や場面に適用できる具体的な実践をできるだけ多く取り上げている。この場合、ストレス・マネジメントを実際に体験することが重要であるので、各自がリラクゼーションや自律訓練法、呼吸法を実践して、どんなものか、どのようにすればよいか、など確かめてほしい。テキストには、実際に教室で行った教育プログラムをいくつも具体的に紹介しているので、ストレス・マネジメント教育を進める参考にしてほしい。カウンセリングや応用行動分析療法、精神分析等についても参考書を通して学習してほしい。なお、参考文献については各章の引用文献一覧なども参考に、自ら探究してほしい。

学習テーマ

1	健康心理学について【学習のポイント：健康心理学とは何か、その特徴を把握する。テキスト第1章】
2	情動知能とストレス・マネジメントについて【学習のポイント：情動知能とはどのようなものかを把握する。そしてそれを高めるための実践研究にふれることを通して、情動知能を高める健康教育が、ストレス対処の基礎となる能力を高めることにつながることを理解する。テキスト第1章】
3	自律的でセルフ・エスティームに満ちた性格形成について【学習のポイント：子どもたちの心身の健康にとって、性格としてのセルフ･エスティームを適切に教育していくことが重要であることを､実践研究から学び取る。テキスト第2章】
4	自律的でセルフ・エスティームに満ちた性格形成のための総合的教育プログラムについて【学習のポイント：プログラム目標達成の中心となるさまざまな理論および技法について知る。テキスト第2章】
5	攻撃性適正化への総合的教育プログラムについて【学習のポイント：このプログラムの教育目標と期待効果について把握する。テキスト第3章】
6	攻撃性適正化教育プログラムの具体的方法について【学習のポイント：このプログラムの具体的方法と実践について、具体例を通して把握する。テキスト第3章】
7	子どものウェルネス（総合的健康）を守ることについて【学習のポイント：ウェルネスという概念を把握し、ストレス・マネジメントの必要性の観点を明確にする。テキスト第4章】
8	ストレス・マネジメント教育について【学習のポイント：開発的ストレス・マネジメント教育と予防的ストレス・マネジメント教育の違いを把握し、両方の実践研究を通して、それぞれの長所、問題点に目を向け、子どものウェルネスを守る、より実践的な教育について探索する。テキスト第4章】
9	ウエルライフについて【学習のポイント：小・中・高校生の学校生活充実検査（ウエルライフ）とは何のために作られた尺度であるかを把握する。テキスト第5章】
10	小・中・高校生活ウエルライフ（充実）検査について【学習のポイント：各々の検査の内容と検査実施から得られた知見を把握する。各年代によるこの検査の活用法の違いなどにも目を向ける。テキスト第5章】
11	生きる力、自尊感情とストレス・マネジメント教育との関連について【学習のポイント：「生きる力」を支える自尊感情を高める効果があるとされるストレス・マネジメント教育の実際にふれ、その効果を考察する。テキスト第6章】
12	授業の中で自尊感情を育てることについて【学習のポイント：学校生活の大半を占める教科授業のなかで、どのようなことに留意すれば自尊感情を育てることができるのか、実践研究を通して考察する。テキスト第6章】
13	職場におけるストレス・マネジメントの取り組みについて【学習のポイント：職場におけるメンタル・ヘルス・ケアの実態を把握し、一次予防が重視される背景をしっかりとおさえる。テキスト第7章】
14	職場におけるストレス・マネジメントの実際について【学習のポイント：テキストで取り上げている、職場の人間関係を改善させる方法として用いられることが多い、アクティブ・リスニングとアサーション・トレーニングについて理解を深める。テキスト第7章】
15	ストレスとストレス･マネジメントについて【学習のポイント:ストレスとは何かについて、あらためて認識し、誰にとっても日常的に避けがたいストレスとどのように付き合っていけばよいのかについて探る。テキスト第8章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

自律的でセルフ・エスティーム（self-esteem）に満ちた性格の形成を目指す教育プログラムの実践について、具体的な内容を示し、その効果と課題について考察しなさい。

第 2 課題

子どもたちに求められる「生きる力」を育むために効果があると考えられ、取り組まれているストレス・マネジメント教育の実際について調べ、具体的な実践内容やその効果を示し、考察しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

まず、心身の健康と性格の関連性について考察し、こうした教育プログラムの必要性を十分理解したうえで、実際の教育現場の実践活動に触れ、結果をまとめるだけでなく、その課題や今後の可能性についても自身の考えを述べて欲しい。

第 2 課題の留意点

まず、これからの子どもたちに求められる「生きる力」とはどのような能力であるかを考察し、それを高めるためのストレス・マネジメント教育の及ぼす効果について、具体的実践例を調べて得た自身の考えを述べてほしい。

レポートの評価基準

・課題についてテキストや他の文献や資料から学んだ内容をふまえて、自分なりの考え、意見、問題提起等を論述できているかについて評価する。
・次の 3 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、他の参考文献などにも広くあたり、課題に即した内容について論述している。
②引用文献の明示など、基本的なレポートの書き方を習熟した上で作成している。
③誤字脱字がない文章である。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを隅々までよく読んで理解を深めること。文章だけでなく、必要に応じて挿入されている図や表、グラフ、具体的な教材例なども、理解を助けるものとして、必ず目を通し活用してほしい。流し読みで対応できるような設題ではない。また、テキストの中で紹介されている健康心理学やストレス・マネジメントに関する、様々な概念や用語の指し示す意味をしっかりと理解しておくこと。その際、それぞれの概念や用語を提唱した研究者についても合わせて覚えてほしい。あくまでテキストの内容からの出題であるが、もしテキスト中の説明だけでは分かりにくい場合は、他の専門文献にもあたり、理解を深めることを勧める。

科目修了試験の評価基準

設題の内容を正しく理解し、正確に、論理的に記述できていること。とくにテキストで紹介されている概念や用語の定義については、正しくおさえてほしい。その点が正しく記述されていることが合格の最低ラインである。その上で、さらに自分の考えを取り入れて作成された答案には、内容に応じてより高い評価を加える。しかし、いかに自説の内容が優れていても、テキストの内容に沿った基礎的な理解に誤りがある場合は不合格とする。

参考文献

各自、参考としたい文献を自分自身で探すこと。様々な文献を探索することも重要な学びとなる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20021	科目名[単位数／学習時間]	教育臨床心理学［4単位／180時間］
テキスト	●伊東眞里　大島剛　金山健一　渡邉由己『ライブラリ読んでわかる心理学　12　読んでわかる臨床心理学』サイエンス社		
ISBN	9784781915197	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,300
生協テキストNo.	25043		
科目担当	金山　健一		

科目の目的

「教育臨床心理学」では、現代日本で子どもが抱える、いじめ・不登校・暴力・虐待・自殺など臨床心理学的問題を取り上げる。「教育臨床心理学」では、学校ばかりでなく、福祉・医療との連携による包括的な支援を構築することが必要不可欠となっている。心理的援助ばかりでなく、社会的ニーズに即応して問題に対処できる専門性を高め、予防的な支援の習得を目指している。子どもは幸せになる権利がある。我々、大人・教師・支援者は、学校・地域・社会という生活の中で協力し合い、子どもを共同して育むことが求められる。

「教育臨床心理学」を通して、子どもたちの行動と心理の理解を深め、学校・福祉・医療の連携方法を理解し、教師や子ども支援者としての資質を高めることを目的とする。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

・「教育における臨床心理学の役割」では、日本の教育の現状、教育と臨床心理学の立場、文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入について学ぶ。
・「教育における心理臨床の方法」では、来談者中心療法・選択理論・ブリーフセラピー・認知行動療法など学校で役に立つカンセリングを学ぶ。
・「教育における心理臨床」では、学級経営・UDL・ピアサポート・PBIS・SEL・情報モラル教育など、最先端の心理臨床を学ぶ。
・「福祉と臨床心理学」では、発達的要因・家庭的要因・社会的要因へのアセスメントと、児童相談所・児童福祉施設との連携について学ぶ。
・「医療と臨床心理学」では、子どもの心理テスト・心理療法・発達・人格形成について学ぶ。
・「多職種チームによるケア」では、コンサルテーション・コラボレーションについて学ぶ。

学習テーマ

1	日本の教育の現状【学習のポイント：いじめ・不登校・暴力行為・自殺の現状を理解する。】
2	教育と臨床心理学の立場【学習のポイント：生徒指導・学校教育相談・学校心理学・MLAを理解する。】
3	文部科学省の動向とSC・SSWの教育への参入【学習のポイント：SC・SSWの導入について理解する。】
4	カウンセリング・来談者中心療法・選択理論【学習のポイント：カウンセリングの基礎を理解する。】
5	ブリーフセラピー・認知行動療法【学習のポイント：効果的なカウンセリング理論を理解する。】
6	カウセリングの流れ・マイクロカウンセリング【学習のポイント：カウンセリングの技法を学ぶ。】
7	教育相談・学級経営【学習のポイント：教育相談の進め方・学級経営の基礎を理解する。】
8	UDL・ピアサポート【学習のポイント：学びのユニバーサルデザイン・集団づくりを理解する。】
9	PBIS・SEL・情報モラル教育【学習のポイント：最先端の教育プログラムを理解する。】
10	福祉における心理臨床の方法【学習のポイント：発達的要因・家庭的要因・社会的要因について理解する。】
11	福祉における心理臨床の対応【学習のポイント：児童相談所・児童福祉施設について理解する。】
12	小児科における臨床心理学の役割【学習のポイント：心理査定・遊戯療法・家族療法を理解する。】
13	病院における心理査定に必要な知識・態度【学習のポイント：発達・人格形成・診断基準を理解する。】
14	小児科における臨床心理学の実際【学習のポイント：起立性調節障害と子どもの心理療法を理解する。】
15	多職種チームによるケア【学習のポイント：コンサルテーション・コラボレーションを理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「日本の教育の現状」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第2課題

「カウンセリング・学校教育相談の教育への導入」「来談者中心療法」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第3課題

「学級経営」「UDL」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第4課題

「個人的要因」「発達的要因」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章 1.1「日本の教育の現状」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 2 課題の留意点

テキスト第 2 章 2.1「カウンセリング・学校教育相談の教育への導入」、2.2「来談者中心療法」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 3 課題の留意点

テキスト第 3 章 3.2「学級経営」、3.3「UDL」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 4 課題の留意点

テキスト第 5 章 5.1「個人的要因」、5.2「発達的要因」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1 課題につき2,000字程度）の 9 割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

- 教育と臨床心理学の立場　（第 1 章　教育における臨床心理学の役割　1.2 ）
- 認知行動療法　（第 2 章　教育における心理臨床の方法　2.5 ）
- 情報モラル教育　（第 3 章　教育における心理臨床の対応　3.7 ）
- 家庭的要因　（第 5 章　福祉における心理臨床の方法　5.3 ）
- 障害児（者）施設および機関　（第 6 章　福祉における心理臨床の対応　6.3 ）
- 小児科における心理臨床の実際　（第 9 章　病院における心理臨床の対応　9.2 ）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の 9 割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・諸富祥彦　金山健一　佐々木掌子 『チャートでわかる　カウンセリング・テクニックで高める「教師力」 2 』 ぎょうせい

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20022	科目名[単位数／学習時間]	発達心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●中澤潤 『発達心理学の最先端 認知と社会化の発達科学』 あいり出版					
ISBN	9784901903257	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	25044	
科目担当	小川内 哲生					

科目の目的

発達心理学とは、時間的経過にともなって生じる精神（こころ）の変化の特徴を記述し、その背後にある法則性を明らかにする心理学の分野である。最近の発達心理学では、胎児、乳幼児、あるいは高齢者の発達的変化についての研究が精力的に行われ、目覚しい成果が報告されている。本科目では、発達の理論、認知の発達、パーソナリティの発達、あるいは社会性の発達の研究成果など、発達心理学の基本的な研究成果に加えて発達心理学の最新の成果の一端も学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から人間の発達を捉えていくことを目的とする。

到達目標

発達心理学の研究では、最近になって、乳幼児の研究と高齢者の研究、並びにヒトの生涯にわたるこころの発達（生涯発達心理学）を視野に入れた研究が精力的になされつつある。テキストでは、これまでの発達心理学で得られた個々の具体的な研究成果や知見だけでなく、発達心理学の最新の成果の一部も学習する。テキストにあるピアジェらの発達理論は、現在でも生きている。発達心理学では、私たちの日常の発達現象と発達研究の具体的な成果とを関連させて理解することで、その背後にある発達理論の理解を深める。

学習テーマ

1	発達の概念について【学習のポイント：発達心理学における発達の概念を理解する。】
2	発達の研究法について【学習のポイント：発達研究の基本的な方法を理解する。】
3	認知発達の理論について【学習のポイント：認知発達の理論を理解する。】
4	精神発達の理論について【学習のポイント：精神発達の理論を理解する。】
5	胎児期の発達について【学習のポイント：胎児期の心身の発達を理解する。】
6	乳児期の認知の発達について【学習のポイント：乳児期の認知の発達を理解する。】
7	乳児期の社会化の発達について【学習のポイント：乳児期の社会化の発達を理解する。】
8	幼児期の認知の発達について【学習のポイント：幼児期の認知の発達を理解する。】
9	幼児期の自己と社会化について【学習のポイント：幼児期の自己と社会性の発達を理解する。】
10	児童期の認知の発達について【学習のポイント：児童期の認知の発達を理解する。】
11	児童期の自己と社会性の発達について【学習のポイント：児童期の自己と社会性の発達を理解する。】
12	青年期の認知について【学習のポイント：青年期の認知について理解する。】
13	青年期の自己と社会性について【学習のポイント：青年期の自己と社会性を理解する。】
14	成人期の発達について【学習のポイント：成人期の諸機能の発達を理解する。】
15	老年期の発達について【学習のポイント：老年期の諸機能の発達を理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

ピアジェの認知発達段階の1つである前操作期の思考の基本的な特徴を、研究例あるいは具体例を引用して簡潔に説明しなさい。

第2課題

乳幼児期から児童期にかけて自己意識がどのように変化していくのか簡潔に説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

ピアジェの認知発達段階の1つである前操作期は幼児期を意味する。幼児期の思考の基本的な特徴をテキストや他の文献を参考にして、具体的な研究例あるいは日常の具体例を引用することで説明すること。ピアジェに関する文献は多数あるので、必ず参考にすること。

第2課題の留意点

乳児期、幼児期、児童期の子どもが自己をどのように捉えるのか、各発達段階における自己意識の発達を簡潔に説明すること。テキスト第3章pp.53-54、第5章pp.103-106 、第7章pp.151-152を参考にまとめると良い。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に第1章、第3章、第4章、第5章、第7章、第9章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・浅野敬子　丸山真名美　『保育・教育実践のための心理学』　みらい
・浜崎隆司　田村隆宏　『やさしく学ぶ発達心理学』　ナカニシヤ出版
・武藤隆　中坪史典　西山修　『発達心理学』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20023	科目名[単位数／学習時間]	社会心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●辻川典文　阿部晋吾　神原歩　田端拓哉『ライブラリ読んでわかる心理学　10　読んでわかる社会心理学』サイエンス社					
ISBN	9784781914886	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	25045	
科目担当	辻川　典文					

科目の目的

人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。本科目では、社会心理学の特徴である「社会と個人の相互作用」の中でも、特に「自己認知と他者認知」、「他者に対する行動」、「集団と個人の行動の関係性」の問題を中心に、人間関係の維持・形成過程、集団が個人に及ぼす影響、およびその周辺領域について、社会心理学的観点から考察し、知識を深めていく。

到達目標

自分自身や他者に対する認識、そして対人行動や集団行動といった、社会心理学の中できわめて重要なテーマの知識習得に加え、学問上で得られた知見を現実の社会問題や自己の体験と結びつけて、よりよい社会のあり方や、個人にとって望ましいこれからの生き方について論考することを求める。そのためにも、テキストを通読して社会心理学の全体像をつかむことが必要である。

学習テーマ

1	社会心理学とは【学習のポイント：社会心理学とはどのような学問かについて理解する。】
2	社会の中の自己【学習のポイント:社会との関わり合いの中で、自分自身をどのように認識するか、その傾向を理解する。】
3	自尊感情と動機づけ【学習のポイント：自尊感情とは何か、自尊感情が行動に及ぼす影響について理解する。】
4	態度【学習のポイント：態度の認知的一貫性や説得について理解する。】
5	対人認知【学習のポイント：他者の印象がどのように形成されるかを理解する。】
6	社会的推論【学習のポイント：人の原因帰属や推論の特徴、歪みについて理解する。】
7	対人関係【学習のポイント：対人関係における心理について理解する。】
8	対人魅力・恋愛【学習のポイント：他者に魅力を感じるメカニズムについて理解する。】
9	援助と攻撃①【学習のポイント：援助行動やソーシャルサポートについて理解する。】
10	援助と攻撃②【学習のポイント：攻撃行動について、誘因やメカニズムを理解する。】
11	集団の中での人間関係①【学習のポイント：集団内の人々の行動が、自分自身の行動にどのような影響を及ぼしているかを理解する。】
12	集団の中での人間関係②【学習のポイント：集団内と集団間の人間関係の特徴について理解する。】
13	集団のパフォーマンス【学習のポイント：集団活動の落とし穴やリーダーシップについて理解する。】
14	家族の人間関係【学習のポイント：家族内の様々な人間関係や問題点を理解する。】
15	文化の影響、心の文化差【学習のポイント：人の心理や行動に対する文化の影響について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

人の行動を説明する際に、「自尊感情」の影響を考える必要がある。本課題では、「自尊感情とは何か」、「自尊感情を維持する仕組み」、「自尊感情を保とうとする理由」の3点について述べよ。また、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

第2課題

私たちの行動や判断は、自分の意思だけで行っているわけではなく所属している集団から様々な影響を受ける。集団から受ける影響についてどのようなものがあるか説明せよ。また、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

自尊感情は人の行動に様々に影響を及ぼす。自尊感情を維持する仕組みについては、「社会的比較」「自己評価維持モデル」、「自己高揚動機」の面から説明せよ。自尊感情を保とうとする理由については「存在脅威管理理論」、「ソシオメーター理論」をもとに説明すること。内容が比較的難しいものもあるが、内容を理解したうえで自分の言葉で説明すること。また、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

第2課題の留意点

集団から受ける影響について「集団規範」「同調」「少数派の影響」「服従と社会的勢力」の面から説明せよ。これらの理論や先行研究を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

レポートの評価基準

レポートの評価基準は次の 3 点である。 1 点目は、レポートの基本的な書き方ができているかどうかである。 2 点目は、課題であげた内容について、「社会心理学的な観点からの説明ができているかどうか」である。 3 点目は、「テキストで学んだ内容を自身の経験に置き換えて考察できているかどうか」である。単にテキストをまとめるだけでなく、自分の経験と照らし合わせながらレポートの作成にあたってほしい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておいてほしい。特に、「原因帰属のエラーやバイアス」「態度の基本 3 成分と一貫性」「非言語的コミュニケーション」「対人魅力」「リーダーシップ」「自己認知の文化差」に関連する内容については十分理解しておいてほしい。

科目修了試験の評価基準

評価基準は次の 2 点である。 1 点目は、テキストをどの程度熟読しているかを判断するため、「設題に関連する社会心理学の専門用語や先行研究をどの程度説明できているか」である。 2 点目は、専門用語や先行研究の理解度を判断するために、「専門用語や先行研究について、具体例を用いてどの程度説明できるか」である。

参考文献

・池上知子　遠藤由美　『グラフィック社会心理学　第 3 版　Graphic text book』　サイエンス社
・竹村和久　『公認心理師の基礎と実践　11　社会・集団・家族心理学』　遠見書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20024	科目名[単位数／学習時間]	青年心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●大野久 『シリーズ生涯発達心理学 4 エピソードでつかむ 青年心理学』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623057375	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25046	
科目担当	山本 千恵					
実務経験のある教員による科目	心理カウンセラー（心療内科、中学校等）					

科目の目的

青年期というのは、子どもから大人へ移行する、その狭間にある大きな変化の時期である。「自分とは何者か」といった問いが芽生え、親子関係や友人関係にも大きな変化が見られるこの時期は、モラトリアムと呼ばれるように猶予期間ではあるものの、不安定で不適応を起こしやすい時期と言える。

そこで本科目では、この時期特有の心や体の変化を知り、起こりうる心理的危機についての知見を得ることで、「無事に青年期特有の危機を乗り越え、アイデンティティを確立し、大人として自立するとはどのようなことか」を考える機会として欲しい。実務経験を活かして教授する。

到達目標

エリクソンの漸成発達理論をベースに、「青年期の自我の発達」「青年期の恋愛の発達」「青年期の親子関係」「青年期の友人関係」といった4つのテーマ別に、アイデンティティ確立とは何か、真の自立とは何かについて考えて貰いたい。

学習テーマ

1	テキスト序章 青年期を理解する【エリクソンの漸成発達理論を理解する。】
2	テキスト序章 青年期の体と心の発達を理解する【体の発達の特徴と、ピアジェの心の発達理論を理解する。】
3	テキスト第Ⅰ章 アイデンティティとは何か【アイデンティティについて、その定義を理解する。】
4	テキスト第Ⅰ章 アイデンティティ達成とは何か【マーシャのアイデンティティ・ステイタスを理解する。】
5	テキスト第Ⅱ章 青年期以前の恋愛【青年期以前の「好き」になる傾向、特徴をおさえる。】
6	テキスト第Ⅱ章 青年期の恋愛【アイデンティティのための恋愛の特徴をおさえる。】
7	テキスト第Ⅱ章 青年期以降の恋愛【アイデンティティ達成後の恋愛の特徴をおさえる。】
8	テキスト第Ⅱ章 男女間における恋愛の違い【従来から言われている特徴を踏まえ、近年の傾向もおさえる。】
9	テキスト第Ⅲ章 親からの自立【自立とはどういうことか、その定義と近年の傾向を併せて理解する。】
10	テキスト第Ⅲ章 親子間の葛藤【親子の葛藤は自立にどの程度、必要か。新旧どちらの理論も習得する。】
11	テキスト第Ⅲ章 親子間の対話【オルソンの円環モデルを元に、自立を促す対話とは何かを理解する。】
12	テキスト第Ⅲ章 親の発達課題【自立していく子どもを持つ、親が抱える危機をおさえる。】
13	テキスト第Ⅲ＆Ⅳ章 親子関係と友人関係【親子関係と友人関係の違いをおさえ、友人の特徴を理解する。】
14	テキスト第Ⅳ章 友人関係の発達的変化【発達的＆男女別に見た友人関係の変化と、近年の特徴をおさえる。】
15	テキスト第Ⅳ章 友人関係の形成と孤独感【孤独感が友人関係のあり方にどう変化をもたらすのか理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

アイデンティティ達成前と達成後で恋愛に変化はあるのか。近年の傾向も加えて考察せよ。

第2課題

友人関係のあり方の発達的特徴と、孤独感から見た、友人関係の形成について述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

アイデンティティ達成前と達成後のパートナーとの関係性について、どのような違いがあるのか、近年の特徴についても述べること。

第2課題の留意点

「浅いー深い」「狭いー広い」をキーワードとし、友達との付き合い方の変化を発達的観点より述べた後、孤独感の発達から見た友人関係の変化についても言及すること。

レポートの評価基準

テキストの丸写しは不可。課題についての記述は、テキスト中に複数箇所で取り上げられている。それらを自分なりにまとめたレポートであること。なお、テキストだけでなく、参考文献やその他の手持ちの参考書なども盛り込み、より多角的に課題について述べられたレポートであれば、なお素晴らしい。（文献引用の際は、レポートの最後に著者名・書名・出版社名・ページ番号を明示すること。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、課題で挙げられたトピックスだけでなく、テキスト全ての内容を把握しておくこと。細かな専門用語や人名を覚えることより、テキストで書かれている内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

設題について、的確な専門用語も交えて論述できていればなお良いが、細かな専門用語は多少あやふやでも、要点がきちんと押さえられていれば合格点となる。たとえ設題について述べられていても、終始自身の体験などからくる個人的感想のみの解答は不合格となる。

参考文献

・丸島令子　日比野英子　『臨床心理学を基本から学ぶ』　北大路書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20025	科目名[単位数／学習時間]	家族心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●相谷登　中村薫　築地典絵　『ライブラリ読んでわかる心理学　14　読んでわかる家族心理学』　サイエンス社					
ISBN	9784781914916	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	25047	
科目担当	金山　健一					

科目の目的

「家族心理学」では、人間にとって家族とは何か、心身の健康に関わる家族システムとは何か、という課題に対する知見を学ぶ事を目的とする。

「家族心理学」は、心理学史上もっとも新しいフロンティアで、家族危機の時代とよばれる1980年代に誕生した心理学の一分野である。個人を家族や社会と切り離すことなく、所属する家族システムや社会システムの一員とみなす。そのシステム内の人と人との関係およびシステム間の関係を重視しつつ、家族への心理的援助を理解し、対人援助者として力量を形成する。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

・日本の家族、世界の家族、宗教と家族、国家と家族を理解する。
・家族の形成では、対人魅力、好意と愛情、恋愛と配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。
・家族の発達では、ステップファミリー、きょうだい、親子関係の変遷を理解する。
・家族の問題では、家庭内暴力、虐待、配偶者間暴力、家族の崩壊を理解する。
・家族の理論では、家族へのアプローチ、査定方法、ジェノグラム、家族療法を理解する。
・今後の家族関係では、高齢者家族、少子化、国際化を理解する。

学習テーマ

1	家族心理学とは何か【学習のポイント：家族心理学の概観を理解する。】
2	家族とは何か【学習のポイント：家族の定義、日本・世界の家族、宗教・国家と家族を理解する。】
3	家族関係の形成【学習のポイント：対人魅力、好意と愛情、配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。】
4	家族の発達【学習のポイント：家族の発達、ステップファミリーを理解する。】
5	家族関係の問題【学習のポイント：きょうだい関係、親子関係を理解する。】
6	家族関係と社会の影響【学習のポイント：社会化、家族関係と非行を理解する。】
7	家族内の暴力【学習のポイント：配偶者間暴力、虐待、家庭内暴力を理解する。】
8	家族の崩壊【学習のポイント：夫婦関係崩壊、子どもに与える影響を理解する。】
9	家族理解の視点・理論【学習のポイント：学際的研究、精神医学、社会学からのアプローチを理解する。】
10	家族関係の査定【学習のポイント：査定方法、家族査定、ジェノグラムを理解する。】
11	家族関係の変容【学習のポイント：家族システム、家族療法を理解する。】
12	高齢者家族【学習のポイント：認知症、老老介護、看取り、孤独死を理解する。】
13	これからの家族関係①【学習のポイント：少子化、国際化を理解する。】
14	これからの家族関係②【学習のポイント：ハーグ条約、生殖医療、赤ちゃんポストを理解する。】
15	家族関係の専門機関【学習のポイント：国の機関、地方公共団体を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「家族の定義」「日本の家族・世界の家族」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

第2課題

「家族の発達」「ステップファミリー」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章2.1「家族の定義」、2.2「日本の家族・世界の家族」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第4章4.1「家族の発達」、4.2「ステップファミリー」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践を踏まえる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように活用するかを記述する。

・家族心理学の特色　（第1章　家族心理学とは何か　1.3）
・対人魅力　（第3章　家族関係はどのように形成されるのか　3.2）
・家族関係と非行の問題　（第6章　家族関係は社会にどのような影響を与えるのか　6.2）
・子ども虐待　（第7章　家族でどのような暴力が生じるのか　7.3）
・夫婦関係崩壊の実情　（第8章　家族関係はどのように崩壊するのか　8.1）
・家族システムと家族療法　（第11章　家族関係を変容させるにはどうすればよいのか　11.1）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・インスー・キム・バーグ　『家族支援ハンドブック　ソリューション・フォーカスト・アプローチ』　金剛出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20026	科目名［単位数／学習時間］	教職論［2単位／90時間］		
テキスト	●佐久間裕之 『教職概論 改訂 第2版』 玉川大学出版部				
ISBN	9784472406331	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協 テキストNo.	25048
科目担当	小坂 明				
実務経験のある教員による科目	公立小学校長				

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

1	教職の意義① 教職とは何か
2	教職の意義② 教員に求められるもの
3	教員の職務① 教員の身分
4	教員の職務② 教員の服務
5	教員養成 教員養成の歴史と現状
6	教員資格と教員の採用 教員免許状と教員採用試験
7	教員の資質能力 求められる資質能力
8	教員の研修と教員評価
9	教員と学校経営
10	専門職としての教職① 令和の日本型教育
11	専門職としての教職② 学習指導要領
12	専門職としての教職③ 幼稚園教育
13	専門職としての教職④ 特別支援教育
14	専門職としての教職⑤ 生徒指導と道徳教育
15	教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

教員に服務遵守が求められている。その理由について考察せよ。

第2課題

教員の資質能力について、「変わるもの」と「変わらないもの」が挙げられている。あなたが最も大切だと思うものを一つ選び、論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「公の性質」を持つ学校教員の服務は、教育基本法をはじめ、法令等でどのように規定されているかを調べ、法律にしたがって仕事をする自覚と責任感について考察する。

第2課題の留意点

いつの時代の答申でも教員に必要な素養がまず述べられ、そして、社会の情勢や進歩に対応できる教員像が求められている。「令和の日本型学校教育で求められる教師像」の観点も踏まえ、教員に求められる資質能力について論じる。

レポートの評価基準

・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確であること。
・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの構成（目的）を参考にして、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説　総則編』、『幼稚園教育要領解説』、『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも重要である。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、適切な文章表現ができていること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年７月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編＜平成30年３月＞』　開隆堂又は文部科学省HP
・文部科学省　『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編＜平成29年７月＞』　あかつき教育図書又は文部科学省HP
・文部科学省　『生徒指導提要（令和４年12月)』　東洋館出版社
・文部科学省　『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日)』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日)』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和３年１月26日)』　中央教育審議会答申
・法務省　『人権教育・啓発に関する基本計画』　平成14年３月15日閣議決定（策定）平成23年４月１日閣議決定（変更）
・金子邦秀　『新しい教職基礎論』　サンライズ出版
・今津孝次郎　『教師が育つ条件』　岩波新書
・文部科学省　『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和４年12月19日)』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（令和６年８月27日)』　中央教育審議会答申
・武田信子　多賀一郎　『教師の育て方』　学事出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20027	科目名[単位数／学習時間]	幼児教育原理［2単位／90時間］			
テキスト	●西本望 『いまがわかる教育原理 シリーズ知のゆりかご』 みらい					
ISBN	9784860154509	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25049	
科目担当	森 眞理					
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（日本･米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部･初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）					

科目の目的

本科目は、「人間らしさ」を培う教育の意味・意義について、教育の思想、歴史、行政、実践等から、理解を深めることを目的としている。科目の名称にあるように、幼児教育・保育を中軸に、幼児教育・保育施設の働き及び社会との関係、小学校教育との関係、さらには生涯学習との関係についても学ぶ。子どもを取り巻く社会・世界の課題を考察することから、子どもの最善の利益を保障する幼児教育について考える。国内外における実務経験を踏まえて、幼児教育の多様性・複雑性とその可能性について教授する。

到達目標

・「人間らしさ」を培う教育の意義について理解する。
・保育の意味を理解し、子どもの最善の利益を保障するあり方について深く学ぶ。
・幼児教育と家庭、地域、社会、さらに世界との関係性を理解する。
・教育制度を学び、幼児教育の法的位置づけの理解を深める。
・教育をめぐる今日的課題を理解し、問題意識を高める。
・教育思想を学び、今、求められている子ども観・教育観と実践の関係性を理解する。
・保幼小の接続・連携の可能性と課題について理解し、問題解決に従事する当事者意識を高める。

学習テーマ

1	保育・教育の意義【学習のポイント：「人間らしさ」を培う教育の意義を理解する。（テキスト第1章）】
2	教育の目的を把握する【学習のポイント：教育の目的について、自己の体験を省察し、理解する。（テキスト第2章）】
3	教育と児童福祉の関係性【学習のポイント：子どもの育ちに欠かせない教育と福祉を理解する。（テキスト第3章）】
4	人間形成と家庭・地域・社会【学習のポイント：社会全体で子どもを育てる意義、相互関係性・互恵関係性を理解する。（テキスト第4章）】
5	教育制度の基礎【学習のポイント：日本の教育制度について概観し、理解する。（テキスト第5章）】
6	教育思想家と教育【学習のポイント：教育思想家に学び、教育について理解を深める。（テキスト第6章）】
7	日本の教育思想と歴史【学習のポイント：日本の教育の歴史を理解する。（テキスト第7章）】
8	近代教育成立の歴史【学習のポイント：歴史と近代公教育の関係について理解する。（テキスト第8章）】
9	子ども観と教育観の変遷【学習のポイント：子ども観、教育観と実践との関係を理解する。（テキスト第9章）】
10	教育行政および学校経営の基礎【学習のポイント：教育の基盤を支える法的仕組みを理解する。（テキスト第10章）】
11	保育･教育実践の基礎理論【学習のポイント：教育課程の内容･方法、計画と評価について理解する。（テキスト第11章）】
12	現代の教育【学習のポイント：対話的・主体的・深い学びやICT活用教育について学ぶ。（テキスト第12章）】
13	多様な教育実践【学習のポイント：世界の多様な幼児教育について理解する。（テキスト第12章）】
14	生涯学習社会と教育【学習のポイント：現代の生涯学習の取り組みや課題について理解する。（テキスト第13章）】
15	現代の教育課題【学習のポイント：多様性を受け入れる教育について理解する。（テキスト第14章）】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

学校教育法第22条には、「幼稚園は・・・（中略）幼児を保育し、・・・（中略）適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と示されている。「保育」の意味について、テキストをもとに幼稚園教育要領、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領も参考にして述べ、加えて、幼児期の教育が小学校教育以降と異なる意味について自分の意見を含めて述べなさい。

第2課題

保育（乳幼児教育）を語る上で、「子ども観」「教育観」と導き出される実践との関係を考えることが必須である。まず、1）「子ども観」と「教育観」の意味を述べ、2）子どもの権利を保障する（子どもの最善の利益を保障する）子ども観・教育観と幼児教育実践のあり方について、自分の考えを含めて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章から第3章をよく読み、保育の捉え方をまとめた上で、幼児期における教育において大切なことについて、自分の考えをまとめなさい。

第 2 課題の留意点

テキスト第 9 章・第11章・第12章を中心によく読み、加えて第 6 章の先人の教育思想も踏まえて、子ども観と教育観の意味と変遷、そして、今と未来の時代に求められている幼児教育について考察する。

レポートの評価基準

以下を評価基準とする。

・2,000字程度に収まるよう全体の構成を考え、推敲している。
・課題が意味することを理解し、テキストを写すことに終始せずに、用語の意味を咀嚼して、自分の考えを表している。
・レポートは、構成を考慮する（1.序論：問題の所在・問題提起、レポートの概要、 2.本論、 3.結論：見出したこと、課題に対しての考察）。また、見出しや小見出し（1）～（3）等をつけてまとめる。
・他人に読ませることを意識し、必ず読み返してから提出している。
・誤字脱字がなく、文章の構成、参考文献提示が適切である。
・文献表示等、レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っている。
・「である調」「ですます調」が混在していない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストを熟読し、章ごとに内容を整理し、理解を深めておくこと。
・テキストや参考文献から学んだことを根拠にした内容を記述すると同時に、自らの考えを述べるように心掛けること。
・答案作成にあたり、誤字脱字に注意し、分量は最低限解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞あること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや用語を文脈に沿って説明しているかどうかを評価する。
・テキストの内容を踏まえず、自分の経験やエピソードのみの記述は、解答用紙表面が埋まる程度の記述があったとしても評価の基準を満たしていないと判断する。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20028	科目名[単位数／学習時間]	初等教育原理［2単位／90時間］			
テキスト	●広岡義之 『新しい教育原理 第2版』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623070053	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	25050	
科目担当	小川 雄					

科目の目的

本科目の目的は、教育の思想と歴史、制度を学びながら、教育の理念と方法について知見を深めるところにある。このような学習をとおして、教育の本質に様々な視点から迫って、理想とする教師像を具体的に描き出してもらいたい。また、近年、新学習指導要領のもとでの「社会に開かれた教育課程」に注目が集まっている。この話題についても理解を深める。

到達目標

・著名な教育思想家の着想や考え方を平易なことばで説明できるようになること。
・現代日本の教育課題を教育の成り立ちから把握できるようになること。
・子どもの学びと発達について理解を深めること。
・信頼関係、あるいは信頼の重要性を教育的な観点から説明できるようになること。
・テキストや参考文献についての学習から理想の教師像を描き出せるようになること。
・「家庭教育」や「地域教育」の意義と特色を踏まえて、学校が家庭と地域とどのように連携していくかを具体的に提案できるようになること。

学習テーマ

1	テキスト「第1章 教育の基本原理」を読む①：「自信の教育」と「他信の教育」についてまとめる。
2	テキスト「第1章 教育の基本原理」を読む②：ソクラテスの教育思想についてまとめる。「助産術」などのキーワードに注意を払うこと。
3	テキスト「第1章 教育の基本原理」を読む③：ボルノーとフランクルの教育思想についてまとめる。
4	テキスト「第2章 西洋の教育の制度と思想の歴史」を読む：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイの教育思想についてまとめる。
5	テキスト「第3章 日本の教育の制度と思想の歴史」を読む：明治期の教育制度はたびたび変わっている。その変遷を整理すること。また、教育の民主化を経て、日本の教育がどのように変わったかもまとめること。
6	テキスト「第4章 発達と教育」を読む①：信頼が子どもの発達にどう関わっているのかをまとめる。
7	テキスト「第4章 発達と教育」を読む②：大人が子どもと信頼関係を築くにはどうすればよいのかをまとめる。
8	テキスト「第4章 発達と教育」を読む③：シュタイナーとモンテッソーリの教育思想についてまとめる。
9	テキスト「第5章 家庭・地域教育」を読む：家庭と地域がもつ教育的な意義について理解を深める。
10	テキスト「第6章 新学習指導要領の特徴」を読む：幼保と小学校それぞれの教育の目的を理解する。
11	テキスト「第7章 現代教育の課題」を読む①：「生きる力を育む」という教育理念が現れてきた背景を知り、「対話」のある授業や「課題を見いだし解決する力」を養う授業について、第1章の内容、とりわけ、ソクラテスについての記述を踏まえながら考察する。とくに、pp.185-186にかけての道徳教育に関する記述が参考になる。
12	テキスト「第7章 現代教育の課題」を読む②：「教育の三つの場」について、それぞれの特徴と課題についてまとめる。
13	レポートを作成する①：『学習の手引き』を熟読する。
14	レポートを作成する②：第1課題に取り組む。
15	レポートを作成する③：第2課題に取り組む。

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

社会に開かれた教育課程の実施に当たっては、「地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること」が求められている。あなたは、教師として、この要求にどのように応答するか。テキスト第5章の内容を踏まえながら、書きなさい。すべて合わせて2,000字程度。

第2課題

テキストは、第4章のなかで、信頼のもつ教育的な意義を強調している。どのようにすれば、児童生徒から信頼される教師になれるであろうか。第4章の内容を踏まえながら、信頼されるための工夫や実践を具体的に書きなさい。すべて合わせて2,000字程度。

各課題の留意点

第1課題の留意点
・テキスト第7章は、家庭や地域社会の課題に言及している。そうした記述も参考になる。
・「社会に開かれた教育課程」に関しては、参考文献に挙がっている『学習指導要領解説』を参照すること。また、参考文献の『教師のための教育学シリーズ6 教育課程論 第2版』第4章を熟読することもおすすめする。
・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

第 2 課題の留意点

・テキスト第 1 章の内容、たとえば、「自信の教育」と「他信の教育」という区別も参考になる。
・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

レポートの評価基準

・レポートは「序論」「本論」「結論」の三部構成で作成すること。レポートにそれぞれの見出しが現れていなければならない。この点を守れていないレポートは評価しない。具体的には、以下のとおり。
＜書式＞　1 . 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
2 . 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
3 . 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・本論の見出しは、「本論」とするのではなく、自身でふさわしい標題をつけること。
・指定された文字数を守ること。指定文字数の 9 割に達していないレポートは、採点の対象にならない。
・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「　」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法を守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。
・論理的に文章が組みたてられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章がどのように結びついているのかをはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込もうとしているレポートには、高い評価を与えたい。
・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体から満遍なく出題する。
・「学習テーマ」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領解説　総則編＜平成29年 7 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・山田雅彦　『教師のための教育学シリーズ 6　教育課程論　第 2 版』　学文社
・石村華代　軽部勝一郎　『教育の歴史と思想』　ミネルヴァ書房
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20029	科目名[単位数／学習時間]	教育法規［2単位／90時間］			
テキスト	●菱村幸彦 『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』 教育開発研究所					
ISBN	9784873804545	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25051	
科目担当	洲脇 一郎					
実務経験のある教員による科目	教育委員会教育行政（人事・教育施策等）担当					

科目の目的

教育法規の入門的、基礎的な学習をする。教育法規の分野には、①教育課程、教科書など学習に関すること、②児童生徒の指導に関すること、③学校の組織と運営、④教育公務員の服務と責任、などの分野がある。それらについて、基礎的・基本的な理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学習にあたっては、教育法規の基本的な法律用語を理解すること。つねに条文を読み法規の理解に努めること。法的な議論がある問題については、対立する意見の双方の論理をおさえること。

学習テーマ

1	学習指導要領の意義と法的性格を理解する。
2	教科書・教材とは何か。
3	児童生徒に対する懲戒とは何か。体罰とはどのような行為か。
4	いじめとは何か。いじめに関する加害者、学校側の責任。
5	校則の意義と限界を知る。
6	学校事故とその責任。
7	職員会議、校務分掌について知る。職員会議の法的な性格をおさえる。
8	信用失墜行為について具体例をもとにして理解する。
9	職務命令を理解し、職務命令に従わなかった場合、職務命令が違法な場合はどうか。
10	教育公務員の政治的行為の制限について、一般の地方公務員との違いとその理由を知る。
11	兼職、兼業が制限されている理由。教育公務員の特例について理解する。
12	教員の勤務時間について、その規律の特殊性を理解する。
13	教員の研修について教育公務員特例法により理解する。
14	服務上の義務違反に対する懲戒処分を理解する。（信用失墜行為、職務専念違反行為などと関連して）
15	全体のふりかえりとして教育法規の体系を理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

次の（1）（2）について、それぞれ1,000字程度で述べなさい。

（1）教育公務員に関する服務上の義務は、一般公務員と服務上の義務とどのような差異があるか。差異がある理由も述べなさい。

（2）分限処分と懲戒処分はどう異なるのか。具体例をあげて述べなさい。

第2課題

児童生徒の懲戒と体罰の禁止について、教育法規はどのように定めているか、文部科学省の通知も含めて論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

（1）研修、政治的行為の制限、兼職及び他の事業等の従事などにおいて一般公務員と教員では法律の扱いに差がある。その差がどのような内容なのか、またその差はなぜなのかを考えること。

（2）分限処分と懲戒処分について、目的、要件、処分の種類などを論じること。処分の具体例を調べること。

第2課題の留意点

学校教育法や学校教育法施行規則で懲戒と体罰の禁止についてどのように定めているのか。また文部科学省の通知ではどのように述べられているかを記述すること。懲戒の意義、懲戒の種類、懲戒と体罰の区別、体罰が禁止されている理由などを記述すること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨を把握できていること。
・レポートとして形式が整い、表現が適切であること。
・法規の内容が理解できており、論理的な記述ができていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

基礎的な用語を説明できるとともに、論理構成、表現について留意すること。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨が把握できているか、表現は適切か、知識理解は十分か、論理的記述ができているか。

参考文献

・勝野正章 『教育小六法（最新版）』 学陽書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名[単位数／学習時間]	教育社会学［2単位／90時間］			
テキスト	●陣内靖彦　穂坂明徳　木村敬子　『教育と社会　子ども・学校・教師』　学文社					
ISBN	9784762022579	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	25052	
科目担当	間渕　泰尚					

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 ＜テキスト第1章＞
2	現代の子育てとその支援 ＜テキスト第2章＞
3	社会の変化と幼児教育 ＜テキスト第3章＞
4	日本の社会と学校①　戦前から戦後へ ＜テキスト第4章＞
5	日本の社会と学校②　戦後の教育改革 ＜テキスト第4章＞
6	カリキュラムと教科書 ＜テキスト第5章＞
7	学校生活の社会学①　学校と学級制度 ＜テキスト第6章＞
8	学校生活の社会学②　学校文化・隠れたカリキュラム ＜テキスト第6章＞
9	消費社会・情報社会と子ども文化①　消費社会と子ども ＜テキスト第7章＞
10	消費社会・情報社会と子ども文化②　子どもとネット社会 ＜テキスト第7章＞
11	日本の社会と教師①　教師のリーダーシップ ＜テキスト第8章＞
12	日本の社会と教師②　教員免許制度と教師の仕事 ＜テキスト第8章＞
13	世界、アジア、日本の教育改革 ＜テキスト第9章＞
14	地域と学校の連携 ＜参考文献：資料①　文部科学省（中教審第186号）＞
15	学校安全への対応 ＜参考文献：資料②　文部科学省（中教審第199号）＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

憲法の条文を踏まえた上で、現行の教育振興基本計画に掲げられている「経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保」という目標を実現するために必要な方策について論じなさい。

第2課題

次の2つのテーマから1つを選んで論じなさい。

1）「こども誰でも通園制度」が効果を上げるために必要な方策について論じなさい

2）教職の魅力を向上させるため、今後必要な方策について論じなさい

各課題の留意点

各課題共通の留意点

単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第1課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第4章、第5章および第9章を参考にすること。教育振興基本計画については、現行のものを文部科学省のHPから探して参照すること。概要版もしくはパンフレットでも構わない。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料①　文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。資料の要約に止まらぬよう、テキストの内容と関連付けて論じること。

第 2 課題の留意点

1）テキスト第 1 章から第 3 章までの内容を参考にすること。「こども誰でも通園制度」の内容についてはこども家庭庁のHPなどから各自資料を探すこと。資料の要約だけにとどまらず、必ずテキストの内容とも関連付けて論じること。

2）テキスト第 6 章から第 8 章までの内容を参考にすること。必要に応じて中教審答申『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について』も参照すること。参考文献の『資料②　文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の 4 点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法に慣れておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点× 2 問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

・資料①　文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365761.htm
・資料②　文部科学省（中教審第199号）『第 2 次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1384125.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20032	科目名[単位数／学習時間]	教育方法論［2単位／90時間］
テキスト	●谷田貝公昭　林邦雄　成田國英　『教職課程シリーズ6　教育方法論　改訂版』　一藝社		
ISBN	9784863590984	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000
生協テキストNo.	25053		
科目担当	小川　雄		

科目の目的

平成29年の学習指導要領改訂以来、「主体的・対話的で深い学び」が重要視されている。「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をどう実現するか。学びの質の問い直しである。そうした状況のなかで、教師には、子どもたち自らが意欲的に学ぶ「わかる授業」を構想し実践していく力が求められている。本科目では、こうした動向を念頭におきながら、学校教育における教育理念や目的を現場で実践するための方法論や技術について学ぶことを目的とする。

到達目標

到達目標は、以下の3点である。

・学習指導要領の基本的な考え方・構成・内容を理解する。
・学習内容、教材研究、子ども理解、指導方法（学習形態）、教育評価についての理解を深める。
・基本的な理論とともに、具体的なイメージを伴う授業設計技術を高める。

学習テーマ

1	第1章：教育方法の歴史的概観について①【学習のポイント：19世紀までの教育方法について理解する。】
2	第1章：教育方法の歴史的概観について②【学習のポイント：現代における教育方法について理解する。】
3	第2章：教育方法の基本原理について【学習のポイント：系統学習と問題解決学習について理解する。とりわけ、系統学習に偏った授業の問題点を把握する。】
4	第3章：現代の教授理論について①【学習のポイント：授業とは何か、授業の構造について理解する。】
5	第3章：現代の教授理論について②【学習のポイント：学力とは何か、学力観の諸相について理解する。】
6	第4章：教育課程について①【学習のポイント：教育課程の意味と編成・展開・評価について理解する。】
7	第4章：教育課程について②【学習のポイント：学習指導要領とは何か、背景・変遷について理解する。】
8	第5章：授業理論と授業の設計①【学習のポイント：授業の類型について理解する。】
9	第5章：授業理論と授業の設計②【学習のポイント：授業の設計、授業の設計の方法について理解する。】
10	第6章：教育情報機器の活用について①【学習のポイント：授業とメディアについて理解する。】
11	第6章：教育情報機器の活用について②【学習のポイント：コンピュータ等ICTの教育活用について理解する。】
12	第7章：放送教育の授業への活用について【学習のポイント：放送教育の役割と展開について理解する。とりわけ、「生きる力」の育成との関連が述べられている箇所に着目する。】
13	第8章：教材教具について【学習のポイント：教材・教具とは何か、教科書の役割と扱いについて理解する。】
14	第9章：生徒指導と教科指導について【学習のポイント：生徒指導に関して、その原理と内容について理解する。】
15	第10章：教育方法と学校・学級経営について【学習のポイント：教育方法と学級経営の関連について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの第2章を参照しながら、「自己肯定感」の教育的な意義を明らかにしなさい。そのうえで、第7章の内容を踏まえながら、「自己肯定感」を高めるための生徒指導のやり方を具体的に提案しなさい。すべて合わせて2,000字程度。

第2課題

テキスト第5章は、「間接的な教育手段を重視する授業の類型」を挙げている。それらのなかの「問題解決学習」を取り入れた授業について、それの意義を解説しなさい。そのうえで、「問題解決学習」を取り入れた授業を具体的に提案しなさい。すべて合わせて2,000字程度。

各課題の留意点

第1課題の留意点

まず、テキスト第2章のpp.22-28を熟読し、「自己肯定感」について理解を深める。そのうえで、第7章を熟読し、レポートで取り上げる具体的な生徒指導の場面を設定する。たとえば、「特別の教科道徳」をとおしての生徒指導なのか、それとも、ほかの科目をとおしてであるのか。あるいは、「特別活動」をとおしての生徒指導であるのか。この点を明確にしたうえで、「自己肯定感」を高められるような関わりを考える。

第2課題の留意点

「問題解決学習」の意義については、テキスト第5章だけではなく、第2章と第10章の記述も参照する。後半の課題では、どのような教科でなにを教えるのかを具体的に想定し、それを読み手に示すこと。

レポートの評価基準

・レポートの作成にあたっては、常に「論文・レポートの書き方」を想起し、つぎの形式でまとめること。
【「レポート」に対する知識・理解】
＜書式＞　1. 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
2. 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
3. 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・本論の見出しは、「本論」とするのではなく、適切な標題をつけること。
・まず、題意を正しく捉えているか。課題の意図、背景、題意を明確にする。次に、題意を受けて論が適切に展開されているか。事実・文献の引用などは適切であるか。さらに、それに対して、自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての自分の姿勢・考えが明確に結論付けられているか。【課題に対する知識・理解・実践力】
・誤字や脱字に気を付け、丁寧に作成されているか。【教師としての姿勢・構え】
・指定した字数を守ること。指定文字数の 9 割に達していないレポートは評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体から満遍なく出題する。
・「学習のポイント」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編＜平成29年 7 月＞』
あかつき教育図書又は文部科学省HP
・一般財団法人総合初等教育研究所　『小学校　新学習指導要領改訂の要点』　文溪堂
・多田俊文　『教師養成研究会　教職課程講座 5　教育の方法と技術』　学芸図書
・田中耕治　『よくわかる授業論　やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』　ミネルヴァ書房
・日本教育方法学会　『現代教育方法事典』　図書文化社
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20033	科目名[単位数／学習時間]	教育課程論（初等）［2単位／90時間］
テキスト	●広岡義之 『新しい教育課程論概説』 あいり出版		
ISBN	9784865550986	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,800
生協テキストNo.	25054		
科目担当	廣岡　義之		

科目の目的

元来、「教育課程」とはカリキュラム、すなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることをめざす。

到達目標

・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。
・教育課程の意義と目的について理解する。
・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。
・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。

学習テーマ

1	教育課程（カリキュラム）の意味と類型について　【テキスト第1章を熟読すること。】
2	改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標　【テキスト第2章を熟読すること。】
3	教育課程編成の意義および教育目的と目標　【テキスト第3章を熟読すること。】
4	戦後日本の教育課程の変遷①　戦後～昭和40年代　【テキスト第4章第1～第4節を熟読すること。】
5	戦後日本の教育課程の変遷②　ゆとり教育～現代　【テキスト第4章第5～第8節を熟読すること。】
6	2017（平成29）年告示の新学習指導要領の個別具体的な視座から見渡した改訂点の特徴　【テキスト第5章を熟読すること。】
7	2017（平成29）年告示の新学習指導要領改訂における児童の「資質･能力」について　【テキスト第6章を熟読すること。】
8	学習改革について　【テキスト第7章を熟読すること。】
9	2017（平成29）年告示の新学習指導要領とパフォーマンス評価　【テキスト第8章を熟読すること。】
10	「学習評価に関する資料」について　【テキスト第9章を熟読すること。】
11	20世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史　【テキスト第10章を熟読すること。】
12	世界の教育制度・教育課程の改革と動向　【テキスト第11章を熟読すること。】
13	現代における世界の教育課程と教育制度　【テキスト第12章を熟読すること。】
14	世界各国の教育課程①　【テキスト第13章第1節～第5節を熟読すること。】
15	世界各国の教育課程②　【テキスト第13章第6節～第11節を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

世界各国の教育課程（日本・アメリカ合衆国・イギリス・フランス・ドイツ）をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ論じなさい。　【テキスト第13章第1節から第5節を熟読すること。】

第2課題

世界各国の教育課程（フィンランド・オーストラリア・シンガポール・中国・台湾・韓国）をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ論じなさい。　【テキスト第13章第6節から第11節を熟読すること。】

各課題の留意点

第1課題の留意点

世界の教育課程について、（テキスト第13章第1節から第5節）の基本的な考え方をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。

第2課題の留意点

世界の教育課程について、（テキスト第13章第6節から第11節）の基本的な考え方をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註をしっかりと付記しつつ、課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体をよく読んで理解を深めておくこと。
・15回の「学習テーマ」ごとに内容をまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規 改訂新版』 ミネルヴァ書房
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20034	科目名[単位数／学習時間]	幼児教育課程論［2単位／90時間］			
テキスト	●戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成　保育カリキュラムの基礎理論　教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版					
ISBN	9784865550542	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25055	
テキスト	●文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814222	本体価格(円)（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25056	
テキスト	●厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814239	本体価格(円)（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25057	
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814246	本体価格(円)（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25058	
科目担当	森　眞理					
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（日本･米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部･初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）					

科目の目的

本科目は、乳幼児教育・保育実践に欠かせない教育課程、すなわちカリキュラムについて学び、理解を深めることから、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育・保育の当事者としての意識を明確化することを目的としている。保育を実践するにあたり、現在、幼稚園では「教育課程」を編成し、保育所と認定こども園では、「全体的な計画」を編成する。本科目（テキスト）では、双方を含めて「保育カリキュラム」と称する。保育カリキュラムの意味と意義を理解することから始め、その歴史的変遷、保育における指導計画の捉え方と内容、小学校教育との連携におけるカリキュラム、そして、実践、及び記録と評価の関係について学び、幼児教育課程についての基礎を理解する。実務経験のある教員による課題に取り組むことから、より幼児教育・保育実践に携わっているとの実践意識を高めたい。

到達目標

本科目の到達目標は、以下の通りである。

・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの意味と意義を理解する。
・子どもの育ちの道のり（発達）にふさわしい保育カリキュラムの重要性について学ぶ。
・保育カリキュラムの構成を学び、乳幼児期にふさわしい保育内容について理解を深める。
・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び、その意義について理解する。
・評価の根本について学び、評価の意義を理解する。

学習テーマ

1	授業内容の構造（学びの概要）を理解する【学習のポイント：テキストを概観する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』まえがきと全章に目を通す。）】
2	幼児教育・保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育・保育の根本について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』1章）】
3	保育カリキュラムについて理解する【学習のポイント：カリキュラム作成と、計画の意義について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和時代のカリキュラムの変遷について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
8	保育カリキュラムと指導計画【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
9	0歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
10	1、2歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
11	3歳以上児の育ちと指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：さまざまな指導計画の考え方と内容について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の重要性と指導計画の関係性を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章）】

14	保育の評価【学習のポイント：保育の質向上のための評価のあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 5 章）】
15	まとめ【学習のポイント：授業内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 5 章）】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

本科目における 1 ）「保育カリキュラム」の意味（基本的な考え方）について述べ、 2 ）教科カリキュラムと経験カリキュラムを比較し、それぞれの長所と短所について考察し、述べなさい。

第 2 課題

カリキュラム・マネジメントについて、 1 ）その意味を表し、 2 ）保育現場におけるカリキュラム・マネジメントのあり方について、リーダーシップと同僚性について言及し、そのことが実践とどのような関係をもたらすのか、自分の考えを含めて述べなさい。

各課題の留意点

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。

第 1 課題の留意点

テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の「まえがき」から「 1 章、 2 章、 3 章」を熟読し、保育カリキュラムの意味と意義を把握すること。加えて、保育カリキュラムの捉え方について、参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』から示唆が与えられるので、一読すること。

第 2 課題の留意点

カリキュラム・マネジメントの語句の理解にとどまることなく、乳幼児の教育・保育実践におけるカリキュラム・マネジメントの展開（人間関係を含むこと）を考えることが求められる。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』「 2 章」を中心に、「 3 章から 5 章」まで熟読することが欠かせない。参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を参照して、取り組んでほしい。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確・具体性をもって記しているかについて評価する。
・次の 6 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
③他人に読ませることを意識し、丁寧に作成している。（主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。）
④レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っていること。
⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。
⑥文献から引用・参考にする際は、その旨を明記し、本学の表記に準じて表すこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

＊科目修了試験への心構えと受験については下記の項目を留意することが肝心である。
・試験問題を丁寧に読み、その趣旨を理解して、キーワードや事項の意味を捉えて正確に説明すること。
・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開すること。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論（問題提起を含む）を記述することで高い評価に近づく。
・自筆の判読が難しい際（例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字）は、不可となることを心得ておくこと。
＊テキストの熟読と科目修了試験との関係性については、下記の項目を留意すること。
・「 1 章」からは、「教育課程」と「全体的な計画」、すなわち、「保育カリキュラム」の意味とその独自性について理解しておくこと。
・「 2 章」からは、今日の保育カリキュラムの現状と課題を理解し、問題解決へと一歩踏み出すための施策について、自分なりに考えておくこと。
・「 3 章」からは、幼稚園・保育所・認定こども園のカリキュラムの基本的編成について、それぞれの教育・保育施設の特性との関係から理解しておくこと。
・「 4 章」からは、 1 ） 0 - 5 歳児の発達の特性と指導計画立案においての留意点について学んでおくこと、加えて、小学校との連携のカリキュラムの重要性について理解し、課題について考えておくこと。
・「 5 章」からは、子ども理解と記録・評価の関係性について学び、その意義について理解しておくこと。
＊各章の重要な用語については、説明できるように整えておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
・主語・述語の関係を留意した文章であること。改行、改節等に留意していること。
・判読可能な丁寧な文字で記していること。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20046	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・国語［2単位／90時間］			
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』　東京書籍					
ISBN	9784487287031	本体価格（円）（2025年1月現在）	238	生協テキストNo.	25028	文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	●柴田義松　阿部昇　鶴田清司　『あたらしい国語科指導法　七訂版』　学文社					
ISBN	9784762032097	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	25027	
テキスト	●水戸部修治　吉田裕久　『小学校　新学習指導要領の展開　国語編＜平成29年版＞』　明治図書出版					
ISBN	9784183278159	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25059	
科目担当	齋藤　隆彦					
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（教科　国語科）					

科目の目的

『小学校学習指導要領　国語』に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成する。学習指導要領を踏まえ、学習指導案を書き、国語科指導を行える教員としての基礎・基本を養うことを目的とする。現場で必要な国語科指導力の基礎を養う。

到達目標

・小学校国語科の目標や内容を理解することができる。
・国語科の内容の構成、〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕について理解することができる。
・小学校国語科の学習評価について、学習目標・内容を整合させて行うことを理解することができる。
・教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、付けるべき資質・能力を具体的に捉え、国語科学習指導の概要を作成することができる。

学習テーマ

1	『小学校学習指導要領　国語』の目標及び内容の構成や指導事項について理解する。
2	『小学校学習指導要領　国語』の〔知識及び技能〕について、その項目と内容を理解する（「書写」含む）。
3	『小学校学習指導要領　国語』の〔思考力、判断力、表現力等〕について、その項目と内容を理解する。
4	第1学年及び第2学年　〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材と授業展開とテキストの内容をつないで理解する。
5	第3学年及び第4学年　〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
6	第5学年及び第6学年　〔知識及び技能〕の目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
7	第1学年及び第2学年　〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
8	第1学年及び第2学年　〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
9	第1学年及び第2学年　〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
10	第3学年及び第4学年　〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
11	第3学年及び第4学年　〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
12	第3学年及び第4学年　〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
13	第5学年及び第6学年　〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
14	第5学年及び第6学年　〔思考力、判断力、表現力等〕B書くことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。
15	第5学年及び第6学年　〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの目標と内容について理解し、授業プラン（テキストやWeb）を探し具体的な教材とつなぎ合わせて理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

第 3 学年及び第 4 学年「C 読むこと」の授業について、
①「C 読むこと」では、どのような力をつけるため、どのような指導事項が述べられているか。さらに、第 3 学年及び第 4 学年の特徴も説明する。
②具体的な指導事例を探し（あるいは自身で作成し）、その教材とその授業展開を説明する。（指導案すべてを書くのではなく、教材の内容と展開の内容がわかる説明でよい。）
③その指導事例がどのような力をつけるのか、どのような指導事項を踏まえているのか、①と②のつながりを述べなさい。
上記①、③において、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』「指導事項」「言語活動例」と『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開　国語編』の内容を取り入れて説明すること。さらに、別の資料を追加して「C 読むこと」でつけるべき力を詳しく述べることも推奨する。
なお、授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、本冊子「はじめに」を参照すること。

第 2 課題

第 5 学年及び第 6 学年「A 話すこと・聞くこと」の授業について、
①「A 話すこと・聞くこと」では、どのような力をつけるため、どのような指導事項が述べられているか。さらに、第 5 学年及び第 6 学年の特徴も説明する。
②具体的な指導事例を取りあげ、その教材とその授業展開を説明する。（指導案すべてを書くのではなく、教材の内容と展開の内容がわかる説明でよい。）
③その指導事例がどのような力をつけるのか、どのような指導事項を踏まえているのか、①と②のつながりを述べなさい。
上記①、③において、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』「指導事項」「言語活動例」と『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開　国語編』の内容を取り入れて説明すること。さらに、別の資料を追加して「A 話すこと・聞くこと」でつけるべき力を詳しく述べることも推奨する。
なお、授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、本冊子「はじめに」を参照すること。

各課題共通の留意点

国語科でつける学力を理解し、その方法（授業づくり）につなぐ課題である。
・まずは『学習指導要領』でめざす学力を理解すること。また、『あたらしい国語科指導法』『小学校新学習指導要領の展開　国語編』も熟読し、『学習指導要領』がめざす学力の理解を深め、また、別の角度からも理解を深めることを心がけること。
・①の力を育成する教材と実践を文献やWebで探し（あるいは自身で作成し）、教材と授業展開のおおよそをそれぞれ書く（手元にその資料がない読み手にも内容がわかるように）。
・②の教材と授業展開と①の関わりを③説明する。「○○の活動は、○○の力をつけるために、指導事項の○○について、○○、○○のように実践され、工夫されている」など。
・授業の展開例を文献やWebから引用する際には必ず「引用文献」として情報を明示すること。引用文献の提示については、本冊子「はじめに」を参照すること。
・自身の授業力をたかめることが一番の目標なので、テキストや参考文献を熟読し、さらに別の資料も探し、理解を深める。教材と授業展開もいろいろ調べて適したものを選ぶようにすると、すでにつながりが意識されているので、③が書きやすい。
・テキストその他からの記述はすべて引用として示すこと。「引用がない」「引用情報が不足している」場合、不可とする。学習を重ねていることがそれで示される。

レポートの評価基準

・各課題ともに、 3 冊のテキスト、さらに他の資料など加えるなどして、しっかり調べ、理解を深めているか。
・課題にふさわしい「教材と授業展開」を探して（あるいは、自分で作成して）いるか。
・①と②がちゃんとつなげられているか。説明がわかりやすいか。
・引用と自身の意見が明確に区別されているか。文献情報が明示されているか。テキストも引用文献として明記し、ページも示すこと。（この引用情報が不足している場合、不可とする。）
・他人に読ませること、理解させることを意識して仕上げる。文章のわかりやすさ。誤字脱字の修正など、下書きと見直しをやること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

まずは、「学習テーマ」にそって学習を進めること。それが、「科目修了試験」対策であり、「国語科の授業力」をつける王道である。具体的には、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』と他テキストを読み込み、「学習テーマ」それぞれの回の内容を理解すること。各学年の指導事項と言語活動の関係を考える。また、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』の学年ごとの〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の分野で何が求められているか事前に深めることが大切である。そして、pp.153-169の配慮事項は指導計画作成や日々の授業で必要なことなので、理解し活用できるようにすること。
〔知識及び技能〕の内容や〔思考力、判断力、表現力等〕の内容の理解不足が散見される。テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』その他のテキスト等を読んで、〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を学年ごとにまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・設題の意図、背景、題意を明確にし、題意を正しくとらえているか。具体例を取り上げ、考察を加えながら論を適切に展開しているか。さらに、 3 冊のテキストを熟読しているか。 3 冊のテキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自説を記述しても評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に記述されているか。
・設題の内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

指定テキスト以外に、以下の文献も理解を深めるのに役立つ。
・田近洵一　大熊徹　塚田泰彦 『小学校　国語科授業研究』 教育出版
・鶴田清司　河野順子 『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン　小学校編』 明治図書出版
・浜本純逸 『国語科教育総論』 溪水社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20047	科目名[単位数／学習時間]	教科教育法・社会［2単位／90時間］			
テキスト	●澤井陽介　中田正弘　『実践・小学校社会科指導法』　学文社					
ISBN	9784762030604	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,300	生協テキストNo.	25060	
科目担当	上杉　敏行					
実務経験のある教員による科目	公立学校教員・管理職、教育委員会指導主事					

科目の目的

社会科教育の理念や歴史、学習指導要領の目標・内容等について理解するとともに、授業づくりの工夫や様々な実践事例に触れることを通して、「これから求められる社会科授業」を構想・実践していく技量の育成をめざす。また、公立学校での授業経験や教育委員会での実務経験を活かして教授し、学校現場で直ぐに使える実践的な指導法が身に付くことをめざす。

到達目標

社会科教育について理解を深め、小学校で社会科の授業が実践できる知識や技能が身に付くよう、次の3点の目標達成をめざす。

①社会科教育の目標や内容構成、問題解決的な学習過程の充実や学習評価の方法、学習指導案の作成など授業づくりの基本的な考え方を理解している。
②学習活動の工夫や発問と指示、資料や地図帳、情報機器の活用など実践的な授業手法を身に付けている。
③教材作成の手順やこれからの授業づくりの在り方などについて理解している。

学習テーマ

1	社会科が目指すもの【社会科を学ぶ意義、学習指導要領の変遷を理解する。】
2	社会科の目標と内容【学習指導要領の目標・内容と地理・歴史・公民各分野の内容構成を理解する。】
3	問題解決的な学習過程【問題解決的な学習を意識した授業づくりの方法について理解する。】
4	学習評価【社会科における学習評価の意義と評価方法、指導と評価の一体化について理解する。】
5	学習指導案をつくる【学習指導案を構成する要素や作成の要点を理解する。】
6	社会科の学習活動【社会科の授業における様々な学習活動を比較検討する。】
7	発問と指示【社会科の授業における発問・指示の目的や種類、条件を検討する。】
8	資料の活用【社会科の授業における資料活用の方法を学び、資料活用のアイデアを検討する。】
9	地図、地図帳、地球儀の使い方【社会科の授業における地図帳や地球儀の使い方を理解する。】
10	ICTの活用【ICTを効果的に活用した授業方法を検討する。】
11	板書・ノート・ワークシートの活用【板書やノートの役割、ワークシートの活用について理解する。】
12	社会科における表現活動・まとめの活動【様々な表現活動や学習のまとめの方法を理解する。】
13	教材作成とその手順【教材研究を進める上で大切な視点を理解する。】
14	授業実践の記録と分析【授業実践を記録・分析し、授業改善に生かす手法を獲得する。】
15	これからの社会科授業づくりと実践【これまでを振り返り、今後の授業づくりの在り方をまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

対話的な学びを取り入れた学習指導にどのように取り組むか。対話的な学びの意義や必要性について整理した上で、社会科の授業で「現代的な諸課題」を扱う1コマを想定して、あなたの考える対話的な学びを取り入れた授業展開例を2,000字程度にまとめなさい。

第2課題

社会科の授業に向けて教材を準備する際、大切にすることは何か。教材研究の視点について論じた上で、6年生の歴史学習での1コマを明示しながら、あなたの考える教材作成のアイデアを2,000字程度で述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストに書かれている「対話的な学びを取り入れた学習指導」について理解しておくこと。また、参考文献『小学校学習指導要領解説　社会編』で「対話的な学びの実現」や「現代的な諸課題」について説明している箇所及び、あなたが考える授業の1コマに対応する教科書の当該箇所も確認した上で作成すること。

レポート前半では、テキストや学習指導要領の内容を基に対話的な学びの意義や必要性、行う際の留意点について整理すること。レポート後半は、前半の整理を踏まえて、「現代的な諸課題」を扱う授業の1コマを想定しながら、1時間の授業の流れを具体的に論述すること。

第 2 課題の留意点

テキストの第Ⅳ部第13章「教材作成とその手順」を熟読し理解しておくこと。

レポート前半では、社会科における教材研究の視点や教材作成で大切にすることについて、テキストの内容を基に考え方を整理すること。レポート後半は、独自に考えた教材作成のアイデアを具体的な授業場面を明示しながら提案すること。その際、参考文献『小学校学習指導要領解説　社会編』で当該箇所の取扱いについて説明している内容と関連付けながら、なぜその教材が良いと言えるのか、根拠を基に論理的に説明すること。なお、授業場面は、 6 年生の歴史学習のどの単元でも自由に設定して構わない。

レポートの評価基準

次の 5 点を評価基準とする。

- 課題の趣旨を適切に把握し、テキストの内容を十分に理解した上で、自分の考えや主張を理由や根拠を基に論理的かつ具体的に述べているか。
- 段落ごとに改行し節ごとに小見出しを付けるなど論文としての体裁を整えながら、誤字・脱字が無く分かりやすい文章で論じているか。
- テキストやその他の参考文献、インターネット等の情報を引用した場合は、引用部分を「　」でくくり、書名・著者名など参考文献等に関する情報を文末に明記しているか。
- 文字数は1,800字から2,200字の間に収まっているか。
- 他者に読ませることを意識して、文意が伝わるよう丁寧に論述しているか。特に、自筆（手書き）の場合は丁寧な文字（小学校教員に必須のスキルである）で記入しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

＜科目修了試験の対策について＞

- テキストの章ごとに要点をまとめ、内容の理解を深めておくこと。
- テキストの各章で論じられている内容に関して、「その要点」及び「その内容を踏まえた自分の考え」を簡潔に書けるよう練習しておくこと。
- テキスト中の重要なキーワードや概念、テーマについて、大まかな趣旨を自分の言葉で論述できるように準備しておくこと。
- 特にテキストの第15章「これからの社会科授業づくりと実践」は、14章までの内容を踏まえ、社会科の授業づくりのエッセンスが具体的事例を基にまとめられているので、内容を熟知しておくこと。

＜答案作成の留意点について＞

- テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説のみを記述しても不十分である。テキストの内容を理解した上で、独自の意見を付け加えて論じること。
- 前提として、他者に意図が伝わるよう、読みやすい文章及び説明を心掛けること。

科目修了試験の評価基準

- 設題の趣旨を適切に把握し、テキストのキーワードや内容を正確に理解した上で、自分の考えを論理的かつ具体的に説明できていること。
- 自らの経験や自説のみを羅列しても合格点には達しない。テキストの内容を踏まえていることがわかるような表現や記述が見られること。
- 誤字・脱字が無く分かりやすい文章で論じているか。丁寧な文字で記入しているか。
- 解答用紙表面が埋まる程度（800字程度）の分量しか記述できていない場合は評価に値しない。

参考文献

- 澤井陽介　『小学校新学習指導要領　社会の授業づくり』　明治図書出版
- 唐木清志　永田忠道　『新・教職課程演習　第11巻　初等社会科教育』　協同出版
- 文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編＜平成29年 7 月＞』　日本文教出版又は文部科学省HP
- 文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20048	科目名[単位数／学習時間]	教科教育法・算数［2単位／90時間］			
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年7月＞』　日本文教出版					
ISBN	9784536590105	本体価格(円)（2025年1月現在）	224	生協テキストNo.	25030	文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	●鈴木将史　『小学校算数科教育法』　建帛社					
ISBN	9784767921129	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25061	
科目担当	竹内　弘明					
実務経験のある教員による科目	中学校・高等学校教員（数学）、県教育委員会指導主事					

科目の目的

小学校学習指導要領にある算数科の目標から、算数を学ぶ意義と授業づくりを進める上で大切にしたい指導のポイントを理解していく。さらに各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の指導内容に関わる単元の授業場面を想定して、その指導法について具体的に学び、授業研究を進めるための基礎的な力を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・小学校学習指導要領にある算数科の目標及び各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の学習内容を把握するとともに、その内容を子どもたちが主体的に学ぶことができるよう、指導の工夫や指導のポイントを考えることができる。
・いろいろな単元の授業場面を想定して、問題解決学習に沿った指導の流れを考え、指導案の作成ができる。

学習テーマ

1	算数科の目標について、その変遷（どのような内容を重視してきたか）を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第1章、第2章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第2章】
2	「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域ごとに学年の系統を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第2章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第1章】
3	第1学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の1年に関連する内容】
4	第1学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
5	第2学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の2年に関連する内容】
6	第2学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
7	第3学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の3年に関連する内容】
8	第3学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
9	第4学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の4年に関連する内容】
10	第4学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
11	第5学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の5年に関連する内容】
12	第5学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
13	第6学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の6年に関連する内容】
14	第6学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
15	指導計画の作成と内容の取り扱いを読み、模擬授業を想定し、自己評価する。指導案を作成する上でのポイントをまとめる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第4章】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

授業における指導と評価の一体化とはどのようなことか。「図形」領域の指導を例に具体的に説明せよ。

第 2 課題

5 年生の「変化と関係」領域から授業場面を 1 つ選び、数学的な見方・考え方を踏まえた 1 時間の授業展開を考え、学習指導案を作成せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』やテキスト『小学校算数科教育法』第 9 章などをよく読んで、具体的な指導例を示しながら説明すること。

第 2 課題の留意点

学習指導案の展開は、2 冊のテキストをよく読んで理解し、数学的な見方・考え方を踏まえていることがわかるように作成すること。

学習指導案の形式は、以下の形式に沿ってA4用紙 4 ～ 5 枚程度で作成し、ページ番号を付けること。自筆の場合は、A4サイズの白紙もしくは方眼紙を用いてまとめること（片面使用）。

算数科学習指導案

指導者　○　○　○　○

1．日時　○○○○年○○月○○日（○）（作成した日付）
2．学級　第○学年○組　（組は任意）
3．単元　○○○○
4．単元目標（この単元全体で育てたい態度・能力を 3 つの観点から記述する。）
　①知識・技能
　②思考力・判断力・表現力
　③主体的に取り組む態度
5．指導にあたって（教材観・児童観・指導観）
　・教材観・・・教材の内容、ねらい、前後の学年との関連など教材分析したことを詳しく述べる。
　・児童観・・・今から指導する児童の状況や特性、また本単元に関わる子どものつまずきを想定して述べる。
　・指導観・・・児童観を踏まえてどのように指導するかを、自分で考えた指導の工夫も含めて詳しく述べる。
6．指導計画（全○○時間）
　本時は、第何次の第何時かを明記する。
　第 1 次　○○・・・・　例：2 時間（本時は 1 / 2 ）
　　第 1 時　○○・・・・
　　第 2 時　○○・・・・
　第 2 次　○○・・・・　例：1 時間
　　第 1 時・・・・
　　・・・
7．本時の指導
　（1）本時の目標
　（2）本時の展開

学習活動と教師の主な発問	予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価

※学習指導案を作成するにあたって、特に 7．（2）の本時の展開は、学習課題（めあて）や児童の数学的活動、本時のまとめなど、1 時間の授業イメージがつかめるよう、わかりやすく書くこと。

レポートの評価基準

次の 3 点を評価基準とする。

・テキストや参考文献からの引用だけでなく、テキストをもとに自分なりに理解したことや自分の考えも入れてまとめている。
・児童が意欲的・主体的に取り組むとともに、数学的な見方・考え方を踏まえた授業展開になっている。
・「課題の留意点」に従った学習指導案の形式で記述している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

2 冊のテキスト内容を熟読し、その中で述べられている語句や基本概念とともに、各領域や各学年の指導内容におけるポイントを明らかにしておくこと。指導内容や指導計画、指導方法、具体的な指導事例についても、その内容の理解とともに、具体的に説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・試験は論述問題 4 問。
・設題の趣旨を理解し、テキスト内容に沿った説明が正しく記述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容（指導内容）が含まれていない、自分の考えだけの記述については減点の対象となる。

参考文献

・赤井利行 『わかる算数科指導法 改訂版』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20050	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・生活［2単位／90時間］

テキスト	●田村学 『小学校 新学習指導要領の展開 生活編＜平成29年版＞』 明治図書出版					
ISBN	9784183282149	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25062	
科目担当	山田 希代子					
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）					

科目の目的

生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力、評価の仕方を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。学校現場での生活科学習活動に即した授業を進める。情報通信機器及び教材の効果的な活用を含め、授業づくり・単元づくりを通して、生活科指導の具体的な手立てを学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・学習指導要領に示された生活科の目標や内容・評価について理解する。
・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
・生活科の特性に応じた情報通信機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。

学習テーマ

1	生活科の設立の趣旨と経緯 ＜テキストはじめに＞
2	生活科の目標と生活科の特質 ＜テキスト序章・第1章・第2章1＞
3	生活科の内容構成と学習指導の進め方（情報通信機器及び教材の活動を含む）＜テキスト第2章2・3・4・5・6・7・8・9・10、第3章11・12・13・14＞
4	主体的・対話的・深い学びの実現 ＜テキスト第3章4＞
5	指導計画作成上の留意点と評価の在り方 ＜テキスト第3章1・5・8・9・17・18・19＞
6	年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項 ＜テキスト第3章2・3・10＞
7	学校・家庭・地域に関わる活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む）＜テキスト第4章1・2・6・7＞
8	身近な人々・社会・自然に関わる活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り）＜テキスト第4章3・4・8＞
9	自分自身の成長を振り返る活動の授業プラン（情報通信機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り）＜テキスト第4章5・10＞
10	学校生活への適応とスタートカリキュラムについて ＜テキスト第3章7＞
11	生活科における生命教育と自然の不思議さや面白さを体験する授業プラン ＜テキスト第4章9＞
12	コミュニケーション能力の育成のための手立て ＜テキスト第3章15＞
13	社会性の育成のあり方 ＜テキスト第3章16＞
14	幼児教育との連携のあり方 ＜テキスト第3章6＞
15	生活科の目標や内容・基礎的な学習指導理論のまとめと各自の到達度の確認（情報通信機器及び教材の活用を含む。これまでの総括と自分の学びの振り返り）

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

小学校学習指導要領（平成29年告示）生活の内容の取扱いには、生活科の学習指導では、「見付ける・比べる・たとえる・試す・見通す・工夫するなどの多様な学習活動を行う」ようにすることと示されている。それは、なぜなのか。生活科の学びの特質をふまえ、理由を述べなさい。また、具体的な学習場面での子どもの姿を示して説明しなさい。

第2課題

自分が暮らしている町を対象とする町たんけんの単元計画を総時数20時間程度で作成しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

学習指導要領改訂（平成29年告示）の趣旨を理解したうえで、多様な学習活動を行う意義を明らかにする。テキスト序章・第1章・第2章・第3章（pp.84-87）を熟読し、参考文献『小学校学習指導要領解説 生活編』第4章2（3）（pp.69-70）に解説されている内容についても確認し、生活科の学びの特質を考え合わせながら述べるとよい。

第 2 課題の留意点

内容（３）「地域と生活に関わる内容」を中心内容として、他の内容と組み合わせた単元計画を作成すること。その際、実施学年を第 2 学年とする。内容については、テキスト第 2 章 1 - 3 （１）学校・家庭及び地域の生活に関すること（pp.26-28）関連部分、第 2 章 4 （３）地域と生活・ 5 （４）公共物や公共施設の利用（pp.34-37）を熟読すること、単元計画については、テキスト第 3 章 3 単元計画の基本（pp.56-59）を理解し、第 4 章　生活科の新授業プラン 7 「たんけん！はっけん！わたしたちのまち」（pp.144-149）を参考にするとよい。

単元指導計画は、①単元名（学年）②単元について（教材観・子どもの思い・教師の願い）③単元目標④単元の評価規準⑤指導計画（各小単元名とその時数・小単元のねらい・子どもの主な学習活動・教師の支援・評価の観点と方法等）⑥本時の学習活動案 によって構成すること。その際、単元目標と評価規準、小単元のねらいと評価の観点の整合性に注意すること。

参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年 7 月＞』第 2 章第 2 節学年の目標（１）（pp.19 - 20）関連部分、第 3 章第 2 節内容（３）地域にかかわる活動・（４）公共物や公共施設を利用する活動（pp.33-38）、第 5 章第 3 節・第 4 節（pp.87-99）を参考にすると理解が深まる。

A4白紙用紙（片面使用）に必要に応じて罫線を引き、手書きする。枚数は全体で 5 枚とする。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、テキスト学習により得た基本的なことを説明した上で、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているかで評価する。
・文字数は、1,800字～2,000字とする。ただし、第 2 課題については表作成が必要となるので、字数については制限しない。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・実践例・インターネット等の情報を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
・主語述語の関係などに留意して、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。第 1 課題については、「はじめに」「本論」「おわりに」等、章立てや段落を設定し、筋道を立てて論理的に展開すること。
・実践例等を参考にした場合は、出典を明記すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全般から出題する。
・基本的な生活科の目標・内容については熟読し理解しておくこと。特に、序章　生活科改訂のキーポイント（pp.10-17）、第 1 章「第 1 目標」のポイントと解説（pp.18-23）については深く理解しておくこと。
・生活科の学びの特質を十分に理解した上で、第 3 章 学習指導（pp.76-99）のキーワードを中心にまとめておくとよい。
・幼児教育と小学校教育との連携について、スタートカリキュラムを意識した指導計画（pp.66-67）、参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編』第 4 章 1 （４）(pp.57-58)(pp.61-64)、第 5 章第 2 節 4 （pp.82-83）関連部分を読んで理解を深めておくとよい。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの学びの姿と教師としてのかかわりを考えながらテキストを読み込み、指導上の留意点についても確認をしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立て、段落等を設定し、誤字脱字なく、論理的に展開できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年 7 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20053	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・家庭［2単位／90時間］			
テキスト	●渡瀬典子　倉持清美　萬羽郁子　藤田智子『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』萌文書林					
ISBN	9784893474001	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25065	
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編＜平成29年7月＞』東京書籍					
ISBN	9784487287062	本体価格（円）（2025年1月現在）	156	生協テキストNo.	25037	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	山口　香織					
実務経験のある教員による科目	公立高等学校教諭（家庭）					

科目の目的

家庭科教育の理念や特徴を踏まえ、現在社会における家庭科教育の果たす役割や意義、家庭科の歴史、教科の目標や内容、評価等について理解する。また、家庭科の学習指導案の事例を通して、授業づくりの視点ならびに学習指導案の作成方法、学習内容や評価のあり方を学ぶ。

到達目標

・家庭科の理念や歴史的変遷を踏まえて、小学校家庭科の目標や内容、育成したい力について理解する。
・小学校家庭科の学びの特徴や評価のあり方について理解する。
・小学校家庭科の授業設計（学習指導案作成含む）と具体的な授業展開について提案できる力を身につける。
・小学生の生活課題を含んだ題材設定や指導の工夫について理解を深める。

学習テーマ

1	小学校家庭科教育の意義と目標【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第1章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
2	小学校家庭科教育のあゆみ【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第2章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
3	家庭科で育成したい力と学習評価【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第3章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
4	家庭科の授業設計【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第4章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
5	小学校家庭科の授業づくりのポイント（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第5章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
6	学習指導案の作成【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第6章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
7	「家族·家庭生活」の授業づくり【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第7章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
8	「食生活」の授業づくり【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第8章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
9	「衣生活」の授業づくり【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第9章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所
10	「住生活」の授業づくり【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第10章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
11	「消費生活·環境」の授業づくり【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第11章、『小学校学習指導要領解説』該当箇所】
12	教材研究【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第12章】
13	小学校家庭科の授業設計（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト該当箇所】
14	小学校家庭科の模擬授業の構想と振り返り【テキスト『初等家庭科教育法　気づく·考える·実践する力を育む授業づくり』第13章】
15	家庭科教育の展望【テキスト『初等家庭科教育法　気づく・考える・実践する力を育む授業づくり』第14章】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

家庭科教育における「持続可能な社会」の実現に向けた学びについて論述しなさい。その際、具体的な教材例や学びの内容を挙げながら、育成したい資質・能力について考察しなさい。

第2課題

「B 衣食住の生活」の住生活に関する内容で、小学校家庭科の授業構想を述べなさい。その際、学習指導案（細案）の構成に沿ってまとめ、児童同士の協働やアクティブラーニングの視点を取り入れた授業展開を考案しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・2 冊のテキストを十分に読み込み、小学校家庭科教育の意義、目標、内容を正確に把握する。特に、家庭科が「持続可能な社会」の実現にどのように貢献するかを具体的に理解すること。
・SDGs、フードロスやリサイクルといった具体的な環境問題を家庭科教育と関連付けて論述する。
・レポート内で具体的な教材例を挙げ、学びの内容と関連付ける。また、教材と学びが「持続可能な社会」の実現にどう結び付くかを説明する。
・指定されたテキストや資料の文言をそのまま用いるのではなく、自分自身の言葉で簡潔かつ明瞭にまとめる。
・テキストや資料の内容を必要に応じて引用する際には、必ず出典を明記する。そのうえで、引用部分を自分の考察と組み合わせ、オリジナリティを持たせる。

第 2 課題の留意点

・2 冊のテキストの内容を熟読し、住生活の目標や内容を理解すること。
・住生活に関するテーマの教育的意義を明確にする。
・学習評価の種類や方法についても理解すること。
・授業構想は、具体的な教材を示し、学習指導案（細案）を想定してまとめると良い。ここでの「教材」とは、小学校家庭科の題材（単元）のことを意味している。
・「教材観」「児童観」「指導観」に基づき、題材設定の理由を論じる。
・題材設定の理由（教材観、児童観、指導観）については、子どもの発達課題と生活課題を踏まえ、社会的・教育的視点から述べること。
・独自の授業を考える際、テキストや関連図書、インターネットから授業実践例を探して参考にしてもよいが、テキストやインターネット等にある学習指導案等をそのまま写したレポートは評価しない。
・参考にした学習指導案がある場合は、出典ならびに参考にした部分を必ず明記すること。

レポートの評価基準

次の 4 点を評価基準とする。
・2 冊のテキストの内容を十分に理解した上で文献やインターネットなどの情報を加味し、課題の趣旨を理解し、キーワードや必要事項を的確に捉えて説明できている。
・引用・参考文献を正しく明記している。
・2 冊のテキストから学んだ内容を踏まえ、自分の考えを取り入れて論理的にまとめている。
・他人に読ませることを意識して、レポート形式に従い、誤字・脱字が無く、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・2 冊のテキストを十分に読み込んで基礎知識について理解を深めておくことが必要である。
・小学校家庭科の学習指導案が作成できること、教科の独自性について理解する。
・家庭科の改訂ポイントや目標及び内容を押さえ、指導計画の作成と内容の取扱いについても理解しておく必要がある。
・小学校家庭科の授業について、具体的な教材を示して授業展開できるよう理解しておく。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること。答案作成では、指定文字数以上の記述があることを前提として評価する。
・設問の趣旨を理解し、キーワードや必要事項を的確に捉えて説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストによる学習ということを意識していることが重要である。自己の思い込みで作成された解答や自らの経験や自説を記入しても評価しない。

参考文献

・大竹美登利　倉持清美　『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』　萌文書林
・『新編　新しい家庭 5 ・ 6　私がつくる　みんなでつくる　明日をつくる』　東京書籍

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20065	科目名［単位数／学習時間］	教育相談（初等）［2単位／90時間］

テキスト	●有村久春 『新訂版 学級教育相談入門』 金子書房					
ISBN	9784760823895	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25067	
科目担当	金山 健一					

科目の目的

教育相談は子どもの心の声を聞き取り、教師との信頼関係をつくるために必要不可欠である。よって本科目では、教育相談（カウンセリングに関わる基礎的な知識を含む）の理論及び方法を習得することを目的とする。

教師の教育活動は、子どもの心身の発達と学習に関わるものであり、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす。よって教師には、教科等に対する専門的知識や、子どもの心身のみならず、社会的な成長・発達に関する深い理解と、それらを基盤とした教育相談対応力・実践指導力を習得することが必要である。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- 「学校における教育相談」では、開発的、予防的、治療的対応と、子どもの自己形成の援助方法を理解する。
- 「子どもと関わる基本原理」では、教師の自己開示、子どもの言葉の傾聴、子どもの感情の明確化、即時対応、子どもの内的動機を促す上手なほめ方等を学習する。
- 「子どもの人間関係づくり」では、学級集団のまとまり、コミュニケーション能力の育成、指導観・授業観の転換について学ぶ。
- 「教育相談の計画と活動の実際」では、計画立案の実際例、不登校児の家庭訪問の工夫、子どもの進路相談の仕方、指導報告書の作成、スクールカウンセラーとの連携について学ぶ。
- 「学級崩壊・不登校・いじめの問題」では、事例研究、予防的対応・指導援助を学ぶ。
- 「問題行動の考え方と対応の実際」では、早期発見の必要性、組織的対応の仕方、対応事例について学ぶ。

学習テーマ

1	子どもの自己育成の視点【学習のポイント：生きる力と学習指導要領を理解する。】
2	教育相談・カウンセリングの考え方【学習のポイント：教育相談・生徒指導について理解する。】
3	子どもの感情を明確化する【学習のポイント：言語化が苦手な子どもの対応方法を理解する。】
4	子どものメッセージに応じる【学習のポイント：タイミング・課題解決能力・動機づけを理解する。】
5	事実に即して叱る・ほめる【学習のポイント：叱り方・ほめ方の方法を理解する。】
6	学級の「まとまり」をつくる【学習のポイント：学級経営の方法を理解する。】
7	コミュニケーション能力を育成する【学習のポイント：グループエンカウンターを理解する。】
8	指導観・授業観の転換【学習のポイント：主体的な活動について理解する。】
9	教育相談の計画の作成【学習のポイント：日々の教育相談活動について理解する。】
10	教育相談活動の実際例【学習のポイント：教育相談の事例を通して、対応方法を理解する。】
11	「学級崩壊」の要因を考える【学習のポイント：学級崩壊の要因・対応・予防について理解する。】
12	「いじめ」を克服する【学習のポイント：いじめの発見・対応・予防について理解する。】
13	保護者との対応力を磨く【学習のポイント：保護者対応の基本について理解する。】
14	問題行動の考え方と対応の基本【学習のポイント：問題行動の早期発見・対応を理解する。】
15	怠学傾向の生徒への対応【学習のポイント：具体的事例を通して、対応方法を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「子どものメッセージに応じる」について、理論ばかりでなく実践についても記述する。

第2課題

「指導観・授業観の転換」について、理論ばかりでなく実践についても記述する。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章第6節「子どものメッセージに応じる」を概観し、その理論を用いて自分が学級担任になった時の学級経営についても述べる。レポートには、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

第2課題の留意点

テキスト第3章第4節の「指導観・授業観の転換」を概観し、その理論を用いて自分の学級に問題行動をする児童生徒がいた場合の具体的な対応についても述べる。レポートには、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

- 21世紀を生きる子ども-子どもの自己育成の視点　（第1章 第2節）
- 子どもとかかわる8つの基本原理-子どもの感情を明確化する　（第2章 第3節）
- 子どもの人間関係づくり-グループエンカウンターを活用する　（第3章 第3節）
- 教育相談の計画と活動の実際-指導報告書の作成　（第4章 第2節）
- 学級担任が向き合う危機的な問題-学級崩壊の要因を考える　（第5章 第1節）
- 問題行動の考え方と対応の実際-怠学傾向の生徒　（第6章 第2節）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

- 伊東眞里　大島剛　金山健一　渡邉由己　『読んでわかる臨床心理学（ライブラリ読んでわかる心理学12)』　サイエンス社
- 『令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
- 文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』　東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20066	科目名［単位数／学習時間］	幼児理解［2単位／90時間］

テキスト	●文部科学省 『幼児理解に基づいた評価（平成31年3月）』 チャイルド本社					
ISBN	9784805402832	本体価格（円）（2025年1月現在）	250	生協 テキストNo.	25068	
科目担当	権藤 眞織					

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、自分の保育観に基づいて保育を展開していくには、まず、「子ども理解」の基礎・基本、原理・原則を掴んでおく必要がある。基本をしっかりと理解して、自分らしい豊かな保育を展開し、実践力のある保育者を目指してほしい。

到達目標

「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。

・保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
・生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
・「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
・個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
・保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
・環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
・保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
・保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	幼児理解に基づいた評価の意義とは
2	評価の考え方①：幼児教育における基本的な視点
3	評価の考え方②：発達を見通した評価の視点
4	よりよい保育を作り出すために
5	幼児理解に基づいた評価の考え方とは
6	保育における幼児理解と評価とは
7	よりよい保育に繋がる保育記録①：幼児の姿と保育
8	よりよい保育に繋がる保育記録②：教室の視点と保育
9	日常の保育と保育記録
10	幼児理解に基づいた評価の実際①：実践事例（テキストより事例1・2）
11	幼児理解に基づいた評価の実際②：実践事例（テキストより事例3・4・5）
12	幼児理解に基づいた評価の実際③：実践事例（テキストより事例6・7）
13	「幼児理解」に関連する根拠法令のポイントを理解する。
14	「幼児理解」に関連する記録（指導要録や児童保育要録など）の作成のポイントや留意点を理解する。
15	まとめ:テキストからキーワードを抽出して、自分なりの「幼児理解」「保育における評価」についてまとめる。そして、自分の保育観や保育実践と、「幼児理解」や「評価」の基本姿勢を比較検討し、基本を踏まえた上で、自分らしい保育を行うには、どんな工夫や配慮ができるか考察する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児理解に基づいた評価の意義について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「幼児理解」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

第2課題

幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「評価」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読し、どのような意義があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「幼児理解」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 2 章を熟読し、どのような考え方があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「評価」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

レポートの評価基準

職業人として「保育」を実践していくためのスキルを身につけていく基礎として、「幼児理解」の考え方を把握できているか評価する。テキストは日本の保育や幼児教育のガイドラインの 1 つであるため、要点を捉えて解説できているか評価する。そして、具体的な例を挙げながら解説しているか、また最後に、課題に取り組んでみて自分がどのように感じ、考え、気づいたのか、私見を述べているかを評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み、キーワードを掴むことが大切である。幼児理解のポイントを捉えて、実際の子どもと関わる際には、実践が求められる。専門的な用語や内容を説明する際には、何らかの具体例や子どもの事例などを例示しながら解説すると、わかりやすく、伝わりやすい論述となる。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の趣旨に沿って適切に解説すること。また、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述が必要。誤字脱字にも留意が必要。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
その他、各自でも工夫して、関連するさまざまな資料やニュース、参考文献にも目を通してみる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20067	科目名［単位数／学習時間］	社会福祉論［2単位／90時間］
テキスト	●倉石哲也　小崎恭弘　『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　2　社会福祉』　ミネルヴァ書房		
ISBN	9784623079278	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200
生協テキストNo.	25069		
科目担当	菊池　信子		
実務経験のある教員による科目	家事調停委員		

科目の目的

本科目の目的は、子どもの福祉を最大限に保障する保育士として、近年の社会福祉に関する制度、施策、事業の動向を知り、子どもや保護者の権利擁護に対する考え方を確認するため、社会福祉に関する学びを深めることにある。

到達目標

本科目の学習到達目標は、つぎのとおりである。

・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷および社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
・社会福祉における相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
・社会福祉の動向と課題について理解する。

学習テーマ

1	保育における社会福祉、社会福祉の理念と概念
2	社会福祉の歴史的変遷（海外、日本）
3	社会福祉における子ども家庭福祉、子どもの権利と子ども家庭福祉
4	子どもの権利擁護、家庭支援と社会福祉
5	社会福祉の制度と法体系、社会福祉行政と実施機関（行政機関、民間組織等）
6	社会福祉施設（施設体系、費用負担、利用方法）、各種法にもとづく施設（児童福祉法、生活保護法、老人福祉法、障害者総合支援法、売春防止法、母子及び父子並びに寡婦福祉法等）
7	社会福祉の専門職、社会保障制度の枠組み
8	社会保障制度改革、子ども家庭福祉を支える社会保障制度
9	相談援助とは
10	相談援助の方法と技術（援助のレパートリー、展開方法等）
11	保育における相談援助の具体的展開（虐待、子育て支援、地域の資源）
12	利用者保護のしくみ（第三者評価、権利擁護と苦情解決）
13	人口減少社会への対応、在宅福祉・地域福祉の推進、共生社会の実現、ネットワーク
14	社会福祉の国際比較
15	これからの社会福祉の課題

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉について、記述しなさい。学んだ内容が、これまでの自身の保育士についての役割・捉え方とどう変わったか（違ったか）、考察に明記しなさい。

第2課題

第三者評価について、記述しなさい。学んだ内容が、どのように役立っているか、自身の生活、活動との関連から具体的に考察に明記しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章レッスン5を中心に、子ども家庭福祉の対象、理念、制度についてテキストをよく読み、子ども家庭福祉が社会福祉の一分野であり、保育士がその担い手としての役割を果たすことを理解する。児童福祉法、子どもの権利条約、子ども・子育て支援をキーワードにとりあげ、記述すること。

第2課題の留意点

テキスト第5章、とくにレッスン24を中心に、よりよい福祉サービス、子どもの最善の利益のために第三者評価の仕組み、役割が設定されていることについてテキストをよく読み、理解する。利用者保護、適切なサービス、社会福祉法、認証評価機関をキーワードにあげ、記述すること。

レポートの評価基準

・レポート作成のルールに沿い、誤字脱字がないこと、適切な文字数量であること。極端に少ないレポートは評価できないことがある。
・課題の趣旨を理解した内容で、個人的な例示による記述は評価の対象とならない。
・テキストを抜き書きするのではなく、理解したことを自分の文章で書くこと。
・引用文献と参考文献を適切に明示すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読み、正しい知識を習得し、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で記し、自分の意見を記す場合は、設題との関連での考察であることを示す。
・主観的な感想文を避け、客観的な内容を記述する必要がある。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキスト履修科目の出題のため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答すること。
・設題と無関係で私的な文章が多い場合は、減点の対象となる場合もある。

参考文献

・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20072	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅰ［1単位／45時間］			
テキスト	●齊藤勇紀　守巧　『子どもが共に育つための障害児保育』　萌文書林					
ISBN	9784893473905	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25070	
科目担当	細木　玉恵					
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助					

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍している。特に今日では、共生社会実現に向けて障害そのものに対する新しい概念が定着しつつあり、保育者には豊富で正確な知識や情報が必要となってくる。本科目では、子どもたちの多様化するニーズに応え、個々の特性に応じた保育を行うために必要となる基礎的な知識や援助方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
・特別な配慮を要する子どもの育ちを支えるために必要となる関係機関との連携ついて理解する。
・特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

学習テーマ

1	障害児保育を支える理念【学習のポイント：障害児保育の歴史的変遷を理解し、障害の概念、障害児保育を支える理念を理解する。また、障害のある子どもの地域へ参加・包括等について学ぶ。＜テキストpp.14-45＞】
2	障害児保育の基本と形態【学習のポイント：障害児保育の基本やその形態等について理解する。＜テキストpp.46-58＞】
3	障害の理解と援助①【学習のポイント：肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児、聴覚障害児の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.60-97＞】
4	障害の理解と援助②【学習のポイント：言語障害児、発達障害児の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.98-127＞】
5	障害の理解と援助③【学習のポイント：重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.128-149＞】
6	障害児保育の実際①【学習のポイント：保育者同士の協力と園内の支援体制について理解する。＜テキストpp.202-214＞】
7	障害児保育の実際②【学習のポイント：障害児支援の制度と、自治体・関係機関、小学校等と連携しながら行う支援やその方法について理解する。＜テキストpp.228-240＞】
8	障害児保育の現状と課題【学習のポイント：医療・保健、福祉・教育・保育の現状と課題を整理し、自分なりの見解が述べられるようにする。＜テキストpp.242-264＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

発達障害児の特性、およびそれに応じた保育のあり方について述べなさい。

第1課題の留意点

・発達障害の定義、分類される障害とその支援のあり方について記述すること。
・テキストPART 1 （pp.14-58）を熟読し、障害児保育の基本的な考え方を理解し記述すること。
・参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』に示された障害のある子どもへの保育のあり方を参考にし、自分なりの考えを記述する。
・合理的配慮や環境整備といったキーワードを適宜使用する。
・文献やインターネットの情報等を参考・引用する際は、出典を明記すること。

レポートの評価基準

・テキストや参考文献等から学んだ内容をふまえ、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容のまとまりごとに段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない。箇条書きではなく文書でまとめられている等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」にそって、テキストの小見出しごとに要点をまとめ、理解を深めておく。
・障害の定義・起因疾患・特性などについては個に応じた支援を考えるベースとなるため、簡潔に説明できるようにしておく。
・多様なニーズに応じた支援については、具体例を用いて説明できるようにしておく。
・自治体・関係機関との連携に関しては、各機関の役割、支援体制の構築のあり方、支援をすすめるための方法や留意点などについて考えをまとめておく。
・障害児保育の理念や制度を理解し、自らの考えを簡潔に記述できるように理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストや参考文献等の知見をもとに論述されている。自らの体験談や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、適切に専門用語を用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞記述されている。ただし、重複内容の記述は文字数として認めない。
・「学習のテーマ」に示したテキスト該当ページを出題範囲とする。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・『令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
※テキストに掲載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めるようにする。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20073	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅱ［2単位／90時間］			
テキスト	●松井剛太　七木田敦『実践事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』教育情報出版					
ISBN	9784909378491	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25071	生協での購入をおすすめします
科目担当	細木　玉恵					
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助					

科目の目的

国際的な動向とともに共生社会の実現に向け、特別な配慮の必要な子どもたちを支える法律や制度が整備されつつある。今後ますますの変革と進展が期待されている中、保育が担う役割も大きい。子どもたちの個々に異なる個性や多様な社会的・文化的な背景等を踏まえ、子どもたちの最善の利益を保証する保育のあり方を理解する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・特別な配慮を必要とする子どもが抱える個々に異なる困難について理解している。
・多様なニーズに応じるための援助方法について、具体的に説明ができる。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な連携と、保育者の果たすべき役割について理解している。
・障害の有無に関わらず子どもたちがお互いの違いを認め、共に育ちあうための保育者の役割を説明できる。

学習テーマ

1	障害児保育の基本姿勢【学習のポイント：特別な配慮の必要な子ども一人一人に応じた保育のあり方を理解する。＜テキストpp.10-23＞
2	障害児保育の実際①【学習のポイント：強いこだわりのある子どもの特性と支援のあり方について理解する。＜テキストpp.24-37＞】
3	障害児保育の実際②【学習のポイント：対人関係に課題のある子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.37-47＞】
4	障害児保育の実際③【学習のポイント：不注意や落ち着きのない子どもの特性と支援のあり方について理解する。＜テキストpp.48-62＞】
5	障害児保育の実際④【学習のポイント：衝動性の強い子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.63-71＞】
6	障害児保育の実際⑤【学習のポイント：学習に課題のある子どもの認知特性とそれに応じた支援について理解する。＜テキストpp.72-83＞】
7	障害児保育の実際⑥【学習のポイント：学習に課題のある子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.84-95＞】
8	園内の支援体制①【学習のポイント：園内における支援体制の構築について理解する。＜テキストpp.96-101＞】
9	園内の支援体制②【学習のポイント：子どもの実態把握と保育の評価等について理解する。＜テキストpp.102-107＞】
10	園内の支援体制③【学習のポイント：保育カンファレンスや指導案、ポートフォリオ・ドキュメンテーションの作成と活用等について理解する。＜テキストpp.108-115＞】
11	園内の支援体制④【学習のポイント：幼児期の子どもを対象にした障害児教育、集団に対する支援と個別支援等について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.116-127＞】
12	家庭や専門機関との連携①【学習のポイント：保護者との信頼関係の構築と連携について理解する。自身の住む地域において、保育と連携できる専門機関にはどのようなものがあるか調べまとめる。＜テキストpp.128-137＞】
13	家庭や専門機関との連携②【学習のポイント：さまざまなニーズのある保護者への支援と連携について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.138-149＞】
14	小学校への接続①【学習のポイント：保育の場での学びを保証し、小学校への円滑な接続のあり方について理解する。自身の住む地域における就学支援体制について調べまとめる。＜テキストpp.150-159＞】
15	小学校への接続②【学習のポイント：就学支援や小学校との連携について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.160-169＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

特別な配慮を必要とする子どもを支援する際、保育者に求められる支援のあり方や留意点等について述べなさい。

第2課題

特別な配慮を必要とする子どもにおける小学校への接続の難しさと、なめらかな接続のために必要な支援や連携について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・保育実践で重要となるていねいなかかわり、子ども理解、発達支援、連携等の観点から記述する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解、特性に合わせた支援のあり方について記述する。
・テキスト1章・5章を中心に、各章の中からも重要な内容を読み取り簡潔に記述すること。
・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストや参考文献を積極的に活用すること。

第 2 課題の留意点

・保育と就学後の教育の違いや、学びの連続性を保証するための連携について考えを述べること。
・就学先に伝えるべき内容や伝え方について記述しておくこと。
・就学を控えた特別な配慮を必要とする子どもをもつ保護者への支援について、考えを述べること。
・テキスト 7 章のみならず、「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストや参考文献を積極的に活用すること。

レポートの評価基準

・課題の意図を正しく理解し、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容のまとまりごとに段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない。箇条書きではなく文書でまとめること等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストにある実践事例から、子ども実態把握、支援のあり方、日々の保育での取り組み、保護者への支援等を具体的に記述できるようにしておく。
・テキストにある“やってみよう”やワークシートに取り組み、自分の考えをまとめておく。
・テキストに青字で記載されている用語やQRコードが示されている内容は、保育カンファレンスや専門機関との連携の際に使用頻度が高い。そのため、答案に適切に記述できるよう内容を理解しておく。
・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストを併用し、理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストや参考文献等の知見をもとに論述されている。テキストの内容を踏まえず、自らの体験や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、適切な専門用語を用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞で記述されている。ただし、重複内容の記述は文字数に含めない。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・齊藤勇紀　守巧　『子どもが共に育つための障害児保育』　萌文書林
※テキストに記載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めるようにする。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20075	科目名［単位数／学習時間］	子どもと人権［2単位／90時間］			
テキスト	●古橋エツ子　和田幸司　『人権論の教科書』　ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623091737	本体価格（円）（2025年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	25072	
科目担当	「親和通信」で連絡					
実務経験のある教員による科目	公立小・中学校の教員、管理職としての学校における人権教育に係わる実践的指導の経験、教育行政や一般行政における人権に係わる研修の企画・運営や講師経験等					

科目の目的

・人権教育は様々な立場の子どもの教育機会を保障するため、また人々が自由に社会参加できる市民社会をつくるために重要な教育実践であることから、同和問題をはじめとする子ども・女性・外国人等の個別の人権課題について学ぶことを通して、学校教育のなかで人権教育を進める際の基礎的な知識の獲得を目指す。
・人権教育の基本的な事項を学びながら、人権教育のポイントや教育実践の実例を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・様々な人権課題についての基礎的な知識を身に付け、その内容を説明することができる。
・人権教育の基本的な概念について、実例をあげながら説明することができる。
・子どもの人権が配慮された学校づくりについて、その特徴を整理することができる。

学習テーマ

1	人権教育について学びませんか【テキスト序章】
2	女性をめぐる人権を知ろう【テキスト第1章】
3	子どもをめぐる人権を知ろう【テキスト第2章】
4	「障害」をめぐる人権を知ろう【テキスト第4章】
5	同和問題を考えよう【テキスト第5章】
6	外国人をめぐる人権を考えよう【テキスト第6章】
7	性的マイノリティと人権【テキスト第7章】
8	ハラスメントを考えよう【テキスト第9章】
9	経済的格差・貧困を考えよう【テキスト第10章】
10	戦後日本における人権教育の成立と展開1―長期欠席と不就学問題と同和教育の組織化―【テキスト第11章】
11	戦後日本における人権教育の成立と展開2―教育条件整備、低学力の克服、進路・学力保障―【テキスト第12章】
12	グローバルスタンダードとしての人権教育の展開1―人権意識の実際、人権教育のための世界プログラム―【テキスト第12章】
13	グローバルスタンダードとしての人権教育の展開2―さらなる人権教育の課題―【テキスト第12章】
14	人権教育の授業構成【テキスト第13章】
15	多文化共生を実現しよう―多文化共生とは―【テキスト第14章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストを熟読し、① テキストにとり上げられている個別の人権課題の中から、あなたが子どもに係わる課題と考える人権課題を選び要約する。② なぜその課題が子どもの人権に係わる課題ととらえるのかを具体的に説明する。③ ①②を踏まえ、子どもの人権を守るために、教師として実践したい取組みを、あなたの体験を交え、具体的に述べなさい。

第2課題

テキストを熟読し、学校教育における人権教育の具体的な取組みについて、① 人権教育とはどのような教育であるのかテキストの趣旨を踏まえて概説する。② 同和教育との関連性について、テキストの趣旨、並びに、その他の資料（自身で探す）の内容を踏まえてまとめる。③ 小学生の実践（対象学年明記のこと）として、あなたが実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・「人権」とは何か、「人権教育」とは何かを、テキストに沿って定義すること。
・子ども、女性、外国人などの個別の人権課題について、テキストを熟読して、具体的に整理すること。
・テキストだけではなく、最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートになっていること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ずしっかりと展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。とくに人権教育は、テキストをベースにまとめること。
・人権教育、同和教育の関連性を踏まえた内容であること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ず論述すること。

レポートの評価基準

・個別の人権課題について、人権教育の現状と課題について、テキストの全編をよく読んで、理解しているか。
・同和教育と人権教育、それぞれが個別に理解されているか、また、その相互の関連性が理解されているレポートであるか。
・最新の国の動向等を理解し、その趣旨を踏まえたレポートであるか。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、レポート作成上の基本的ルールが守られているか。
・引用文は「　」でくくり、文献名や引用ページ等を明示しているか。
・抜き書きした文章の寄せ集めや論文の剽窃がなく、自分の考えが述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、個別の人権課題についての基礎的な理解を深めておくこと、特に子どもの人権や学校教育に係わる章について、関連を持たせながら、読み進めることが必要。例えば、第 5 章の同和問題と第12章のグローバルスタンダードとしての人権教育の展開は、同和教育と人権教育との関連性を理解する上で、同時に読み進めることが必要。その他、第 1 章と第 7 章、第 6 章と第14章も相互の関連性を考慮しつつ読み進めることが必要。
・序章の趣旨をよく理解した上で、すべての章を読み進めることが、人権、並びに、人権教育を理解することにつながる。
・キーワードは、人権、人権教育、同和問題、同和教育、個別の人権課題。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・文部科学省　人権教育の指導方法等に関する調査研究会議『人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm
・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・法務省・文部科学省『令和 6 年版人権教育・啓発白書（令和 5 年度人権教育及び人権啓発施策）』　勝美印刷
https://www.moj.go.jp/content/001420890.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20076	科目名［単位数／学習時間］	現代保育論［2単位／90時間］

テキスト	●長尾和英　伊澤貞治　『子どもの育ちと教育環境』　法律文化社					
ISBN	9784589030009	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25073	
科目担当	横田　郁子					
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭、園長					

科目の目的

子どもを取り巻く現代の社会環境は、社会経済情勢の影響を受け大きく変化している。それに伴い、子どもの育ちにも大きな影響を及ぼしている。本科目は、地域社会や家庭のありよう、環境について理解する。さらに、保育者としての資質の向上、確かな専門性を身に付けていくことを学ぶ。

到達目標

子どもを取り巻く環境には、家庭環境、社会環境、保育環境、子どもの生活環境などがあるが、子どもの育ちには環境としての保育者は重要な意味をもつ。保育者の資質、専門性、そして子どもにどのような援助ができるのかを考える。
テキスト全体を通読し、子どもの育ちと環境についてまとめる。

学習テーマ

1	教育環境の重要性について①【学習のポイント：教育環境と子どもの成長を理解する。】
2	教育環境の重要性について②【学習のポイント：教育環境の思想や要件を理解する。】
3	教育環境の重要性について③【学習のポイント：幼児期になぜ感動体験が大切なのかを理解する。】
4	遊び環境と子どもについて【学習のポイント：遊びの現状とともに、遊びの意味について理解する。】
5	家庭環境と子ども①【学習のポイント：家庭の意味や教育力、子どもにとって望ましい家庭を考える。】
6	家庭環境と子ども②【学習のポイント：子どもの育ちと家族関係について理解する。】
7	社会環境と子ども【学習のポイント：章全体を通して、社会環境の大切さについて理解する。】
8	保育環境と子ども①【学習のポイント：保育の場の意味について理解する。】
9	保育環境と子ども②【学習のポイント：保育環境の設定や保育教材の精選について理解する。】
10	学校環境と子ども【学習のポイント：教育の場としての学校について理解する。】
11	子どもの生活と環境【学習のポイント：生活環境や子どもと生活について理解する。】
12	教育環境としての教師・保育者①【学習のポイント：子どもの育ちを支える教師・保育者を理解する。】
13	教育環境としての教師・保育者②【学習のポイント：保育者の資質について理解する。】
14	教育環境としての教師・保育者③【学習のポイント：保育者の資質と研鑽について理解する。】
15	教育環境としての教師・保育者④【学習のポイント：教職の専門性について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について論じなさい。

第2課題

子どもの育ちを支える教育環境としての教師・保育者の資質と研鑽、専門性について考えるところを述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』、『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』に「環境を通しての保育」を謳っている。子どもの育ちにおいて環境は重要な意味をもつ。テキストをよく読み、子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について考察すること。
参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.28-32「環境を通して行う教育」、pp.41-44「計画的な環境の構成」、p.102「環境の構成」、pp.248-251「環境の構成の意味」を熟読すること。

第2課題の留意点

核家族・少子化・世代間の断絶など、豊かな人と人との交流が希薄化している現代、保育も多様化している。子どもの育ちを支える教師・保育者としての資質や研鑽、専門性について、テキストをふまえながら、自身の考えるところを論じること。
参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.45-49「教師の役割」、pp.116-118「教師の役割」を熟読すること。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に作成できているかについて評価する。レポートを作成する際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出しを付けて分かりやすくすること。
・次の 3 点を評価基準とする。
　・テキストを精読の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
　・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
　・他人に読ませることを意識して丁寧に作成している。（誤字や脱字は減点とする。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけることが必要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20077	科目名［単位数／学習時間］	西洋教育史［2単位／90時間］

テキスト	●石村華代　軽部勝一郎　『教育の歴史と思想』　ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623065844	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25074	
科目担当	小川　雄					

科目の目的

本科目では、西洋のさまざまな教育思想家の考え方に学びながら教育のこれからのあり様について熟考する。その過程をとおして、教育を多角的に捉えられる視座を獲得することが本科目の目的である。

到達目標

・西洋の主要な教育思想について、それぞれの鍵となる考えや基本となる考え方に親しむこと。
・教育思想家をばらばらに理解するのではなく、他の思想家との関連で捉えて、知識を有機的に繋げられるようになること。
・現代の教育問題について、教育思想の助けを借りながら一定の指針を示せるようになること。

学習テーマ

1	テキスト「1 ソクラテス：真理の探求者」を読む：「助産術」のねらいと「無知の知」の教育的意義を理解する。
2	テキスト「2 コメニウス：子どものために教科書を」を読む：「汎知学」の教育学的意義を掴む。
3	テキスト「3 ロック：紳士教育論と『教育に関する考察』」を読む：徳育に関するロックの考え方をまとめる。
4	テキスト「4 ルソー：消極教育と『エミール』」を読む：「消極教育」の教育的な意義を理解する。
5	テキスト「5 カント：自律的で道徳的な人間を育てる」を読む：カントの道徳教育論を理解する。併せて、ルソーとの関連と違いも整理する。
6	テキスト「6 ペスタロッチ：貧民教育と直観教授法」を読む：「家庭的な雰囲気」の教育的な意義を掴む。
7	テキスト「7 ヘルバルト：教育学の体系化と教授方法の段階化」を読む：ヘルバルトの人間観を理解しながら彼の教育思想についてまとめる。併せて、ペスタロッチとの違いも整理する。
8	テキスト「8 フレーベル：幼稚園の創設者」を読む：「遊び」の教育的意義について理解を深める。
9	テキスト「9 デュルケーム：教育社会学の祖」を読む：デュルケームの道徳教育論について理解を深める。カントなどの近代の思想家との違いも整理する。
10	テキスト「10ケルシェンシュタイナー：社会生活の基礎を学校で身につける」を読む：「労作」の教育的意義についてまとめる。
11	テキスト「11クルプスカヤ：教育と労働をつなぐ」を読む：「総合技術教育」という考えについてまとめる。
12	テキスト「13デューイ：プラグマティズムの教育」を読む：「為すことによって学ぶ」という考え方を理解する。併せて、ルソーとの関連を整理する。
13	テキスト「14モンテッソーリ：「子どもの家」で生まれたメソッド」を読む：「教具」の教育的意義とモンテッソーリの発達観を理解する。併せて、フレーベルの「恩物」との違いを整理する。
14	テキスト「15ボルノウ：信頼と希望の教育学」を読む：「出会い」の教育学的意義について理解を深める。
15	テキスト「17イリイチ：学校化された社会への批判者」を読む：イリイチの「脱学校論」の教育学的意義を理解する。併せて、エレン・ケイの学校に対する考え方と比較する。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家から3人選び、学びにおける能動性という観点からそれぞれの教育思想を2,000字程度でまとめなさい。

第2課題

あなたは、学校がどのような場所であるべきであると考えるか。テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家の観点から、2,000字程度で論述しなさい。ただし、だれを取り上げているかが明確にわかるようにすること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

教育を教師による一方的な教え込みとみなせば、たしかに、生徒の学びは受動的な知識の吸収でしかない。しかし、デューイの教育思想のような考え方に従えば、学びを積極的な営みとして理解できる。「子どもはどのようにして学び成長していくのか」という視点からテキストを読み解き、思想家を選定してほしい。

第2課題の留意点

第1部に登場する思想家であれば、だれを取り上げても構わない。たとえば、イリイチをあげて学校そのものを批判してもよい。しかし、だれの考え方を採用するにしても、たんにその思想家の思想を紹介するのではなく、あなたの理解や考えを提示してほしい。

レポートの評価基準

・三部構成でレポートを作成すること。この形式を守っていないレポートは採点の対象にならない。
　＜書式＞　1 . 序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
　　2 . 本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
　　3 . 結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・本論見出しは、「本論」とするのではなく、内容に即した標題を書くこと。
・指定文字数を守ること。指定文字数の 9 割となる1,800字に達していないレポートは、採点の対象にならない。
・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「　」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法をたとえ守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。ワープロソフトを使用する場合でも、漢字については、正しい書き順に留意すること。
・論理的に文章が組みたてられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章の前後関係をはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込もうとしているレポートには、高い評価を与えたい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、「学習テーマ」に沿って17人の教育思想家のなかから 1 人ないし 2 人を取り上げて出題する。どの時代のどの思想家が出題されても対応できるように、テキストの第 1 部全体にわたって読み通しておくこと。「無知の知」、「汎知学」といった重要なキーワードをまとめることはもちろん、思想家相互の影響関係や日本の教育に与えた影響なども調べておくこと。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。
・テキストの内容をふまえていること。独りよがりの論述に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・広岡義之　『新しい教育原理　第 2 版』　ミネルヴァ書房
・谷田貝公昭　林邦雄　成田國英　『教職課程シリーズ 6　教育方法論』　一藝社
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20079	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉援助総論［2単位／90時間］			
テキスト	●吉田眞理 『生活事例からはじめる相談援助 第4版』 青踏社					
ISBN	9784902636277	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,900	生協テキストNo.	25075	生協での購入をおすすめします
科目担当	菊池 信子					
実務経験のある教員による科目	家事調停委員					

科目の目的

近年、子育てをとりまく環境は大きく変化し、そこから育児不安、児童虐待など、さまざまな問題が表面化している。そのような中で保育者の役割は従来の児童の保育・養護中心から大きく変化し、保護者への支援、地域住民への子育て支援の必要性が求められている。

この役割を果たすためには社会福祉の援助技術である「相談援助」の活用が必要不可欠であることを学ぶ。実務経験を活かし相談援助の実践的内容を含めて教授する。

到達目標

保育者にとって必要とされる、相談援助（ソーシャルワーク）と保育、相談援助の方法、相談援助のために必要な記録や連携・協働等について理解する。

学習テーマ

1	相談援助の理論について学ぶ。
2	相談援助の意義・機能について学ぶ。
3	相談援助とソーシャルワークについて学ぶ。
4	保育とソーシャルワークについて学ぶ。
5	相談援助の対象について学ぶ。
6	相談援助の展開過程について学ぶ。
7	相談援助の技術・アプローチについて学ぶ。
8	相談援助の具体的な方法（計画、記録、評価）について学ぶ。
9	相談援助の具体的な方法（関係機関との協働、多様な職種との連携）について学ぶ。
10	社会資源の活用について学ぶ。
11	虐待の予防とソーシャルワークの活用について学ぶ。
12	障害児とソーシャルワークの活用について学ぶ。
13	施設利用の子どもへのソーシャルワークの活用について学ぶ。
14	障害のある家族と暮らす子どもと家庭へのソーシャルワーク活用について学ぶ。
15	人と環境の交互作用によるジェネラリストソーシャルワークについて学ぶ。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

相談援助の理論について、説明しなさい。考察として、習得できた内容が、どのように自身にとって新たな気づきとなったか、自身の仕事や日常生活活動に照らして記述しなさい。

第2課題

相談援助における専門職との連携について、記述しなさい。考察として、習得できた内容が、どのように自身にとって新たな気づきとなったか、自身の仕事や日常生活活動に照らして記述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章の1を中心によく読み、相談援助（ソーシャルワーク）の理論を学び、保育士の役割との関連をとおして理解を深められるよう学ぶ。キーワードとして、人と環境、ストレングス、グループ、地域をキーワードに用いて記述する。

第2課題の留意点

テキスト第3章の5を中心によく読み、保育士が連携する専門職について理解を深められるように学ぶ。栄養士、看護師、医師、心理職をキーワードとして使用すること。

レポートの評価基準

「各課題の留意点」に沿ったレポートの構成、文字の適切な表記、指定の文字数（2,000字程度）を標準とした文章量等から評価する。引用文献は適切に明示すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んでレポート課題以外のテキストの箇所の内容についても理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心掛けることが大切。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨に合った内容、正確な文字表現、解答にふさわしい文章量（解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述が必要）で論述されているかで評価する。

参考文献

・公益財団法人児童育成協会　『基本保育シリーズ　5　相談援助』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20080	科目名［単位数／学習時間］	子育て相談・支援の理論と実際［2単位／90時間］
テキスト	●松井剛太 『新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために』 教育情報出版		
ISBN	9784909378347	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,818
生協テキストNo.	25076	生協での購入をおすすめします	
科目担当	佐藤 智恵		
実務経験のある教員による科目	保育士		

科目の目的

現在、少子化社会の中で子育てを行う保護者は、育児不安や子育てへの負担など多様な悩みを抱えている。このような問題に対し、保育所に求められている子育て支援の役割や意義を理解し、保護者の子育てに関する様々な悩みや不安に対して適切な相談や支援ができるように、事例を通して具体的な相談の実際について学びを深める。

到達目標

・現代社会における子育て上の多様な課題を理解し、保育所での子育て支援の必要性を理解する。
・子育て相談・支援を行うにあたってのポイントや必要とされる姿勢について学習し、子育て相談・支援に必要な知識や技術を習得する。

学習テーマ

1	保育所・幼稚園・こども園における子育て支援とは【学習のポイント：子育て支援における保育士の役割を理解し、保育所保育士指針に記載された子育て支援の内容を理解する。】
2	子育て支援の意義【学習のポイント：「児童の権利に関する条約」と家庭・就学前施設の役割について理解する。現代の家庭における課題について理解する。】
3	子育て支援の基本【学習のポイント：保育士の倫理綱領を理解した上で、エンパワーメントについて説明できる。家庭の多様性の背景について理解し、必要な配慮について学ぶ。】
4	子育て支援の技術【学習のポイント：保護者との信頼関係構築のために必要な技術を学び、コミュニケーション技法について理解する。】
5	保育士の日常と子育て支援【学習のポイント：保育所が行う日常的な子育て支援を理解する。】
6	園内での職員連携【学習のポイント：園内における職員連携のポイントを理解する。】
7	子どもの育ちを保護者に伝える方法とその効果【学習のポイント：子どもの育ちを保護者に伝える方法を理解し、保護者と共有するための多様な方法を知る。】
8	保護者参加の方法とその効果【学習のポイント：保護者の参加がどう支援に結びつくかを理解し、その際の保育士の役割を考えることができる。】
9	地域の社会資源の活用と連携【学習のポイント：地域の関係機関と連携し、保護者を支援することの意義を理解する。】
10	子ども虐待への対応と家庭への支援【学習のポイント：子どもの虐待を理解し、対応を学ぶ。】
11	障害のある子どもとその家庭への支援【学習のポイント：障害のある子どもを育てる家庭の現状を理解し、支援について考えることができる。】
12	貧困家庭への支援【学習のポイント：貧困の概念を理解し、支援のあり方を具体的に考えることができる。】
13	外国につながる子どもをもつ家庭への支援【学習のポイント：外国につながる子どもとその家庭の現状と課題を理解し、具体的な支援のあり方を考えることができる。】
14	地域の子育て家庭に向けた支援【学習のポイント：保育所等が、地域の子育てを担う支援拠点であることを理解する。】
15	子育て支援の今後に向けて【学習のポイント：今後の保育所等における子育て支援のあり方を考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

あなたは3歳児クラスの担任をしている。ある日、A子ちゃんの母親から「A子が自分の言うことを聞かないのでイライラしている。可愛いと思えない。」「夫は育児に非協力、両親・義両親も遠方にいるために助けてもらえない。経済的にも厳しく生活するのがやっと。」という話があった。担任としてどのように支援をするか、述べよ。

第2課題

保護者が前向きに子育てを行えるように、保育所における①園内連携、②他機関との連携の取り方について述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・自らの経験談ではなく、テキストによる学習を基に記述すること。主に1章～4章、10章、12章を熟読し、それぞれの章で学んだ支援に向かう際の考え方や具体的な技術についても記述すること（特に第4章の①「バイスティックの7原則」、②「保護者に対する支援技術」、③「コミュニケーション技法」については必ず学習し、①～③を必ず記述に含めること。ただし、①～③の詳細項目はすべて記述する必要はなく、必要なものを選んで記述すること）。
・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
・テキスト以外に内容に適した文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低1か所、引用すること。

第 2 課題の留意点

・自らの経験談は不要である。保育所で行う支援については、 5 章～ 9 章を熟読し、園内連携や他機関との連携などを理解し、記述すること（特に 8 章の「保護者参加」、 9 章の「ファミリーサポートセンター」、「子育て世代包括支援センター」については必ず触れること）。
・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
・テキスト以外に内容に適した文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低 1 か所、引用すること。

レポートの評価基準

以下の 2 点を評価基準とする。
・テキストでの学習をふまえた上で、課題で求められた内容が記載されている。
・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し作成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストによる学習を進めること（特に、テキストpp.46-59、pp.92-111については熟読し、内容を理解しておくこと）。
・特に、レポート作成時に学習したキーワードとなる言葉については、必ず復習をしておくこと。
・テキストには、事例も多く記載されているので丁寧に読み、支援の方法を把握しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談や根拠のない自説を記入しても評価しない。
・誤字脱字や主語述語のねじれがあるなど、意味が取れない文章と判断したものについては減点対象とする。
・解答用紙表面の 1 / 2 以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20091	科目名［単位数／学習時間］	特別支援教育基礎理論［1単位／45時間］			
テキスト	●安藤隆男　『特別支援教育基礎論』　放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321757	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25080	
科目担当	紅山　修					
実務経験のある教員による科目	公立特別支援学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の基礎的理解を目的とする。視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害を概括的に学び、インクルーシブ教育システムと関連付けて理解する。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

・日本におけるインクルーシブ教育システムについて概要を理解する。
・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害の概要を理解する。
・上記の障害に関する教育の内容・方法、今日的教育課題について概要を理解する。

学習テーマ

1	特別支援教育について【学習のポイント：制度と整備状況について概括的に理解する。】
2	特別支援教育の歴史について【学習のポイント：戦前と戦後の教育について理解する。】
3	日本のインクルーシブ教育システムについて【学習のポイント：理念・内容等について理解する。】
4	特別支援学校の教育について【学習のポイント：特別支援学校の現状と課題について理解する。】
5	特別支援学級と通級による指導について【学習のポイント：両者の現状と教育課程について理解する。】
6	視覚障害教育と聴覚障害教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】
7	知的障害教育と肢体不自由教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】
8	病弱教育と発達障害教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

特別支援学校の教育における課題について、テキストから簡潔にまとめ、課題への対応策についてあなたの考えを述べなさい。

第1課題の留意点

テキスト第4章、第5章、第6章などの関連箇所をよく読んだ上で、自分の意見も含めて次の2点についてまとめること。
①特別支援学校の教育における課題についてまとめる。（1,000字程度）
②課題への対応策について、自分の意見も含めてまとめる。（1,000字程度）
（①②、あわせて2,000字程度）

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の意見も的確に記入できているかについて評価する。
評価基準は以下の4点。
①課題についてテキストをよく読んだうえで、自分の考えを含めて述べている。
②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
④レポート作成上のルールが守られ、正しく丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくとよい。専門的なキーワードを的確に用いること。

科目修了試験の評価基準

・設題に関して、テキストの幅広い理解ができている。
・設題に沿った記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても設題から逸脱していれば得点にならない。
・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 文部科学省HP
・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』 東山書房又は文部科学省HP
・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』 文部科学省HP
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 ジアース教育新社又は文部科学省HP
・中央教育審議会初等中等教育分科会 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』 平成24年 7 月23日

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20092	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児の心理A［1単位／45時間］			
テキスト	●梅谷忠勇　生川善雄　堅田明義　『特別支援児の心理学　新版　理解と支援』　北大路書房					
ISBN	9784762828928	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	25081	
科目担当	中尾　繁樹					
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事					

科目の目的

知的障害児の心理学的特性について基本知識を幅広く習得する。また、心理的アセスメントについて理解しながら、概要について学ぶ。本科目の学習により、知的障害児の心理特性や脳機能との関連を理解し、その課題について述べることができ、また、知的障害児に用いる心理的アセスメントの概要を説明できるようになることをめざす。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害を中心とした特別な配慮のいる子どもたちの心理特性及び脳機能との関連、発達とその実態把握について理解する。知的障害教育に携わるための基礎的知識を理解する。知的障害は、心理学的側面を含む概念であり、行動レベルで 測定される知能を定義の一部としている。様々な心理学的アプローチによって得られた知見や人に関する心理モデルを知ることで知的障害の心理機能や脳機能に関する見方を学習する。

学習テーマ

1	特別支援児の概要と理解について【特別支援児の概要、障害の原因等の理解をする。】
2	特別支援児の心理特性について①【受容機能の障害について理解する。】
3	特別支援児の心理特性について②【処理機能の障害について理解する。】
4	特別支援児の心理特性について③【表出機能の障害について理解する。】
5	特別支援児の心理特性について④【病虚弱、重症心身障害について理解する。】
6	特別支援児の教育支援について【特別支援教育の概要と実際について理解する。】
7	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス①【視知覚機能、知的発達等の支援を理解する。】
8	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス②【言語の獲得や支援機器利用等を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

特別な配慮が必要な子供たちの心理特性をまとめるとともに、その支援方法について具体的な事例を挙げて説明しなさい。

第1課題の留意点

知的障害・自閉症等の特別な配慮が必要な子供たちの具体的な症状については簡潔にまとめ、具体的な支援方法についてはテキストだけでなく他の文献・資料を参考にして、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

基本的用語についてよく学習しておくとともに、知的障害を中心とした各障害の特徴、心理特性、記憶特性等についても理解を深め、支援の在り方について調べておくことが必要である。また、様々な心理学的アプローチや心理検査の種類についてもテキストだけでなく、他の文献・資料を参考に調べておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・橋本創一　『特別支援教育の基礎知識　障害児のアセスメントと支援、コーディネートのために』　明治図書出版
・下山晴彦　『実践　心理アセスメント』　日本評論社
その他、心理アセスメント、知能検査関連の文献

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20094	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児の生理・病理［2単位／90時間］			
テキスト	●太田俊己　藤原義博　『新訂　知的障害教育総論』　放送大学教育振興会					
ISBN	9784595315350	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	25083	
テキスト	●宮尾益知　『発達障害の基礎知識　改訂版』　河出書房新社					
ISBN	9784309294193	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,630	生協テキストNo.	25084	
科目担当	木原　健二					
実務経験のある教員による科目	理学療法士（病院・医療福祉センター等）					

科目の目的

知的障害児への教育を考える上で、知的障害の原因や病態の理解を深めることは重要である。本科目では知的障害児の生理・病理を具体的に学習し、病態の観点から特別支援教育に必要な知識と技術を習得する。また、発達障害児への教育に必要な、発達障害の原因や病態の理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

2冊のテキストを通して、知的障害児の病態を生理・病理観点から学ぶと共に、教育に関する留意点について理解を深める。また、発達障害についても、その障害の特徴に応じた支援について理解する。

学習テーマ

1	知的障害の教育と特別支援教育＜テキスト『知的障害教育総論』pp. 9 -22＞
2	知的障害のある幼児児童生徒の理解と支援＜テキスト『知的障害教育総論』pp.23-33＞
3	自閉症等のある幼児児童生徒の理解と支援＜テキスト『知的障害教育総論』pp.34-47＞
4	知的障害教育の教育課程上の特徴と指導法＜テキスト『知的障害教育総論』pp.48-62＞
5	知的障害教育の指導法（生活単元学習、作業学習）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.63-95＞
6	知的障害教育の指導法（日常生活の指導･遊びの指導、教科別の指導、自立活動の指導）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.96-134＞
7	特別支援学級の学級経営と教育課程･指導法、日本と海外の知的障害教育＜テキスト『知的障害教育総論』pp.135-164＞
8	今日的な課題への対応（個別の指導計画と個別の教育支援計画、知的障害教育とキャリア教育）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.165-205＞
9	今日的な課題への対応（行動上の問題の理解と支援、個のニーズに応じた授業づくり）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.206-229＞
10	発達障害の最新の知見と取り組み＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp. 9 -33＞
11	ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.35-62＞
12	発達障害の診断を受けたら親はどうする？＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.63-86＞
13	男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.87-130＞
14	青年期から大人の発達障害＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.131-158＞
15	整備される法律や変化する社会＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.179-212＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

知的障害の定義と原因を述べ、知的障害児の特徴と、知的障害をもつ子どもの学童期（小学校4～6年生頃）の支援について述べなさい。

第2課題

発達障害の中の注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）について、各々の障害の特徴を述べ、各々の障害をもつ子どもの学童期（小学校4～6年生頃）の支援について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

知的障害を医学的観点から論述し、知的障害をもつ子どもに対する教育および日常生活における具体的な支援方法について考察する。

第2課題の留意点

注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）の特徴を医学的観点から論述し、各々の障害をもつ子どもに対する自宅や学校等での具体的な支援方法について考察する。

レポートの評価基準

・テキストの内容を理解した上で、課題に対する自分自身の考察を論述できている。
・理解した内容について、主語と述語の関係などを留意して簡潔にまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。
・誤字脱字がない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・600字程度の記述問題で行う。
・知的障害及び発達障害についての医学的事項の説明及び支援・教育の具体的な方法について、テキスト・参考文献等から得た知識を踏まえて自分自身の考察を述べること。
・自己学習においては、テキスト『新訂　知的障害教育総論』では、第1章「知的障害の教育と特別支援教育」から第9章「知的障害教育の指導法～その⑤自立活動の指導」（pp. 9 -134）、第14章「今日的な課題への対応～その③行動上の問題の理解と支援」（pp.206-217）、テキスト『発達障害の基礎知識　改訂版』では第1章「ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性」から第3章「男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害」（pp.35-130）について特に理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかを評価する。
・テキスト等から得た知識を踏まえた上で考察が述べられているか評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し、誤字脱字がなく論理的に記述できていることと、指定文字数の2/3以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・土田玲子　『感覚統合Ｑ＆Ａ－子どもの理解と援助のために　改訂第2版』　協同医書出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20095	科目名[単位数／学習時間]	肢体不自由児の心理・生理・病理A［1単位／45時間］			
テキスト	●篠田達明 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』 金芳堂					
ISBN	9784765316286	本体価格(円)(2025年1月現在)	3,200	生協テキストNo.	25085	
科目担当	松井 学洋					
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師					

科目の目的

肢体不自由児への教育を考える上で、肢体不自由の原因や病態の理解を深めることは重要である。本科目では肢体不自由の定義と原因を学ぶと共に、肢体不自由児の心理・生理・病理の特徴を理解し、その病態生理に応じた特別支援教育が実施できるための必要な知識と技術を学ぶ。また、現在、課題となっている学校内での医療的ケアについて概説を行う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキストを通して、肢体不自由児の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、障害特性に合わせた支援方法・教育方法を習得する。

学習テーマ

1	肢体不自由児の原因と脳性麻痺について ＜テキストpp. 1 -32＞
2	二分脊椎と筋ジストロフィーについて ＜テキストpp.33-53＞
3	ペルテス病と骨系統疾患について ＜テキストpp.55-73＞
4	手足の先天奇形と先天性多発性関節拘縮症について ＜テキストpp.75-90＞
5	ダウン症の整形外科的合併症と先天性股関節脱臼について ＜テキストpp.91-108＞
6	肢体不自由児へのリハビリテーションについて ＜テキストpp.109-149＞
7	肢体不自由児の看護と療育上の留意点について ＜テキストpp.151-171＞
8	肢体不自由児の学校教育について ＜テキストpp.173-254＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

肢体不自由が生じる原因を述べ、肢体不自由児に対するリハビリテーションと、特別支援教育の内容と方法についてまとめなさい。

第1課題の留意点

肢体不自由が生じる原因を病理的観点から論述し、リハビリテーションの特徴と教育内容、教育支援法について具体的に考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行うため、テキストを熟読し、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを具体的に記述できるようにすること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20097	科目名［単位数／学習時間］	病弱児の心理・生理・病理A［1単位／45時間］

テキスト	●宮本信也　土橋圭子　『病弱・虚弱児の医療・療育・教育　改訂3版』　金芳堂					
ISBN	9784765316279	本体価格（円）（2025年1月現在）	3,200	生協テキストNo.	25086	
科目担当	松井　学洋					
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師					

科目の目的

健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識ならびに心理面、社会面における影響を全人的にとらえて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。病気を持ちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について考える。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキストを通して、病弱児の特徴を心理・生理・病理的観点から学ぶ。また、病気を持ちながらも学校に通う子ども達への教育上の支援について理解を深め、適切な関わりが行えるようにする。

学習テーマ

1	病弱児教育の対象となる疾患について①　悪性腫瘍、循環器疾患 ＜テキストpp. 1 -26＞
2	病弱児教育の対象となる疾患について②　腎疾患、呼吸器疾患 ＜テキストpp.37-50＞
3	病弱児教育の対象となる疾患について③　糖尿病、膠原病、神経疾患 ＜テキストpp.50-78＞
4	病弱児への医療とリハビリテーションについて ＜テキストpp.79-98＞
5	病弱児教育における心理的支援について ＜テキストpp.99-165＞
6	教育と医療との連携について ＜テキストpp.167-176＞
7	病弱児教育の目標と教育課程について ＜テキストpp.177-198＞
8	病弱児教育の実際について ＜テキストpp.198-264＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

病弱・身体虚弱児の定義とその対象となる疾患を2つ挙げ、その病態と学校生活での支援と留意点についてまとめなさい。

第1課題の留意点

病弱・身体虚弱児について、その定義と対象疾患を具体的に説明し、心理的・病理的観点から学校生活での支援方法と留意点を考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキストの内容に準じた試験を行うため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを具体的に記述できるようにすること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20099	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児教育論ＩＡ［1単位／45時間］			
テキスト	● ノートルダム清心女子大学　『知的障害児の教育　第２版』　大学教育出版					
ISBN	9784864291514	本体価格(円)（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25087	
科目担当	中尾　繁樹					
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事					

科目の目的

知的障害児の教育に関する基本的知識を幅広く習得することを目標とする。知的障害児の教育課程（カリキュラム・マネジメント）、指導の実際については通常の教育とは大きく違いを持つ。本科目では、知的障害児の教育の歴史、教育課程（カリキュラム・マネジメント）、個別の教育支援計画・指導計画等、特別支援学校（学級）で必要と思われる基本的知識を概括して学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、知的障害教育の歴史や学習指導要領の変遷をたどりながら、主に知的障害教育の教育課程（カリキュラム・マネジメント）について学習する。知的障害を主とした特別支援学校及び特別支援学級での指導の実際を学習する中で、特別な教育内容、領域教科を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導）の授業、自立活動、教科の授業等について理解する。さらに「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」について、その基本的考え方や策定方法も理解する。

学習テーマ

1	障害とは【学習のポイント：障害について理解する。】
2	知的障害児と発達障害児【学習のポイント：知的障害と発達障害の違いについて理解する。】
3	知的障害児の心理と行動傾向【学習のポイント：知的障害児の認知、記憶等の心理面や行動特性について理解する。】
4	障害児教育の歴史【学習のポイント：日本と海外の障害児教育の歴史について理解する。】
5	「法」に規定された障害児教育の目的と対象【学習のポイント：特別支援学校や学級の設置等について理解する。】
6	障害児教育の概括【学習のポイント：特別支援教育について理解する。】
7	特別支援学校学習指導要領の改訂と教育課程（カリキュラム・マネジメント）【学習のポイント：特別支援教育の教育課程（カリキュラム・マネジメント）について理解する。】
8	知的障害教育の実際【学習のポイント：自立活動等の具体的な指導について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

知的障害教育における教育課程の特徴と特例についてまとめ、「教科等を合わせた指導」「自立活動」「各教科」の中から一つ選択し、具体的な事例をあげて説明しなさい。

第１課題の留意点

知的障害児の特別支援教育における教育課程に関しては、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に図式化しながら簡潔にまとめるのが望ましい。また、教科等を合わせた指導、各教科、自立活動等の具体的事例をあげながら記述するのが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

特別支援教育の教育課程の特徴や特例について、基本的な用語の理解とともに、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に理解を深めておくことが大切である。また、各教科、領域教科を合わせた指導、自立活動における具体的指導例や個別指導計画の意義等もテキストや他の文献を参考に調べておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・中村忠雄　『はじめての特別支援教育　これだけは知っておきたい基礎知識』　明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20101	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児教育論Ⅱ［2単位／90時間］			
テキスト	●太田俊己　佐藤慎二　『改訂新版　知的障害教育総論』　放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321740	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25089	
科目担当	塚本　久義					
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

知的障害特別支援学校での教育課程の特徴（教科別に指導を行う場合、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて指導を行う場合、各教科等を合わせて指導を行う場合）や個別の教育支援計画、個別の指導計画等の作成及び活用について学習し、理解を深める。また、知的障害特別支援学級における教育課程の編成と実施の工夫について概要を学び、理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害は、知的発達の遅れと適応行動の困難を中核とする障害であり、知的障害教育特有の教育課程上の特徴や多様な指導方法がみられる。そのため、知的障害のある幼児児童生徒の学習上の特性について理解するとともに、教育課程上の特徴や指導方法、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用等について、学校等の現場における実際の状況や工夫の在り方に関する理解を図る。また、知的障害のある幼児児童生徒のキャリア発達支援の現状や課題について、様々な教育実践と関連付けて理解を深める。

学習テーマ

1	知的障害教育について【学習のポイント：知的障害教育の現況、知的障害の特徴等を理解する。】
2	知的障害の心理と教育実践【学習のポイント：知的障害の心理的特性と教育実践の要点を理解する。】
3	知的障害と周辺の障害【学習のポイント：関連する発達障害の定義や教育的支援の基本を理解する。】
4	知的障害教育の教育課程と指導法【学習のポイント：教育課程の特徴、指導の形態、指導法を理解する。】
5	生活単元学習について【学習のポイント：生活単元学習の規定と実践上の要点について理解する。】
6	作業学習について【学習のポイント：作業学習の意義と特色、実践上の要点について理解する。】
7	日常生活の指導・遊びの指導【学習のポイント：各指導についての規定と要点、実践の方法を理解する。】
8	教科別の指導について【学習のポイント：各教科の規定と展開するうえでの留意点を理解する。】
9	授業改善と知的障害教育【学習のポイント：知的障害教育における授業改善の方法を理解する。】
10	小学校知的障害特別支援学級の教育【学習のポイント：教育課程の編成・実施上の留意点を理解する。】
11	中学校知的障害特別支援学級の教育【学習のポイント：教育課程の編成・実施上の留意点を理解する。】
12	キャリア教育と知的障害教育【学習のポイント：知的障害教育におけるキャリア教育の意義を理解する。】
13	高等部教育とキャリア発達支援【学習のポイント：高等部教育におけるキャリア教育の意義を理解する。】
14	個別の諸計画と知的障害教育【学習のポイント：個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用することの意義及び方法について理解する。】
15	インクルーシブ教育システムと知的障害教育【学習のポイント：インクルーシブ教育システムと特別支援教育及び知的障害教育との関係について理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

知的障害特別支援学校における教育課程編成の基本的な考え方に基づく弾力的な教育課程の編成、各教科別、領域別の指導、各教科等を合わせた指導について、その留意点も踏まえてまとめなさい。

第2課題

知的障害教育におけるキャリア教育の意義を踏まえ、近年、特別支援学校（知的障害）高等部に在籍する生徒数の増加や障害の多様化等を考慮して、今後の職業教育の充実について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストをよく読んだ上でまとめること。知的障害教育における教育課程の編成や指導法については、テキストとともに参考文献『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』を併せて読み、その視点から具体的な留意点についても述べるようにする。なお、レポートの書き方に関する一般的なルールを守って作成すること。

第2課題の留意点

テキストをよく読んだ上でまとめること。単にテキストを断片的につなぎあわせるのではなく、内容をよく理解し、自分自身の言葉を交えて論理的に構成すること。

レポートの評価基準

・テキストをよく読み、的確に要約し、まとめている。
・キーワードを用いてその意味を解説しながら具体的に論述し、参考文献等の情報を加えて作成している。
・レポート作成上のルールが守られ、正しく丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくとよい。専門的なキーワードを的確に用いること。また、「概要・定義・特徴・特性・意義・方法・内容・留意点・困難点」などの用語は、答案作成のポイントとなるため、箇条書きにしてまとめておくようにする。

科目修了試験の評価基準

・設題に沿った内容の記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても、設題から逸脱していれば得点にはならない。
・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。
・解答の内容に、知的障害教育の実践につながるような具体性がある。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年３月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年３月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校教育要領･学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部･小学部･中学部）＜平成30年３月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年４月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課　『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』　ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20102	科目名[単位数／学習時間]	肢体不自由児教育論A［1単位／45時間］			
テキスト	●川間健之介　長沼俊夫　『肢体不自由児の教育　新訂』　放送大学教育振興会					
ISBN	9784595321719	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25090	
科目担当	塚本　久義					
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

肢体不自由児の教育の歴史と現状、肢体不自由児の障害の特性、特別支援学校等における教育の実際、教育課程編成や肢体不自由の障害特性に応じた指導法、学習指導等における支援のあり方、自立活動の指導などについて学習する。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

・肢体不自由児教育の歴史について、医療等との関係を含めて学習し、この教育の現状と課題を認識する。
・肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場について理解する。
・教育課程編成の基本的な事項について理解し、肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級における学習指導等における支援の在り方や肢体不自由児教育の今後の課題について学び、認識を深める。

学習テーマ

1	肢体不自由教育の歴史と現状について【学習のポイント：肢体不自由教育の歴史と現状について理解する。＜テキスト第2章＞】
2	肢体不自由教育の実際ー特別支援学校を中心にー【学習のポイント：特別支援学校について理解する。＜テキスト第1章＞】
3	肢体不自由教育の実際ー身体の動きの指導ー【学習のポイント：自立活動における身体の動きの指導について理解する。＜テキスト第9章＞】
4	肢体不自由教育の実際ーコミュニケーションの指導ー【学習のポイント：コミュニケーションの指導について理解する。＜テキスト第10章＞】
5	肢体不自由教育の実際ー各教科の指導ー【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第11章＞】
6	肢体不自由教育の実際ー重複障害児の理解ー【学習のポイント：重複障害児について理解する。＜テキスト第12章＞】
7	肢体不自由教育の実際ー重複障害児の指導ー【学習のポイント：重複障害児の指導について理解する。＜テキスト第13章＞】
8	肢体不自由教育の課題【学習のポイント：肢体不自由教育の今後の課題について理解する。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

肢体不自由教育の実際（重複障害児の理解と指導）について、テキストから簡潔にまとめ、自分の考えも含めて述べなさい。

第1課題の留意点

肢体不自由児の教育について、テキスト第12章、第13章や参考文献をもとに自分の意見も含めて次の3点についてまとめること。

①重複障害、重度・重複障害とその特性について、医療的ケア等との関係も含めてまとめる。（800字程度）
②重度・重複障害のある児童生徒の指導上の留意点についてまとめる。（800字程度）
③自分の意思を伝えることが困難で、食事や排泄等の支援を受けている児童生徒の立場から、教師側になにを望むか、自分の考えをまとめる。（400字程度）
（①②③、あわせて2,000字程度）

レポートの評価基準

・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の意見も的確に記入できているかについて評価する。
・評価基準は次の4点。
①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、肢体不自由児の教育について、歴史と現状、教育の場、障害の特性、教育課程の編成、自立活動の指導や各教科の指導の実際等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年4月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・筑波大学附属桐が丘特別支援学校　『肢体不自由教育の理念と実践』　ジアース教育新社
・国立特別支援教育総合研究所　『特別支援教育の基礎・基本　2020』　ジアース教育新社
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課　『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』「第3編　障害の状態等に応じた教育的対応　Ⅳ肢体不自由」
ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20104	科目名[単位数／学習時間]	病弱児教育論［2単位／90時間］			
テキスト	● 日本育療学会 『標準「病弱児の教育」テキスト 改訂版』 ジアース教育新社					
ISBN	9784863716186	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25091	
科目担当	塚本 久義					
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事					

科目の目的

病弱教育の意義や特別支援学校・特別支援学級での取り組みについて学習する。病弱教育における教育課程の編成と各教科等の指導について、どのように取り組むのか、学習する。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

病弱教育について理解し、特別支援学校や特別支援学級における教育課程編成及び指導・支援方法などを知り、実践的な指導力の基礎を身につける。

学習テーマ

1	病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難【学習のポイント：病弱・身体虚弱について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	病弱教育の変遷【学習のポイント：病弱教育の歴史について理解する。＜テキスト第2章＞】
3	病弱教育の制度【学習のポイント：病弱教育の制度について理解する。＜テキスト第3章＞】
4	学びの場と教育形態【学習のポイント：病弱教育の学びの場について理解する。＜テキスト第4章＞】
5	病弱児の心理【学習のポイント：病気の子どもの心理的な困難について理解する。＜テキスト第5章＞】
6	主な病気の概要と教育支援【学習のポイント：病弱教育の対象の子どもの主な病気について理解する。＜テキスト第6章＞】
7	教育課程の編成【学習のポイント：病弱教育の教育課程編成について基本的な事項について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	各教科の指導【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第8章＞】
9	自立活動の指導【学習のポイント：自立活動について理解する。＜テキスト第9章＞】
10	病弱教育における情報化【学習のポイント：病弱教育における情報化の意義等について理解する。＜テキスト第10章＞】
11	キャリア教育【学習のポイント：キャリア教育について理解する。＜テキスト第11章＞】
12	病弱児と医療的ケア【学習のポイント：医療的ケアについて理解する。＜テキスト第12章＞】
13	教育と医療・福祉等との連携【学習のポイント：病弱教育における関係機関等との連携について理解する。＜テキスト第13章＞】
14	病弱児への復学支援の実際【学習のポイント：病弱児が復学する際の支援の実際について理解する。＜テキスト第14章＞】
15	通常の学級に在籍する病弱児への配慮【学習のポイント：通常の学級に在籍する病弱児への配慮や支援について理解する。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

病弱児が抱える学習上又は生活上の困難とその対応について、テキストから簡潔にまとめ、教員としてどのような対応が求められるのか、自分の考えを含めて述べなさい。

第2課題

医療的ケアとはなにか。実際、学校で行われている医療的ケアの現状とその課題について、簡潔にまとめ、その課題解決のためにどのようにしていけばよいのか、自分の考えを含めて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章に病弱・身体虚弱に伴う学習上・生活上の困難について示されている。テキストに示された困難さに加え、その対応方法についてもまとめ、自分が教員となった場合に、具体的にどのように子どもに配慮して対応できるのか、自分の考えを含めて述べなさい。

第2課題の留意点

テキスト第12章に医療的ケアとその実施者、実態などが示されている。近年、医療技術の進歩により、医療的ケアの児童生徒数は増加している。これまで以上に、学校の中で、医療的ケアを安全・安心で充実させていくことが求められている。自分ならなにができるのかを含めて簡潔に述べなさい。

レポートの評価基準

・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の考えも的確に記入できているかについて評価する。
・評価基準は次の 4 点。
①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、病弱教育について、概要、歴史と現状、制度と学びの場、病気の概要、教育課程の編成、各教科や自立活動の指導等の実際、関係機関等との連携等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部･中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』
海文堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』「第 3 編 障害の状態等に応じた教育的対応 Ⅴ病弱・身体虚弱」
ジアース教育新社又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20106	科目名[単位数／学習時間]	聴覚障害児の心理・生理・病理［1単位／45時間］
テキスト	●城間将江　鈴木恵子　小渕千絵　『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版』　医学書院		
ISBN	9784260043502	本体価格(円)（2025年1月現在）	5,200
生協テキストNo.	25093		
科目担当	井坂　行男		
実務経験のある教員による科目	聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー		

科目の目的

聴覚障害児に対する教育を実践する上で必要とされる、聴覚障害児者の心理・生理・病理に関する専門用語や基礎知識を学習することを目的とする。

到達目標

・聴覚の仕組みと役割を理解する。
・聴覚障害の原因や疾病を理解し、早期教育及び療育、幼児児童生徒に対する教育支援について理解する。
・家庭及び地域社会、保健・医療・福祉・労働等の関係諸機関との連携の必要性について理解する。
・聴覚障害児の発達過程全般および、言語評価やコミュニケーション発達評価等についても理解する。
・聴覚障害に起因して生じる可能性のある諸課題を理解する。
・聴覚補聴機器である補聴器、人工内耳、補聴支援システムについて理解する。

学習テーマ

1	聴覚の機能と音、オージオグラム及び純音聴力検査について理解する。＜テキストpp. 2 - 7 、pp.28-44、pp.74-88＞
2	聴覚の構造や語音聴取について理解し、耳の構造を図示できるようにする。＜テキストpp.46-57＞聴覚病理としての伝音難聴・感音難聴について理解する。＜テキストpp.58-66＞
3	聞こえの程度の違いによって生じる問題点の違いを理解すると共に聴覚障害児教育の歴史の概要を理解する。＜テキストpp. 7 -10、pp.14-18＞
4	聴覚障害のライフステージにおける影響と発症時期の違いによる影響を理解する。＜テキストpp.10-14＞小児期の発達と難聴の影響＜テキストpp.250-252＞、学校教育における聴覚障害児指導の課題＜テキストpp.325-331＞について理解する。
5	聴覚補聴機器（補聴器＜テキストpp.130-145＞）（人工内耳＜テキストpp.167-184＞）（補聴援助システム＜テキストpp.197-203＞）についてその種類と構造と役割等について理解する。
6	聴覚障害児の評価（聴覚、コミュニケーション発達、言語、発声発語、認知発達、情緒･社会･精神衛生、書記言語力等）について理解する。＜テキストpp.246-279＞
7	小児聴覚障害の配慮と課題について理解する。＜テキストpp.280-294＞
8	乳児期、幼児期、学童期の指導・支援について理解する。＜テキストpp.294-325＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

補聴器の構造と種類、小児の補聴器適合及び装用指導、また、人工内耳の構造、人工内耳の理解、幼児期の人工内耳マッピング、補聴援助システムについてまとめなさい。

第1課題の留意点

テキストの内容に基づいて、補聴器・人工内耳・補聴援助システムについてまとめなさい。用語や内容が不明なところは、各自インターネット等で検索して、資料や論文等も参照しながら理解を深めること。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・テキストでの学習を踏まえた上で、補聴器や人工内耳、補聴援助システムに関する用語や内容を正しく説明できている。
・理論的な内容と文章で構成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・聴覚障害に関する心理・生理・病理に関する専門用語や基礎的知識をしっかりと理解しておくこと。
・テキストを十分に熟読し、「学習テーマ」ごとの内容のポイントをまとめ、理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の意味を理解し、聴覚障害の心理・生理・病理に関する正確な知識を持って論述できていること。
・最低でも解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞以上の記述があること。

参考文献

・中野善達　根本匡文　『改訂版　聴覚障害教育の基本と実際』　田研出版
・大沼直紀　立入哉　中瀬浩一　『教育オーディオロジーハンドブック』　ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20108	科目名[単位数／学習時間]	聴覚障害児教育指導法［1単位／45時間］		
テキスト	●中野善達　根本匡文　『改訂版　聴覚障害教育の基本と実際』　田研出版				
ISBN	9784860890186	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25094
科目担当	井坂　行男				
実務経験のある教員による科目	聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー				

科目の目的

聴覚障害の概要、乳幼児期から高等学校期までの学校及び聴覚特別支援学校にて、聴覚障害教育を行う上で必要な知識、教育課程、指導方法、配慮点などについて学習する。

到達目標

・聴覚障害児に必要な言語およびコミュニケーション方法を理解する。
・聴覚特別支援学校における各学部の教育課程、教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。
・通常学校における聴覚障害児への教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。

学習テーマ

1	聴覚障害児の言語およびコミュニケーション方法について理解する。＜テキストpp.27-42＞
2	聴覚障害児一人ひとりの教育ニーズに対応した教育を実践するための教育の意義や目的、就学制度、聴覚特別支援学校における教育について理解する。＜テキストpp.43-58＞
3	聴覚障害の早期発見・診断と両親援助について理解する。＜テキストpp.59-72＞
4	聴覚特別支援学校（幼稚部）における教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.73-88＞
5	聴覚特別支援学校（小学部）における教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.88-102＞
6	聴覚特別支援学校（中学・高等部）における教育課程や教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.103-129＞
7	通常の小・中・高等学校における聴覚障害児の教育と支援について理解する。＜テキストpp.131-159＞
8	聾重複障害を併せ有する子供の教育について理解する。＜テキストpp.177-188＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「聴覚特別支援学校」で学ぶ幼児児童生徒の一人ひとりの教育的ニーズについてまとめた上で、中学部・高等部における教育内容と方法について説明しなさい。

第1課題の留意点

幼稚部から高等部まで幅広く学習すること。テキストの「わが国における聴覚障害児教育の目的と制度」、「聴覚特別支援学校における教育の内容と方法」、「通常の小・中・高等学校における教育と支援」など、基本的な事項をしっかりとおさえた上で、文部科学省の資料や文献等も検索して、理解を深めながら、課題に取り組むこと。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・テキストでの学習等をふまえた上で、要点を適切にまとめながら、論理的に正しく内容を説明している。
・誤字脱字の有無や、主語と述語の関係などに留意し作成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで、全期にわたる聴覚障害児への教育方法の特徴と配慮事項を理解しておくこと。
・聴覚特別支援学校での聴覚障害児の自立活動についてテキストをよく読んでおくこと。
・聴覚特別支援学校だけでなく、通常の学校（難聴特別支援学級、通級指導教室、通常の学級）における聴覚障害児への教育支援についても十分に理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の意味を理解し、聴覚障害児教育に関する正確な知識を持って論述できていること。
・最低でも解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞以上の記述があること。

参考文献

・文部科学省　『聴覚障害教育の手引　言語に関する指導の充実を目指して』令和2年3月
https://www.mext.go.jp/content/20230228-mxt_tokubetu01-000027851_01.pdf　またはジアース教育新社
・城間将江　鈴木恵子　小渕千絵　『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版』　医学書院

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20109	科目名[単位数／学習時間]	発達障害児教育論A［1単位／45時間］			
テキスト	●小野次朗　上野一彦　藤田継道『よくわかる発達障害　第2版　LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群』ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623057368	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	25095	
科目担当	中尾　繁樹					
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事					

科目の目的

本科目では、重複障害、言語障害、情緒障害、学習障害（LD）、注意欠如／多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム等について学ぶ。特に、発達障害を中心に子どもの心と行動を理解するために、発達的観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。

LD、ADHD、自閉症スペクトラムを中心とした発達障害や重度重複障害、言語障害、情緒障害の定義、認知・行動・心理等の特徴、生理・病理、支援方法、学校・地域関連機関のシステム等について基本的知識を習得する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学習障害（LD）、注意欠如／多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム等を中心とした、発達障害のある子どもを理解するために、発達的観点と心理学的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。また、具体的なアセスメントの方策や実践的な援助の仕方を学ぶことで、現場で役立つ理論と実践を身につける。また、特別支援教育の基本的な理念と内容について学ぶ。通常の学校や特別支援学校での支援の具体的な指導方策を学ぶ中で、特別支援教育の今日的課題を考察する。

学習テーマ

1	発達障害の理解と基本的事項【学習のポイント：脳機能と背景要因について理解する。】
2	特別支援教育の考え方【学習のポイント：特別支援教育とは何かを理解する。】
3	LD（学習障害）について【学習のポイント：LDの基本事項について理解する。】
4	ADHD（注意欠如／多動性障害）について【学習のポイント：ADHDの基本事項について理解する。】
5	自閉症スペクトラムについて【学習のポイント：自閉症の基本事項と指導方法等について理解する。】
6	アセスメントについて【学習のポイント：心理検査等のアセスメントについて理解する。】
7	発達障害等（情緒障害、言語障害、重複障害を含む）の対応支援について【学習のポイント：教育課程（カリキュラム・マネジメント）も含めた具体的な指導支援方法について理解する。】
8	情緒障害、言語障害、重複障害の理解と対応支援について【学習のポイント：情緒障害、言語障害、重複障害の理解と具体的な指導支援方法について理解する。今までの振り返りをしてまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

発達障害について説明するとともに、「自閉症スペクトラム」「ADHD」「LD」の中から一つを取り上げて、行動上の特性と具体的な支援方法について述べなさい。

第1課題の留意点

LD、ADHD、自閉症スペクトラムの定義については、『DMS－5（精神疾患の分類と診断の手引）』、『ICD－11』等を参考にしても構わない。各障害の具体的な行動特性や症状・支援方法については、テキストだけでなく他の文献・資料を参考にして、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

発達障害に関連する基本的用語（LD、ADHD、自閉症、ワーキングメモリー他）についてよく学習しておくとともに、LD、ADHD、自閉症の3つの障害の特徴等についても理解を深め、具体的な指導事例についても学習しておくことが必要である。テキストをよく読んでおくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・中尾繁樹　『「特別」ではない特別支援教育 1　子どもの特性を知るアセスメントと指導・支援』　明治図書出版
・中尾繁樹　『はじめての学級担任 3　通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック』　明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20117	科目名[単位数／学習時間]	音楽［1単位／45時間］			
テキスト	●池内友次郎　外崎幹二　『楽典　新訂』　音楽之友社					
ISBN	9784276100015	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,100	生協テキストNo.	25100	
科目担当	臼井　真					
実務経験のある教員による科目	公立小学校音楽専科教諭					

科目の目的

小学校での音楽教育において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、楽典と記譜法を学び、移調の方法と和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏付けも理解しなければならない。実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等を教授する。

・音名、譜表、音符、休符、音程、拍子、リズム等、楽譜に関する基礎的な知識を学ぶ。（参考：テキストpp. 9 -50）
・音階と調について学び、移調の方法も理解する。（参考：「第１課題の留意点」）
・和音について学び、和声（和音の連結）も理解し、和音記号（コードネーム）による簡易なピアノ伴奏譜も作成する。（参考：「第１課題の留意点」Ⅰの和音（ドミソ）、Ⅳの和音（ドファラ）、Ⅴの和音（シレソ）、又はⅤ７の和音（シファソ））

到達目標

・読譜力や記譜力を身につけるために、音の高低や長さを表示する音符と、曲の流れに重要な拍子を理解する。
・調について理解するために、その調を構成している音階と調号の関係を理解する。また、移調については、臨時記号による変化音の扱いについても理解する。
・主要３和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）の基本形・転回形、及び属七の和音についての構成音を理解し、その和音の連結（和声）についても理解する。その和声に基づいて和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏譜も作成することができる。

学習テーマ

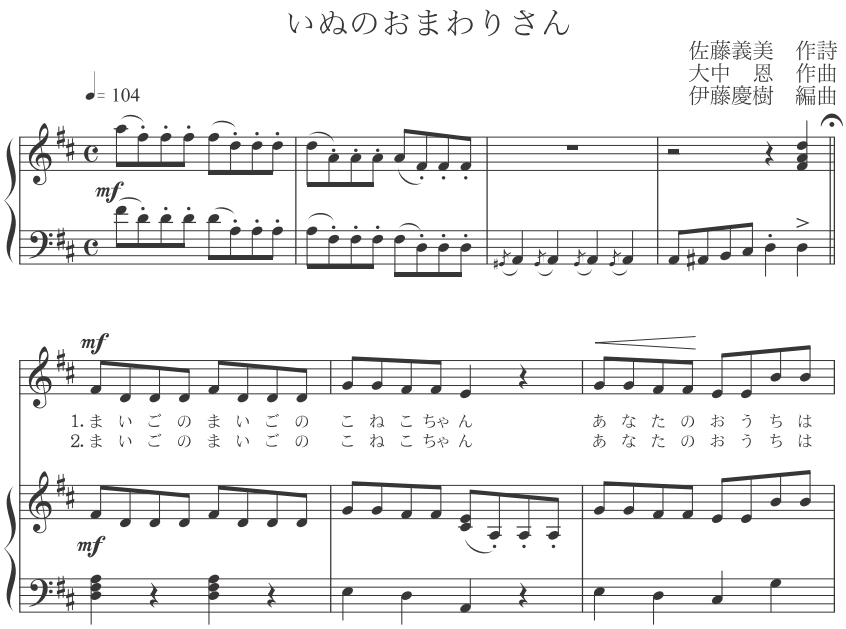
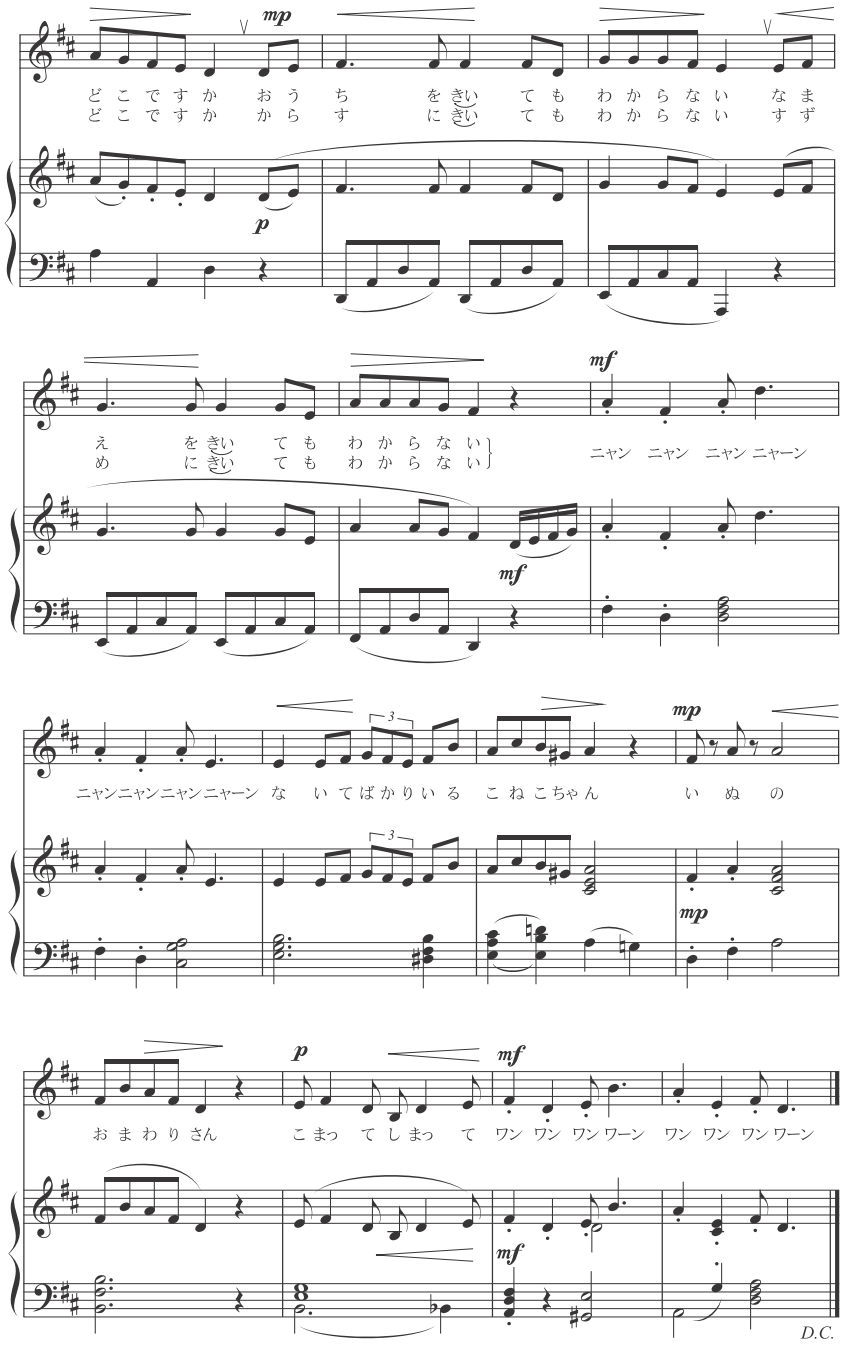
1	移調について①【学習のポイント：調と音程について理解する。】
2	移調について②【学習のポイント：移調の方法を理解する。】
3	移調について③【学習のポイント：音符を正確に記譜する音楽理論を理解する。】
4	移調について④【学習のポイント：変化記号（臨時記号）について理解する。】
5	和音による伴奏付けについて①【学習のポイント：主要三和音について理解する。】
6	和音による伴奏付けについて②【学習のポイント：カデンツ（終止形）について理解する。】
7	和音による伴奏付けについて③【学習のポイント：キーボードでメロディーを弾きながら、メロディーに適切な和音を選択する。】
8	和音による伴奏付けについて④【学習のポイント：ヘ音記号で記譜される和音に、適切なリズムを考える。】

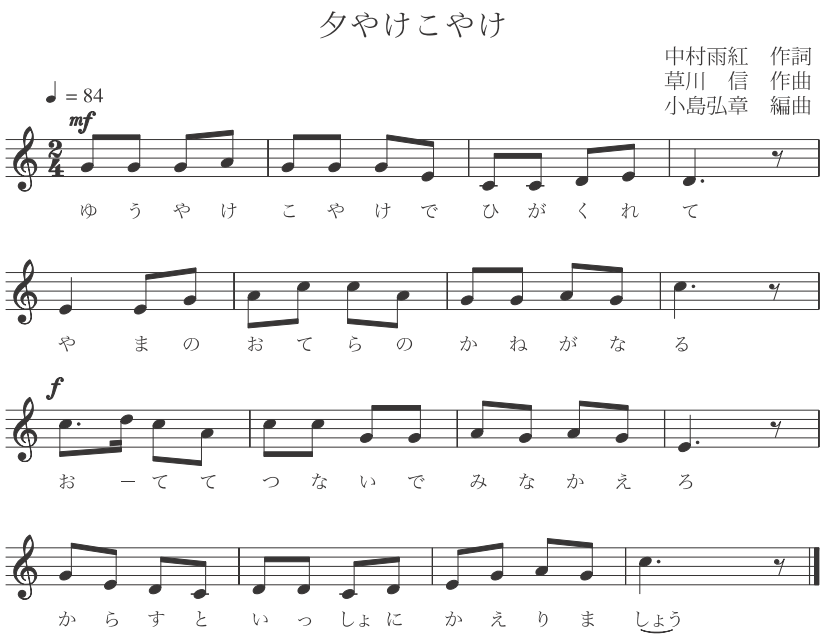
レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第１課題

※①②ともに課題である。課題の作成にあたっては、巻末の『「音楽」用　五線紙』を使用すること。（用紙が不足する場合は、コピーをして使用。）なお、提出の際は①と②をまとめて綴じて第１課題として提出する。

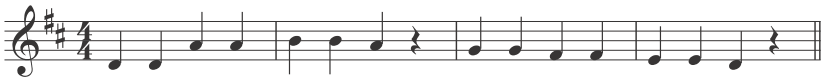
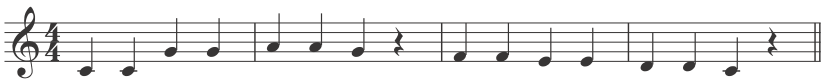
①次の曲を八長調に移調しなさい。
○「いぬのおまわりさん」佐藤義美　作詩／大中恩　作曲／伊東慶樹　編曲

mp
どこですか おうち をきいても わからない なま
どこですか からす にきいても わからない すず
p
mf
え をきいても わからない
め にきいても わからない
ニャン ニャン ニャン ニャーン
mf
mp
ニャンニャンニャンニャーン な いてばかりいる こねこちゃん い ぬ の
3
mp
p
mf
おまわりさん こまって しまって ワン ワン ワン ワーン ワン ワン ワン ワーン
mf
D.C.

②次の曲に和音による伴奏をつけ、和音記号か、またはコードネームも記入しなさい。
○「夕やけこやけ」中村雨紅　作詞／草川信　作曲／小島弘章　編曲

第１課題の留意点

○「移調」の手引き

・移調するには、音程・音階・調についてよく理解しておくことが大切である。また、記譜するには、楽譜に関する基礎的な知識も必要である。

・移調とは？
ある調の曲（原曲）を、そっくりそのまま他の調に移すことを移調といいます。教育や保育の現場でも、歌を歌うときに児童や幼児の声域を考慮して移調することがよくあります。将来、皆さんも教育や保育の現場で、子どもたちが歌い易いようにキー（調）を下げたり、上げたりする機会もあることでしょう。そのキー（調）を移し変えることを移調といいます。この課題を通して、移調のしくみをよく理解しておきましょう。

・移調の進め方
【例題】次の曲（二長調）を、ハ長調に移調しなさい。

※原曲の二長調をハ長調に移調するには、曲全体のそれぞれの音を長２度下げます。

①原曲の調を理解する。　⇒　二長調
②移調する調の調号を理解する。　⇒　ハ長調
③新しい調号を記入する。（ただし、ハ長調は調号が何も付かないので何も記さない。）
④原曲と同じ拍子記号を記す。
⑤原曲のメロディーを全て長二度下げて記す。（当然、リズムは変えない。全く同じ。）
⑥この例題の場合は、原曲に臨時的に変化音（♯、♭、♮等）が付いていないので簡単であるが、もし変化音が付いている場合は、適切な臨時記号を用いて原曲の変化音の状態に合わせること。

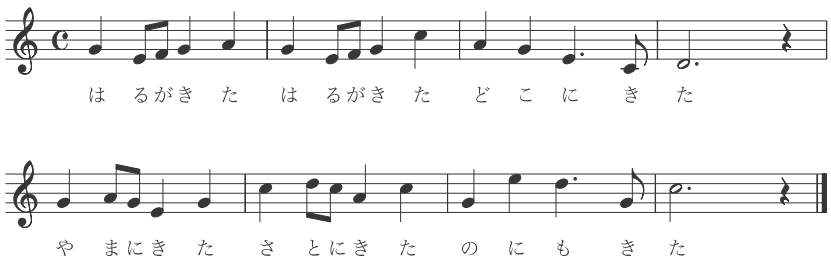
○「和音による伴奏付け」の手引き

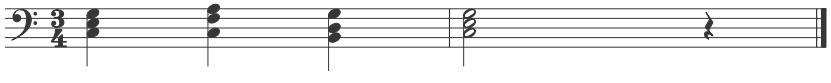
・和音による伴奏をつけるには、課題の旋律に合った和音を選び、その和音の正しい連結（和声）を考慮しながら伴奏付けを行うことが大切である。次の「和音による伴奏付け」の手引きを参考に課題に取り組むこと。

※旋律に和音による伴奏をつける課題では、まず旋律を記譜し、その下に伴奏を記譜し、大譜表として作成すること。和音記号か、またはコードネームも、忘れずに記入すること。

また、**大譜表の上段（ト音記号）と下段（ヘ音記号）の両方ともに、拍子記号に適合した1小節内の拍数となるように、音符を正確に記譜してください。**

つまり、**4分の4拍子なら4分音符を1拍として1小節内に4拍分**となるように、また**4分の3拍子なら4分音符を1拍として1小節内に3拍分**となるように、さらに**4分の2拍子なら4分音符を1拍として1小節内に2拍分**となるように記譜しましょう。

《春がきた》

上記のメロディー譜「春がきた」に簡単な和音をつけてみましょう。

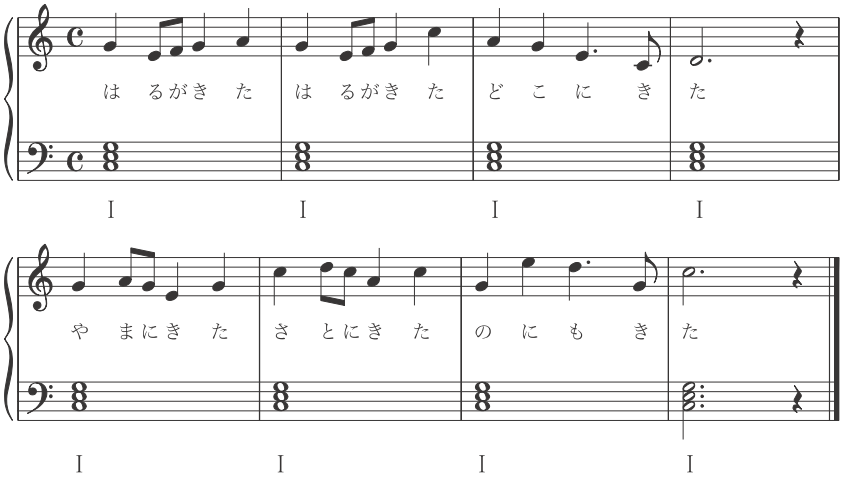
使う和音は主要三和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）ですが、カデンツとよばれる和音の形を利用すれば、とても簡単に伴奏をつけることができます。まずは、ハ長調のカデンツを確認してみましょう。左手で弾いてみてください。

※ⅣとⅤの和音の転回型を示す数字は省略しています。

あるいは

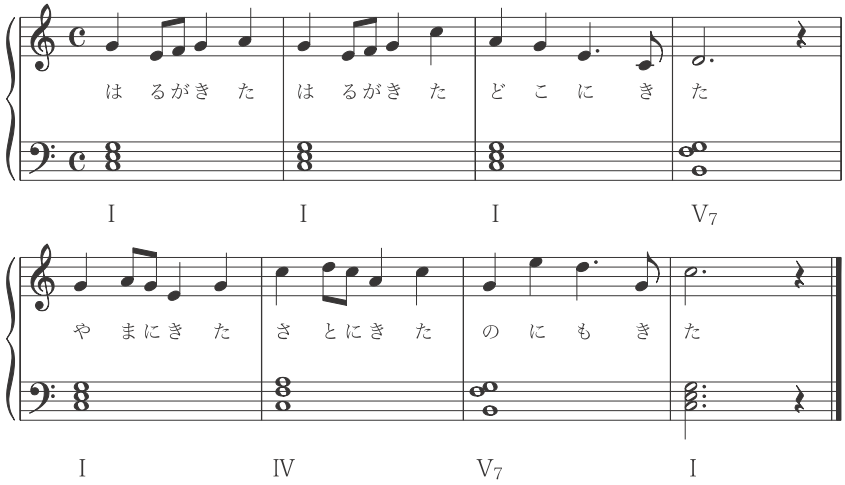
Ⅴの和音に関しては、Ⅴを使っても、あるいはⅤ7を使っても、どちらでもかまいません。

できれば、メロディーの音と重ならないほうがいい感じに仕上がるので、ハ長調の場合、仮にメロディーがファの音だったならⅤの和音を、メロディーがレの音だったならⅤ7の和音をと、使い分けられるようになればベストです。（Ⅴ7の和音はハ長調の場合、ソ・シ・レ・ファの四和音で構成されるため、三和音よりも少し響きが重たい感じになります。よって通常、上記の楽譜のように、レの音が省略されています。）

では、カデンツの和音を使って伴奏をつけてみましょう。何となく自然にⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音が思い浮かぶ人はその才能に感謝！ですが、全くわからない人は、とりあえず、1小節に1つずつ和音を入れていきましょう。何の和音を入れるかですが、すべての調において何といっても一番重要な和音はⅠの和音なので、まず手はじめに全部の小節にⅠの和音を入れてみましょう。

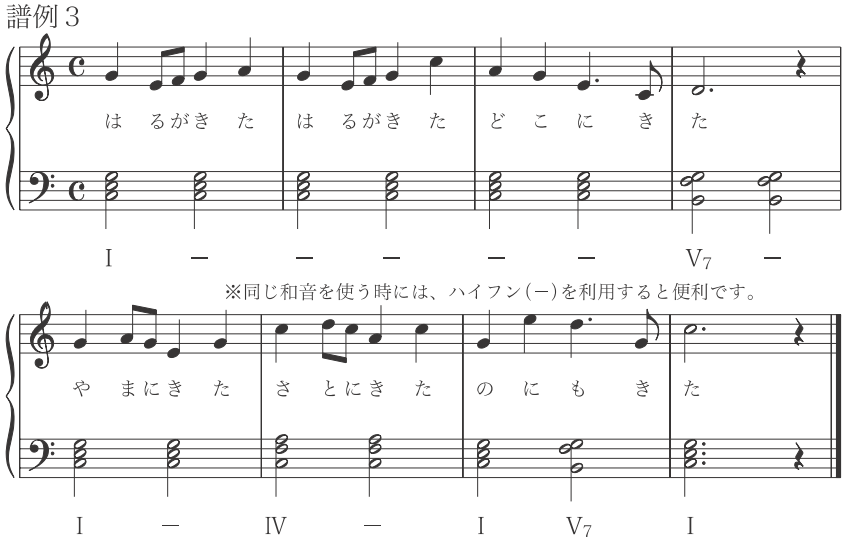
譜例1

では実際に、ピアノで音を出してみましょう。
どうですか？ 4小節目あたりちょっと変な感じがしませんか？
それでは試しに、Ⅰの和音の次に大事な和音であるV7（V）の和音を、Ⅰの和音のかわりに4小節目に入れてみましょう。≪あるいは、4小節目のメロディーの音はレの音なので、レの音を構成音に持つ和音（V7、V）を入れてみる、という考え方もOK。≫また、曲の終わりには、V7（V）→Ⅰという和音の進行を使うと曲の終止感が高まるので、終わりから2小節目にV7の和音を入れてみてください。そしてさらに、まだ使っていないⅣの和音もどこかで使えれば音のパレットが広がるので、とりあえず6小節目に入れてみましょう。

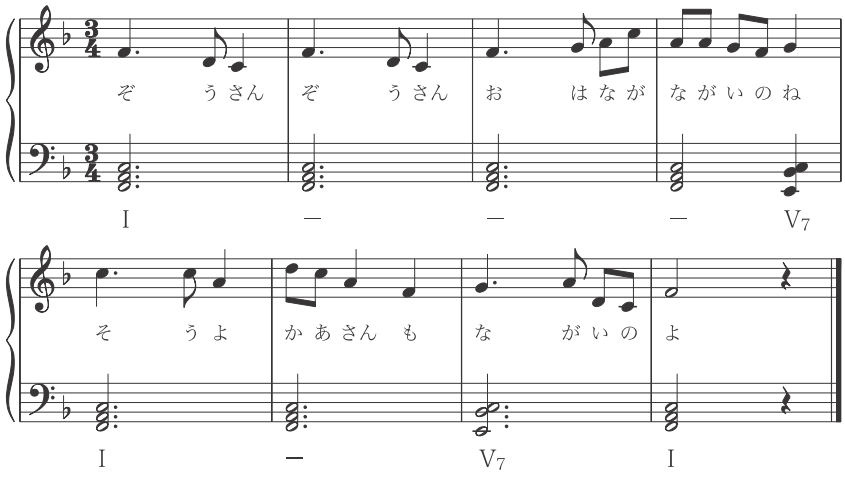
譜例2



ピアノで弾いてみた感じはいかがですか？譜例1より譜例2の方が、より自然な感じに聞こえてきませんか？
6小節目でⅣの和音を使ったのは、何となくではありません。6小節目のメロディーには、ド、レ、ラの音が使われていますが、2拍目のレの音は8分音符ということで音の長さも短く、あまり重要な音ではありません。よって、ドとラの音がこの小節を支配していることになります。
通例、**メロディーに使われている大事な音が和音の構成音の中に含まれていると自然な感じに仕上がる**ので、ここでは、Ⅳの和音が最適ということになるのです。

次に譜例3を弾いてみてください。

譜例3

いかがですか？ 4分の4拍子の場合、当然のことですが、4分の2拍子や4分の3拍子にくらべて1小節が長いため、和音のつけ方も1小節に1つよりは、1小節に2つぐらいでつけていくほうが、つけやすいと思います。
和音付けに慣れるために、4分の3拍子の曲もやってみましょう。

《ぞうさん》

象の持つ大きい重たいイメージを出すために、少し低い音を使って伴奏をつけてみました。
いかがでしょうか、少しは慣れてきましたか？

和音付けは、決して難しいものではありません。なぜなら、美術と同様、音楽には、「こんなことは絶対にしてはいけません」というような規則がないからです。よってすべてが、その人その人の感性によって導かれます。だからこわがらずに、色々チャレンジしてみてください。

とはいっても、全く自由に和音をつけるのも、なかなか難しいものです。これまでに説明したように、まずはⅠの和音を全部につけてみて、何かしっくりこない所に、ⅣあるいはⅤの和音をつけてみましょう。**大切なのは和音付けをすることによって、その曲の大まかな和音の使い方がわかる**ことと、複雑な伴奏がつけられている場合には、**それを非常にやさしい伴奏にかえることができる**ということです。ですから和音付けをする際は、なるべく1小節に1つか2つの和音でまとめられるように気をつけてください。複雑にしてしまっては、その意味がなくなってしまうのですから。

さらに、和音付けができるようになると、移調がとても簡単にできることに気がつくことでしょう。今までとても難しくてできないと思っていたことが、思いのほかスムーズにできるようになりますので、まずは和音付け、頑張ってやってみてください。

レポートの評価基準

・テキストや『学習の手引き』から学んだ内容をふまえて、いかに的確に楽譜として記譜できているかについて評価する。
・各々の課題において、次の3点を評価の基準とする。
①移調の課題
・課題曲が、指定されたハ長調に正確に移調できている。特に変化音の対応もきちんとできている。
・移調楽譜として使用できるように、1番の歌詞もきちんと書けている。
・移調楽譜として使用できるように、拍子記号、スタッカート、アクセント、強弱記号、スラー等の音楽用語も、正確に書けている。
②和音による伴奏付けの課題
・**ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の2段による楽譜（大譜表）として記譜できている。**
・歌詞がきちんと書けている。
・**和音記号か、またはコードネームを正確に書けている。**

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート課題と同じく、移調の問題と和音の伴奏付けの問題を出題する。時間配分を考慮しながら、音部記号・音符・休符等のリズムを正確に記譜すること。**特に、和音の伴奏付けの課題では、ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の2段による楽譜（大譜表）として記譜すること。さらに、小節内の音符の拍数にも注意を払い、和音記号かコードネームも忘れずに必ず記入すること。**

科目修了試験の評価基準

・基本的にはレポートの評価基準とまったく同じである。
・科目修了試験は、移調の問題1題（50点）と、和音の伴奏付けの問題1題（50点）の配点で、合計100点満点で採点評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20118	科目名［単位数／学習時間］	美術［1単位／45時間］

テキスト	●松岡宏明 『子供に子供の美術を』 三元社					
ISBN	9784883035755	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,700	生協 テキストNo.	25101	
科目担当	須増 啓之					

科目の目的

大人が子供の美術を誤解しているため、現在、絵を上手に描かせることを目的としたり、大人の価値観を子供に単に押し付けたりしている授業が少ないとは言えない。保育者や教育者を目指す学生にとって、何を大切にして指導するのか、子供の美術への理解が重要となる。テキストを読むことで、子供の美術や美術教育を実践するために教師として大切にすること、具体的な指導方法など小学校の図画工作科における指導実践への理解を深め、指導方法や子供の美術へのかかわり方などを自分なりにイメージすることができるようになることが本テキスト履修科目の目的である。

到達目標

・子供の美術について理解し、小学校図画工作科の指導方法のイメージをもつことができる。
・図画工作科の内容や授業の展開方法について理解している。
・造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。

学習テーマ

1	子供の美術とはどういうものか①【学習のポイント：「主体性」、「美術の大切さ」、「個性」、「作業」の側面から子供の美術について理解する。＜テキストpp.12-33＞】
2	子供の美術とはどういうものか②【学習のポイント：「ほめ言葉」、「芸術家との違い」、「美」、「教育との親和性」の側面から子供の美術について理解する。＜テキストpp.33-55＞】
3	教師が大切にしておきたいポイント①【学習のポイント：「楽しくあってこそ、美術」、「新しい自分に出会ってこそ、美術」を読んで実例と共にポイントを押さえる。＜テキストpp.56-65＞】
4	教師が大切にしておきたいポイント②【学習のポイント：「互いの違いを味わい合ってこそ、美術」、「過程を大切にしてこそ、美術」を読んで実例と共にポイントを押さえる。＜テキストpp.66-80＞】
5	子供の美術のすすめ方①【学習のポイント：「造形活動の内容」、「造形活動の過程」、「ねらいの設定」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.82-95＞】
6	子供の美術のすすめ方②【学習のポイント：「計画・準備」、「導入」、「材料や用具との出会い」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.95-116＞】
7	子供の美術のすすめ方③【学習のポイント:「反応の引き出し」、「やめどきの決定」などにおける指導方法についてイメージし、理解する。＜テキストpp.116-130＞】
8	子供の美術と鑑賞について【学習のポイント:「見ることはつくること」を意識した「表現」と「鑑賞」の重要性や、「鑑賞」と「発表会」の違いについて理解する。＜テキストpp.132-148＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章では「子供の美術へのまなざしのあり方」と「大人の子供の美術への誤解」について述べられている。8つのテーマ（「大人の子供の美術への誤解」）の中から、興味をもったことについて今までの経験談や具体例を踏まえながら自分なりにまとめなさい（必ず1つ以上のテーマを選択すること）。また、その際あなたの理解がどのように変化したのかについて必ず記述すること。

第1課題の留意点

本課題ではテキストの第1章（pp.12-55）の内容を理解し、その内容の中で特に興味をもったことについて自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。

・テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に第1章のポイントを押さえて自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものは認めない。
・各テーマの中のすべての内容をまとめる必要はない。各テーマの中で興味のある部分やキーワードなどを中心にまとめてもよい。また、テキストの中から関連する部分を参考にしてもよい。
・必ず今までの経験や具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストに載っている以外のものを使用すること。たとえば個人の体験や他の著書を調べたもの、自身で創作したものなど。
・必ずテキスト第1章を読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。

レポートの評価基準

以下の3点で総合的に評価する。

・内容について【テキストの内容の理解度、課題への的確さ、独自の視点】
・形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数（2,000字程度）】
・表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解しておくことが大切である。特に「子供の美術の合い言葉」（第 2 章、pp.56-80）や「美術教育実践の具体的な方法」（第 3 章、pp.82-130）、「子供の美術と鑑賞」（第 4 章、pp.132-148）などについて理解を深めておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえること。テキストの内容を踏まえていない解答は評価しない。

科目修了試験の評価基準

・説明問題 2 題60点（30点× 2 ＝60点）、記述問題 1 題40点の配点で採点する。
・説明問題はテキストの内容を正確に理解し、説明ができているかどうかで評価する。
・記述問題はテキストの内容を踏まえて、自分なりの考えが記述されているかどうかで評価する。
・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編＜平成29年 7 月＞』
日本文教出版又は文部科学省HP
・松岡宏明　『子供の世界　子供の造形』　三元社
・平田智久　『＜感じること＞からはじまる 子どもの造形表現』　教育情報出版
・大橋功　『美術教育概論　新訂版』　日本文教出版
・『図画工作科教科書 1 ～ 6 年』　開隆堂出版または日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20121	科目名[単位数／学習時間]	保育者論［2単位／90時間］		
テキスト	●公益財団法人児童育成協会 『新・基本保育シリーズ7 保育者論』 中央法規出版				
ISBN	9784805857878	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	25102
科目担当	横田 郁子				
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭、園長				

科目の目的

保育者の社会的役割は非常に大きい。本科目では、質の高い保育と子どもの育ちや保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶ。そのためにも保育の質の向上を目指し、保育者の役割と専門性、保育職をめぐる組織、制度、環境について理解し、保育者に求められる基本的な資質や人間性を追及する。

到達目標

・保育者の役割と倫理について理解する。
・保育者の制度的な位置づけを理解する。
・保育者の専門性について考察し、理解する。
・保育者の連携・協働について理解する。
・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

学習テーマ

1	保育者の役割について【学習のポイント：子どもの心身の発達を促す保育と保育者の役割について学ぶ。】
2	保育者の倫理について【学習のポイント：保育者に必要な倫理を理解し保育に活かす。】
3	保育者の資格と責務について【学習のポイント：保育者の法的、制度的な位置づけを理解する。】
4	保育者の資質と能力について【学習のポイント：保育者自身の資質や能力への気づきとそれらを身につける。】
5	養護と教育の一体的展開について【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育実践を学習する。】
6	家庭との連携と保護者支援について【学習のポイント：子育て支援の必要性を学ぶ。】
7	保育の実践と省察について【学習のポイント：省察的実践者の概念と保育者の専門性としての省察を学習する。】
8	保育の質の向上について【学習のポイント：保育の質の向上に関わる自己評価のあり方を学ぶ。】
9	保育における職員間の連携・協働について【学習のポイント：職員間の連携とドキュメンテーションの大切さを考える。】
10	専門機関との連携について【学習のポイント：連携の実際と保育や保護者支援への重要性を学ぶ。】
11	地域社会との協働について【学習のポイント：地域に開かれた子育て支援について学ぶ。】
12	関係機関との連携について【学習のポイント：家庭的保育の概要と実際、連携について学ぶ。】
13	資質向上に関する組織的取組について【学習のポイント：キャリアパスと同僚性の構築について学習する。】
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義について【学習のポイント：保育者の資質向上につながる研修体系について学ぶ。】
15	組織とリーダーシップについて【学習のポイント：リーダーシップの必要性について学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育者の役割と職務内容、倫理について述べなさい。

第2課題

保育者に求められる資質・能力について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストをよく読み、職業倫理に基づき保育者に求められる役割を理解する。

第2課題の留意点

テキストをよく読み、保育所保育指針等の視点を元に、保育者はどのようにして資質・能力を身につけていくのかを述べる。

レポートの評価基準

テキストでの学びを理解したうえで、具体的な事例も盛り込み、自分の考え方や意見がしっかりと述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
・設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけること。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れ作成すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述し、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20122	科目名［単位数／学習時間］	保育原理［2単位／90時間］			
テキスト	●戸江茂博 『新版保育原理 保育の本質を探し求めて』 あいり出版					
ISBN	9784865550641	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25103	
テキスト	●厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814239	本体価格（円）（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25057	
科目担当	戸江 茂博					

科目の目的

保育とは、乳幼児のいのちを守り、そのいのちを輝かせる営みである。具体的には、乳幼児期の子どもの生活支援を中心とした、養護と教育を一体化させた総合的な育ち支援の営みである。本科目では、保育所保育のあり方を全体的に学ぶこと、すなわち、保育の基本原理、保育の内容、保育の方法、保育の歴史などについて学び理解することを目的とする。

到達目標

・保育の意義や目的について理解する。
・保育の思想、歴史、制度について学ぶとともに、保育の現状と課題について理解する。
・『保育所保育指針』をよく理解し、とくに保育所の役割、保育の原理、保育所の社会的責任などについて学ぶ。
・子どもの発達過程を理解するとともに、保育の内容、保育の方法などについて学ぶ。

学習テーマ

1	全体の流れを理解する。
2	保育の意義について【学習のポイント：子ども、保育所、保護者にとっての保育の意義を理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
3	保育の目的や目標について【学習のポイント：保育が目指すことについて理解を深める。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
4	保育の場について【学習のポイント：保育が行われる家庭、保育所等について理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
5	保育所保育の基本的な在り方①【学習のポイント：保育所保育指針、保育所保育の基本原則について理解する。＜テキスト『新版保育原理』1章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
6	保育所保育の基本的な在り方②【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育、発達過程に応じた保育、遊びを通して行う保育、環境を通して行う保育などについて基本的な理解をする。＜テキスト『新版保育原理』2章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
7	子ども中心の保育思想の展開について①【学習のポイント：コメニウス、ルソー、ペスタロッチの保育思想について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』3章＞】
8	子ども中心の保育思想の展開について②【学習のポイント：フレーベル、デューイ、エレン・ケイ、モンテッソーリの保育思想について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』3章＞】
9	わが国における保育の歴史①【学習のポイント：明治、大正、昭和戦前時代の保育の歴史について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』4章＞】
10	わが国における保育の歴史②【学習のポイント：昭和戦後、平成時代の保育の歴史について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章＞】
11	保育の制度について【学習のポイント：児童福祉としての保育の制度、学校教育としての保育の制度について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』6章＞】
12	保育の内容と方法①【学習のポイント：保育内容とは何かについて学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章、『保育所保育指針』第2章保育の内容＞】
13	保育の内容と方法②【学習のポイント：保育の方法とは何かについて学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』5章、『保育所保育指針』第1章総則＞】
14	保育の現状と課題【学習のポイント：保育の現状とこれからの保育のあり方について学ぶ。＜テキスト『新版保育原理』7章、『保育所保育指針』第3章、第4章＞】
15	まとめ【学習のポイント：総括を行い、保育所保育の基本や基本原則について理解を深める。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

保育所保育の基本的なあり方について、次の4つの基本について、長時間の保育を視野に入れて論じなさい。
①養護と教育が一体となった保育
②発達過程に応じた保育
③遊びを通して行う保育
④環境を通して行う保育

第２課題

現代の保育課題として考えられる次の３つの事項について説明しなさい。
①発達支援の保育内容
②健康保育、安全保育、食育
③子育て支援

各課題の留意点

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

・この科目については、序論、本論、結論という様式は不要。「はじめに」、「終わりに」も不要。第１課題を例にとると、レポート用紙には、「保育所保育の基本的なあり方」を題名として、１．養護と教育が一体となった保育、２．発達過程に応じた保育、などとして論述すること。
・主語・述語を明確にし、論理的に筋道の通った文章にすること。また、適切に段落を取って、文章を読みやすくすること。文章の書き出しや段落の書き出しは、１文字送って書き始めること。
・テキストや思想家の著書からの引用を行う場合、「‥‥‥‥」（１）などとし、脚注又はレポートの末尾に引用文献とページ数を明示する。

第１課題の留意点

保育所保育の基本的なあり方として挙げた４点についてよく理解してほしい。保育所保育の特徴は長時間の保育（子どもの在所時間は９～11時間にも及ぶ）であり、これを意識しながら課題の４点について考察してほしい。テキスト『新版保育原理』２章がとくに参考になる。テキスト『保育所保育指針』第１章総則の中のあちこちに４点について記述されているのでこれも参考にすること。同じく、参考文献『保育所保育指針解説』第１章総則も参考としてほしい。

第２課題の留意点

これからのわが国の保育の課題となってくる代表的なものを３つ浮き彫りにした。生きる力の基礎を養う保育内容の姿、これからの健康保育・安全保育・食育、子育て支援である。①「発達支援の保育内容」については、テキスト『新版保育原理』５章の３が特に参考になろう。また、テキスト『保育所保育指針』第１章総則及び第２章保育の内容が参考になる。②「健康保育、安全保育、食育」についてはテキスト『新版保育原理』５章の４が特に参考になろう。テキスト『保育所保育指針』第３章健康及び安全も参考になる。③「子育て支援」については、テキスト『新版保育原理』７章の全体、同４章の５の（２）、同第１章２、３及びテキスト『保育所保育指針』第４章子育て支援が参考になる。一般的な子育て支援の意義をふまえて、保護者支援のあり方も地域の子育て支援のあり方も両方とも論じてほしい。参考文献『保育所保育指針解説』は、「保育所保育指針」を詳細に説明している図書なので、上記の「保育所保育指針」を調べ確認するときに『解説』のなかの同じ項目の記述内容（文章量が非常に多い）に目を通しておくことをお勧めする。

レポートの評価基準

・２冊のテキスト等から学び取ったことを自分なりの表現でまとめていること。
・文字数は、2,000字程度とするが、論述に必要な場合は2,000字を超えてもかまわない。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること、が大切である。とくに、しばしば段落を取ることができていないレポートが散見されるので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『新版保育原理』全文及び、『保育所保育指針』全文を繰り返し読んでおくこと。
・保育の概念と保育の理念について、特に保育の理念については、子どもの権利擁護を基本として理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』１章の１，２】
・保育とは何かということを全体として理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』１章、６章、及び『保育所保育指針』第１章総則】
・保育所保育の基本的なあり方の４つの軸について深く理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』２章、及び『保育所保育指針』第１章総則】
・欧米における子ども中心の保育思想の発展の歴史について、人物及びその保育思想を理解しておくこと。とくに、コメニウス、ルソー、フレーベル、エレン・ケイ、モンテッソーリ、デューイの子ども中心主義的な保育思想について説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』３章】
・わが国の保育の歴史を総覧しておくこと。エポックメイキングな出来事、例えば、最初の幼稚園の設立、最初の保育所の設立、倉橋惣三の登場、戦後の保育の出発点などについては、要点が記述できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』５章】
・テキスト『保育所保育指針』において新たに提起された、幼児教育の目標や内容（「幼児期において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など）を具体的によく理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』１章、５章、『保育所保育指針』第１章総則】
・歳児別の保育の要点、保育内容のあり方について具体的、実践的に理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』５章、及び『保育所保育指針』第１章総則、第２章保育の内容】
・健康保育及び安全保育（健康支援、食育、安全管理、災害への備え等）について実践的に理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』５章、『保育所保育指針』第３章】
・保育の制度について、少子化への対応、認定こども園の動向などを理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』６章、７章】
・保育士の業務となっている子育て支援の意義と役割について、実際的に理解し、説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』１章、４章の５、７章及び『保育所保育指針』第４章子育て支援】
・乳児期（０歳児）及び幼児期（３～５歳児）の発達特徴をよく理解し、それぞれの保育の要点や保育内容の考え方が説明できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』２章の２、及び『保育所保育指針』第２章保育の内容】

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・テキスト『新版保育原理』で学んだことを中心に記述すること。単に自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・テキスト『保育所保育指針』がよく理解できていること。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の75%程度以上の記述があること。

参考文献

・待井和江　『保育原理』　ミネルヴァ書房
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・大豆生田啓友　三谷大紀　『最新保育小六法・資料集（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20132	科目名[単位数／学習時間]	子どもの食と栄養［1単位／45時間］		
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第3版』　羊土社				
ISBN	9784758113809	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25104
科目担当	廣田　有加里				
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3	妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
4	乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践
5	幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義
6	学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応
7	食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援
8	特別な配慮を要する子どもへの対応

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期の心身の発育・発達の特徴と健康への対応について述べよ。

第1課題の留意点

食生活の基礎は離乳期から小学校入学までに築かれるといわれている。幼児期の発育・発達段階に応じた食生活の関係と食生活上の問題を理解し、健康に成長するために、保育者として、どのような対応が必要であるか具体的に記述する。テキスト第6章とその他の参考文献に目を通した上で、自分なりの視点を持って課題を考察する。

指定テキスト以外にも、多数の最新の参考文献などを熟読し理解した上で、自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

レポートの評価基準

・指定テキストだけでなく、多数の最新の参考文献に目を通し、理解を深めた上で、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
・レポートの課題の趣旨を理解し、論理的にわかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・1日に何をどれだけ食べればよいか、必要なエネルギーおよび栄養素の基準が定められている『日本人の食事摂取基準（2025年版）』について理解した上で、献立作成や調理に役立つ食事バランスガイドについても、関連付けて理解を深めておく。（テキスト第3章pp.36-46）
・『平成27年度乳幼児栄養調査の結果の概要』では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取り組みをしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。（テキスト第5章pp.62-64、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査の結果の概要』）
・離乳食の意義と離乳食を開始する発達の目安を理解し、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第5章pp.68-75、第10章pp.132-143）
・幼児期の生理的特徴と食行動の問題について、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第6章pp.76-89、参考文献『授乳・離乳の支援ガイド2019年改定版』、『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』）
・子どもの食環境や社会環境の現状や課題を認識した上で、食育は日常生活のなかの一部であり、保育の一環としての食育実践を目指していくことを理解しておく。（テキスト第9章pp.117-131）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：母乳、離乳、食事摂取基準、食事バランスガイド、食物アレルギー、食育

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・指定文字数9割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得られた基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・字は読みやすく、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・上田玲子 『子どもの食生活』 ななみ書房
・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
・厚生労働省 『健康日本21（第三次）の概要』
https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001158810.pdf
・厚生労働省 『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf
・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf
・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省 『食物アレルギーの栄養食事指導の手引き2022』
https://www.foodallergy.jp/wp-content/themes/foodallergy/pdf/nutritionalmanual2022.pdf
・農林水産省 『健全な食生活の実現』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省 『食事バランスガイドと従来の分類法との関連』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省 『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
・農林水産省 『食育の推進』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html
・農林水産省 『第4次食育推進基本計画』啓発リーフレット
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/plan/4_plan/attach/pdf/index-28.pdf
・農林水産省 『子どもの食育』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/index.html
・子ども家庭庁 「乳幼児期の栄養について」
https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyou
・消費者庁 『栄養や保健機能に関する表示制度とは』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/health_and_nutrition_labelling
・消費者庁 『食品表示について』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/
・消費者庁 『食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/assets/caution_047_210120_0001.pdf
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20134	科目名[単位数／学習時間]	生徒・進路指導論（初等）［2単位／90時間］
テキスト	●文部科学省 『生徒指導提要 令和4年12月』 東洋館出版社		
ISBN	9784491051758	本体価格(円)（2025年1月現在）	900
生協テキストNo.	25105		
科目担当	長谷川 重和		
実務経験のある教員による科目	公立小学校長、教育委員会指導主事		

科目の目的

生徒指導の意義や課題を確認した上で、学校における指導体制や課題を抱えた児童生徒の指導の在り方を理解する。また、進路指導として児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質･能力を培うことを目指す。学校は、いじめや不登校などの生徒指導上の問題をかかえている。生徒指導は、それらの未然防止対策や課題解決にあたるなど学校教育を進めるうえで重要な役割を果たすこととなる。教育委員会指導主事、管理職の実務経験を活かして不登校児童生徒への支援や生徒指導上の問題解決など実践的教育を行う。

到達目標

・各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動など教育課程との関連において、生徒指導の意義や原理とその重要性を理解する。
・全ての児童生徒を対象とした学級･学年･学校における生徒指導の進め方や組織的な指導体制の重要性を理解する。
・個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方や教育相談の意義について理解する。
・進路指導、キャリア教育の視点に立って必要な知識や素養を身につける。
・自己実現を図り、自己を生かす「生き方」としての生徒指導・進路指導の在り方について学ぶ。

学習テーマ

1	生徒指導の意義と構造【学習のポイント：生徒指導の意義と構造を理解する。＜テキスト第1章＞】
2	生徒指導の方法と進路指導【学習のポイント：ガイダンスとカウンセリングを理解する。＜テキスト第1章＞】
3	児童生徒理解について【学習のポイント：児童期の心理と発達を理解する。＜テキスト第1章＞】
4	チーム支援による組織的対応【学習のポイント：集団指導と個別指導を踏まえて対応する。＜テキスト第1章＞】
5	生徒指導と教育課程について①【学習のポイント:教科･道徳教育を要にした生徒指導を理解する。＜テキスト第2章＞】
6	生徒指導と教育課程について②【学習のポイント:総合的な学習･特別活動と生徒指導を理解する。＜テキスト第2章＞】
7	生徒指導と教育相談【学習のポイント：教育相談の意義を理解し一体となったチーム支援をする。＜テキスト第3章＞】
8	チーム学校による生徒指導体制【学習のポイント：チーム学校として機能する学校組織。＜テキスト第3章＞】
9	個別の課題に対する生徒指導①【学習のポイント：いじめの問題性を理解する。＜テキスト第4章＞】
10	個別の課題に対する生徒指導②【学習のポイント：不登校の問題性を理解する。＜テキスト第10章＞】
11	個別の課題に対する生徒指導③【学習のポイント：少年非行・児童虐待の問題性を理解する。＜テキスト第6章＞】
12	進路適性と進路選択について【学習のポイント：進路適性とは何か、職業観の形成を理解する。】
13	生徒指導における組織対応について【学習のポイント：学級担任・ホームルーム担任の指導を理解する。＜テキスト第3章＞】
14	地域・家庭・関係機関との連携・協働【学習のポイント：地域社会における児童生徒を理解する。＜テキスト第3章＞】
15	キャリア形成活動と進路指導について【学習のポイント：キャリア教育の現状と課題を理解する。＜参考文献『新しい生徒指導・進路指導』第10章＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

いじめの定義を記し、いじめに関する生徒指導の重層的支援構造について説明しなさい。そして、“いじめの未然防止教育”の取組について安心な学校・学級づくりの視点から述べなさい。

第2課題

生徒指導では、「チーム学校による生徒指導体制」が求められる。その背景として3点挙げ、それぞれについて分かり易く説明しなさい。そして、生徒指導と教育相談についてどのような姿勢で取組を進めるのか、どのようなチームや役割を設定して課題解決するのかについて述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『生徒指導提要』では、第Ⅰ部で「生徒指導の基本的な進め方」として、生徒指導の意義や生徒指導の構造、教育課程との関係、生徒指導を支える組織体制について整理し、第Ⅱ部において「個別の課題に対する生徒指導」として、各個別課題について様々な観点から考え方等を示している。いじめについては第Ⅱ部第 4 章に記載されており、いじめ防止対策推進法の展開とともに「いじめに関する生徒指導の重層的支援構造」を意識することになる。学級・ホームルーム担任は、いじめを生まない環境づくりと児童生徒がいじめをしない態度や能力を身に付けるような働きかけを行うことが求められる。「未然防止」→「早期発見」→「対処」のプロセスを意識して、すべての児童生徒にいじめの未然防止教育を行うことが重要である。児童生徒に悩みが生じたときに教育相談に携わる力量を向上しなければならない。第 3 章の「チーム学校による生徒指導体制」や「教育相談体制」等も参考にする。

第 2 課題の留意点

生徒指導は、全教職員が協力し“チーム学校”として各人の責任を果たすことが大切である。テキスト第 3 章「チーム学校による生徒指導体制」を熟読する。生徒指導における校内組織と校外との協力体制を知り、教職員間の共通理解と共通実践を軸にした生徒指導体制づくりについて理解すること。学級担任の取組は問題行動を未然防止するうえで重要であるが、一人で解決しようとするのではなくチーム学校として機能することが大事である。第 3 章 3.2、 3.3、 3.4 を中心にチーム学校の体制を理解し、具体的な場面をイメージし整理しておくこと。また、学校内だけでなく 3.7 「学校・家庭・関係機関等との連携・協働」のように関係機関等と連携を図ることが課題解決に繋がることも理解する。

レポートの評価基準

・テキストや参考文献から学んだ内容をふまえて、自分の考えや表現で的確に記述できているかについて評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
②自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、丁寧に作成している。
④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポートのルールにしたがっている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

試験では、テキスト『生徒指導提要』で生徒指導の意味やその基本にある児童生徒理解、チーム学校としての取組や児童生徒が自分らしく生きるために必要な生徒指導の在り方について学んだかを問うことになる。テキスト第Ⅰ部「生徒指導の基本的な進め方」で、生徒指導の基礎や生徒指導と教育課程、チームによる生徒指導体制で構成されている。第 3 章の「教育相談体制」では、生徒指導体制や教育相談体制について明記し“チーム学校”として一体となった対応を求めている。学校・家庭・関連機関等との連携・協働も理解しておく。

テキスト第Ⅱ部「個別の課題に対する生徒指導」では、様々な課題について記載されているが、特にいじめと不登校について熟読を願う。各章では課題の対応や未然防止について具体的に記載されているので参考にする。また、生徒指導は、家庭や地域社会、関係機関との連携が大切になる。それについても 3.7 「学校・家庭、地域との連携・協働」だけでなく、各課題には、学校と家庭や関係機関との連携について述べているので参考にする。教育相談については、第 3 章で学級担任が行う教育相談を学ぶことになる。生徒指導と教育相談は、特定の先生や専門家だけが行うものではなく、全ての教師がかかわるという基本を大切にして答案作成に臨んでほしい。

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

・加澤恒雄　広岡義之 『新しい生徒指導・進路指導　理論と実践』 ミネルヴァ書房
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東京書籍又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20142	科目名[単位数/学習時間]	教育実習（初等）【幼稚園】[実習 4 単位]
テキスト			
ISBN		本体価格(円)（2025年1月現在）	生協テキストNo.
科目担当	猪田　裕子		
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園教諭		

科目の目的

幼稚園教育実習の目的は、実際の幼稚園における体験を通して、子どもの発達や教育の実践方法を理解し、保育者として必要なスキルや態度を身につけることである。この実習により、学んだ理論を現場で応用し、自信を持って子どもと接する力を養う。

到達目標

・幼稚園教育における子どもの発達特性と保育の基本的な理論を理解できるようになる。
・幼稚園における保育活動を計画し、実践できる力を身につける。
・子ども一人ひとりの個性や発達段階に応じた適切な支援方法を理解し、実践できるようになる。
・保育者としての責任感や倫理観を自覚し、適切な態度で保育に臨むことができるようになる。
・実習を通じて得た経験を振り返り、次の学びや自己成長につなげることができるようになる。

受講上の注意事項

実習は、現場から学び自分を成長させる貴重な機会である。子どもたちの姿に真摯に向き合い、保育者としての役割と責任を深く理解し、自身の学びとなるよう経験を積むこと。

評価基準

・教育実習先の評価　50%
・提出物　50%

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20142	科目名[単位数/学習時間]	教育実習（初等）【小学校】[実習 4 単位]
テキスト			
ISBN		本体価格(円)（2025年1月現在）	生協テキストNo.
科目担当	齋藤　隆彦		
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（教科「国語科」）		

科目の目的

実習生として、教育現場で現職の先生方や子どもたちから多くを学び、大学で履修した教職及び教科等に関する知識・理解を総合的に習得するとともに新たな課題を見つけることを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学校現場での経験を通して、教育の重要性を再認識し、教員としての使命感を高め、教育に専念していくことのできる教員として必須の能力・意欲・態度を培う。

評価基準

・教育実習先の評価　50%
・提出物　50%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20144	科目名［単位数／学習時間］	保育実習ＩＢ〔施設〕［実習２単位］
テキスト			
ISBN		本体価格（円）（2025年1月現在）		生協 テキストNo.	
科目担当	藤原　伸夫		
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長		

科目の目的

児童福祉施設（保育所以外）において、見学、観察、生活に参加する中で、入所している子どもや利用者の理解を深めるとともに、実習施設の機能とそこでの保育士の役割・責任・業務について学ぶ。

到達目標

・児童福祉施設（保育所以外）等の役割や機能を具体的に理解する。
・観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。
・子ども・利用者への療育・支援及び保護者への支援について総合的に理解する。
・療育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

受講上の注意事項

・体調を整え健康管理に努めること。
・実習目標を明確にして、積極的な姿勢で意欲をもって実習に臨むこと。
・服装・言動など良識に基づいて行動すること。
・実習先の施設の方針・理念をよく理解し尊重して、施設からの指導、助言を受け止め、謙虚な態度で臨むこと。
・報告・連絡・相談を心がけること。

評価基準

・実習評価（実習先と大学の評価による総合的評価）　70%
・実習記録　30%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20146	科目名[単位数／学習時間]	保育内容（健康）［1単位／45時間］
テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第2版』 みらい		
ISBN	9784860154714	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,100
生協テキストNo.	25106		
科目担当	植山 佐智子		
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭・主任教諭・園長		

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。また幼稚園、保育所、こども園において実際に実践していく中での知識を習得し、保育者としての実践力を身に付ける。教育要領（保育3法）を理解して保育教育ができるようにする。これこそが保育者として基本であることを理解できるように指導していく。

到達目標

・子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める。
・子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。
・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。

学習テーマ

1	テキスト第2章「発育と発達」を読んで、子どもの身体的発達、姿勢・運動系の発達、神経系の発達を理解する。
2	テキスト第3章「子どもを取り巻く環境の現状と健康課題」を読んで、子どもの生活の現状を理解する。
3	テキスト第3章「子どもを取り巻く環境の現状と健康課題」を読んで、健康課題とその対策を理解し、幼児期の健康にふさわしい環境（人的・物的・自然）をまとめる。
4	テキスト第6章「子どもの健康と生活習慣」を読んで、基本的生活習慣の自立の重要性を理解する。
5	テキスト第6章「子どもの健康と生活習慣」を読んで、基本的生活習慣の自立における環境構成や援助の重要性を理解する。
6	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育基本法と保育所における食育計画と評価、幼稚園における食育の取組の効果を理解する。
7	テキスト第11章「運動と環境」を読んで、幼児期の健康にふさわしい人的環境、物的環境を理解する。
8	テキスト第12章「子どもの事故や病気、危機管理について」を読んで、保育現場での減災防災を考える。

レポートについて

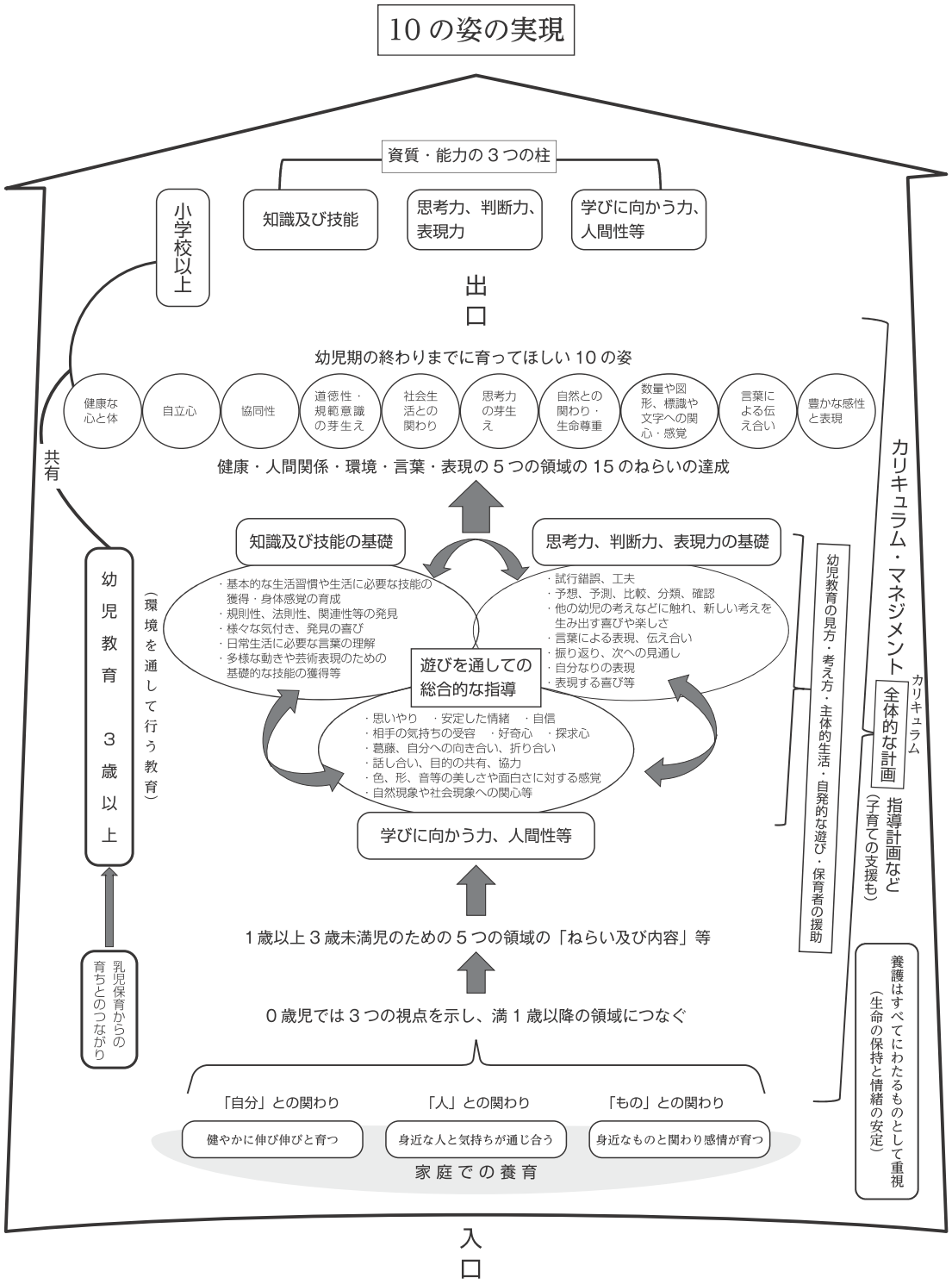
ワープロソフト使用可

第1課題

「10の姿の実現」（「第1課題の留意点」の図）を参考に、その理解を十分にまとめ、自分なりに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と「育みたい資質・能力」をどう捉えるか、実践者としてどう理解するかの観点で論述しなさい。

第１課題の留意点

・参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を熟読すること。
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「育みたい資質・能力」の関係性を十分に理解し、論じること。



（出典：無藤隆　『10の姿プラス５・実践解説書　よくわかる解説＆写真で見る実践事例』　ひかりのくに2018年p.127）

・小学校との連携を考慮することを踏まえて論じること。
・参考文献や資料を検索し、それらを用いて論を展開する。

レポートの評価基準

・課題に沿った調べ学習と、それらの情報を自身でまとめる力を求める。テキストをまとめるだけではなく、テキストを基に関連する参考文献･資料を活用し、まとめること。
・課題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけているか。
・参考文献や白書などの資料を用いて広汎な調べ学習をし、それらを用いて考察できているか。＜※参考文献や資料については、必ず明示する。＞
・保育の実践に立っていることを想定して、具体的論述ができることを期待している。
・正しい日本語記述で誤字・脱字はなく、2,000字の 9 割以上記述されているか。
・課題の趣旨に沿ったレポートで、論理的に無理なく全体の流れになっているか。
などを総合的に評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや 3 法（参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』）を十分読みこなし、理解した上で事例なども加えて、論点をまとめること。

科目修了試験の評価基準

テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。

参考文献

・文部科学省　『幼児期運動指針』
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20147	科目名［単位数／学習時間］	保育内容（人間関係）［1単位／45時間］
テキスト	●田村美由紀　室井佑美　『＜領域＞人間関係ワークブック』　萌文書林		
ISBN	9784893472625	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800
生協テキストNo.	25107		
科目担当	福井　逸子		
実務経験のある教員による科目	公・私立幼稚園教諭（主任教諭）、保育士		

科目の目的

現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、乳幼児期の人との関わりは重要である。本科目では、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につけることを目的とする。実務経験を生かして教授する。

到達目標

・「人間関係」とは何かについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
・子どもの社会性・人間関係の発達プロセスについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」を保育するにあたり、実践上の配慮について理解・考察を深める。
・子ども一人一人が豊かな人間関係を育む保育実践計画、指導案の作成について理解を深める。

学習テーマ

1	領域「人間関係」におけるねらいと内容についての理解（テキスト第1章～第2章）
2	身近な人から広がる人間関係 - 事例で学ぶ -（テキスト第3章）
3	仲間同士の関わりについて - 事例で学ぶ -（テキスト第5章）
4	遊びの中で育つ人間関係① - 事例で学ぶ -（テキスト第6章～第7章）
5	遊びの中で育つ人間関係② - 事例で学ぶ -（テキスト第8章～第9章）
6	人との関わりが難しい子どもへの支援（テキスト第10章）
7	保育指導計画の意義と作成について - 3歳未満児編 -（テキスト第11章）
8	保育指導計画の意義と作成について - 3歳以上児編 -（テキスト第12章～第14章）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育現場において、「むーむーぴろろー遊び」と聞いて、どのような遊びをするのかイメージし、考案する。その際、対象年齢、場所、子ども達への説明の仕方等、誰もが分かるように示しなさい。

第1課題の留意点

自分自身でオリジナルな遊びの展開例をデザインする（遊びの計画案）。対象年齢、場所、遊びの方法等、クラスサイズに注意して、立案することが大事である。作図についても、自由であるが、第三者が見ても分かるように留意すること。本レポートの作成は、ワープロ、自筆、作図に色をつける等、全て自由であるが、実際の保育の現場で使用できるような保育内容になるように努めて欲しい。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字～2,000字数以内とすること。
・課題の趣旨に沿っている。
・領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
・必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
・専門用語を正しく理解して使用している。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
・テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編を熟読し、保育現場で実践すべき保育・教育の基本や目標、また、参考文献『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』などの領域「人間関係」のねらいと内容を子どもの年齢別にしっかりと把握しておく。さらに、テキストの事例や他の保育の専門書を参考に、多くの実践例を学んでおく。
・答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で論理的に簡潔に解答すること。自分が学習した保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・無藤隆　古賀松香　『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』　北大路書房
・友定啓子　青木久子　『幼児教育知の探求　16　領域研究の現在＜人間関係＞』　萌文書林
・無藤隆　『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』　東洋館出版社
・『月刊　保育とカリキュラム（保育雑誌)』　ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20148	科目名［単位数／学習時間］	保育内容（環境）［1単位／45時間］			
テキスト	●無藤隆　福元真由美　『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』　萌文書林					
ISBN	9784893472588	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25108	
テキスト	●『令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格（円）（2025年1月現在）	800	生協テキストNo.	25097	
科目担当	佐藤　智恵					
実務経験のある教員による科目	保育士					

科目の目的

「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について、また他領域との関連についてテキストによって理解を深める。

到達目標

・「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解する。
・領域「環境」について他の領域と関連させて理解を深める。

学習テーマ

1	保育内容「環境」とはなにか【学習のポイント：保育内容「環境」を構成する全体像を理解する。】
2	「幼稚園教育要領」における「環境」【学習のポイント：「幼稚園教育要領」や「10の姿」などの中で領域「環境」がどのように示されているかを理解する。】
3	他領域と「環境」との関連【学習のポイント:「幼稚園教育要領」の保育内容の部分を熟読し、他領域との関連を理解する。】
4	自然事象や季節ごとに適した栽培活動・飼育活動【学習のポイント：具体的な事例エピソードから、保育内容とねらい、また様々な場面における配慮事項について理解する。】
5	様々な道具や遊具を用いた保育内容のあり方【学習のポイント：具体的な事例エピソードから保育者の配慮について理解する。】
6	文字や標識、数量や図形に関心をもつ【学習のポイント：保育実践の中で文字や数量がどのように扱われているかを理解する。】
7	日本や海外の文化、行事を保育にどう取り入れるか【学習のポイント：行事のあり方、また当日だけでなく行事の前後の過程についても理解する。】
8	地域社会との関わりの中での保育【学習のポイント：どのような活動によって幼児が地域社会との関わりを深めることができるのか、またその際の保育者の配慮事項について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「自然に親しみ、植物や生き物に触れる」「文字や標識、数量や図形に関心をもつ」「遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ」の項目について、保育者として行うべき指導や関わりについて述べよ。

第1課題の留意点

・まずはテキスト『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』pp.10-31を熟読し、幼児教育で重視されていることについて理解を深めることが大切である。
・次にpp.190-204をよく読み、保育内容「環境」において大切にされている考え方を理解すること。
・上記2点にしっかり取り組んだ後、第4・6・7章を熟読し、保育者として行う指導や関わりについて理解を深めること。自己の思い込みで作成されたレポートは評価の対象としない。
・テキストの文言をそのまま書き写すのではなく、保育実践の中で重視されていることを探求することを心がけること。
・伝わりやすくするために具体的な例を提示することはよいが、冗長にならないように留意すること。
・テキストによる学習ということを意識して取り組むこと。自身の経験談は評価の対象としない。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し、丁寧な記述がなされている。
・テキストによって学習を行い、求められた課題に関する記述ができている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストを熟読し保育内容への理解を深めておくこと（特に、テキストpp.97-100、pp.132-137、pp.144-154、pp.170-174、pp.179-186を熟読し、幼児教育の考え方、子どもへの指導方法について正しい理解をしておくこと）。
・テキストでは、それぞれの事例における保育者のねらいや配慮事項がどのようなものであるかということに留意して、学習をしておくこと。
・事例に関する設問においては、「自分がどうしたいか」ということではなく「今、求められている指導や配慮」や「考えられる複数の対応」を記述することが求められることもある。広い視野を持って学習を進めてほしい。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談のみや根拠のない自説を記入しても評価しない。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20149	科目名［単位数／学習時間］	保育内容（言葉）［2単位／90時間］			
テキスト	●小田豊　芦田宏　『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容　言葉』　北大路書房					
ISBN	9784762826313	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,700	生協テキストNo.	25109	
科目担当	久米　裕紀子					
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園園長、保育園・幼稚園などの研究会講師					

科目の目的

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。言葉の機能と、言葉の発達過程を理解し、保育における領域「言葉」のねらいと内容を理解する。幼児の発達に即した子どもの言葉や、話す力、聞く力を育むため、保育者としての知識と実践力を学ぶ。主体的・対話的な実践、具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法、保育者の援助などを身に付ける。

到達目標

・言葉の獲得の意義、言葉の機能について理解する。（テキスト第1章1節）
・保育における領域「言葉」のねらいと内容を学ぶ。また小学校「国語科」との比較により、領域「言葉」の独自性と「国語科」への連続性について理解する。（テキスト第2章）
・言葉の発達過程を理解する（乳児期の言葉以前・以後の段階、幼児期の話し言葉、書き言葉）。（テキスト第3章）
・子どもの言葉の発達段階にあった保育者の態度、関わり、援助を身に付ける。（テキスト第3章、第4章、第6章1節）
・子どもの言葉や感性を豊かにする環境と保育を提案できるようになる。（テキスト第4章、第5章）

学習テーマ

1	言葉の獲得の意義、言葉の機能について【学習のポイント：言葉はどのように獲得されていくのか（テキスト第1章）】
2	領域「言葉」が目指すもの【学習のポイント：領域「言葉」の意図するところは何か（テキスト第2章1節）】
3	領域「言葉」と他の領域の関係【学習のポイント：保育・教育計画の立案と評価のための視点とは（テキスト第2章2節～3節）】
4	言葉の獲得①【学習のポイント：言葉の発達の道筋を捉える（テキスト第3章1節、2節）】
5	言葉の獲得②【学習のポイント：文字への興味・関心を育てるには何が必要なのか（テキスト第3章3節）】
6	言葉を育てる環境①【学習のポイント：乳幼児の言葉を育てる環境（テキスト第4章1節）】
7	言葉を育てる環境②【学習のポイント：話し言葉を育てる環境（テキスト第4章2節）】
8	言葉を育てる環境③【学習のポイント：書き言葉への興味や関心を育てる環境（テキスト第4章3節）】
9	言葉を育てる児童文化財①【学習のポイント：お話・絵本・紙芝居など児童文化財（テキスト第5章1節）】
10	言葉を育てる児童文化財②【学習のポイント：仲間を育てる文化財。「ごっこあそび」・「劇あそび」で育つ力、保育者の役割。（テキスト第5章2節）】
11	言葉を育てる児童文化財③【学習のポイント：地域の暮らしと遊びの文化。あそびの質の重要性。（テキスト第5章3節）】（教材研究及び模擬保育の構想と省察）
12	言葉の育ちにかかわる諸問題①【学習のポイント：言葉の障害について（テキスト第6章1節）】
13	言葉の育ちにかかわる諸問題②【学習のポイント：多民族・多文化化について（テキスト第6章2節）】
14	言葉の育ちにかかわる諸問題③【学習のポイント：国際理解と外国語について（テキスト第6章3節）】
15	言葉を育てる保育者の役割と援助【学習のポイント：領域「言葉」を振り返り教師の援助を深める。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

乳幼児の発達、年齢、語彙、文節などに視点を当て、保育者がどのようにかかわることが言葉の獲得に必要であるかを述べよ。

第2課題

「ごっこ遊び」と「劇遊び」の違いを述べ、保育者は乳幼児の発達を踏まえ、どのように進めていくことが必要かを述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章1節、2節をよく読み、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。そのうえで、3節で小学校「国語科」との関係を学ぶ。「言葉」と「国語科」の連続性、関連性に触れながら、どこが違うのかをはっきりと示し、領域「言葉」の独自性について説明すること。

テキスト第2章の他、第3章、第4章、コラムを参照し、話し言葉を豊かにする保育について具体的に述べること。クラス（年齢）を設定し、保育者として言葉の感覚を磨くため「子どもの活動・姿」「環境」「保育者の配慮・関わり」の3点に言及する具体性のあるレポートとする。（参考文献『0歳～6歳　心の育ちと対話する保育の本』を参照。）

第 2 課題の留意点

この課題では、子どもが主体的にあそぶことによって、どのような時に、どのような「言葉」の力が培われるのかを考察する。保育者は、子どもが主体的な遊びを展開できるように援助していく。保育者の「ごっこ遊び」「劇遊び」の捉え方、遊びの展開について、子どものあそびこむ姿を具体的に捉え、分析していく。また、「言葉」の領域から他の領域へと関連していくことにも着目し、自分の保育観を見つめ、子どもの育ちを見通した援助の在り方を考察していくレポートとする。

レポートの評価基準

・基礎知識を正確に説明できているか、自分の考えを的確かつ具体的に記述できているかを評価する。
・誤字脱字がなく、丁寧な字、わかりやすい文章で書かれていること。
・剽窃、盗用にならないよう、参考文献の使い方、引用のルールを守ること。
※文献の要約部分の末尾には（　）で筆者の名字、発行年を記し、本文の後に「参考文献」として出典（筆者名、文献の題名、発行年、出版社）を記すこと。引用部分は「　」でくくり、（1）（2）と番号で記し、本文の後に「引用文献」として番号ごとに出典（筆者名・文献の題名）と引用箇所のページ数を記すこと。
・複数の的確な引用、参考文献の明記は加点とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

言葉の機能（テキスト第 1 章 1 節）を理解し、領域「言葉」（テキスト第 2 章）と乳幼児期の発達特徴（テキスト第 3 章）について学習すること。その上で、保育環境の構成や、保育者の態度、実際の対応について学ぶ（テキスト第 4 章、第 5 章 1 節、第 6 章 1 節、コラム）。自分が実際に保育をすることを想定し、発達段階を踏まえて、具体的に保育者の態度や心構えを理解しておくこと。

設題には、知識を中心に問うものと、保育者の配慮や対応を問うものがある。いずれも、テキスト第 1 章～第 3 章の基礎知識を根拠として挙げ、具体的な配慮や環境設定を自分の考えとして述べるという形で答える。この点はレポートと同じである。

科目修了試験の評価基準

・テキストから得た基礎知識を基に、論旨の通った的確な記述ができていること。
・自分なりの考えを具体的に示せていること。
・誤字脱字がなく、わかりやすい文章が書けていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることが望ましい。

参考文献

・汐見稔幸　無藤隆　『＜平成30年施行＞保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　解説とポイント』　ミネルヴァ書房
・加藤繁美　『0 歳～ 6 歳　心の育ちと対話する保育の本』　学研教育出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20153	科目名[単位数／学習時間]	人権教育［2単位／90時間］			
テキスト	●神村早織　森実　『人権教育への招待 ダイバーシティの未来をひらく』　解放出版社					
ISBN	9784759221671	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	25112	
科目担当	澤井　未緩					

科目の目的

同和教育をはじめとする様々な人権教育の課題について具体的実践事例をもとに考察する。ここで培われた子ども理解の視点をもとに、学校におけるいじめや不登校、インクルーシブ教育などの人権課題や学級集団づくりに取り組み、学級での教師の指導と支援はどうあるべきかについて、具体的に考える力を養う。現代の人権教育課題の現状を理解するために、テキストはもちろんのこと、参考文献・各種資料などを読み解き、活用する必要がある。

到達目標

人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。そのため、以下を到達目標とする。

1. 学校における人権教育の意義を深く理解し、また、学校外の人権課題についても知識を獲得する。
2. 学校で起こりうる人権課題に対し、教育者としてどのような対応が可能かを考える。
3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。

学習テーマ

1	人権とはなにか①　世界人権宣言から考える
2	人権とはなにか②　子どもの権利から考える
3	日本の人権教育の4側面
4	障害者と人権～社会モデルを通して
5	在日外国人と人権～「外国人」とはだれか？
6	部落差別と人権～差別への抵抗から学ぶ
7	ジェンダー／セクシュアリティと人権～「ふつう」ってなに？
8	同和教育に学ぶ①　不登校の子どもへの理解と対応
9	同和教育に学ぶ②　子どもの荒れとその克服
10	同和教育に学ぶ③　学力保障・進路保障
11	同和教育に学ぶ④　集団づくり
12	同和教育に学ぶ⑤　子どもがつながる、子どもとつながる
13	人権学習を実践する
14	地域とともに創造する人権学習
15	生き方につながる人権学習を考える

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

①子どもの権利保障と、学校教育がどのようにかかわっているのか、「子どもの権利条約」の成立とその背景に触れながら説明しなさい。その時に、「子どもの権利条約」のなかで掲げられている4つの原則について、必ず言及すること。また、②あなたの体験を踏まえ、教師として大切にしたい視点・姿勢を具体的に述べなさい。

第2課題

①国際的な人権教育の歴史とその展開、そして日本の人権教育の展望と課題をテキストを熟読した上で、簡潔に要約しなさい。また、②あなたの体験を踏まえ、これからの人権教育にたずさわる教師として必要だと考えることを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

- ①②すべての設問に対応したレポートにすること。
- 子どもの権利について、テキストの趣旨を踏まえてまとめること。また、テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。
- 文献や資料の引用をした場合は、その出典先・引用ページやURLなどを明示すること。
- 引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。テキストであっても、引用部分はそのページを明示すること。
- 自分の考えや分析を必ず展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②すべての設問に対応したレポートにすること。
・テキストの趣旨を踏まえてまとめること。また、テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。
・文献や資料の引用については、その出典先・引用ページやURLなどを明示すること。テキストであっても、引用部分はそのページを明示すること。
・自分の考えや分析を必ず展開すること。

レポートの評価基準

・テキスト全編をよく読んだ上で、子どもをめぐる人権課題を整理し、論述できていること。
・自身の体験を踏まえ、教師として実践したい取組みを具体的に述べていること。
・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、子どもが抱える人権課題やインクルーシブな学級集団づくりについての理解を深めておくこと。
・特に、権利保障としての教育が確立されるまでの歴史、人権の視点に立った子どもの自尊感情やアイデンティティの育成、子ども理解の手立てなどを整理し、教師として大切な視点について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「 」や『 』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］』（平成20年 3 月） 文部科学省HP
・藤田早苗 『武器としての国際人権 日本の貧困・報道・差別』 集英社
・アジア・太平洋人権情報センター 『人権ってなんだろう？』 解放出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20154	科目名[単位数／学習時間]	道徳教育の指導法（初等）［2単位／90時間］			
テキスト	● 佐野安仁　荒木紀幸　『第4版　道徳教育の視点』　晃洋書房					
ISBN	9784771030459	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25113	
科目担当	島田　喜行					

科目の目的

・「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」の具体的内実を理解する。
・道徳教育の目的や原理、学校での道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、特質、指導方法、教材研究法、評価や学習指導案の作成法等について理解し、「特別の教科　道徳」の時間に適切な授業ができるようになる。

到達目標

・「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」について、よりよい人間としての生き方や社会の在り方との密接な繋がりにおいて理解し、自分の言葉で表現できるようになる。
・「道徳教育の目的や原理、学校での道徳教育の要となる道徳科の目標、内容、特質、指導方法、教材研究法、評価や学習指導案の作成法等」の具体的内容を実践との関連において理解し、効果的な指導力を身に付ける。

学習テーマ

1	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第1節「現代の道徳的状況」を学ぶ。現代社会の状況について道徳との関連で考察する。【キーワード：道徳をめぐる現代社会の状況、道徳的不一致】
2	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第2節「道徳とはなにか」を学ぶ。道徳の意義や原理を理解する。【キーワード：慣習的道徳と反省的道徳、道徳的行為と道徳的原理】
3	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第3節「現代道徳教育の課題」を学ぶ。現代の学校と社会における道徳教育の課題について考察する。【キーワード：道徳の可教性、道徳教育の課題】
4	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第1節「デュルケムの道徳教育論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、社会性の獲得及び教師の役割という観点から考察する。【キーワード：道徳性の発達、道徳性の三要素、教師の役割】
5	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第2節「ピアジェの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、子どもと遊びという観点から考察する。【キーワード：拘束の道徳と協同の道徳、動機論と結果論】
6	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第3節「コールバーグの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、認知発達的視点から考察する。【キーワード：認知発達的視点、モラルジレンマと道徳性の発達段階】【関連：テキスト第9章「コールバーグの道徳教育思想」も合わせて読むこと】
7	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第4節「ブルの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、他律と自律の関係という観点から考察する。【キーワード：道徳的判断、他律の機能】
8	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第5節「道徳教育の視点」を学ぶ。道徳性の発達と教育について、子どもの生活世界と能動性という観点から考察する。【キーワード：「生」のダイナミズム、生活世界、学習者のイニシアティブ】
9	テキスト第3章「道徳教育の方法」第1節「道徳教育と道徳授業」を学ぶ。学校教育全体を通じてなされる道徳教育と道徳科の学びについて総合的に理解する。【キーワード：学習の三形態、道徳教育に望まれる要件】
10	テキスト第3章「道徳教育の方法」第2節「ジレンマ資料を用いた道徳の授業実践」を学ぶ。ジレンマ資料を使った授業の作り方を理解する。【キーワード：モラルディスカッション、教師の発問】
11	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第1節「明治以降の『近代化』政策としての『修身』」を学ぶ。明治初期から第二次世界大戦の終わりまでの道徳教育の歴史を把握する。【キーワード：修身と道徳】
12	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第2節「戦後教育の理念と方法」を学ぶ。戦後の道徳教育の展開とその指導理念を理解する。【キーワード：社会科と道徳】
13	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第3節「『道徳』授業の現状と課題」を学ぶ。道徳の授業の課題とその解決への試行について考察する。【キーワード：道徳的判断の主体と事実認識】
14	テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科　道徳』」第1節「特設『道徳』から『特別の教科　道徳』」を学ぶ。「特別の教科　道徳」（道徳科）の意義と役割を理解する。【キーワード：道徳の教科化】
15	テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科　道徳』」第2節「小学校学習指導要領『特別の教科　道徳』」を学ぶ。道徳科の目標と内容、指導方法と評価について考察する。【キーワード：道徳性の育成のための授業工夫、一面的から多面的・多角的へ、考える道徳・議論する道徳、自我関与が中心の学習・問題解決的な学習・体験的な学習】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

テキスト第1章を読み、キーワードを引用しつつ、「道徳教育の課題」について論じなさい。さらに、第5章を読み、キーワードを引用しつつ、小学校「特別の教科　道徳」の目標・内容・指導方法について論じなさい。

第2課題

テキスト第2章を読み、キーワードを引用しつつ、ピアジェの道徳性発達理論について論じなさい。さらに、第3章と第4章を読み、キーワードを引用しつつ、子どものイニシアティブ（能動性）を重視する道徳科の授業作り（考え、議論する道徳科の授業作り）で求められる教師の多様な発問について論じなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキストの第 1 章と第 5 章をまとめて読んでから課題に答えること。各章からキーワード、キーセンテンスを必ず引用しつつ論じること。「道徳教育の課題」については、道徳的行為、道徳的原理や道徳の可教性といった道徳教育に関する基本的な知識を押さえたうえで、現代社会における子ども、家庭、学校の状況が子どもの道徳性の育成に及ぼす影響を念頭に置きながら論じるとよい。また、小学校「特別の教科　道徳」の目標・内容・指導方法については、テキストの第 5 章にくわえ、参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編＜平成29年 7 月＞』の第 2 、 3 、 4 章も読んだうえで論じるとよい。

第 2 課題の留意点

テキストの第 2 章、第 3 章と第 4 章をまとめて読んでから課題に答えること。各章からキーワード、キーセンテンスを必ず引用しつつ論じること。ピアジェの理論については、その要点を意識するとよい。また、子どものイニシアティブ（能動性）を重視する道徳科の授業（考え、議論する道徳科の授業）で求められる教師の多様な発問については、テキストの第 3 章と第 4 章の該当箇所をしっかりと読み、その大事な部分について自分なりの言葉でまとめることを意識するとよい。さらに、自分が受けてきた道徳の授業についての意見もいれながら論述することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
・文字数は、注と参考文献一覧を除く本文1,800～2,200字とする。
・評価基準は次の 4 点である。

1 . テキストを精読して、関連文献（とくに『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』）等を参照しつつ課題について適切に論述している。
2 . テキストの十分な内容理解に基づき、一文一文について主語ー述語の関係に留意しつつ、序論ー本論ー結論という学術的レポートの基本形式や段落構成（適切な改行）といった全体の整合性にも配慮してまとめている。
3 . 関連文献やホームページの記述やデータはもちろん、テキストから引用する場合も、引用箇所であることが明確にわかるように「　」でくくり、注番号を打ち、出典（著者名、書名、出版社名、出版年、ページ数）を明記している（テキストや関連資料等の文章をまとめる場合は、参照注で当該箇所を明示してある）。
4 . 文字の書き順や、とめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませることを意識して丁寧に清書している。

【注意】
・評価基準 3 .について、テキスト等を引用・参照しているにもかかわらず、適切な仕方で、必要な数の注が付けられていないレポートは、内容の評価をせずに不合格とし、返送するので作成の際に十分注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの第 1 章、第 2 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章についての理解を問うので、これらの章について熟読しておくことが望まれる。科目修了試験を受ける前に、「学習テーマ」欄に記載されているキーワード（概念や論点）に関して、他者にも理解できるように説明できるかどうか、試してみることを勧めたい。ある事柄について、自分の言葉で、他者にも分かるような説明ができるようになった時、私たちは、その事柄を本当に分かったと言える。本科目の試験は、まさにこのような意味で「本当に分かっているか」を問うものである。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を正確に理解し、テキストの第 1 章、第 2 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章の内容とキーワード（概念）の意味とを適切に把握して、できるだけ自分の言葉で論述できているかどうかを中心に評価する。それゆえ、テキストの内容を踏まえずに、主観的な経験や個人的な思いだけを記入しても評価しない。解答する際は、必ずテキストのキーワード（概念）を適切に使用すること。さらに、設題にそって、評価者が理解しやすい文章で論理的に記述できていることと、少なくとも解答用紙の表面がほぼすべて埋まっていること、または、字数にして800字程度が書かれていることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編＜平成29年 7 月＞』
あかつき教育図書又は文部科学省HP
・牧崎幸夫　広岡義之　杉中康平　『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる　2 』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20155	科目名［単位数／学習時間］	特別活動の指導法（初等）［2単位／90時間］			
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』 東京書籍					
ISBN	9784487287093	本体価格（円）（2025年1月現在）	278	生協テキストNo.	25114	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	長谷川 重和					
実務経験のある教員による科目	公立小学校長、教育委員会指導主事					

科目の目的

特別活動は、学校における様々な構成の集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動である。本科目では、特別活動における意義や内容等を理解する。さらに、特別活動は不登校やいじめ等の問題行動の予防的な役割を果たしていることから、人間関係の形成や学級経営の大切さについて学ぶ。小学校教員の実務経験を活かして学級経営などの実践的な指導を展開する。

到達目標

・学習指導要領における特別活動の意義、目標及び内容を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点を持ち特別活動の特質をふまえた指導ができる。
・発達段階における指導の違いや各教科、道徳等との関連を理解し、地域や関係機関との連携を図りながら、教職員同士の連携を重要視する。「チームとしての学校」の視点を持ち、組織的な対応や指導に必要な知識や素養を身につける。
・望ましい人間関係を築くことで不登校やいじめなどの問題に対し予防的な役割を果たすことを理解する。
・特別活動の重要性を認識するとともに、どのような方法原理に依拠するのかを理解する。
・『小学校学習指導要領解説 特別活動編』を参照することで、さらに学習を深める。

学習テーマ

1	特別活動の目標について【学習のポイント：特別活動の思い出をふまえ、意義と目的を理解する。＜テキスト第2章＞】
2	学級活動について【学習のポイント：学級活動の内容はどのようなものか、特色をふまえ理解する。＜テキスト第3章＞】
3	児童会活動と生徒会活動について【学習のポイント：児童会活動と生徒会活動の相違点を理解する。＜テキスト第3章＞】
4	クラブ活動について【学習のポイント：クラブ活動の変遷をふまえ、その育成の在り方を理解する。＜テキスト第3章＞】
5	学校行事について①【学習のポイント：学校行事の意義と各行事の特徴と相違点を理解する。＜テキスト第3章＞】
6	学校行事について②【学習のポイント：学校行事の問題点と学校における工夫や実施計画を知る。＜テキスト第3章＞】
7	教育諸問題に応える特別活動について【学習のポイント：特別活動の機能から諸問題を理解する。＜テキスト第4章＞】
8	特別活動における主体的・対話的で深い学びについて【学習のポイント：学習過程で質の高い学びを追求する。＜テキスト第2章・4章＞】
9	特別活動といじめの未然防止について【学習のポイント：生徒指導と特活の集団場面の指導を考える。＜テキスト第4章＞】
10	特別活動と教科指導との関連について【学習のポイント：特別活動と教科指導との相違点を理解する。＜テキスト第2章＞】
11	学級経営の充実と特別活動について【学習のポイント：児童の自発的・自治的な活動を中心とした学級経営を考える。＜テキスト第2章＞】
12	ガイダンスとカウンセリングの趣旨について【学習のポイント：児童の発達を支援する場面で留意することを学ぶ。＜テキスト第4章＞】
13	学級活動の指導計画作成について【学習のポイント：学級活動の目標を意識した指導計画を作成する。＜テキスト第4章＞】
14	特別活動全体計画などの年間指導計画作成について【学習のポイント：学校の創意工夫を生かしながら全体計画を作る。＜テキスト第4章＞】
15	特別活動における評価について【学習のポイント：児童一人一人のよさや可能性を認める評価の在り方を学ぶ。＜テキスト第5章＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

学習指導要領の「目標」で「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という3つの視点が示された。それらは特別活動で育てる資質・能力の重要な視点である。それぞれについて意図するところを説明しなさい。そして、それぞれの視点を意識した各活動・学校行事の場面を取り上げ、それがどのように資質や能力を育てることに繋がるのかを述べなさい。

第2課題

学級経営の充実を図るには、学習や生活を基盤として教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てることが必要である。よりよい人間関係の形成は、いじめの未然防止につながりガイダンスとカウンセリングの趣旨を具現化する。そこで、よりよい人間関係を育てるために、特別活動の特質を生かした実践を通してどのように学級経営の充実を図るかについて述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

特別活動の目標に関連する課題である。テキストの第 2 章「特別活動の目標」を熟読する。特別活動における 3 つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」が、特別活動で育てる資質・能力であると理解する。特別活動の各活動・学校行事などの場面を想定しながら、活動場面を整理する。参考になるのは、第 3 章の 1 節から 4 節の各活動・学校行事の目標や内容である。特に日常場面（学校給食や清掃など）を取り上げて具体的に示している箇所を参照する。第 4 章第 1 節では、指導計画の作成や学校の創意工夫などが掲載されており具体例の参考になる。さらに、特別活動は「なすことによって学ぶ」方法原理としており、各学校では特色ある取り組みが展開している。そこで、自分自身が経験した特別活動を具体例として述べることも意味あることと考えている。

第 2 課題の留意点

特別活動を基盤とした充実した学級づくりは、子どもたちの活動が主体的・対話的で生き生きと展開し、結果として自発的、自治的な学級になると考えられている。特別活動における「主体的・対話的で深い学び」や「学級経営の充実」については、テキストの第 2 章の第 1 節、第 2 節を熟読する。「ガイダンスとカウンセリングの趣旨」は第 4 章を参照する。学級活動の内容（生活づくりへの参画やよりよい人間関係の形成など）については、テキスト第 3 章第 1 節で具体的に示されている。中でも「よりよい人間関係の形成」はポイントである。最後に、第 4 章第 1 節「学級経営の充実と生徒指導との関連」の“いじめ未然防止”の記述や 2 節「児童の自発的、自治的な活動の効果的な展開」については、児童の日常生活を想起しながら熟読してほしい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考えをいかに的確に記述できているかについて評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストを精読のうえで参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
②自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、丁寧に作成している。
④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポート作成のルールにしたがっている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「特別活動とは何か」など教育的意義に関しての問題。学級活動、児童会活動、学校行事それぞれの活動内容から、特徴的な課題についての出題である。まず、テキスト第 1 章の特別活動改訂の趣旨及び要点に目を通し、特別活動全体の特質や教育的意義を理解することである。第 2 章では「特別活動の三つの視点」や「主体的・対話的で深い学び」について整理しておくこと。第 3 章では「学級活動（1）（2）（3）」の話し合い活動や学習課程の違いについて把握し、生活づくりへの参画を促す手立てを考えておく。また、特別活動の特性は、「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」など異年齢で構成される集団活動の中にあらわれている。また、いじめ未然防止等に繋がるような望ましい集団づくりについては、第 4 章第 1 節を熟読することが望ましい。その中でも「学級経営の充実と生徒指導との関連」が参考になる。学級経営の視点から実際の活動をイメージし、意見を述べたり、創意工夫した活動を提案したりすることも大切である。総じて、特別活動の教育的意義や必要性を理解している具体的な答案を期待している。

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

・広岡義之 『新しい特別活動 理論と実践』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20156	科目名［単位数／学習時間］	保育内容（総論）［2単位／90時間］
テキスト	●森眞理　猪田裕子　『子どもの権利との対話から学ぶ　保育内容総論』　北大路書房		
ISBN	9784762831904	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200
生協テキストNo.	25115		
科目担当	猪田　裕子		
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園教諭		

科目の目的

乳幼児教育を総合的な視点で理解し、遊びを通じて学びに向かう子どもの力を捉える。そのために必要な環境構成の知識や技能を習得することを目的とする。

到達目標

・乳幼児期における教育（遊びの中から学びに向かう力を捉える）の基本を理解する。
・子ども理解に基づく指導計画の作成、展開、評価の考え方を理解する。
・乳幼児の興味・関心や心身の発達等に応じた具体的な指導のあり方を理解する。

学習テーマ

1	子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】
2	子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】
3	子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】
4	子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】
5	環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】
6	子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】
7	乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】
8	幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】
9	子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】
10	保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】
11	保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】
12	保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】
13	世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】
14	子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの最善の利益を保障するために、保育者が配慮すべき具体的なポイントを挙げ、それについて考察しなさい。

第2課題

子どもの発達段階に応じた遊びの具体例を2つ挙げ、それらがどのように学びにつながるかを説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの権利に基づく保育内容を考察する際には、テキストの内容を正確に理解し、具体例を交えて説明することが重要である。特に「子どもの最善の利益」という基本概念を中心に、自分の視点を明確に示す必要がある。保育者がどのような配慮を行うべきかを具体的に述べ、論理的に展開することが求められる。自身の考えを簡潔に整理し、わかりやすく表現することが望ましい。

第2課題の留意点

「遊びこそ学び」という考え方を正しく理解し、遊びと学びの関係性を具体的に述べることが求められる。子どもの発達段階に応じた具体例を挙げ、その遊びがどのように成長や学びに結びつくのかを論理的に説明する必要がある。保育者の視点を意識し、遊びを支える保育環境の構成についても言及すると良い。テキストの内容を活用しながら、自分の考えを簡潔かつ明確に表現することが重要である。

レポートの評価基準

・テキストの内容の理解と整理：テキストを精読し、その内容を的確に整理していること。また、参考文献などの情報を活用し、論理的に自らの考えを述べていること。
・課題の趣旨の理解と論旨の展開：課題の趣旨を正確に把握し、論旨が一貫して展開されていること。論理的な構成で、読み手に伝わりやすい内容となっていること。
・形式および表現の正確さ：レポートの形式（文字数、構成、書式など）を遵守していること。文法や文章表現に誤りがなく、誤字脱字がないこと。
・参考文献の適切な使用と明記：使用した参考文献が適切であり、レポート内でその内容を正確に活用していること。また、すべての参考文献を正しい形式で明記していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・問題文を正確に把握し、求められている内容を的確に答え、具体例や根拠を盛り込み、論理的に述べることが重要である。
・テキストを活用しつつ、自分の考えをわかりやすく述べ、引用がある場合は適切に説明を加えることが必要である。
・形式と文章表現に配慮し、誤字脱字を避け、簡潔で読みやすい構成を心がけることが求められる。
・具体例と実践的な視点を重視し、子どもの発達や保育現場に基づいた事例を用いて説得力のある回答を作成することが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題を正しく理解し、明確かつ的確な答えが書かれており、設題の趣旨を的確に捉えているかを評価する。
・答案が論理的に構成され、一貫性が保たれており、序論・本論・結論が明確で筋道が通っているかを重視する。
・テキスト内容を踏まえた具体的な事例や考察が含まれており、表面的な説明に留まらず深い理解が伝わる内容であるかを評価する。
・文法や言葉遣いが適切で、誤字脱字がなく、表現が明確で読みやすい文章であるかを確認する。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20157	科目名［単位数／学習時間］	子ども家庭支援の心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●青木紀久代 『シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』 みらい					
ISBN	9784860154820	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25116	
科目担当	権藤 眞織					

科目の目的

・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
・子どもの精神保健とその課題について理解する。

到達目標

・発達に関する心理学的知見を理解し、説明できる。
・家族や家庭の機能を理解し、説明できる。
・子育て家庭の特徴と社会との関連について説明できる。
・子どもの精神保健について説明できる。

学習テーマ

1	子どもと家庭の支援とは何か
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴
3	思春期から青年期の発達の特徴
4	成人期から高齢期の発達の特徴
5	家族システムと家族発達
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
7	子育て環境の社会状況的変化
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス
9	多様な子育て家庭への支援
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援
11	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康
12	子どもの心と健康
13	障害のある子どもの理解と対応
14	災害と子ども
15	子どもと家庭を支援するために

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「生涯発達」について解説し、乳幼児期・学童期・青年期・成人期および老年期における発達特徴を概観し、各時期を心身共に健康・健全に歩んでいくために大切な観点や援助者としての留意点や配慮点について解説しなさい。
最後に、課題に取り組んで「生涯発達」を概観した上で、改めて「乳幼児期」の重要性について、私見を述べなさい。

第2課題

「家庭を支援する」とはどういうことか、解説しなさい。支援を必要とする家庭とは、どのような家庭があり、それぞれにどんな支援を必要としているのかも具体的に説明しなさい。
最後に、課題に取り組んでみて、「子育て家庭」を支援する際に、最も重視したり、配慮すべきだと思う事は何かを述べ、その理由も説明しなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

第1課題、第2課題とも、必ずしも論述のみの形式で作成しなくてもよい。調べたことを表や図解でまとめたものを記載してもかまわない。なお、自筆で図表を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を活用し、作表・図解する。論述部分はレポートの表面、図表は裏面（白紙面）を使用し、裏面（白紙面）に記載する場合、その用紙の原稿用紙面には何も記載しないこと。また、何を表した図表なのか、わかるように作成する。（図表のタイトル、キャプション、出典を入れる。図表の書き方については、さまざまなテキストや専門書、インターネットで検索。）課題に取り組み、調べた情報を整理する上で、図表を用いてもよいということであって、必ず図表を用いなければならないわけではない。【※すべてあわせて4～5枚程度までとする。】

第 1 課題の留意点

発達については、テキストの第 1 章から 4 章までを精読し、また、テキストだけでは不十分なので、他の文献にもあたって学びを深める。発達の各ステージにおいて、その世代ならではの特徴を理解し、人の発達のダイナミックな流れを掴み、どのような暮らし方や援助がより健やかで幸せな人生のサポートになるか考察してほしい。同時に、あなた自身の今までの発達の歴史を振り返り、また、これからの発達や変化を展望し、あなた自身の人生に対しても考察してみよう。これから先の人生については、あなたの周りの年上の様々な世代の方々と交流したり話を聴いたりして、この先どのような変化が起こりうるか予測しつつ、展望してみるのも「生涯発達」の理解に役立つ。

テキストに示されている発達心理学的な知見とあなた自身の成長・発達を照らし合わせてみることで、より具体的に「人の発達」について学び、健やかに発達するための「支援」についても実践的にイメージできるのではないか。テキストを読んでまとめるだけでなく、実体験や自分自身の生活感覚ともすり合わせながら、学んでほしい。

レポートの最後に、生涯発達を見据えた上で、乳幼児期の重要性について私見を述べること。

第 2 課題の留意点

「家庭を支援する」とはどういうことか。「家族」「家庭」の支援を行うためには何が必要なのだろうか。テキストでは、第 8 ・ 9 ・10・11章をよく読み、家族や家庭、ファミリーメンバーについて理解を深め、テキストだけでなく、他の資料や文献、動画なども検索して、イメージを膨らませながら学んでほしい。

レポートの最後に、「子育て中の家庭」に対する支援について、私見を述べること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨に沿い、専門用語の定義、解説がなされている。
・複数の文献、資料を引用している。(2 件から 3 、 4 件。最低、テキスト以外に 2 件。)
【※レポートの文末に、引用文献のリストをつけておくこと。テキスト以外の引用文献が、 2 件未満であれば不合格となる。】
・専門用語を正しく理解して、必要に応じて専門用語を用いて論述している。
・日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。
・課題に対しての私見が書かれている。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で、心理学および保育の専門的な観点やキーワードを用いて論理的に簡潔に解答すること。専門用語を用いる場合は、定義と日常例を解説する。自分が学習した心理学および保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨に沿って、論理的に根拠を述べながら論述されている。
・専門用語を正しく理解して、定義、解説がなされている。
・必要に応じて、日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。

参考文献

・文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館又は文部科学省HP
・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館
・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
・永田豊志 『すべての勉強は、「図」！でうまくいく 今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』 三笠書房
・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌)』 ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20159	科目名［単位数／学習時間］	乳児保育論［2単位／90時間］			
テキスト	●乳児保育研究会　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房					
ISBN	9784894642539	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25117	
科目担当	大江　まゆ子					

科目の目的

乳児保育の基本、保育の実際について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。

・乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
・保育の計画の重要性と乳児保育の実際を学ぶ。
・乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
・保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

・乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
・乳児保育における保育の計画の作成について、特に月齢差、個人差が著しい乳児期は個別に作成し、0歳・1歳・2歳児ともに年間を通して発達の過程を見通す重要性についての理解を深める。また、個々の子どもの姿や家庭状況をよく把握する重要性を理解する。
・乳児保育の歩みや現状、保育制度についても理解を深める。
・保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。
・在園児の保護者支援とともに、地域の子育ての専門機関として、在宅の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育における健康及び安全管理【学習のポイント：月齢や発達による健康及び安全管理における保育士の配慮事項を理解する。＜テキストpp.40-61＞】
3	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方、遊びを通した乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
4	0歳児期の遊びと援助【学習のポイント：0歳児の月齢や発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.62-63、pp.65-68、pp.69-71、pp.73-75＞】
5	1歳児期の遊びと援助【学習のポイント：1歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.63-64、p.68、p.72、pp.74-76＞】
6	2歳児期の遊びと援助【学習のポイント：2～3歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.64-65、p.69、pp.76-77＞】
7	乳児保育における遊びと環境【学習のポイント：発達に応じた遊び環境とはどのようなものか、またあそび文化について理解する。＜テキストpp.77-87＞】
8	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
9	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：3歳児神話はどのようなものか、またボウルビー学説から学ぶべき点について理解する。＜テキストpp.108-111＞】
10	子どもの発達と乳児保育【学習のポイント：子どもの発達によい影響を与える保育条件とはどのようなものか、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.111-115＞】
11	親としての発達に関わる要因【学習のポイント：育児不安と親の就労環境、赤ちゃんの気質などの親としての発達に関わる要因について理解する。＜テキストpp.116-121＞】
12	親子の豊かな育ちに必要な保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
13	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
14	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
15	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

乳児期からの家庭外の保育経験が子どもの発達を支えるものとなるために求められる保育の質や保育士の援助とはどのようなものであるか、述べなさい。

第2課題

遊び場面や基本的生活場面における乳児の主体性を引き出す養護と教育が一体となった保育士の援助とはどのようなものか。具体的な場面を想定して述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

乳児保育の重要な論点に「3 歳児神話」がある。すべての子どもが健やかに育つことを保障する乳児保育を行うために、求められる保育の質や保育士の専門性について考察することが必要である。テキストでは特に第 5 章を読み込み、子どもと保護者の豊かな育ちを支える保育士の役割を理解してレポート作成することが重要である。テキストや参考文献以外にも 3 歳児神話に関連する文献を読み、すべての子どもの育ちを保障する保育の観点から考えることが重要である。

第 2 課題の留意点

テキストや参考文献の『保育所保育指針』、他の参考文献を読み、保育所保育の特性、子どもの発達を十分に理解し、乳児保育の基本に立って考えることが必要である。テキストでは特に第 2 章、第 3 章を読み込み、子どもの生命の保持と情緒の安定を保障しつつも、月齢や発達に応じた遊び環境の工夫や基本的生活習慣が身に付けられるよう子ども自身の意欲や自発性を引き出すような保育士の援助を考察し、具体的援助場面を想定してレポート作成することが重要である。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
・課題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
・次の 3 点を評価基準とする。
　①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
　②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
　③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面が埋まる程度＜1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・ChaCha Children & Co.　『見る・考える・創りだす　乳児保育　Ⅰ・Ⅱ』　萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20160	科目名［単位数／学習時間］	社会的養護Ⅰ［2単位／90時間］		
テキスト	●吉田眞理 『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ 第2版』 萌文書林				
ISBN	9784893474193	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25118
テキスト	●『令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社				
ISBN	9784805403303	本体価格（円）（2025年1月現在）	800	生協テキストNo.	25097
科目担当	藤原 伸夫				
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

子どもを取り巻く社会的状況や子どもの育ちをふまえて、社会的養護の意義と制度、現行の制度や実施体系を把握し、子どもの権利に基づいた社会的養護の基本原理について理解する。また現在、社会的養護が抱えている課題についても学習する。児童福祉法（平成28年6月3日公布）が改正され、児童の福祉を保障するための原理が明確になった。社会的養護が児童の人権擁護の砦であることを理解することが究極の目的である。元児童指導員などの実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
・社会的養護の現状と課題について理解する。

学習テーマ

1	現代社会における社会的養護の意義と変遷【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第1講】
2	子どもの人権擁護と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第2講】
3	家庭の機能と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第3講】
4	社会的養護の基本原則Ⅰ 養育＜日常生活支援＞【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第4講】
5	社会的養護の基本原則Ⅱ 保護＜自己実現に向けた支援＞【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第5講】
6	社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもであることへの回復＜治療的支援＞【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第6講】
7	社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得＜自立支援＞【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第7講】
8	社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成＜生と性の倫理＞【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第8講】
9	社会的養護の制度と実施体系【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第9講】
10	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ 乳児院と児童養護施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第10講】
11	施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ 障害児の入所施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第11講】
12	施設養護の対象･形態･専門職Ⅲ 児童自立支援施設と児童心理治療施設【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第12講】
13	家庭養護の特徴・対象・形態 里親とファミリーホーム【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第13講】
14	社会的養護の現状と課題【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』第14講】
15	社会的養護と地域福祉【テキスト『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』p.225以降】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

児童の権利に関する条約を説明したうえで、わが国の批准後、国連子どもの権利委員会からどのような総括所見を受けているか説明しなさい。

第2課題

社会的養護の一つである家庭養護を説明したうえで、わが国の家庭養護の現状と課題について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

2016年児童福祉法の改正では、わが国における児童の人権擁護を明確にした。条約の説明1,000字程度、国連子どもの権利委員会の所見の説明1,000字程度でまとめる。テキスト『社会的養護Ⅰ』の第9講も参照し、第2講を熟読すること。なおテキストを引用するだけでなく、こども家庭庁創設等、わが国の最近の動向にもふれて説明すること。

第2課題の留意点

特にテキスト『社会的養護Ⅰ』の第13講を熟読すること。家庭養護の説明1,000字程度、家庭養護の現状と課題の説明1,000字程度でまとめる。なおテキストを引用するだけでなく、わが国の里親制度の啓発の取り組み等についてもふれること。

レポートの評価基準

・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「引用・参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『社会的養護Ⅰ』を熟読し、十分理解を深めておくことが大切である。特に、子どもの人権擁護と社会的養護（第2講）、社会的養護の基本原則である保護（第5講）、社会的養護の制度と実施体系（第9講）、施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ・Ⅲ（第10講・第12講）、家庭養護の特徴・対象・形態（第13講）、社会的養護の現状と課題（第14講）等について理解を深めておくことが必要である。

科目修了試験の評価基準

・「児童の権利に関する条約」の意義、特に「子どもの最善の利益を護る」「意見表明権」が社会的養護の基盤にあることを理解することが重要である。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。
・現代社会における社会的養護の意義と現状と課題について理解できているか。
・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できているか。
・社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、さらには関係する専門職等について理解できているか。

参考文献

・伊藤嘉余子　福田公教『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　5　社会的養護』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20162	科目名［単位数／学習時間］	社会的養護Ⅱ［1単位／45時間］

テキスト	●吉田眞理　髙橋一弘　村田紋子　『児童の福祉を支える　＜演習＞　社会的養護Ⅱ　第2版』　萌文書林					
ISBN	9784893474209	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	25119	
科目担当	波来谷　徹生					
実務経験のある教員による科目	児童養護施設施設長					

科目の目的

ヤングケアラーの問題が多く取り上げられているが、本来自分たちが出来るはずの通学等もできなくなっている。その状況の中でも特に子育て世帯が貧困で孤立し虐待が発生していると考えられる。

本科目では「子どもの最善の利益」とは何かを考え、児童養護施設を利用する家庭の状況と課題を例示し、施設が行っている児童・親への援助方法を検証する。そして、国が里親委託を推進している理由と施設の小規模化により現場が抱える問題点を考え、援助する大人に求められる資質と社会的養護のあり方を考えていく。

到達目標

・「子どもの最善の利益」とは何か「権利擁護と意見表明の受け止め方」について考えていく。
・家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事･学業や進学の機会を奪われている子どもたちがいるという現状を知り、どういった社会的支援が有り、どういった支援がなされているかを学習する。そして、施設・小規模施設・里親養育の現状を比較して、それぞれのよい所・不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守るための「社会的支援」はどうあるべきか考える。

学習テーマ

1	「子どもの最善の利益」とは何かを考える。
2	保育士等の職務における倫理及び責務を理解する。
3	児童福祉の体系と児童養護施設の概要を学習する。
4	子どもの権利擁護と意見表明の受け止め方を検証する。
5	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学習する。
6	家庭調整する上での子どもへの援助方法と自立に向けての援助方法を学ぶ。
7	国が里親委託を推進する理由とその課題について検証する。
8	社会的養護の課題と展望について自分の考えをまとめる。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「子どもの最善の利益」とは何か、社会的養護の施設などで働く職員・里親が子育てでどういう支援をして、どのように自立に繋げているかを述べなさい。

第1課題の留意点

「子どもの最善の利益」とは何かを考えていく。家族から虐待を受けた子どもたち、貧困で食事･学業や進学の機会を奪われている子どもたちの現状を認識し、社会的養護の施設等はどういった支援をしているか。そして、家庭と施設･小規模施設･里親のそれぞれの良い所、不都合な所を検証し、子どもの最善の利益が守られる「社会的支援」について考える。

レポートの評価基準

「子どもの最善の利益」とは何か、子どもにとって特にどういう支援が必要かを自分の考えを整理して記述する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト学習やスクーリング受講で得た知識と現在の社会情勢を見ながら、「子どもの最善の利益」を守るために何ができるかを自分自身の考えを記述する。
・社会的養護の施設で働く職員・里親はどういう支援をしているか、そして職員・里親に求められる資質を記述する。

科目修了試験の評価基準

「子どもの最善の利益」と「子どもにとって大切なこと」について、どの程度理解し自分自身の意見を記述しているか。

参考文献

・児童養護研究会　『養護施設と子どもたち』　朱鷺書房
・土井高徳　『神様からの贈り物　里親土井ホームの子どもたち』　福村出版
・小田兼三　石井勲　『養護内容の理論と実際』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20163	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭福祉Ⅰ ［2単位／90時間］			
テキスト	●倉石哲也　伊藤嘉余子　澁谷昌史 『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　1　子ども家庭福祉　第2版』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623092932	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25120	
科目担当	藤原　伸夫					
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長					

科目の目的

現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境をもしっかりと捉えることが必要である。さらに子どもやその家族にかかわる諸問題は、様々な事象が絡み合って生じていることをこの学習を通して理解してほしい。

本科目担当者の福祉専門職としての経験などをふまえながら、子どもを中心として家族・地域・社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識を習得することが目的である。

到達目標

・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について理解する。
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

学習テーマ

1	なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか<テキスト レッスン1>【学習のポイント:子どもの幸せを守る社会について理解する。】
2	子ども家庭福祉とは何か<テキスト レッスン2>【学習のポイント：子ども家庭福祉と基本的人権について理解する。】
3	現代社会と子ども家庭福祉ニーズ<テキスト レッスン3>【学習のポイント：少子化と子育てにかかる負担感について理解する。】
4	保育と子ども家庭福祉<テキスト レッスン4>【学習のポイント：子ども家庭福祉が求める保育士について理解する。】
5	子ども家庭福祉の歴史①<テキスト レッスン5>【学習のポイント：古代～大正の歴史について理解する。】
6	子ども家庭福祉の歴史②<テキスト レッスン6>【学習のポイント：昭和以降の歴史について理解する。】
7	子ども家庭福祉に関わる国の施策<テキスト レッスン7>【学習のポイント：児童福祉関連法の制定から現在に至るまでの改正点等を理解する。】
8	近年の子ども家庭福祉の課題<テキスト レッスン8>【学習のポイント:子ども･子育て支援新制度について理解する。】
9	子ども家庭福祉の制度と法体系<テキスト レッスン9>【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える法律について理解する。】
10	子ども家庭福祉を実施する行政機関<テキスト レッスン10>【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える行政機関の業務等について理解する。】
11	児童福祉施設等<テキスト レッスン11>【学習のポイント：社会的養護の施設、障害児施設等について理解する。】
12	子ども家庭福祉の費用<テキスト レッスン12>【学習のポイント：施設整備の費用や施設の運営費用、また利用者負担について理解する。】
13	子ども家庭福祉の専門職<テキスト レッスン13>【学習のポイント：子ども家庭福祉の関係機関と関係施設の専門職について理解する。】
14	子ども家庭福祉のネットワーク<テキスト レッスン14>【学習のポイント：子ども虐待の対応や障害のある子ども等への支援ネットワークについて理解する。】
15	子ども家庭福祉と権利擁護<テキスト レッスン15>【学習のポイント：子どもの権利擁護に関する取り組みについて理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

わが国の子どもの権利擁護に関する取り組みについて説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉を実施する行政機関が各種あるが、その業務と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章と第3章レッスン15の子どもの権利擁護だけでなく、テキスト以外の文献も参考とすること。特に「児童の権利に関する条約」の理念を反映させてまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第3章レッスン10を精読すること。特に児童相談所と福祉事務所の業務をよく理解してまとめること。テキストをまとめるだけでなく、各機関の課題等についてはテキスト以外の文献も参考にすること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は、テキストであっても必ずその引用先等を示しておくこと。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるが、特に課題で取り上げられたこと、児童の権利に関する条約、児童福祉六法等を理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ理解しておくこと。）
・子どもの権利擁護について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・現代社会における子ども家庭福祉の意義をよく理解して作成されていること。
・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・設題に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

・厚生労働省HP
・こども家庭庁HP
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・社会福祉法人大阪ボランティア協会　『福祉小六法（最新版）』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20164	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭支援論［2単位／90時間］			
テキスト	●石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』　みらい					
ISBN	9784860154882	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	25121	
科目担当	北野　富美子					
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長					

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育者の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か
2	子どもと家庭を取り巻く環境
3	子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子ども家庭支援が必要とされる背景
5	保育者の専門性を活かした支援
6	子育て家庭を支える法・制度
7	子育て家庭を支える社会資源
8	保育者に求められる基本的態度
9	相談支援場面で必要な技術
10	保育場面における具体的な子育て支援の方法
11	地域の子育て家庭への支援
12	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
13	発達障害児等・子どもの貧困の理解と家庭への支援
14	要保護児童等とその家庭に対する施策
15	子ども家庭支援に関する現状と課題

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育者は子どもや保護者にかかわる際、家庭の状況を把握することが必要である。子どもの家庭の状況に応じた支援を行ううえで、保育者に求められる姿勢について述べなさい。

第2課題

保育者がソーシャルワーカーとしての役割を求められる背景や理由・根拠を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第7章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。

第2課題の留意点

テキスト終章、参考文献を精読し、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめること。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20165	科目名[単位数／学習時間]	子どもの保健［2単位／90時間］			
テキスト	●大森正英 『図解 新・子どもの保健』 みらい					
ISBN	9784860155636	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	25122	
科目担当	小島 光華					

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患の特徴と予防に必要な知識を学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの健康と保健活動の意義を理解する。②子どもの健康に関する現状と課題を理解する。③子どもの発育発達と保健について理解する。④子どもの心身の健康状態の把握と対応について理解する。⑤子どもの疾病と対応について理解する。

学習テーマ

1	健康の定義と子どもの健康
2	子どもに係る保健活動の目的と内容
3	子どもの健康指標
4	母子保健対策にみる現状と課題① 母子保健活動と母子保健対策
5	母子保健対策にみる現状と課題② 地域保健活動と子どもの虐待防止
6	子どもを取り巻く環境
7	子どもの身体の発育と保健
8	子どもの心身の発達と保健① 運動機能と精神機能の発達
9	子どもの心身の発達と保健② 感覚器と生理機能の発達
10	子どもの健康状態の把握と評価
11	健康診断の意義と概要
12	子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴
13	子どもに多くみられる感染症の特徴と対応
14	アレルギー疾患の理解と対応
15	乳幼児期の基本的生活習慣形成の意義と健康問題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

子どもの成長・発達及び評価方法についてまとめ、発育を評価するうえでのポイントを述べなさい。

第2課題

子どもが病気にかかりやすい理由を述べ、保育施設における感染予防について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの発育と発達の特徴を理解した上で、次の視点を含めて説明する。
・発達の6原則
・スキャモンの発育曲線の特徴
・評価方法と判定基準

第2課題の留意点

子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴を説明する。感染予防については感染源、感染経路、宿主への対策を述べる。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。文字数は1,200字以上1,500字以下とすること。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、特に子どもの成長・発達の特徴や疾患に対する理解（種類、原因、対応など）を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること 。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
・指定文字数の 9 割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

・小野次朗　榊原洋一　『幼児と健康　日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』　ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20168	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭福祉Ⅱ［2単位／90時間］			
テキスト	●倉石哲也　伊藤嘉余子　澁谷昌史『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　1　子ども家庭福祉　第2版』ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623092932	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25120	
科目担当	藤原　伸夫					
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長					

科目の目的

「子ども家庭福祉Ⅰ」の学びをふまえて、より具体的な援助活動について理解を深める。子ども家庭福祉領域の行政や民間など関係機関の専門職に期待される役割や機能及びその連携のあり方、多様な状況の中にある子どもやその家族を支える相談援助活動について習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子ども家庭福祉で活躍する専門職の機能や役割について理解する。
・子ども家庭福祉における施策及びサービス等を理解する。
・子ども家庭福祉における多様な援助方法の実際を理解する。

学習テーマ

1	少子化と子育て支援サービス＜テキスト レッスン16＞【学習のポイント：少子化の現状と地域子育て支援サービスについて理解する。】
2	多様な保育ニーズへの対応＜テキスト レッスン17＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度について理解する。】
3	母子保健サービス＜テキスト レッスン18＞【学習のポイント：母子保健施策について理解する。】
4	障害のある子どもへの支援＜テキスト レッスン19＞【学習のポイント：障害のある子どもへの福祉施策について理解する。】
5	健全育成＜テキスト レッスン20＞【学習のポイント：児童厚生施設等について理解する。】
6	子ども虐待対策＜テキスト レッスン21＞【学習のポイント：子ども虐待の現状と防止の対策について理解する。】
7	DVへの対応＜テキスト レッスン22＞【学習のポイント：DVの現状とその対応について理解する。】
8	社会的養護＜テキスト レッスン23＞【学習のポイント：施設養護と家庭養護について理解する。】
9	ひとり親家庭福祉サービス＜テキスト レッスン24＞【学習のポイント：ひとり親家庭への支援施策について理解する。】
10	少年非行への対応＜テキスト レッスン25＞【学習のポイント：児童福祉法と少年法に基づく対応について理解する。】
11	貧困家庭の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン26＞【学習のポイント：子どもの貧困に関する対策等について理解する。】
12	外国籍の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン27＞【学習のポイント：保育所等における外国籍の子どもとその家族への支援について理解する。】
13	諸外国の動向＜テキスト レッスン28＞【学習のポイント：諸外国の動向について理解する。】
14	子どもの発達・成長と保育者に求められる視点＜テキスト レッスン29＞【学習のポイント：子どもと家庭をとりまく課題と保育者に求められる視点について理解する。】
15	これからの子ども家庭福祉の展望＜テキスト レッスン30＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の今後の動向について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

障害のある子どもへの様々な支援とその課題について述べなさい。

第2課題

わが国における子ども虐待の現状とその防止対策の取り組みについて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第4章レッスン19を精読すること。第3章レッスン14も参考になる。異なる法律に基づく各種支援があるので整理し、またテキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第4章レッスン21を精読すること。第3章レッスン14も参考になる。子ども虐待の起こる背景にもふれて、またテキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は、テキストであっても必ずその引用先等を示しておくこと。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるので、全章を熟読し単元ごとにポイントを整理して理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ理解しておくこと。）
・子どもの権利擁護について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・現代社会における子ども家庭福祉の意義をよく理解して作成されていること。
・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・設題に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

・厚生労働省HP
・こども家庭庁HP
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・社会福祉法人大阪ボランティア協会　『福祉小六法（最新版）』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20170	科目名[単位数／学習時間]	外国語（英語）［2単位／90時間］			
テキスト	●樋口忠彦　泉惠美子　加賀田哲也　衣笠知子『最新　小学校英語内容論入門』　研究社					
ISBN	9784327411091	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,200	生協 テキストNo.	25126	
科目担当	眞﨑　克彦					
実務経験のある教員による科目	公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事					

科目の目的

以下の点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。

・小学校における外国語活動・外国語の授業を行う上で必要な英語運用能力向上のため、発話・音声・文字指導の知識、教室英語、基礎的な文法力、絵本、歌等の活用方法を身に付ける。

・「聞く」、「話す（やりとり・発表）」、「読む」、「書く」の4技能・5領域を総合的に活用し、第二言語習得論の知識を身につけることで、理論に裏付けられた実践力を高める。

到達目標

・授業実践に必要な英語力＜①聞くこと、②話すこと、③読むこと、④書くこと＞を習得する。

・英語に関する背景的な知識＜①英語に関する基本的な知識、②第二言語習得に関する基本的な知識、③児童文学（絵本、歌）、④異文化理解、⑤デジタル教材の活用＞を習得する。

学習テーマ

1	小学校外国語活動、外国語科の役割と方向（序章）
2	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成1：聞くこと、話すこと（1章1節）
3	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成2：読むこと、書くこと（1章2節）
4	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成3：技能統合的な活動（1章3節）
5	授業実践に必要な基礎知識1：第二言語習得理論学習の意義、年齢と第二言語習得（2章1節）
6	授業実践に必要な基礎知識2：第二言語習得研究の知見①②③（2章1節）
7	授業実践に必要な基礎知識3：コミュニケーション能力とその指導（2章2節）
8	授業実践に必要な基礎知識4：音声の指導（2章3節）
9	授業実践に必要な基礎知識5：語彙の指導（2章4節）
10	授業実践に必要な基礎知識6：音声と文字の関係の指導-フォニックスの基礎（2章5節）
11	授業実践に必要な基礎知識7：文字、単語、文の書き方の指導（2章6節）
12	授業実践に必要な基礎知識8：文、文構造、文法の指導（2章7節）
13	授業実践に必要な基礎知識9：ライム、うた、絵本、児童用物語（2章8節）
14	授業実践に必要な基礎知識10：国際理解と国際交流（2章9節）
15	教材研究と教材開発の工夫（終章）

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト序章、1章（1節～3節）、終章をすべて読み、1つの章か1つの節（1章の場合）を選ぶ。選んだ章あるいは節から得た知見をまとめ、自分が小学校で実践する際にどのように活用するか具体的に述べよ。

第2課題

テキスト2章（1節～9節）をすべて読み、1つ選ぶ。選んだ節から得た知見をまとめ、自分が小学校で実践する際にどのように活用するか具体的に述べよ。

各課題共通の留意点

キーワードが何かを考察し、それをレポートに含めて書く。**課題とともに、キーワードを明示して**から、本文を書き始める。（キーワードは、章、節にもよるが、3つ～5つ程度選ぶ。）**本文中のキーワードにもアンダーライン**を引いておく。

《例》

課題：指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成1：聞くこと、話すこと（1章1節）

キーワード：○○○○○、△△△△△、□□□□□

本文・・・・は、○○○○○を元に・・・、・・・。

このように記述することで、読み手は書き手がどのような概念に焦点を当てて考察しているかが分かるので書き手の理解度や考察力を把握しやすい。また、キーワードを指標に判断できるので、評価のブレが少なくなる。

キーワードは、その節の内容を説明するものであるので、数が多い場合もあるが、すべて上げる必要はなく、自分のレポートの主張に合わせて取捨選択するとよい。キーワードの数が多いときは、内容をまとめきれていないと判断される場合がある。

引用箇所と自分の意見の区別がはっきり分かるように記述する。著者の言葉を自分の意見としてまとめることはできない。＜引用した場所（章、節、ページ番号等）を明示すること。＞

レポートの評価基準

・テキストの内容が十分に理解されており、それを分かりやすく簡潔にまとめているか。
・適切なキーワードを提示してから書き始めているか。
・引用と自分の意見を適切に区別して書いているか。
例えば、泉（2023）によると、△△は□□と述べている。そのことについて、私は小学校の現場で、○○○○のように指導していく。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの序章、１章（１～３節）、２章（１～９節）、終章の中から提示された設題について、テキストの内容を十分に踏まえて解答する。
・試験準備に当たっては、以下の章・節の「範囲」、「キーワード」を踏まえて学修する。（試験範囲）

１章１節　pp.20-21　キーワード：ボトムアップ、背景知識、文節音声、韻律音声、意図
１章２節　pp.32-36　キーワード：名称の読み方、音の読み方、音素、フォニックス、サイトワード
２章１節　pp.64-75　キーワード：「i ＋ 1」、Krashen（クラッシェン）、意味交渉、Swain（スウェイン）、気付く（気付き）
２章７節　pp.148-157　キーワード：主語、一般動詞、修飾、always、同一のパターン
２章８節　pp.166-167　キーワード：マザーグース、異文化、韻、音素認識、等時性のリズム
２章９節　pp.185-187　キーワード：ルール、コンテクスト、異文化、EFL、能動的

・設題について、自分の意見も簡潔に交えながら論文形式で解答する。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、テキストの内容が述べられているか。
・自分の意見を客観的資料（テキスト）に基づいて述べているか。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年３月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動編・外国語編＜平成29年７月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20171	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・外国語（英語）［1単位／45時間］

テキスト	●樋口忠彦　加賀田哲也　泉惠美子　衣笠知子『最新　小学校英語教育法入門』　研究社					
ISBN	9784327411084	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協 テキストNo.	25127	
科目担当	眞﨑　克彦					
実務経験のある教員による科目	公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事					

科目の目的

テキストの理論的な内容の章を講読することによって、以下の2点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。

・外国語教育に携わる者が知っておく必要のある基礎知識、理論を身につける。
・テキスト講読およびレポート作成により、教授方法の理解を深め、実践的な指導力を身につける。

到達目標

小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識と実践的指導技術を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す（やりとり・発表）」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目指す。さらに、デジタル教材の扱い方や外国語指導助手（ALT等）とのティームティーチングの方法についても理解を深める。

学習テーマ

1	外国語教育の目的と目標：学習指導要領における外国語活動、外国語の理念ほか（テキスト第1章）
2	関連分野からみる外国語教育の意義と方向性：母語習得と第二言語習得ほか（テキスト第2章）
3	指導者の役割、資質と研修ーよりよい指導者をめざして:指導者と指導形態ほか（テキスト第3章）
4	教材の構成と内容：教材の役割と使用法、教材・テキスト作成の基本方針ほか（テキスト第4章）
5	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例：年間指導計画の立て方ほか（テキスト第5章）
6	言語教材と4技能の指導：外国語活動・外国語科の言語材料ほか（テキスト第6章）
7	指導方法と指導技術：外国語の授業で活用できる指導法ほか（テキスト第9章）
8	豊かな小学校外国語教育をめざしてー外国語活動の成果と課題を踏まえて（テキスト第14章）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章から第14章までを読む。テキストの第1章～第4章の中から1つ、第5、第6、第9、第14章の中から1つ、合計2章を選ぶ。それぞれの章（計2章）について、内容の要点を説明する。さらに、自分が現場で指導する際に、読んで得た知見をどのように実践に生かすかを具体的に述べる。

第1課題の留意点

・1章につき1,000字程度記入し、合計2,000字程度とする。
・各章、以下に指定したキーワード（3つ～5つ）を含めてレポートを作成する。
《以下から1章選んで、1,000字程度で記述》
第1章：グローバル化、コミュニケーション、言語活動、三つの柱、音声
第2章：母語習得、第二言語習得、インプット仮説、アウトプット仮説、インタラクション仮説
第3章：外国語指導助手、担任の役割、指導力、英語運用能力、研修
第4章：テキスト、題材シラバス、タスクシラバス、複合型シラバス、教科横断的な学習
《以下からもう1章選んで、1,000字程度で記述》
第5章：生きる力、国際理解教育、学校目標、（小中高で）一貫した目標、地域・学校・児童の実態
第6章：興味・関心、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
第9章：CLT、CLIL、TBLT、アクティブラーニング、指導形態
第14章：（担任の）英語のモデル、時間割編成、短時間授業、リテラシーの指導、小中の接続・連携
・レポートには、以下の2点を明示する。
①第何章を選んだか。章の題目も明示する。例：第1章　外国語教育の目的と目標
②キーワードは何を選んだか。（上に提示されたキーワードを、1章につき3つ～5つ程度選ぶ。それらをレポートに含めて書く。）キーワードを明示してから、本文を書き始める。本文中のキーワードには、下線を引いておく。
《例》第2章　関連分野からみる外国語教育の意義と方向性
キーワード：○○○○、△△△△、□□□□、◎◎◎◎、・・・・
本文・・・・○○○○は、

レポートの評価基準

・テキストの基本的内容をしっかりと理解しているか。
・各課題について資料や文献（テキスト）に基づいて指導法について自分の意見を述べているか。
・留意点を理解し、分かりやすい構成のレポートになっているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・小学校で外国語活動及び外国語を教える際に必要な知識、取り組むべき内容について、具体的に論文形式で述べる。自分の意見も簡潔に交えながら解答する。
・試験準備に当たっては、以下の章の「範囲」、「キーワード」を踏まえて学修する。（試験範囲）

1章　pp. 5 - 9　キーワード：コミュニケーション、基礎、素地、体験的、言語活動
2章　pp.19-21　キーワード：インプット、アウトプット、インタラクション、言語形式、チャンク
3章　pp.32-34　キーワード：ICT、ALT、評価、授業で使う英語表現、small talk
4章　pp.42-44　キーワード：テキストで教える、文法構造シラバス、題材（話題・場面）シラバス、機能・概念シラバス、タスクシラバス
5章　pp.73-77　キーワード：自校ならでは、教員全体、体験的、コミュニケーション活動、構成要素
6章　pp.83-86　キーワード：等時性のリズム、音声変化、teacher talk、　視覚補助教材、チャンツ

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が十分理解できているかどうか。
・小学校英語教育に対するこれまでの成果と課題を理解し、今後の指導に活かせる内容となっているか。
・前述の内容を踏まえて、自分の意見も述べられているかどうか。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動・外国語編＜平成29年７月＞』
開隆堂出版又は文部科学省HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20172	科目名［単位数／学習時間］	総合的な学習の時間の指導法（初等）［2単位／90時間］

テキスト	●田村学 『小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編 平成29年版』 明治図書出版					
ISBN	9784183289124	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協 テキストNo.	25128	
科目担当	山田 希代子					
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）					

科目の目的

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。総合的な学習の時間の学習の進め方のポイントを学び、授業設計やその際の効果的な情報機器・教材の活用を取り入れ実践的な指導力を形成する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解しその実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

学習テーマ

1	総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 ＜テキスト初めに・序章＞
2	総合的な学習の目標の構成と趣旨 ＜テキスト第1章＞
3	各学校において定める目標及び内容 ＜テキスト第2章1・2・6・7・8＞
4	指導計画作成上の配慮事項と内容の取扱いの配慮事項 ＜テキスト第3章10・11＞
5	指導計画の要素と全体計画と年間指導計画 ＜テキスト第3章1＞
6	各学校が定める目標の設定 ＜テキスト第2章1・3・4・5＞
7	各学校が定める内容とは ＜テキスト第2章2・6・7・8＞
8	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力とは ＜テキスト第2章9＞
9	年間指導計画の基本的な考え方及びその作成 ＜テキスト第3章2＞
10	単元計画の考え方とその作成と学年に応じた実践事例 ＜テキスト第3章3・4＞
11	総合的な学習の過程を実現する学習指導 ＜テキスト第3章5・6・7＞
12	総合的な学習の評価のあり方と授業設計 ＜テキスト第3章12・13・14・15・第4章＞
13	総合的な学習の時間を充実させるための体制作りのあり方 ＜テキスト第3章8＞
14	総合的な学習の時間の環境整備について（学習空間・教室・図書館・情報等）＜テキスト第3章9＞
15	外部との連携の必要性とその留意点について ＜テキスト第4章8-2④・教師としての心構え＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

総合的な学習の時間改訂の趣旨を明らかにしたうえで、新授業プラン6「住吉川の美しさを取り戻そう」（テキストpp.124-129）をもとに、総合的な学習の時間における単元づくりのポイントを述べなさい。

第2課題

地域の暮らし、伝統・文化など地域や学校の課題に対応する探究課題を設定し、探究課題の解決を通して育成する資質・能力を明らかにしたうえで、具体的な単元計画を作成しなさい。探究的な学びの過程をスパイラル状にたどり、単元の総時間数が25時間以上の計画を立案すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

学習指導要領改訂（平成29年告示）による第1目標、各学校において定める目標・内容、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質･能力、探究的な学びのプロセスを理解する。改訂の趣旨については、テキスト序章（pp.8-15）、第1章（pp.16-29）、単元づくり・学習指導のポイントについては、テキスト第3章指導計画（pp.50-55）、学習指導（pp.56-83）を参考にするとよい。

第 2 課題の留意点

地域の暮らし、伝統・文化など地域や学校の課題に対応する探究課題とは、町づくり・伝統文化・地域経済・防災など、地域や学校に固有な諸課題のことである。その地域ならではのよさがあり特色がある。持続可能な地域社会の実現をなしていくことを期待される子どもたちにどのような資質・能力が必要とされるのかを考え、どのような具体的な学びで力をつけていくのかを押さえること。

地域や学校の課題に対応する探究課題については、テキスト第 2 章 7 （pp.34-35）、参考文献『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』第 3 章 5 （p.30）を参考にするとよい。

単元計画は、①単元名（学年）②時数 ③単元目標（育成を目指す資質・能力）④教材について（教材観・子どもの思い・教師の願い等）⑤評価規準 ⑥単元の展開によって構成すること。⑥の単元の展開は、探究的な学びの過程・小単元名・小単元のねらい・児童の主な学習活動・教師の支援・評価の観点と方法等が分かるようA4白紙用紙（片面使用）に必要な罫線を引き手書きによる作成とする。その際、単元目標・評価規準・小単元目標・評価の観点の整合性をとることに留意すること。また、実践例を参考にしたり、ネット等で諸データを引用したりした場合は、必ず出典を明記すること。枚数は全体で 5 枚とする。

テキスト第 3 章 3　単元計画の基本・ 4　特徴のある単元計画の例（pp.50-55）を読むと、単元計画の理解が深まる。第 4 章の新授業プランや他校実践例、参考文献『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』第 6 章第 3 節（pp.99-105）を参考にするとよい。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、テキスト学習で得た基本的なことを説明したうえで、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているのかで評価する。
・文字数は、1,800字～2,000字とする。ただし、第 2 課題については、表作成が必要となるので、字数については制限しない。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・実践例・インターネットの情報を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
・主語述語の関係などに留意し、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。第 1 課題については、「はじめに」「本論」「おわりに」等の章立てや段落を設定し、道筋を立てて論理的に展開できていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト第 1 章・第 2 章を熟読し、目標、内容、探究的な見方考え方、各学校において定める目標及び内容、目標を実現するにふさわしい探究課題について深く理解しておくこと。特に、序章　総合的な学習の時間改訂のキーポイント（pp. 8 -15）を熟読しておくこと。「第 1　目標」に示されている文言の詳しい内容については、参考文献『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』第 2 章第 1 節・第 2 節（pp. 8 -17）を読むと理解が深まる。
・総合的な学習の時間の「第 2　各学校において定める目標及び内容」のポイントと解説（pp.22-41）、「学習指導」（pp.56-83）のキーワードとなる事柄についてまとめておくとよい。
・総合的な学習の時間の学習指導の特質を十分に理解しておくこと。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの学びの姿と教師としてのかかわりを考えながら読み込み、指導上の留意点についても確認しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの体験や自説を記入しても評価しない。
・段落等を設定し、筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
・漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編＜平成29年 7 月＞』
東京書籍又は文部科学省HP
・総合的な学習の時間の実践集（各自で調べる）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20173	科目名［単位数／学習時間］	子どもと健康［1単位／45時間］

テキスト	●勝木洋子 『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康 第2版』 みらい					
ISBN	9784860154714	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,100	生協 テキストNo.	25106	
科目担当	植山 佐智子					
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭・主任教諭・園長					

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深める。また、常に社会の変化に敏感な視点を持ち、子どもの実態と理解を深める。また世界的な歴史の流れを理解し、広い視野で子どもの健康についての知識を得る。幼児教育現場においての現状の問題点を明確にし、保育者の配慮や援助を明らかにしていく。

到達目標

・子どもの健康と保育の意義について理解する。
・『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
・乳幼児期の心と体の発達的特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
・子どもの心身の発達について理解する。
・生涯を健康に送るための基礎として健康環境を考える。

学習テーマ

1	テキスト第1章「健康に生きる」を読んで、健康に関する世界と日本の流れと健康の歴史を知る。日本の健康の流れを理解する。
2	テキスト第4章「保育における領域＜健康＞①」を読んで、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
3	テキスト第5章「保育における領域＜健康＞②」を読んで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保幼小の連携について」を理解する。
4	テキスト第12章「子どもの事故や病気、危機管理について」を読んで、事故の予防と対応、感染症の予防と対応を理解する。
5	テキスト第8章「子どもの運動遊び」を読んで理解し、子どもの身体活動の現状を知る。
6	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、群れ遊びの重要性や運動が苦手な子への支援について理解し、運動遊びの実践を学ぶ。
7	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、子どもにとっての運動の考え方と保育者の援助について理解する。
8	テキスト第10章「運動遊びの計画と評価」を読んで、指導案作成の考え方と、ねらいと内容、環境構成、保育者の援助を理解し、指導計画を実際に立ててみる。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもを取り巻く環境の現状を詳しく記述し、子どもの健康課題とその対策として保育者の援助や配慮を具体的に考察しなさい。

第1課題の留意点

・さまざまなデータや参考文献などを調べ学習をしてまとめる。
・保育者として保育するという観点に立ち、レポートをまとめる。
・参考文献や資料を検索し、それらを用いて論を展開する。

レポートの評価基準

・課題に沿った調べ学習と、それらの情報を自身でまとめる力を求める。テキストをまとめるだけではなく、テキストを基に関連する参考文献･資料を活用し、まとめること。
・参考文献や白書などの資料を用いて広汎な調べ学習をし、それらを用いて考察できているか。＜※参考文献や資料については、必ず明示する＞
・事例の記述など社会の変化やオリジナリティのあるレポート内容であるか。
・正しい日本語記述で誤字・脱字はなく、2,000字の9割以上記述されているか。
・課題の趣旨に沿ったレポートで、論理的に無理なく全体の流れになっているか。
などを総合的に評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを十分読みこなし、理解した上で事例なども加えて、論点をまとめること。

科目修了試験の評価基準

テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。

参考文献

・文部科学省　『幼児期運動指針』
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20174	科目名［単位数／学習時間］	子どもと人間関係［1単位／45時間］			
テキスト	●田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「人間関係」 第2版』 萌文書林					
ISBN	9784893472922	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,900	生協 テキストNo.	25129	
科目担当	福井 逸子					
実務経験のある教員による科目	公・私立幼稚園教諭（主任教諭）、保育士					

科目の目的

本科目では、領域「人間関係」の基盤となる、乳幼児の「人と関わる力の育ち」に関する専門的事項についての知識を身に付けることを目的とする。なお、本科目で使用するテキストは、学習者自身が体験している（体験してきた）ことを子どもの体験に置き換えて、考察を深めることが可能である。全編を通して、絵本や小説、エッセイが引用されているため、これらを参考引用文献として読み進めることを推奨する。実務経験を生かして教授する。

到達目標

乳幼児期の人間関係の発達について、保育現場における関係発達論の視点から理解する。
- 乳時期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
- 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、説明できる。
- 自立心の育ち、協同性の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる
- 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿を合わせて説明できる。
- 家族や地域との関わりの育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。

学習テーマ

1	何故、「人と関わる力」が必要なのかを理解する。（lecture 1 ～ 2 ）
2	領域「人間関係」のねらい、内容等について理解する。（lecture 3 ～ 4 ）
3	0 、 1 、 2 歳児の人間関係の特徴について理解する。（lecture 4 ～ 5 ）
4	3 、 4 歳児の人間関係の特徴について理解する。（lecture 6 ～ 7 ）
5	5 歳児の人間関係の特徴について理解する。（lecture 8 ）
6	個と集団の関わりについて理解する。（lecture 8 ～ 9 ）
7	保育現場における人間関係（保護者間、保育者同士）について理解する。（lecture10～11）
8	保育者と子どもとの人間関係について理解する。（lecture12）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

乳幼児期から「人と関わる力」を育むことが、その後の人生とどう繋がり、何故大切であるのかを、まとめなさい。

第1課題の留意点

テキストの全編を充分に読み深めた上で、レポート課題をまとめる。テキスト内に示されている参考文献を取り入れて、まとめても良い。レポートの作成は、ワープロソフト使用、自筆、どちらでもかまわない。また、表や図解を作成してもよい。自筆で表や図解を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を使用する。なお、裏面（白紙面）に記載する場合は、その用紙の裏面となる原稿用紙面には何も記載しないこと。【※すべてあわせて5枚程度とする。】

レポートの評価基準

- 文字数は、1,800字～2,000字数以内とすること。
- 課題の趣旨に沿っている。
- 領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
- 必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
- 専門用語を正しく理解して使用し、具体例なども挙げながら、わかりやすく説明されている。
- 漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
- テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- 「到達目標」に示されている文言やキーワードについて、理解できている（理解できていた）かを、確認した上で科目修了試験に臨む方が良い。
- テキスト内に複数個所記載されている、文言やキーワードについては、日頃の学習段階で、要約しておくと良い。
- テキスト中にある人物名については書籍やインターネットを用いて詳しく調べておく方が良い。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・無藤隆　古賀松香　『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』　北大路書房
・無藤隆　『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』　東洋館出版社
・『月刊　保育とカリキュラム（保育雑誌）』　ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20175	科目名［単位数／学習時間］	子どもと環境［1単位／45時間］

テキスト	●田宮縁 『体験する・調べる・考える 領域「環境」 第3版』 萌文書林					
ISBN	9784893474278	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	25130	
科目担当	佐藤 智恵					
実務経験のある教員による科目	保育士					

科目の目的

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識を身につけることをめざす。領域「環境」の以下の項目（季節感、自然との関わり、生命の営み、身の回りの身近な情報、数量・図形）に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、テキストで学びを深める。

到達目標

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけ、感性を養う。

・幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
・幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
・幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

学習テーマ

1	自然とふれあい感動することを理解する
2	物事の法則性に気づく（ティッシュペーパーが出る仕組み、飛び出すカード、折り染紙）
3	科学遊びについて理解する（重力体験、モビール、磁石遊び）
4	生命の営みにふれる① 栽培活動（アサガオ、チューリップ、ミニトマト、ハツカダイコン）
5	生命の営みにふれる② 飼育活動（オタマジャクシ、ダンゴムシ）
6	季節感を味わう（行事の由来について）
7	地域社会との関わりを理解する
8	数量・図形に親しむ姿を理解する

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの「物事の法則性に気づく」「季節感を味わう」「生命の営みにふれる」「科学を体感する」「数量・図形に親しむ」の中から3つ選択し、5歳児の発達に適した活動を1つずつ考えて簡潔に記述せよ。それぞれの活動を実施するために、保育者に必要な知識についても調べ、明記すること。

第1課題の留意点

・この課題は、それぞれの活動を実施する際に保育者として必要な知識を問うものである（例えば、「サツマイモの植え付けの時期は5月上旬である」など）。活動に関係すること、必要な情報をテキストや書籍などで調べ、正しい知識を用いて5歳児クラスの活動を考えること。知識に関する記述がないものは不可とする。
・活動内容をどう実施するかを明確に記述すること。（例えば、「サツマイモを植える」という活動ならば、どの時期に実施するかが分かるように明記することが必要である。）
・まずはテキストをしっかりと熟読し、それぞれの遊びについて理解すること。次に例題として掲載されているものについても、自分で調べ学習をしておくこと。課題には、テキストに掲載されている内容を記述してもよいが、そのまま転記するのではなく、テキストをもとに自分で考えた内容も記述すること。期間は、「ある1日の活動」でも、「長期的な活動」でも可とする。
・5歳児の発達をしっかりと押さえ、5歳児クラスで実施可能なものを調べて課題に取り組むこと。参考にした書籍やホームページがある場合は、書籍情報やURLを引用明記すること。
・選択しなかった項目についてもテキストを熟読し、内容を理解しておくこと。

レポートの評価基準

以下の4点を評価基準とする。
・誤字脱字がなく、主語と述語の関係などに留意し、丁寧な記述がなされているか。
・領域「環境」の活動について、調べた正確な内容が記述されているか。
・活動内容をどのように実施するかが明確に記述されているか。
・子どもの発達に即したものとなっているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・試験では保育実践を行う上で必要な具体的知識を問う。テキストに掲載されている活動内容に関する知識を熟読するとともに、テキストに掲載のないものについても関心をもち自ら調べておくことが重要である（特に、第 1 課題で示した 5 点については、内容を理解しておくこと）。
・テキストに掲載されている具体的な事例や内容の確認だけでなく、保育内容のアイデアを自ら考えておくこと。

科目修了試験の評価基準

・保育を行う上で必要となる領域「環境」に関する知識が備わっていること。
・誤字脱字がなく、主述が正しく記述されており、内容が伝わる文章であること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

参考文献

・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ＜原本＞』 チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20176	科目名[単位数／学習時間]	子どもと言葉［1単位／45時間］			
テキスト	●高橋一夫 『ことばを育む・保育に活かす 言語表現 第2版』 みらい					
ISBN	9784860154219	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,500	生協テキストNo.	25131	
科目担当	高橋 一夫					

科目の目的

「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付ける。

到達目標

・保育・幼児教育における「言葉」の重要性を理解することができる。
・児童文化財の意義を理解し、保育現場で活用できる知識と技能を獲得する。
・保育者として「言葉」の楽しさ・美しさに気付くことができる。

学習テーマ

1	指針･要領における子どもと言葉について【学習のポイント:指針などにおける子どもと言葉についての記述を確認する。(テキストpp. 5 -14)】
2	子ども達の育ちを支えるための保育者の言葉に関するスキルについて【学習のポイント：保育者に求められる言葉に関わるスキルを理解する。(テキストpp.15-28)】
3	絵本について【学習のポイント：絵本を論理的に分析する。(テキストpp.29-36)】
4	紙芝居について【学習のポイント：紙芝居の基礎について理解する。(テキストpp.37-45)】
5	素話について【学習のポイント：素話の基礎について理解する。(テキストpp.46-54)】
6	児童文学（明治・大正期まで）について【学習のポイント：明治・大正期までの児童文学について理解する。(テキストpp.55-66)】
7	児童文学（昭和期から現在まで）について【学習のポイント：昭和期から現在までの児童文学について理解する。(テキストpp.67-72)】
8	詩人の表現と子どもの詩について【学習のポイント：詩の持つ力について理解する。(テキストpp.73-84)】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストpp.49-51に掲載されている昔話「馬方とやまんば」の良さは何か、根拠を踏まえて論述しなさい。また、この昔話を保育現場で幼児たちと楽しむ際に保育者として配慮すべき事項について、根拠を踏まえて論述しなさい。

第1課題の留意点

・昔話「馬方とやまんば」の良さと、この昔話を保育現場で幼児たちと活用する際の保育者としての配慮事項の両者ともに記述がされていること。
・テキスト（特に、「第7章 児童文化財と言語表現 素話」p.46～）を熟読し、その内容を十分に踏まえていること。

レポートの評価基準

・課題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができている。
・誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができている。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができている。
・領域「言葉」について理解することができている。
・保育者に求められている指導や配慮について理解することができている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」における学習のポイントを押さえたテキストの理解ができていること。
・『保育所保育方針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』における「言葉」に関わる箇所について、十分な理解ができていること。
・答案作成において自身の考えを記述する際は、必要十分な根拠が示されていること。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができている。
・誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができている。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができている。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館
・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20177	科目名［単位数／学習時間］	子どもと音楽表現［1単位／45時間］

テキスト	●今泉明美　有村さやか『子どものための音楽表現技術　ー感性と実践力豊かな保育者へー　第2版』萌文書林					
ISBN	9784893472465	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	25133	
科目担当	高　奈奈					
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園音楽表現担当講師					

科目の目的

『幼稚園教育要領』に示された領域「表現」のねらい及び内容についての知識を習得し、乳幼児期の音楽表現活動において必要となる歌唱や器楽の演奏など保育者の役割について理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・音楽の演奏において必要な音楽の基礎的な知識を習得し、子どもの歌などの楽曲を正しく捉えることができるようになる。
・保育における音楽表現活動の基礎となる「歌唱」と「器楽」について理解を深める。
・乳幼児期の音楽的な発達について理解を深め、発達に即した保育の内容を考えることができる。

学習テーマ

1	音楽の基礎的な知識の習得①【学習のポイント：読譜に必要となる楽譜のしくみ、音名、小節、音符と休符、拍子とリズムについて理解し、確認の問題に取り組む。テキストPart 1 Chapter 1　1～7項】
2	音楽の基礎的な知識の習得②【学習のポイント：演奏に必要となる音階、和音、移調、標語について理解を深める。テキストPart 1 Chapter 1　8～12項】
3	正しい発声法と子どもの歌唱【学習のポイント：発声のメカニズムを知り、保育における歌唱について理解する。テキストPart 1 Chapter 2　pp.76-83、Part 2 Chapter 2　pp.136-156】
4	保育現場におけるピアノの役割について【学習のポイント：ピアノの演奏法とピアノの役割について理解し、テキストに示された楽譜の演奏に挑戦することで実践力を身に付ける。テキストPart 1 Chapter 3】
5	楽器についての知識を深める【学習のポイント：様々な楽器の特徴や分類、演奏法について理解し、リズム奏の技術を身に付ける。テキストPart 1 Chapter 4　pp.110-121、Part 2 Chapter 3　pp.160-169】
6	子どもの音楽的な発達について【学習のポイント：乳幼児期の聴覚、発声、歌唱の発達について理解し、月齢に即した音楽表現について考える。テキストPart 2 Chapter 1　pp.124-131】
7	保育における領域「表現」について【学習のポイント：テキストに示された3歳以上のねらい及び内容について理解し、表現活動における教育、保育の意図を考える。テキストPart 2 Chapter 1　pp.132-134】
8	子どもの音楽表現活動【学習のポイント：音楽表現活動のねらい及び内容、子どもの活動と保育者の支援について理解し、乳幼児期の音楽表現について考える。テキストPart 2 Chapter 4　pp.170-185】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育の中で取り扱う楽曲を4曲示し、それぞれの楽曲において次の①～⑤の項目について述べよ。選ぶ楽曲は歌唱、器楽のどちらでも良い。
①取り扱う年齢　②季節もしくは行事、園での生活等どのような場面で取り扱うのか　③その楽曲の調性と拍子など　④なぜその楽曲を選択したのか　⑤演奏の際の工夫
なお、子どもの音楽的な発達や声域、音楽的な基礎知識を踏まえた上で述べること。

第1課題の留意点

・領域「表現」における＜乳児保育＞＜1歳児以上3歳児未満の保育＞＜3歳児以上の保育＞のねらい及び内容についてしっかりと理解を深めた上で、保育における音楽表現活動の意義と役割を理解した上で述べるようにする。
・②は、例えば「6月の雨が多く降る時期に園庭の水たまりで遊ぶことに楽しみを感じているので、この楽曲を取り扱う」という風に、具体的にイメージして述べる。
・③については、テキストのChapter 1の学習内容と例として挙げられている楽曲を参考に判断すること。
・④については、保育のねらいや子どもたちの興味関心、また自身が行いたい保育の内容を踏まえて述べる。
・⑤については、保育者が伴奏の役割で演奏する際の工夫と子どもたちが歌唱や器楽の演奏の中でどのような工夫ができるか考える。
・自身の経験談ではなく、テキストから学んだ専門的な知識に基づいてレポートを作成すること。

レポートの評価基準

・誤字脱字の有無を含め、文章を書く際の基本的なルールに沿った読み手が理解しやすい文章の構成であること。
・経験談ではなく、テキストや参考文献から学んだ知識をもとに文章を書くことができているか。
・保育者に求められる支援や音楽的な技術について理解することができているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの内容を理解すると共に、参考文献で領域「表現」のねらい及び内容についてしっかりと学んでおく。
・乳児期、幼児期の聴覚、発声、歌唱の発達についてしっかりと学び、年齢に即した音楽表現活動を行う必要性について理解を深める。
・音楽表現活動を行う上で、「学習テーマ」に示した 1 ～ 5 の内容が保育者にとって必要な知識と技術であることを理解し、分野別に理解を深めておく。
・テキストから学んで得た知識と自身の考えを分かりやすく述べること。
・参考文献『続　こどものうた200　保育実用書シリーズ』に掲載されている子どもの歌を多く知り、発達や季節に応じた具体的な音楽表現活動をイメージしておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく捉え、テキストで学んだ内容を中心に論述することができているか。
・誤字脱字の有無を含め、文章を書く際の基本的なルールに沿った読み手が理解しやすい文章の構成であること。
・解答用紙表面の 8 割以上の記述があること。
・自身の経験談ではなく、テキストで述べられているキーワードなどを用い、習得した知識に基づいて論述することができているか。

参考文献

・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・小林美実　『続　こどものうた200　保育実用書シリーズ』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20178	科目名［単位数／学習時間］	子どもと造形表現［1単位／45時間］			
テキスト	●松岡宏明 『子供の世界　子供の造形』 三元社					
ISBN	9784883034208	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,700	生協テキストNo.	25134	
科目担当	須増　啓之					

科目の目的

幼児の造形表現においては、保育者や教育者にとって描いたり、つくったりする力も必要だが、子供の表現を見る力も大切となってくる。現在、絵を上手に描かせることを目的としたり、大人の価値観を子供に単に押し付けたりしている保育や授業も少ないとは言えない。そのため、保育者や教育者を目指す学生にとって、大人と子供は異なるという意識をもつことや子供の造形表現への理解が重要となる。テキストを読むことで、大人と子供の違いや子供の造形の発達や特徴、見る力についての理解を深めることが本科目の目的である。

到達目標

・大人と子供の違いについて理解をしている。
・幼児の造形の発達やその特質について説明できる。
・保育者や教育者にとっての見る力の重要性を理解している。
・造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。

学習テーマ

1	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて①【学習のポイント：「世界」、「感覚」の側面から大人と子供の違いを理解する。＜テキストpp.12-29＞】
2	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて②【学習のポイント：「概念」、「体験」、「目的」の側面から大人と子供の違いや未分化性を理解する。＜テキストpp.30-47＞】
3	キーワードから読み解く「子供」と「美術」の共通性について【学習のポイント：子供と美術の重なりや未分化性、造形／美術の役割について確認する。＜テキストpp.48-67＞】
4	子供の造形への「発達」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：子供の造形を読み解きながら、「なぐり描き期」、「命名期」、「前図式期」、「図式期」、「前写実期」、「写実期」などの絵の発達や立体造形の発達について理解する。＜テキストpp.69-90＞】
5	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて①【学習のポイント：「頭足人」、「アニミズム」、「基底線」、「集中構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.91-101＞】
6	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて②【学習のポイント：「レントゲン描法」、「展開図描法」、「積み上げ遠近法」、「多視点構図」、「正面構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.102-111＞】
7	子供の造形への「美しさ」と「心理」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：「形式美」や「内容美」についての確認や、子供の作品から状況や心理が伝わることについて知る。＜テキストpp.112-133＞】
8	見る力について【学習のポイント：保育者、教育者として子供の造形や芸術作品を見る力を身につける重要性について理解する。＜テキストpp.134-153＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストでは「子供は造形／美術に取り組むことで子供らしさを発揮できる」（p.66）とある。子供たちに造形活動を保障していくために、あなたが大切にしたいことを「未分化性」の特徴である「自分と世界が一体化している」、「全感覚を起動させる」、「『あるがまま』からスタートする」、「体験に開いている」、「今、過程に生きる」から1つ以上選び、具体事例を挙げながらまとめなさい。また、その際あなたの理解がどのように変化したのかについて必ず記述すること。

第1課題の留意点

本課題ではテキストの第1章と第2章（pp.13-67）の内容を理解し、その内容について自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。

・テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に第1章と第2章のポイントを押さえて自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものはレポートとして認めない。
・「自分と世界が一体化している」、「全感覚を起動させる」、「『あるがまま』からスタートする」、「体験に開いている」、「今、過程に生きる」について、すべての内容をまとめる必要はない。それぞれの特徴の中で興味のある部分やキーワードなどを中心にまとめてもよい。
・必ず具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストに載っている以外のものを使用すること。たとえば個人の体験や他の著書を調べたもの、自身で創作したものなど。
・必ず第1課題についてテキストを読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。

レポートの評価基準

以下の3点で総合的に評価する。
・内容について【テキストの内容の理解度、課題への解答の的確さ、独自の視点】
・形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数（2,000字程度）】
・表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解しておくことが大切である。特に「大人と子供の違い」や「子供と美術」の重なり、子供の造形への「発達」と「特徴」からのアプローチ、保育者や教育者にとって必要な「見る力」などについて理解を深めておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえること。テキストの内容を踏まえていない解答は評価しない。

科目修了試験の評価基準

・説明問題２題50点（25点×２＝50点）、記述問題１題50点の配点で採点する。
・説明問題はテキストの内容を正確に理解し、説明ができているかどうかで評価する。
・記述問題はテキストの内容を踏まえたうえで、記述されているかどうかで評価する。
・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

・『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・松岡宏明　『子供に子供の美術を』　三元社
・平田智久　『＜感じること＞からはじまる 子どもの造形表現』　教育情報出版
・槇英子　『保育をひらく造形表現　第２版』　萌文書林
・大橋功　『美術教育概論　新訂版』　日本文教出版
・東山明　東山直美　『子どもの絵は何を語るか　発達科学の視点から』　NHK出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20179	科目名［単位数／学習時間］	子どもと身体表現［1単位／45時間］			
テキスト	●文部科学省　『幼児期運動指針ガイドブック』　サンライフ企画					
ISBN	9784904011478	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,300	生協テキストNo.	25135	文部科学省HPよりダウンロード可能
科目担当	岩濵　里江子					
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭・園長、教育委員会（指導主事）					

科目の目的

幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における身体表現の意義とねらい、保育者の指導方法について学ぶことを目的とする。年齢による身体表現の内容、環境の構成、教師の援助のあり方、身体表現による子どもの育ちについて、実務経験を活かして教授する。

到達目標

・幼児の身体活動（運動遊び）・身体表現の意義と幼児の育ちについて理解する。
・身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。

学習テーマ

1	幼児期の運動指針のポイントについて理解する（テキスト第1章pp. 5 -16）
2	幼児期における身体活動の現状と問題点と幼児期における運動の意義を理解する（テキスト第2章pp.17-28）
3	幼児期における運動の配慮事項と保育者の指導のポイントについて理解する（テキスト第3章pp.29-41）
4	いろいろな遊びの中で自発的に体を動かして遊ぶための工夫について理解する（テキスト第3章pp.30-33、pp.36-41）
5	安全に楽しく遊べる環境をつくることを理解する（テキスト第3章p.34、pp.38-41）
6	保護者と連携し、共に育てることを理解する（テキスト第3章p.35、pp.42-46）
7	保護者に向けた提案をする保育者の役割について理解する（テキスト第3章pp.42-46）
8	多様な身体活動が含まれる遊びを理解する

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児が主体的に活動し身体で表現をする喜びを味わうための、身体活動（運動遊び）の展開と保育のねらい、教師の指導の工夫・配慮点について、具体的な例を示しながら述べなさい。

第1課題の留意点

・身体活動（運動遊び）の展開については、テキストを熟読し、参考文献『幼稚園教育要領解説』を参考にしながら、幼児が主体的に身体を動かして表現する楽しさを味わうための活動の工夫、保育のねらい、教師の配慮（環境の構成や安全面を含む）について、対象年齢を設定して具体的に論述すること。
・イラスト等（白い紙に描いて剥がれないようにレポート用紙に貼付）または指導案等により、わかりやすく記述すること。
・本冊子「はじめに」の「Ⅱ レポート作成について」をよく読み、レポートを構成すること。文献や資料、HP等を調べ、引用する場合は、必ず引用であることが分かるように該当箇所を「　」でくくり、注番号を打ち、引用文出典を明記すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえた上で、課題に対して、自分で積極的に関連文献などを調べ、その他の情報を加味し課題の留意点をしっかり読み、それら留意点が満たされていること。
・引用や参考の記載を明確にすること。
・テキストや参考文献を拾い出すだけでなく、自分の考えを論理的かつ具体的に説明できていること。
・レポートとして、段落や、主語と述語の関係、誤字脱字などを留意してまとめ、丁寧な文字で記入していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に、幼児にとっての身体活動の意義や保育のねらい、教師の指導方法の工夫、留意点について記述できるようにしておくこと。発達に応じた身体活動の具体例を交えながら、記述できるようにすること。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解した上で、テキストの内容等をふまえ、キーワードや事項をとらえて、記述できていること。具体的な活動例を挙げながら、自身の考えを含めて、論理的に記述できていること。レポート課題で学習したことを生かしていること。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20181	科目名[単位数／学習時間]	教育方法・ＩＣＴ活用論（初等）［2単位／90時間］
テキスト	●堀田龍也　佐藤和紀　『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』　三省堂		
ISBN	9784385362649	本体価格(円)（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25136
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 ●文部科学省　『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）』		
ISBN		本体価格(円)（2025年1月現在）		生協テキストNo.		文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	●文部科学省　『教育の情報化に関する手引ー追補版ー（令和２年６月）』（インターネットにて閲覧）		
ISBN		本体価格(円)（2025年1月現在）		生協テキストNo.		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
テキスト	●文部科学省　『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』（インターネットにて閲覧）		
ISBN		本体価格(円)（2025年1月現在）		生協テキストNo.		https://www.mext.go.jp/content/20240202-mxt_jogai01-100003157_1.pdf
科目担当	中尾　尊洋		
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（情報担当）		

科目の目的

Society5.0を目指した社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や学習基盤としての情報活用能力の育成について理解を深めると共に、様々な教育の方法や指導技術についての知識に基づく情報技術を活用した学習方法の在り方について理解する。教育の情報化についての現状、及び児童・生徒の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業の方法について、実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

・Society5.0を目指す社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
・教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
・教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1	学習指導要領と授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第１章、テキスト『小学校学習指導要領解説　総則編』pp. 1 -11】
2	教育方法の原理と学習評価【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第２章】
3	授業中の教師の意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第３章】
4	授業における発問と指示【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第４章】
5	教科書活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第５章】
6	教材活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第６章】
7	教育の情報化の意義と概要、ICT環境整備【学習のポイント:テキスト『教育の情報化に関する手引』第１章、第４章第２節、第７章】
8	教師によるICT活用【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第７章、第８章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第４章】
9	思考力を育てる授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第９章】
10	児童生徒によるICT活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第10章】
11	情報活用能力の育成【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第１節～第３節】
12	情報モラル教育【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第12章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第４節】
13	プログラミング教育【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第13章、『教育の情報化に関する手引』第３章、参考文献『小学校プログラミング教育に関する研修教材』】
14	校務の情報化【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第14章、参考文献『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』】
15	学校の情報管理と情報セキュリティ【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第15章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第７章第５節、テキスト『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第１課題

テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第８章「学校放送番組の活用」の内容を1,000字程度（A4用紙１枚程度を目安とする）に要約しなさい。さらに、具体的な放送番組を活用した授業実践事例の簡単な流れを示し、放送番組の活用目的を説明した上で、例示した授業がどのような資質・能力の育成を支援するものであるのか、なぜ支援できると考えられるのかを考察し、1,000字程度でまとめなさい。

第 2 課題

テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第12章「情報モラル教育」の内容を1,000字程度（A4用紙 1 枚程度を目安とする）に要約しなさい。さらに、具体的な情報モラル教育の授業実践事例の簡単な流れを示し、情報活用能力の要素と授業事例との関連についての解説、および今後の情報モラル教育の授業について、どのような学習が、なぜ必要であるのかについての考察を1,000字程度でまとめなさい。

各課題の留意点

各課題共通の留意点

要約部分に関する文献の提示は必要ない。具体的な授業実践事例は、自分で考案するか、もしくはWeb等で探してもよい。Web等で探し出した場合は、必ず出典を明記する。なお、考察とは文献の要約ではなく自分の考えであるが、それを支える根拠についても必ず文献等を用い、出典を明記すること。

文献の提示方法はバンクーバー方式で記載すること（書籍、PDFの場合は該当ページも明記する）。本レポートでは、引用・参考ともにどこで、どの文献を引用・参考にしたのかを明確にするため、文献リストは引用文献、参考文献ともに「参考文献」としてまとめ、全ての文献に通し番号を振り、本文中にも文献番号を記載すること。文献の記載方式が適切ではない場合は、内容の評価をせずに不合格で返却する場合があるので特に注意すること。

提出前に、必ず自分で丁寧に見直し、誤字・脱字、文章の意味が理解できるか等についてよく確認しておくこと。

第 1 課題の留意点

用いる放送番組について、必ず出典を明記する。放送番組の活用目的は、必ずしも授業の目的と重なるとは限らない。どのような目的のために放送番組を活用するのかを明確にするとよい。

第 2 課題の留意点

情報モラル教育の授業実践事例にはICTを活用した事例が多くあるが、本レポートの目的はICT活用の効果に着目したものではなく、情報モラル教育の意義に着目したものであることを留意する。

レポートの評価基準

第 1 課題：次の①から③がすべて含まれていること。
①テキストの内容が過不足なく要約されている。
②具体的な放送番組を活用した授業について、放送番組を活用するねらいが明確に説明されている。
③持論の根拠を示す文献が適切に示されている。

第 2 課題：次の①から③がすべて含まれていること。
①テキストの内容が過不足なく要約されている。
②今後の情報モラル教育のあり方について、自分の意見として考察されている。
③持論の根拠を示す文献が適切に示されている。

分量は2,000字程度にまとめること。段落わけが適切にされていること。なお、論の根拠となる引用、参考文献がバンクーバー方式にて記載されていない等、留意点に記載の基準を満たしていない場合は内容の評価をせずに不合格で返却するので、注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第 2 章をよく読み、授業設計の手順について理解しておく。特に、ガーラック・イーリィの学習指導システムを援用した授業設計の手順について説明できるようにしておく。
- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第 4 章をよく読み、発問と指示の役割について理解しておく。特に、古藤の示す発問の類型化や多田の示す指示の分類について説明できるようにしておく。
- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第 6 章をよく読み、教材と教具のそれぞれの意味や、教材の側面について説明できるようにしておく。
- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第 7 章をよく読み、わかる授業の工夫としてどのような手段を講じれば良いのかについて説明できるようにしておく。
- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章及び、テキスト『教育の情報化に関する手引』をよく読み、情報活用能力の 3 観点について、それぞれの説明ができるようにしておく。
- テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第15章、及びテキスト『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』のp.13、p.14をよく読み、理解しておく。特に、学校の情報資産が脅威に晒される原因の 5 つの観点や地方公共団体における教育情報セキュリティの考え方の 7 つの理念について説明できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

- 設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないので注意する。
- 用語については、極力テキストに用いられている用語を使う。また、用語の誤字脱字・誤りが無いこと（例：○形成的評価　×形式的評価　など）。
- 自分の考えを述べる際には、考えのもとになる根拠を明示すること。

参考文献

・文部科学省 『小学校プログラミング教育の手引（第三版）』
https://www.mext.go.jp/content/20200218-mxt_jogai02-100003171_002.pdf
・文部科学省 『教育ICT活用実践事例集』 http://eduict.javea.or.jp/jireishu.html
・文部科学省 『発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
・文部科学省 『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
・NHK for School 『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/
・文部科学省 『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』
https://www.mext.go.jp/content/1387543_02.pdf
・文部科学省 『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20200626-mxt_jogai02-100003155_004.pdf
・文部科学省 『新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_02.pdf
・文部科学省 『小学校プログラミング教育に関する研修教材』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm
・文部科学省 『学校における先端技術活用ガイドブック（第１版）』
https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_syoto01-100013299_001.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅪ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

福祉臨床学科専門教育科目群

科目コード	30000	科目名［単位数／学習時間］	社会福祉概論［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　4　社会福祉の原理と政策』中央法規出版				
ISBN	9784805882344	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,900	生協テキストNo.	25139
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目の目的は、社会福祉の原理、歴史、思想・哲学、社会問題と社会構造、福祉政策の基本視点、ニーズと資源、福祉政策の構成要素と過程、福祉政策動向と課題、関連施策、福祉サービスの供給と利用過程、国際比較について学ぶことにある。

到達目標

本科目の学習における到達目標は、つぎのとおりである。
①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

学習テーマ

1	社会福祉の原理、その意味と展開
2	社会福祉の歴史
3	社会福祉の思想・哲学
4	社会福祉の理論、対象、ニーズ
5	社会問題と社会構造
6	社会政策の基本的視点
7	福祉政策におけるニーズと資源
8	福祉政策の構成要素と過程
9	福祉政策の動向と課題
10	福祉政策と関連施策①（保健医療政策、教育政策）
11	福祉政策と関連施策②（住宅政策、労働政策、災害政策）
12	福祉サービスの供給と利用の過程
13	福祉政策の国際比較①（比較の視点、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、イギリス、フランス）
14	福祉政策の国際比較②（東アジア）、福祉政策の新しい潮流、国際比較の新しい課題
15	社会福祉の展望

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉の対象とニーズについて、説明しなさい。考察の最後に、学びから新たに得られた自身の気づき、自身の生活・活動に活かせることについて、具体的に書きなさい。

第2課題

福祉政策と包括的支援の現状について、説明しなさい。考察の最後に、学びから新たに得られた自身の気づき、自身の生活・活動に活かせることについて、具体的に書きなさい。

第3課題

福祉政策における住宅政策について、説明しなさい。考察の最後に、学びから新たに得られた自身の気づき、自身の生活・活動に活かせることについて、具体的に書きなさい。

第4課題

福祉サービスの利用過程について、説明しなさい。考察の最後に、学びから新たに得られた自身の気づき、自身の生活・活動に活かせることについて、具体的に書きなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章4節を中心に、福祉国家、生活支援ニーズ、新しい社会的リスク、包摂力をキイワードに、多様化する生活状況のなかで、社会福祉の対象とニーズの捉え方を整理し、考察しなさい。

第 2 課題の留意点

テキスト第 7 章、とくに 1 節を中心に、基礎構造改革、権利擁護、地域共生社会、多文化共生をキイワードに、福祉政策と包括的支援の現状について学び、考察しなさい。

第 3 課題の留意点

テキスト第 8 章 3 節を中心に、居住水準、民間賃貸住宅、高齢社会、住生活基本計画をキイワードに、福祉政策における住宅政策について学びを整理し、考察しなさい。

第 4 課題の留意点

テキスト第 9 章、とくに 3 節を中心に、受給権、権利擁護、苦情処理、第三者評価をキイワードに福祉サービスの利用過程について学び、考察しなさい。

レポートの評価基準

・テキスト、他の文献にも触れ、適切な内容、引用の明示、文字数量による記述がなされていること。
・単にテキストを抜き書きするのではなく、社会状況を踏まえ内容を理解して、考察していること。
・個人的な事例等による説明では評価にはならないので、注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストは、全体をよく読んでおくこと。また、答案作成の際は設題の趣旨を正確に理解し、論理的に、適切な記述をすること。

科目修了試験の評価基準

・テキスト全体を丁寧に読み、理解して解答すること。
・歴史・社会状況との関連で理解し、解答すること。
・適切な文字数量（解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞）を記述し、解答すること。あまりに少ない文字数量は減点となる。

参考文献

・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30001	科目名［単位数／学習時間］	社会保障論［4単位／180時間］	科目担当	村田　隆史
テキスト	●芝田英昭　鶴田禎人　村田隆史　『新版　基礎から学ぶ社会保障』　自治体研究社				
ISBN	9784880376912	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25140

科目の目的

本科目の目的は、今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割を学ぶことである。社会保障は、資本主義が構造的に生み出す貧困問題に対して、国家が国民に生活保障することを求められ、生成してきた。そのため、市場とは異なる基本原理で運用されている。具体的には、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などがある。社会保障は個別の制度を理解しながら、国民生活と社会経済を視野に入れて捉える必要がある。

到達目標

・私たちの生活と社会保障制度の関連について、説明することができる。
・社会保障制度を支える基本理念について、理解することができる。
・現在の社会保障制度をめぐる論点について、説明することができる（そのためにも日々のニュースや新聞をチェックする必要がある）。
・社会保障制度をめぐる論点について、根拠を示しながら自分の意見を述べることができる。

学習テーマ

1	社会保障とは何か【テキスト第1章】
2	社会保障のあゆみ【テキスト第2章】
3	社会保障の制度体系【テキスト第3章】
4	公的年金制度【テキスト第4章】
5	医療保険制度と「国民皆保険」【テキスト第5章】
6	介護保険制度【テキスト第6章】
7	労働保険制度【テキスト第7章】
8	障害者福祉【テキスト第8章】
9	子ども家庭福祉【テキスト第9章】
10	生活保護と生活困窮者支援制度【テキスト第10章】
11	アメリカとドイツの社会保障【テキスト第11章と第12章】
12	韓国とスウェーデンの社会保障【テキスト第13章と第14章】
13	人口減少と社会保障【テキスト第15章】
14	社会保障と福祉労働【テキスト第16章】
15	社会保障と財政【テキスト第17章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

現代の日本社会において、社会保障制度が存在する意義について説明しなさい。

第2課題

日本の社会保険の中からいずれかの制度を取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

第3課題

日本の社会福祉の中からいずれかの制度を取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

第4課題

日本の社会保障をめぐる論点の中から具体的な事例を取り上げて、その論点についてあなたの意見を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

社会保障制度は国によって発展過程や形態が異なっている。とはいえ、各国に存在することは事実であり、私たちが生活をしていく上で大きな役割を果たしている。存在意義を理解することは重要である。テキスト第1章～第3章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第 2 課題の留意点

日本の社会保障制度体系において、社会保険の果たす役割は大きい。社会保険の現状と課題について理解することは重要である。テキスト第 4 章～第 7 章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第 3 課題の留意点

社会福祉とは多様な意味があるが、私たちの生活を具体的に支えるシステムでもある。社会福祉の現状と課題について理解することは重要である。テキスト第 8 章～第10章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第 4 課題の留意点

社会構造が大きく変化していく中で、社会保障制度のあり方も常に変化している。しかし、長い時間をかけて生成され、定着してきたが故に改革をしていくことも難しく、それが現在の生活を支えきれない原因にもなっている。社会保障制度をめぐる論点を理解することは重要である。テキスト第15章～第17章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

レポートの評価基準

・テキストを丁寧に読み込み、客観的な事実をもとに論述できていること。
・テキストに掲載されていない最新の情勢を調べて、記述できているとなお望ましい。
・自らの意見を述べることは良いが、その場合は根拠を示した上で論理的に記述できていなければならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・レポート課題で取り組んだ部分以外のテキスト内容もよく復習しておくこと。
・社会保障の各制度の現状と課題について理解しておくこと。
・日本の社会保障制度のみならず、テキストで取り上げた各国の社会保障制度についても理解しておくこと。その際、日本の社会保障制度と比較する視点を持つこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・テキスト内容により得た基礎的な知識を活用しつつ、自らの意見を述べることはプラスの評価となる。ただし、「レポートの評価基準」にも記載しているが、根拠を示して論理的に記述できていることが重要である。
・試験に臨む際には、テキストの内容とレポート課題を復習しておくこと。

参考文献

・横山壽一 『社会保障の再構築』 新日本出版社
・社会保障政策研究会 『高齢期社会保障改革を読み解く』 自治体研究社
・医療・福祉問題研究会 『医療・福祉と人権ー地域からの発信』 旬報社
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30002	科目名［単位数／学習時間］	児童福祉論［4単位／180時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●伊藤嘉余子　澁谷昌史　『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉1　子ども家庭福祉　第2版』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623092932	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25120
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境をもしっかりと捉えることが必要である。さらに子どもやその家族にかかわる諸問題は、様々な事象が絡み合って生じていることをこの学習を通して理解してほしい。

本科目担当者の福祉専門職としての経験などをふまえながら、子どもを中心として家族・地域・社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識および援助方法等を習得することが目的である。

到達目標

・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について理解する。
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

学習テーマ

1	なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか及び子ども家庭福祉とは何か＜テキスト レッスン1・2＞【学習のポイント：子ども家庭福祉と基本的人権について理解する。】
2	現代社会と子ども家庭福祉ニーズ及び保育と子ども家庭福祉＜テキスト レッスン3・4＞【学習のポイント：少子化と子育てにかかる負担感及び子ども家庭福祉が求める保育士について理解する。】
3	子ども家庭福祉の歴史（1）及び（2）＜テキスト レッスン5・6＞【学習のポイント：古代～大正の歴史及び昭和以降の歴史について理解する。】
4	子ども家庭福祉に関わる国の施策及び近年の子ども家庭福祉の課題＜テキスト レッスン7・8＞【学習のポイント：児童福祉関連法の制定から現在に至るまでの改正点及び子ども・子育て支援新制度について理解する。】
5	子ども家庭福祉の制度と法体系及び子ども家庭福祉を実施する行政機関＜テキスト レッスン9・10＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える法律と行政機関の業務等について理解する。】
6	児童福祉施設等及び子ども家庭福祉の費用＜テキスト レッスン11・12＞【学習のポイント：社会的養護の施設、障害児施設等及び施設整備の費用・施設の運営費用・利用者負担について理解する。】
7	子ども家庭福祉の専門職及び子ども家庭福祉のネットワーク＜テキスト レッスン13・14＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の関係機関と関係施設の専門職及び子ども虐待の対応や障害のある子ども等への支援ネットワークについて理解する。】
8	子ども家庭福祉と権利擁護及び少子化と子育て支援サービス＜テキスト レッスン15・16＞【学習のポイント：子どもの権利擁護に関する取り組み及び少子化の現状と地域子育て支援サービスについて理解する。】
9	多様な保育ニーズへの対応及び母子保健サービス＜テキスト レッスン17・18＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度及び母子保健施策について理解する。】
10	障害のある子どもへの支援及び健全育成＜テキスト レッスン19・20＞【学習のポイント：障害のある子どもへの福祉施策及び児童厚生施設等について理解する。】
11	子ども虐待対策及びDVへの対応＜テキスト レッスン21・22＞【学習のポイント：子ども虐待の現状と防止の対策及びDVの現状とその対応について理解する。】
12	社会的養護及びひとり親家庭福祉サービス＜テキスト レッスン23・24＞【学習のポイント：施設養護と家庭養護及びひとり親家庭への支援施策について理解する。】
13	少年非行への対応及び貧困家庭の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン25・26＞【学習のポイント：児童福祉法と少年法に基づく対応及び子どもの貧困に関する対策等について理解する。】
14	外国籍の子どもとその家族への対応及び諸外国の動向＜テキスト レッスン27・28＞【学習のポイント：保育所等における外国籍の子どもとその家族への支援及び諸外国の動向について理解する。】
15	子どもの発達・成長と保育者に求められる視点及びこれからの子ども家庭福祉の展望＜テキスト レッスン29・30＞【学習のポイント：子どもと家庭をとりまく課題と保育者に求められる視点及び子ども家庭福祉の今後の動向について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

近年、児童福祉は子ども家庭福祉という捉え方に変わってきた。その理由を説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉を推進するため様々なネットワークがあるが、その目的と取り組みについて説明しなさい。

第3課題

子ども・子育て支援新制度の成立の背景と制度の概要について説明しなさい。

第 4 課題

子ども家庭福祉における「社会的養護」の現状と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章、特にレッスン 2 ・ 3 を熟読すること。少子化や子育て不安等、社会情勢の変化のもと「児童の権利に関する条約」の理念や、ウェルビーイングの考え方を反映させてまとめること。テキスト以外の文献も参考とすること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章、特にレッスン13・14を熟読すること。テキストの各所にでてくる要保護児童対策地域協議会や母子健康包括支援センター等のキーワードを理解してまとめること。テキスト以外の文献も参考にすること。

第 3 課題の留意点

テキスト第 2 章レッスン 8 、第 4 章レッスン16・17を熟読すること。少子化社会を背景に成立した子ども・子育て支援新制度の支援事業は、多種多様で複雑である。テキスト以外の文献も参考にして、よく整理して分かりやすくまとめること。

第 4 課題の留意点

テキスト第 4 章レッスン23を中心に、被虐待児童の保護の視点からレッスン21の子ども虐待対策にも関連付けて現状と今後の課題について整理すること。テキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、熟読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は、テキストであっても必ずその引用先等を示しておくこと。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるが、特に課題で取り上げられたこと、児童福祉法、児童虐待防止法、ひとり親家庭の支援について理解しておくこと。
・子どもの権利擁護について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・現代社会における子ども家庭福祉の意義をよく理解して作成されていること。
・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・設問に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

・厚生労働省HP
・こども家庭庁HP
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・社会福祉法人大阪ボランティア協会　『福祉小六法（最新版）』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30003	科目名［単位数／学習時間］	障害者福祉論［4単位／180時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●相澤譲治　橋本好市　津田耕一『障害者福祉論　障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法』みらい				
ISBN	9784860155445	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25141
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長				

科目の目的

社会福祉の領域では制度の改変が続いている。障害者福祉の分野においても近年の動向として、障害者権利条約の批准、障害者虐待防止法、障害者差別解消法の整備をはじめ、障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行等がある。障害者福祉の基本理念や法体系を捉えつつ、本科目担当者が障害者支援に携わった経験などを踏まえて障害者の権利擁護、生活支援、自立支援などについて学ぶ機会とする。

到達目標

・障害者福祉の理念と障害の概念を理解する。
・障害者の生活と実態を理解する。
・障害者福祉のサービス体系を理解する。
・障害者の生活保障（雇用・就労）を理解する。
・障害者福祉を支える専門職と多職種連携を理解する。

学習テーマ

1	「障害者福祉の視点」について【学習の基本姿勢を学ぶ。】＜テキスト第1章＞
2	「障害者福祉の歴史」について【わが国と諸外国を対比して学ぶ。】＜テキスト第2章＞
3	「障害者福祉の基本理念」について【特に現代における基本理念を学ぶ。】＜テキスト第3章＞
4	「障害の概念、そのとらえ方」について【特に国際生活機能分類を学ぶ。】＜テキスト第4章＞
5	「障害者福祉実践における今日的視点」について【ストレングス、エンパワメントについて理解する。】＜テキスト第5章＞
6	「障害者の生活とニーズ」について【特に障害者の生活の実態を理解する。】＜テキスト第6章＞
7	「障害者福祉の法体系と実施機関」について【特に法の目的と関わる実施機関を理解する。】＜テキスト第7章＞
8	「障害者福祉のサービス体系」について【特にサービス給付の仕組みを理解する。】＜テキスト第8章＞
9	「障害者の社会参加」について【特に社会参加を拒む要因と克服への課題を理解する。】＜テキスト第9章＞
10	「権利擁護」について【特に権利擁護にかかわるシステムを理解する。】＜テキスト第10章＞
11	「障害者の生活保障」について【特に雇用・就労について学ぶ。】＜テキスト第11章＞
12	「障害者福祉を支える人々」について【専門職だけでなくその他の支援者についても理解する。】＜テキスト第12章＞
13	「障害者ケアマネジメント」について【特に障害者マネジメントの必要性、理念、展開過程について理解する。】＜テキスト第13章＞
14	「障害者ソーシャルワークの実際」について①【身体障害者の事例を学ぶ。】＜テキスト第14章＞
15	「障害者ソーシャルワークの実際」について②【知的障害者の事例を学ぶ。】＜テキスト第14章＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

第二次世界大戦後から今日に至るまでのわが国における障害福祉の変遷について概説しなさい。

第2課題

今日のソーシャルワーク実践における基本的視点について説明しなさい。

第3課題

障害者基本法と障害者総合支援法について説明しなさい。

第4課題

当事者の地域生活を支援する障害者ケアマネジメントにあたり留意すべきことはどのようなことか述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章を熟読し、障害者権利条約の採択等を押さえたうえで、戦後の障害福祉の変遷を整理すること。なおテキストの丸写しではなく、テキスト以外の文献も参考にして分かりやすくまとめること。

第 2 課題の留意点

テキストの第 5 章を熟読すること。障害者支援ではエンパワメント志向の実践が求められている。なおテキストだけではなく、テキスト以外の文献も参考にして分かりやすくまとめること。

第 3 課題の留意点

テキスト第 7 章を熟読し、法律の目的や理念に加え成立の経緯も説明すること。テキストの丸写しではなく、分かりやすい説明に努め、テキスト以外の文献も参考にすること。

第 4 課題の留意点

テキスト第13章の 1 を熟読すること。特に、ケアマネジメントの必要性、意味、理念、展開過程を理解したうえで整理して述べること。テキストの丸写しではなく、分かりやすい説明に努めること。また、テキスト以外の文献も参考にすること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨、専門用語の意味を正しく理解して、自分なりの視点で課題を考察し、分かりやすく論述していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・文章の主語・述語に留意して、誤字・脱字・変換ミスが無いこと。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「到達目標」をふまえ、テキストの該当する各章を精読し、ポイントを整理して理解しておくこと。特にテキストに出てくる障害者福祉関連諸法の内容について整理して理解しておくこと。答案作成にあたっては常に、合理的配慮と差別の禁止など障害者権利条約・障害者基本法の理念、障害者の権利擁護、本人中心の支援の視点を忘れないこと。また障害者の雇用・就労についても学習しておくこと。

科目修了試験の評価基準

試験は論述問題 1 題で評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・設題の内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができていること。
・テキスト学習で学んだことを基礎に、専門用語を取り入れた答案を合格点とするが、「科目の目的」や「到達目標」をふまえずに自説のみに終始しても評価はしない。

参考文献

・厚生労働省HP
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・社会福祉法人大阪ボランティア協会　『福祉小六法（最新版）』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30004	科目名［単位数／学習時間］	老人福祉論［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座　2　高齢者福祉』中央法規出版				
ISBN	9784805882450	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25142
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

高齢者の福祉問題は、少子・高齢社会といわれる現代社会において、すべての人が避けて通ることができない関心事である。「老い」がもたらす生活上の問題をとらえ、現状に対して、対応できる法制度、サービスについて学んでいく。

具体的には、高齢者の心身状況の特性を知り、社会的な存在価値を高齢者自身が実感できるようなQOLの維持・向上を獲得した生活の実現化を考えていく。高齢者福祉の理念にもとづき、歴史、制度・政策の概要を学び、サービス、実践の場と方法、利用者側の参加・意思表示、民間組織の役割などについて幅広く理解する。

テキストを熟読・理解し、制度の変更等社会動向について厚生労働省の資料等を把握し、他の文献にも触れ、レポートの構成を考え、学びを進める。実務経験を活かし、実践的・支援的視点から教授する。

到達目標

具体的には、次の内容を習得する。

①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解する。②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

上記の知識を最新の統計や制度を取り込んで理解する。

学習テーマ

1	高齢者の定義と特性、少子社会の到来について理解する。
2	高齢者の生活実態について理解する。
3	高齢者を取り巻く社会環境について理解する。
4	高齢者福祉の歴史、高齢者福祉の理念について理解する。
5	介護保険制度の概要、地域支援事業について理解する。
6	介護保険サービスの体系について理解する。
7	高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法について理解する。
8	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法について理解する。
9	バリアフリー法、高齢者住まい法について理解する。
10	高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援について理解する。
11	高齢者と家族等の支援に関わる関係機関と役割（行政、指定サービス事業者、国保連、他）について理解する。
12	高齢者と家族等を支援する専門職等の役割（公私の専門職）について理解する。
13	高齢者と家族等を支援するソーシャルワーカーの役割（支援過程、レパートリー）について理解する。
14	認知症、終末期ケアにおけるソーシャルワーク、チームアプローチについて理解する。
15	高齢者と家族等に対する支援の方法の実際、地域包括ケアシステムとの関連について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

少子高齢社会の到来の状況と課題について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の日常生活・活動や仕事等に、どう具体的に活かされるか、記述しなさい。

第2課題

介護保険のサービス体系について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の日常生活・活動や仕事等に、どう具体的に活かされるか、記述しなさい。

第3課題

高齢者虐待防止法について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の日常生活・活動や仕事等に、どう具体的に活かされるか、記述しなさい。

第4課題

市町村独自の高齢者支援について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の日常生活・活動や仕事等に、どう具体的に活かされるか、記述しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章を中心に、とくに 2 節をよく読み、高齢化率、長寿化、人口構造、世帯をキイワードにして整理し、高齢者の生活環境と課題が理解できるように学ぶ。

第 2 課題の留意点

テキスト第 4 章を中心に、とくに 3 節をよく読み、居宅、介護予防、地域密着、施設、住宅改修をキイワードにして整理し、介護保険サービスの体系、特徴が理解できるように学ぶ。

第 3 課題の留意点

テキスト第 5 章 9 節を中心に、法の概要、虐待の種類、未然防止、対応の強化をキイワードにして整理し、高齢者虐待への対策が理解できるように学ぶ。

第 4 課題の留意点

テキスト第 4 章 2 節、第 5 章 9 節を中心によく読み、介護保険以外、地域支援事業、一般会計、地域共生社会をキイワードにして整理し、地域の実情に合わせた高齢者支援のしくみ・工夫が理解できるように学ぶ。

レポートの評価基準

「各課題の留意点」に沿ったレポート構成、適切な文字表現、課題の論述に十分な文章量、参考文献の記載等から評価する。使用文献と引用箇所は明示すること。個人的な事例は書かないこと。インターネットのみの情報の貼り付けや自己の体験等でレポートを作成しないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全範囲をよく読んで理解を深めておくこと。また、テキスト以外の新たな報道や改正点等を踏まえた文献にも目をとおして理解を深め、レポート課題以外のテキストの学習箇所も理解しておくこと。設題の趣旨を正確に把握し、解答できるよう心がけることが必要。

科目修了試験の評価基準

・設題に対する適切な内容の解答、論述に十分な文章量、適切な文字表現等から評価する。
・設題に関連する経験や意見は書かないこと。
・設題を解く力を評価する。キイワードがない周辺事情を論じても適切な解答としては評価しない。
・テキストよりも古い情報は、評価しない。

参考文献

・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・厚生労働省HP　『厚生労働白書（最新版）』
注意：参考文献以外の文献にもあたり、最新の高齢者福祉・介護の動向を押さえてほしい。本領域は頻繁に法制度が変わるので、指定の文献以外のものや、インターネットではWAM NET等は参考程度にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30006	科目名［単位数／学習時間］	地域福祉論［2単位／90時間］	科目担当	手島　洋
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座9　地域福祉の理論と方法　第3版』 中央法規出版				
ISBN	9784805851050	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません
実務経験のある教員による科目	社会福祉協議会（地域福祉部長）				

科目の目的

日本の地域福祉は、社会福祉政策において、高度経済成長末期から在宅福祉サービスの発展や福祉施策の市町村への分権化を経て、市町村地域福祉計画の策定が位置づけられるようになった。しかし、経済低成長下の日本の多くの福祉ニーズに対応するため、住民福祉活動の支えあいをインフォーマルな社会資源として政策が期待するなど、“住民主体の地域福祉”をめぐっては多くの課題があるのが現状である。これらの背景に注意しつつ、本科目では、地域福祉の概念と歴史を確認したうえで、様々な地域福祉の制度や活動について地域福祉実践の具体的な特徴と課題について学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

地域福祉の特徴と固有性について、他の対象別社会福祉分野との相違点を意識して理解を深めてほしい。また、地域福祉の対象者であり主体者でもある福祉当事者も含めた“地域住民”と地域住民のかかえる生活課題の解決を支援する“専門性”の関係性やネットワークの課題についても検討してほしい。

主な学習項目の柱は次のとおり。

- 地域福祉の理念・歴史・主体・現状（テキスト第1章～第3章、第12章・第13章参照）
- 地域福祉の推進組織と住民参加（テキスト第4章・第6章参照）
- コミュニティソーシャルワーク（テキスト第5章・第11章・第12章参照）
- ソーシャルサポートネットワーク（テキスト第7章参照）
- 地域福祉のニーズと社会資源（テキスト第8章・第9章参照）
- 地域トータルケアシステム（テキスト第10章参照）

学習テーマ

1	地域福祉の理念【学習のポイント：地域福祉を理解する基盤となる理念を理解する。】
2	地域福祉の歴史【学習のポイント：地域福祉の理論と実践を形成してきた歴史を理解する。】
3	地域福祉の主体【学習のポイント：地域福祉における主体の意味と主体形成について理解する。】
4	地域福祉に関わる法制度【学習のポイント：地域福祉を推進する法律や制度について理解する。】
5	地域福祉の推進組織①【学習のポイント：社会福祉協議会について理解する。】
6	地域福祉の推進組織②【学習のポイント：地域包括支援センターなどの組織について理解する。】
7	地域福祉と住民参加【学習のポイント：地域福祉推進の上での住民の役割について理解する。】
8	コミュニティソーシャルワーク①【学習のポイント：コミュニティソーシャルワークの概念を理解する。】
9	コミュニティソーシャルワーク②【学習のポイント：コミュニティソーシャルワークの方法を理解する。】
10	ソーシャルサポートネットワーク【学習のポイント：地域における支援の組織化を理解する。】
11	地域福祉のニーズ把握【学習のポイント：地域のニーズの概要と把握について理解する。】
12	地域の社会資源とその開発【学習のポイント：地域の社会資源の把握と開発の方法を理解する。】
13	地域トータルケアシステム【学習のポイント：地域の総合的な支援のシステム化を理解する。】
14	災害と地域福祉【学習のポイント：災害時の地域福祉の方法論の展開について理解する。】
15	まとめ【学習のポイント：これまでの内容の振り返りを行う。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

市町村社会福祉協議会の概要と課題について述べなさい。

第2課題

地域福祉における住民参加の意義と課題について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

地域福祉の総合推進組織である市町村社会福祉協議会についての基本的な理解を目的としたレポート課題である。テキスト第4章第2節を中心に考えるのだが、社会福祉協議会の成り立ちや地域福祉を推進する組織の連携（テキスト第2章第4節参照）についても検討し、さらに身近な地域の社会福祉協議会の実際の活動内容もふまえて検討してみることが望ましい。

第 2 課題の留意点

住民主体の地域福祉活動を推進するために欠かせない住民参加の全体像を理解することを目的としたレポート課題である。テキスト第 6 章第 1 節及び第 3 節の内容を中心に考えるのだが、地域福祉の主体形成（テキスト第 3 章第 1 節参照）や住民活動と専門職との連携（テキスト第 5 章第 5 節参照）についても言及しつつ、さらに自分の仕事や生活の上での身近な場面での地域福祉活動への住民参加についても検討してみることが望ましい。

レポートの評価基準

それぞれの課題について、テキストの記述をふまえて要点を簡潔にまとめて、さらに自分自身の考えをテキストのまとめとは区別して的確に述べられているかについて評価する。

具体的には、①テキストの記述をふまえたうえで、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等で調べた内容を加味して課題について論述している。②課題の内容について社会の実際の課題状況をふまえて論述している。③誤字脱字がないことも含めて適切な文章を作成する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストから幅広く出題するが、主としてテキストの記述内容を中心とした記述がされていることが基本的理解の判断の基準となる。そのうえで、主な論点については、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等を検討した質の高い答案作成を期待する。なお、これまでの試験では、設問と全く関係のない解答がしばしば見受けられた。このような場合は、必ず不合格となるので注意すること。

科目修了試験の評価基準

設問の趣旨を理解し、テキストの内容をふまえて適切に解答ができているかを中心に評価する。そのうえで、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等から得た知識により解答を深めた場合には、上記の評価に加点する。また、設問と関係のない解答内容は、評価の対象としないので注意すること。

参考文献

・岩間伸之　原田正樹　『地域福祉援助をつかむ』　有斐閣
・牧里毎治　杉岡直人　森本佳樹　『ビギナーズ地域福祉』　有斐閣

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30008	科目名［単位数／学習時間］	公的扶助論［2単位／90時間］	科目担当	村田　隆史
テキスト	●一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座　4　貧困に対する支援』中央法規出版				
ISBN	9784805882474	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25143

科目の目的

本科目の目的は、今日の貧困をめぐる実態を把握し、「最後のセーフティネット」としての公的扶助制度の役割について理解することである。公的扶助制度は、他の社会保障・社会福祉制度、労働政策との兼ね合いによって役割が変化していくので、社会保障論、社会福祉学概論の知識も必要となってくる。また、数多く存在するニュースや新聞報道を貧困という視点から捉えることができるようになってほしい。

到達目標

・私たちの生活と公的扶助制度の関連について、説明することができる。
・公的扶助制度の発展過程と制度を支える基本理念について、理解することができる。
・生活保護制度をめぐる論点について、説明することができる（そのためにも日々のニュースや新聞をチェックする必要がある）。
・低所得者に対する法制度をめぐる論点について、説明することができる
・生活保護制度や低所得者に対する法制度をめぐる論点について、根拠を示しながら自分の意見を述べることができる。

学習テーマ

1	公的扶助の概念【テキスト第1章】
2	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境①【テキスト第2章の第1節】
3	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境②【テキスト第2章の第2節と第3節】
4	貧困の歴史①【テキスト第3章の第1節と第2節】
5	貧困の歴史②【テキスト第3章の第3節】
6	生活保護制度①【テキスト第4章の第1節】
7	生活保護制度②【テキスト第4章の第2節】
8	生活困窮者自立支援制度【テキスト第5章の第1節】
9	生活福祉資金貸付制度【テキスト第5章の第2節】
10	低所得者対策【テキスト第5章の第3節】
11	ホームレス対策【テキスト第5章の第4節】
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①【テキスト第6章の第1節と第2節】
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②【テキスト第6章の第3節と第4節】
14	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割③【テキスト第6章の第5節と第6節】
15	貧困に対する支援の実際【テキスト第7章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

現代の日本社会において、公的扶助制度が存在する意義について説明しなさい。

第2課題

生活保護制度もしくは低所得者に対する法制度のいずれかを取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

公的扶助制度は国によって発展過程や形態が異なっている。とはいえ、各国に存在することは事実であり、私たちが生活をしていく上で大きな役割を果たしている。存在意義を理解することは重要である。テキスト第1章～第3章を参考にレポート作成すること。

第2課題の留意点

現存する制度の現状と課題についてレポート作成するため、何を「現状」と「課題」と捉えるのかをまずは考えて欲しい。「何のための制度でどうあるべきか」を第1課題で考えれば、第2課題も取り組みやすいと考えられる。テキスト第4章～第6章を参考にレポート作成すること。テキストは必ずしも制度の評価を積極的には行っていないため、他の文献を参考に踏み込んだ分析を行ってもよい。

レポートの評価基準

・テキストを丁寧に読み込み、客観的な事実をもとに論述できていること。
・テキストに掲載されていない最新の情勢を調べて、記述できているとなお望ましい。
・自らの意見を述べることは良いが、その場合は根拠を示した上で論理的に記述できていなければならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・レポート課題で取り組んだ部分以外のテキスト内容もよく復習しておくこと。
・各制度の現状と課題について理解しておくこと。
・各制度が存在するための前提となる公的扶助の基本原理と発展過程について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・テキスト内容により得た基礎的な知識を活用しつつ、自らの意見を述べることはプラスの評価となる。ただし、「レポートの評価基準」にも記載しているが、根拠を示して論理的に記述できていることが重要である。
・試験に臨む際には、テキストの内容とレポート課題を復習しておくこと。

参考文献

・岩永理恵 『生活保護は最低生活をどう構想したかー保護基準と実施要領の歴史分析ー』 ミネルヴァ書房
・村田隆史 『生活保護法成立過程の研究』 自治体研究社
・岩田正美 『リーディングス 日本の社会福祉 第2巻 貧困と社会福祉』 日本図書センター

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30011	科目名[単位数／学習時間]	福祉レクリエーション論［2単位／90時間］	科目担当	宮辻　和貴
テキスト	●日本レクリエーション協会 『福祉レクリエーションシリーズⅠ　福祉レクリエーション総論』 中央法規出版				
ISBN	9784805819012	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません

科目の目的

福祉レクリエーションの基本的な考え方と福祉レクリエーションを支える理論について学習する。社会福祉の歴史の中で「遊び」や「レクリエーション」がどのような位置づけにあるのかを知り、社会福祉（サービス）の新しい方向と、これからレクリエーションがどのような役割を果たさなくてはならないのかを整理する。

その上で「生活のレクリエーション化」と「レクリエーションの生活化」の両面から考えるとともに、福祉レクリエーションの内容とそれが展開される「場」についての理解を深める。

到達目標

福祉レクリエーションが如何なる意味か、レクリエーション概念の発生と展開されてきた「場」を追いつつ、社会福祉（サービス）とレクリエーションがどのように関わってきたのかを検討しながら、福祉レクリエーションの考え方を理解する。そこで、福祉レクリエーションの歴史を把握することにより、現在の法体系と行政施策の中でレクリエーションの位置づけについて学ぶことができる。

また、福祉レクリエーションを展開する場は、医療・保健・社会福祉・生涯学習サービスと4つの分野に分類されているが、それぞれの特徴やどのような課題を抱えているのかなどの視点について学習する。

学習テーマ

1	福祉レクリエーションについて【福祉レクリエーションの定義を理解する。】
2	福祉レクリエーションの考え方について【福祉レクリエーションの目的や意義を理解する。】
3	戦後の社会福祉分野におけるレクリエーションの歩みについて【社会福祉の歴史を理解する。】
4	福祉レクリエーションに関わる法体系と行政施策について【社会福祉の法律を理解する。】
5	福祉レクリエーションと生活の質について【日常生活からレクリエーションを理解する。】
6	福祉レクリエーションの内容について【各領域の福祉レクリエーションを理解する。】
7	福祉レクリエーションの展開分野の概観について【各分野の福祉レクリエーションを理解する。】
8	福祉レクリエーション援助について①【福祉レクリエーション援助の定義を理解する。】
9	福祉レクリエーション援助について②【福祉レクリエーション援助の役割と影響を理解する。】
10	福祉レクリエーション援助について③【福祉レクリエーション援助の特質を理解する。】
11	福祉レクリエーション援助の全体像について【福祉レクリエーション援助のプロセスを理解する。】
12	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンスについて①【主体者と援助者の役割を理解する。】
13	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンスについて②【媒介者の役割を理解する。】
14	福祉レクリエーション援助者の活動領域について【援助者の活動領域での役割を理解する。】
15	レクリエーション援助者の資質と能力について【援助者の資質と能力を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

児童福祉法とレクリエーション施策に関する内容を整理したうえで、今後の在り方についてあなたの考え（自身が改善する必要があると考える内容などを提案すること）を述べなさい。

第2課題

福祉レクリエーションが展開される分野（医療・保健・社会福祉・生涯学習サービス）の中から1つを選択したうえで、その選択した分野において課題になっていることと、その改善策についてあなたの考えを述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

福祉レクリエーション全般に関係する法制度の中で示されている児童福祉法とレクリエーション施策について、どのような内容をベースとしているのかを整理するとともに、今後の在り方を考えるうえで自身が改善する必要がある内容などを提案すること。

テキストの第1部「福祉レクリエーションの考え方」（pp. 3 -58）、第4部「資料編」（pp.171-191）を参照しながら理解を深めること。

第2課題の留意点

福祉レクリエーションが展開される分野（選択した分野のみ）において、これまで抱えてきた問題点を踏まえ、今後どのような展開が望まれているのかを整理（あなたの考えを含む）すること。

テキストの第2部「福祉レクリエーションの展開」（pp.61-110）、第4部「資料編」（pp.171-191）を参照しながら理解を深めること。

レポートの評価基準

「科目の目的」、「到達目標」に対する意義や意味を理解したうえで、テキストから学んだ内容をレポート課題に反映できるように心掛ける。その中で「課題の留意点」に注意しながら、自身の考えや表現などが含まれているかどうかについても併せて評価する。

以下の評価基準とする。

・レポートの基本的形式が整えられている（段落の使い方、接続詞の使い方、語尾の使い方、一文の長さ、引用の仕方、文献情報の有無、誤字脱字など）。
・レポートが読み手に伝わるように作成されている（ストーリー展開がなされているかなど）。
・レポート課題に対する論述がなされている（自身の考えや表現など）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われているテーマから出題する。テキストをよく読み、理解を深めておくことが必要である。そのため、テキストで述べられているポイントとキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）を用いながら、設題に対してまとめることが重要である。

また、自身の考えを述べる場合は、テキストにある記述との関連性を正確に把握したうえで、理論立てて記述すること。

テキストの第1部から第3部まで（pp. 3 -144）の内容を必ず熟読したうえで、それぞれの部や章で示されているポイントとキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）についても確認しておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨をよく読み取り、ポイントやキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）となる事項や自身の考えが含まれたうえで、設題に対する内容が正確に反映されてまとめられているのかを中心に評価する。

また、単純に言葉を羅列したり、同じ内容を繰り返し説明するなど、設題内容を正しく理解していない場合や論理的な記述ができていない場合は評価しない。さらに、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述がない場合も同様である。

なお、テキスト内容において得られた基礎的な知識を活用して、設題に対して自身の考えが含まれた内容になるほど満点に近い評価となる。

参考文献

・日本レクリエーション協会　『福祉レクリエーションシリーズⅡ　福祉レクリエーション援助の方法』　中央法規出版
・日本レクリエーション協会　『福祉レクリエーションシリーズⅢ　福祉レクリエーション援助の実際』　中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30012	科目名[単位数／学習時間]	福祉コミュニケーション論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●鈴木雅人　『「相談力」入門　対人援助職のためのコミュニケーションスキル36』　中央法規出版				
ISBN	9784805837993	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	25144
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

対人援助に携わる者にとって、福祉サービスの利用者とのコミュニケーションには、一般的なコミュニケーションの基礎理論をふまえ、専門的関わりの技法として科学的根拠ある配慮をしながら、状況を十分理解し、柔軟に対応することが求められる。また、利用者主体の支援には、支援者は利用者の想いを理解し、最大限尊重しながらその想いを引き出すことが求められる。本科目では対人援助職としての利用者とのコミュニケーションの中でも「相談」に焦点を当てて、相談力を高めるために必要な内容を理解することを目的とする。

到達目標

・対人援助職として相談の構造を理解する。
・対人援助職として自己覚知について理解する。
・対人援助における利用者理解に関する基本姿勢、技法などについて理解する。

学習テーマ

1	福祉の相談専門職について理解する。＜テキストpp. 2 -12＞
2	相談力の全体像を理解する。＜テキストpp.13-32＞
3	福祉の相談専門職としての相談の受け方について理解する。＜テキストpp.33-45＞
4	利用者の個別ニーズ理解のための話の要素の把握、相談専門職としての観察力、自己覚知について理解する。＜テキストpp.46-59＞
5	利用者のニーズとウォンツについて理解する。＜テキストpp.60-65＞
6	相談場面における相談専門職の意図的な取り組みと傾聴について理解する。＜テキストpp.66-90＞
7	相談専門職としての安心感と、共感について理解する。＜テキストpp.91-107＞
8	相談専門職の信頼性と専門性について理解する。＜テキストpp.108-116＞
9	相談場面におけるアプローチについて理解する。＜テキストpp.117-122＞
10	利用者の自己肯定感とモチベーションアップのために必要な関わりについて理解する。＜テキストpp.123-130＞
11	利用者の変化について理解する。＜テキストpp.131-144＞
12	相談専門職としてのプレゼンテーションの技術、利用者の変化の察知、利用者の気付きをもたらす技術について理解する。＜テキストpp.145-163＞
13	利用者が行動し、想像するための相談専門職としての関わり、相談後のフォローについて理解する。＜テキストpp.164-177＞
14	相談専門職としてのゴール思考、感情表現、感情コントロール、客観視について理解する。＜テキストpp.178-207＞
15	相談専門職としての記録などについて理解する。＜テキストpp.209-221＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

福祉専門職として、相談力を学ぶ意味について、説明しなさい。考察に、学びから得られた気づきが自身の日常生活・活動、仕事等にどう活用できるか具体的に書きなさい。

第2課題

福祉相談の専門職として、必要性（ニーズ）と要望（ウォンツ）について、説明しなさい。考察に、学びから得られた気づきが自身の日常生活・活動、仕事等にどう活用できるか具体的に書きなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章3、4を中心によく読み、相談力、コミュニケーション、クライアント、自己成長をキーワードに用いて、学んで理解したことを記述しなさい。

第2課題の留意点

テキスト第3章1を中心によく読み、主観、感情、専門的、客観的をキーワードに用いて、学んで理解したことを記述しなさい。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。
・文章の内容が正しくとも、課題の趣旨に合致した内容でなければ評価できない。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいる。
・テキストの転記ではなく、参考文献や関係資料を活用してレポート作成に取り組んでいる。
・引用文献、参考文献を適切に明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの熟読により正しい知識を習得し、設題の内容を正確に理解すること。特に、「福祉専門職として相談を学ぶ意味」や「相談と日常会話の違い」、相談スキルを高める「自己覚知」、「プレゼンテーションの技術」、「ゴール思考」、「記録」については学習し理解を深めておくこと。
・論理的な文章で記されており、自分の意見を記す場合は、テキストの内容との関連性を明確に示す。
・自分の意見だけでは主観的な感想文になることが多いため、客観的な視点が必要である。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキストに基づいた出題であるため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答し、自分の意見を述べる場合は、テキストとの関連性を明確に示す。
・解答した文章の内容が正しくとも、設題の趣旨に合致した内容でなければ評価できない。
・設題とは無関係で私的な文章が記されていると、減点の対象となる場合がある。
・設題内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができており、誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ等、文章作成の基本に則っていない場合は減点対象となる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30013	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉援助技術論Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座11　ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規出版				
ISBN	9784805882412	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,900	生協テキストNo.	25145
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本テキスト履修科目は、スクーリング履修科目の「社会福祉援助技術論Ⅰ」と合わせて4単位となる。
本科目は、ソーシャルワークの基礎的な学びをとおして、ソーシャルワークの役割と使命、そのために必要な知識と技術、価値の習得を目的とする。
なお、テキストの相談援助は、ソーシャルワークと同義である。

到達目標

本科目は、以下の内容を到達目標とする。
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
④社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。
⑤ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
⑦総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

学習テーマ

1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士とは（法律的位置づけ、専門性）
2	ソーシャルワーカーの専門性、コンピテンシー
3	ソーシャルワークの概念（ソーシャルワークの定義、構成要素）
4	ソーシャルワークの原理、理念
5	ソーシャルワークの形成過程（欧米）
6	ソーシャルワークの形成過程（統合化）
7	ソーシャルワークの形成過程（日本）
8	ソーシャルワークの倫理
9	ソーシャルワークの倫理的ジレンマ
10	ソーシャルワークの専門職の概念、範囲、職域
11	ソーシャルワーク実践が展開される組織、機関、団体と専門職
12	諸外国のソーシャルワークの動向
13	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
14	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点
15	総合的かつ包括的な支援における多職種連携、チームアプローチ

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークの定義について説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

第2課題

ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロの対象について、説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章、とくに1節を中心によく読み、グローバル、任務、社会正義、民族固有をキーワードに、学んだことを記述すること。

第2課題の留意点

テキスト第7章、とくに1節を中心によく読み、個人、グループ、社会、人と環境をキーワードに、学んだことを記述すること。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。適切な文字数量が書かれていること。あまりに少ない文字数量は、評価できないことがある。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいる。
・テキストの抜き書きではなく、参考文献や関係資料を活用し、自分の文章でレポート作成に取り組んでいる。
・引用文献、参考文献を適切に明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの全範囲をよく読み、知識の習得と捉え方の変容を把握し、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で記し、自分の考え等は、考察等必要な箇所でのみ記述すること。
・主観的な内容、個別の事例をとおしての設題への解答に替えることはしないこと。

科目修了試験の評価基準

・テキスト全体をよく読んだうえでの用語、内容についての正しい理解と記述が必要である。
・設題の内容を正しく理解し、適切に解答すること。自分の意見で解答に替える表現は評価できない。
・誤字・脱字は、減点の対象となる場合もある。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

参考文献

・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30014	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉援助技術論Ⅱ［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉養成講座12　ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版				
ISBN	9784805882429	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,900	生協テキストNo.	25146
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目は、ソーシャルワークの実践理論、展開過程、モデル、アプローチ、レパートリー、技法について、事例等を活用して学ぶ。
なお、テキストの相談援助はソーシャルワークと同義である。

到達目標

本科目は、以下の内容を到達目標とする。
①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。
②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。
③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。
⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
⑥社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
⑦支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
⑧社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。
⑨個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

学習テーマ

1	ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用に関する理論
2	ソーシャルワークの展開過程（インテーク、エンゲージメント）
3	ソーシャルワークの展開過程（アセスメント）
4	ソーシャルワークの展開過程（プランニング）
5	ソーシャルワークの展開過程（介入、モニタリング）
6	ソーシャルワークの展開過程（終結、評価、アフターケア）
7	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ
8	ソーシャルワークの面接
9	ソーシャルワークの記録
10	ケアマネジメント
11	グループを活用した支援
12	コミュニティワーク
13	ソーシャルアドミニストレーション
14	ソーシャルアクション
15	スーパービジョンとコンサルテーション

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークにおけるモニタリングについて、説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

第2課題

ソーシャルワークにおける危機介入アプローチについて、説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

第3課題

ソーシャルワークにおけるナラティヴアプローチについて、説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

第4課題

コミュニティワークについて、説明しなさい。考察の最後に、本課題の学びが自身の日常生活行動、仕事等にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 5 章を中心に、とくに 2 節をよく読み、目的、内容、留意点、再アセスメントをキーワードに、学んだことを記述すること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 7 章を中心に、とくに 2 節ー10をよく読み、リンデマン、キャプラン、アギュララ、危機モデルをキーワードに、学んだことを記述すること。

第 3 課題の留意点

テキスト第 7 章を中心に、とくに 2 節ー12をよく読み、「物語」、ドミナント、オルタナティヴ、外在化をキーワードに、学んだことを記述すること。

第 4 課題の留意点

テキスト第12章を中心に、とくに 1 - 2 節をよく読み、目的、小地域、地域アセスメント、社会資源をキーワードに、学んだことを記述すること。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。適切な文字数量が必要である。極端に少ない場合には、評価できないことがある。
・課題の内容を正しく理解して、記述していること。
・テキストの抜き書きでなく、引用文献、参考文献を適切に明示し、文章構成していること。
・考察が書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの全範囲を習得し、正しい知識をもとに、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で書くこと。主観的な意見、感想によって、設題の解答に替えることはできない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・専門用語等の正しい理解と記述が必要である。
・設題の内容を正しく理解して解答すること。
・適切な文字数を記述すること。
・設題と無関係な私的文章等は、減点となる場合がある。

参考文献

・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30015	科目名［単位数／学習時間］	介護概論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●菊池信子　『福祉実践をサポートする　介護概論　第2版』　教育情報出版				
ISBN	9784938795924	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,381	生協テキストNo.	25147
生協へお申し込みください					
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

高齢者や障害者のなかで介護を要する人の特性とそれに影響される日常生活の状況を理解し、自らの人生・生活の問題として、介護問題を捉えられるようにする。また、介護の概念・対象を把握し、介護職や福祉職（ソーシャルワーカー）等介護に関わる専門職として必要な対人支援の価値・知識・方法（介護過程、介護保険の運用等）について学んでいく。さらに、要介護状態への個別の対応の留意点、具体的な身辺介護の方法について学ぶ。介護支援に有効な福祉用具、住宅改修など生活環境の改善についても学ぶ。

また介護を支える家族、地域の環境とネットワーク、他の専門職との連携・チームワーク、権利擁護等についても実務経験を活かして教授する。

到達目標

具体的には、次の内容を学んでいく。

社会福祉士（ソーシャルワーカー）に必要とされる介護の理解（ケアワークとの関係から）、介護問題の背景、介護問題の現状、家族介護の問題、介護に関する制度・政策の経緯、介護保険法、介護報酬、介護の理念・倫理・目的、介護に携わる専門職の職種、資格、業務内容、今後の方向性、要介護者へのアプローチの方法（展開過程、連携、ケアマネジメント等）、臨床的介護（身辺介護）の技法、要介護者への対応技法（コミュニケーション、レクリエーション等）、福祉用具、住環境整備、地域環境とネットワークづくり、権利擁護、虐待防止、状態別対応の留意点（寝たきり、認知症、終末期、困難ケース）、事例研究、支援計画の立て方。

学習テーマ

1	人権を基盤とした介護理解について学ぶ。
2	要介護で生活するということについて学ぶ。
3	介護問題の歴史的変遷について学ぶ。
4	介護に関する制度的変遷について学ぶ。
5	介護に関連する現行制度について学ぶ。
6	介護保険法の最新情報について学ぶ。
7	介護保険の改正点、今後の方向性について学ぶ。
8	介護に関連する諸制度について学ぶ。
9	介護保険の認定、給付の手順、介護報酬について学ぶ。
10	介護保険サービス内容について学ぶ。
11	介護保険のサービスの担い手について学ぶ。
12	介護の実践過程、介護予防対策、地域支援について学ぶ。
13	介護の具体的技法について学ぶ。
14	配慮が必要な要介護者、家族への支援について学ぶ。
15	専門職、今後の介護動向について学ぶ。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

介護保険における保険給付と介護報酬について説明しなさい。考察の最後に、学びから得られたことが、自身の新たな気づき、生活・活動にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

第2課題

介護支援におけるリスクマネジメントについて、説明しなさい。考察の最後に、学びから得られたことが、自身の新たな気づき、生活・活動にどう活かすことができるか、具体的に記述すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第5章を中心に、とくに3節をよく読み、給付、種類、横出し、上乗せ、償還払いをキーワードに用い、学んだことを記述すること。

第2課題の留意点

テキスト第11章を中心に、とくに2節をよく読み、コミュニケーション、アセスメント、ヒヤリハット報告書、ハインリッヒの法則をキーワードに用い、学んだことを記述すること。

レポートの評価基準

「各課題の留意点」を理解し、テキストや参考文献をとおしての学習内容の理解の状況、文章量、適切な文字表現等から総合的に評価する。個人的な体験や事例で文章量を確保しないこと。また、新たな動向についても理解し記述に含めることが望ましい。使用文献と引用箇所は明示すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで、習得してほしい趣旨を理解すること。介護を取り巻く新たな動向に常に注意を払い、最新情報を入手しておくこと。介護政策の最新情報はテキスト以外の文献も必要である。厚生労働省の報告、WAM NETなどのメディアの情報にアンテナを張っておくこと。

設題の趣旨を正確に把握し、趣旨に沿った解答の論旨を展開することが必要。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨に沿った論旨が展開された解答か、文章量（解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記載）、適切な文字表現、最新情報か、等を評価する。

参考文献

・社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規出版
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省 『厚生労働白書』 日経印刷
・内閣府 『高齢社会白書』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30027	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅰ［1単位／45時間］			
テキスト	●齊藤勇紀　守巧　『子どもが共に育つための障害児保育』　萌文書林					
ISBN	9784893473905	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25070	
科目担当	細木　玉恵					
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助					

科目の目的

保育所・幼稚園・認定こども園などの就学前施設には、特別な支援を必要とする子どもが数多く在籍している。特に今日では、共生社会実現に向けて障害そのものに対する新しい概念が定着しつつあり、保育者には豊富で正確な知識や情報が必要となってくる。本科目では、子どもたちの多様化するニーズに応え、個々の特性に応じた保育を行うために必要となる基礎的な知識や援助方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
・特別な配慮を要する子どもの育ちを支えるために必要となる関係機関との連携ついて理解する。
・特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

学習テーマ

1	障害児保育を支える理念【学習のポイント：障害児保育の歴史的変遷を理解し、障害の概念、障害児保育を支える理念を理解する。また、障害のある子どもの地域へ参加・包括等について学ぶ。＜テキストpp.14-45＞】
2	障害児保育の基本と形態【学習のポイント：障害児保育の基本やその形態等について理解する。＜テキストpp.46-58＞】
3	障害の理解と援助①【学習のポイント：肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児、聴覚障害児の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.60-97＞】
4	障害の理解と援助②【学習のポイント：言語障害児、発達障害児の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.98-127＞】
5	障害の理解と援助③【学習のポイント：重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.128-149＞】
6	障害児保育の実際①【学習のポイント：保育者同士の協力と園内の支援体制について理解する。＜テキストpp.202-214＞】
7	障害児保育の実際②【学習のポイント：障害児支援の制度と、自治体・関係機関、小学校等と連携しながら行う支援やその方法について理解する。＜テキストpp.228-240＞】
8	障害児保育の現状と課題【学習のポイント：医療・保健、福祉・教育・保育の現状と課題を整理し、自分なりの見解が述べられるようにする。＜テキストpp.242-264＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

発達障害児の特性、およびそれに応じた保育のあり方について述べなさい。

第1課題の留意点

・発達障害の定義、分類される障害とその支援のあり方について記述すること。
・テキストPART 1 （pp.14-58）を熟読し、障害児保育の基本的な考え方を理解し記述すること。
・参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』に示された障害のある子どもへの保育のあり方を参考にし、自分なりの考えを記述する。
・合理的配慮や環境整備といったキーワードを適宜使用する。
・文献やインターネットの情報等を参考・引用する際は、出典を明記すること。

レポートの評価基準

・テキストや参考文献等から学んだ内容をふまえ、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容のまとまりごとに段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない。箇条書きではなく文書でまとめられている等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」にそって、テキストの小見出しごとに要点をまとめ、理解を深めておく。
・障害の定義・起因疾患・特性などについては個に応じた支援を考えるベースとなるため、簡潔に説明できるようにしておく。
・多様なニーズに応じた支援については、具体例を用いて説明できるようにしておく。
・自治体・関係機関との連携に関しては、各機関の役割、支援体制の構築のあり方、支援をすすめるための方法や留意点などについて考えをまとめておく。
・障害児保育の理念や制度を理解し、自らの考えを簡潔に記述できるように理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストや参考文献等の知見をもとに論述されている。自らの体験談や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、適切に専門用語を用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞記述されている。ただし、重複内容の記述は文字数として認めない。
・「学習のテーマ」に示したテキスト該当ページを出題範囲とする。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・『令和５年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
※テキストに掲載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めるようにする。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30028	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅱ［2単位／90時間］			
テキスト	●松井剛太　七木田敦『実践事例を通して具体的なかかわりを学ぶ　保育現場における特別支援』教育情報出版					
ISBN	9784909378491	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25071	生協での購入をおすすめします
科目担当	細木　玉恵					
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助					

科目の目的

国際的な動向とともに共生社会の実現に向け、特別な配慮の必要な子どもたちを支える法律や制度が整備されつつある。今後ますますの変革と進展が期待されている中、保育が担う役割も大きい。子どもたちの個々に異なる個性や多様な社会的・文化的な背景等を踏まえ、子どもたちの最善の利益を保証する保育のあり方を理解する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・特別な配慮を必要とする子どもが抱える個々に異なる困難について理解している。
・多様なニーズに応じるための援助方法について、具体的に説明ができる。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な連携と、保育者の果たすべき役割について理解している。
・障害の有無に関わらず子どもたちがお互いの違いを認め、共に育ちあうための保育者の役割を説明できる。

学習テーマ

1	障害児保育の基本姿勢【学習のポイント：特別な配慮の必要な子ども一人一人に応じた保育のあり方を理解する。＜テキストpp.10-23＞
2	障害児保育の実際①【学習のポイント：強いこだわりのある子どもの特性と支援のあり方について理解する。＜テキストpp.24-37＞】
3	障害児保育の実際②【学習のポイント：対人関係に課題のある子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.37-47＞】
4	障害児保育の実際③【学習のポイント：不注意や落ち着きのない子どもの特性と支援のあり方について理解する。＜テキストpp.48-62＞】
5	障害児保育の実際④【学習のポイント：衝動性の強い子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.63-71＞】
6	障害児保育の実際⑤【学習のポイント：学習に課題のある子どもの認知特性とそれに応じた支援について理解する。＜テキストpp.72-83＞】
7	障害児保育の実際⑥【学習のポイント：学習に課題のある子どもの特性と支援のあり方について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.84-95＞】
8	園内の支援体制①【学習のポイント：園内における支援体制の構築について理解する。＜テキストpp.96-101＞】
9	園内の支援体制②【学習のポイント：子どもの実態把握と保育の評価等について理解する。＜テキストpp.102-107＞】
10	園内の支援体制③【学習のポイント：保育カンファレンスや指導案、ポートフォリオ・ドキュメンテーションの作成と活用等について理解する。＜テキストpp.108-115＞】
11	園内の支援体制④【学習のポイント：幼児期の子どもを対象にした障害児教育、集団に対する支援と個別支援等について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.116-127＞】
12	家庭や専門機関との連携①【学習のポイント：保護者との信頼関係の構築と連携について理解する。自身の住む地域において、保育と連携できる専門機関にはどのようなものがあるか調べまとめる。＜テキストpp.128-137＞】
13	家庭や専門機関との連携②【学習のポイント：さまざまなニーズのある保護者への支援と連携について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.138-149＞】
14	小学校への接続①【学習のポイント：保育の場での学びを保証し、小学校への円滑な接続のあり方について理解する。自身の住む地域における就学支援体制について調べまとめる。＜テキストpp.150-159＞】
15	小学校への接続②【学習のポイント：就学支援や小学校との連携について理解する。章末ワークシートに取り組み、理解を深める。＜テキストpp.160-169＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

特別な配慮を必要とする子どもを支援する際、保育者に求められる支援のあり方や留意点等について述べなさい。

第2課題

特別な配慮を必要とする子どもにおける小学校への接続の難しさと、なめらかな接続のために必要な支援や連携について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点
・保育実践で重要となるていねいなかかわり、子ども理解、発達支援、連携等の観点から記述する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解、特性に合わせた支援のあり方について記述する。
・テキスト1章・5章を中心に、各章の中からも重要な内容を読み取り簡潔に記述すること。
・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストや参考文献を積極的に活用すること。

第 2 課題の留意点

・保育と就学後の教育の違いや、学びの連続性を保証するための連携について考えを述べること。
・就学先に伝えるべき内容や伝え方について記述しておくこと。
・就学を控えた特別な配慮を必要とする子どもをもつ保護者への支援について、考えを述べること。
・テキスト 7 章のみならず、「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストや参考文献を積極的に活用すること。

レポートの評価基準

・課題の意図を正しく理解し、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容のまとまりごとに段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない。箇条書きではなく文書でまとめること等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストにある実践事例から、子ども実態把握、支援のあり方、日々の保育での取り組み、保護者への支援等を具体的に記述できるようにしておく。
・テキストにある“やってみよう”やワークシートに取り組み、自分の考えをまとめておく。
・テキストに青字で記載されている用語やQRコードが示されている内容は、保育カンファレンスや専門機関との連携の際に使用頻度が高い。そのため、答案に適切に記述できるよう内容を理解しておく。
・「障害児保育論Ⅰ」で使用したテキストを併用し、理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストや参考文献等の知見をもとに論述されている。テキストの内容を踏まえず、自らの体験や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、適切な専門用語を用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞で記述されている。ただし、重複内容の記述は文字数に含めない。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・齊藤勇紀　守巧　『子どもが共に育つための障害児保育』　萌文書林
※テキストに記載されている参考文献にも興味を持ち、理解を深めるようにする。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30030	科目名［単位数／学習時間］	福祉と人権［2単位／90時間］	科目担当	手島　洋
テキスト	●木原活信　『社会福祉と人権』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623071081	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25148
実務経験のある教員による科目	社会福祉協議会（地域福祉部長）				

科目の目的

私たちの人権は、長い歴史と実践の積み重ねにより創りあげられ、これらの多くは日本国憲法をはじめとした法律や制度に位置付けられてきた。特に私たちのすべてが人として尊ばれること（基本的人権の尊重）や人間らしい生活を保障されること（生存権の保障）は、社会福祉が大きな役割を担っている。しかし、このような実践が社会福祉援助の場面で日常化し意識的に行われているかどうかは、なお多くの課題を有している。本科目では、人を援助する社会福祉の役割がどのように人権と関わり護っていくことができるのか、社会福祉援助の実践での具体的な制度や実情に照らして、その意味と課題を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

社会福祉にとっての人権の持つ意味を人権の歴史や福祉思想と関わらせて理解したうえで、貧困・児童・障害・高齢者・女性やマイノリティなどの具体的な人権の現状と課題について検討を深めてほしい。また、これらの人権の現状と課題にソーシャルワーク実践がどのような役割を担えるのかについても検討してほしい。

主な学習の柱は次のとおり。

・人権の意味と社会福祉との関わり（テキスト序章・第1章～第4章）
・様々な人権の現状と課題（テキスト第5章～第9章）
・人権擁護を行うソーシャルワークの役割（テキスト第10章～第12章）

学習テーマ

1	人権とは何か【学習のポイント：人権の概念や歴史について理解する。】
2	人権と福祉思想①【学習のポイント：社会福祉援助と人権の関わりについて理解する。】
3	人権と福祉思想②【学習のポイント：基本的人権の尊重と社会福祉について理解する。】
4	人権を反映した福祉理念①【学習のポイント：ノーマライゼーションの理念を理解する。】
5	人権を反映した福祉理念②【学習のポイント：バリアフリーについて理解する。】
6	人権を反映した福祉理念③【学習のポイント：ソーシャルインクルージョンについて理解する。】
7	様々な人権の現状と課題①【学習のポイント：貧困と人権について理解する。】
8	様々な人権の現状と課題②【学習のポイント：児童と人権について理解する。】
9	様々な人権の現状と課題③【学習のポイント：障害と人権について理解する。】
10	様々な人権の現状と課題④【学習のポイント：高齢者と人権について理解する。】
11	様々な人権の現状と課題⑤【学習のポイント：女性、マイノリティと人権について理解する。】
12	人権とソーシャルワーク①【学習のポイント：生存権保障とソーシャルワークについて理解する。】
13	人権とソーシャルワーク②【学習のポイント：多様性の保障とソーシャルワークについて理解する。】
14	人権とソーシャルワーク③【学習のポイント：自己決定支援とソーシャルワークについて理解する。】
15	まとめ【学習のポイント：これまでの学びを振り返る。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

障害者又は高齢者のいずれかの人権擁護の現状と課題を述べなさい。

第2課題

自己決定を支援するソーシャルワークの役割について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

社会福祉援助の主な対象者である障害者又は高齢者が直面する権利侵害について理解することを目的としたレポート課題である。障害者の場合はテキスト第7章、高齢者の場合はテキスト第8章の内容を中心に現状と課題を検討しまとめること。その際、人権の歴史（テキスト第3章）や社会福祉の理念（テキスト第4章）の内容に関わらせて検討し、かつ実際に私たちの生活の周りで見聞きする具体的なことにも関わらせて検討することが望ましい。

第2課題の留意点

社会福祉援助対象者の基本的人権を尊重した援助の基本的な内容のひとつである自己決定の支援について理解することを目的としたレポート課題である。テキスト第12章の内容を中心に考えるのだが、その際に社会福祉の理念（テキスト第4章）や様々な対象者への人権擁護（テキスト第5～9章）の内容とも関わらせて検討することが望ましい。

レポートの評価基準

それぞれの課題について、テキストの記述をふまえて要点を簡潔にまとめて、さらに自身の考えをテキストのまとめとは区別して的確に述べられているかについて評価する。
具体的には、①テキストの記述をふまえたうえで参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等で調べた内容を加味して課題について論述している。②課題の内容について社会の実際の課題状況をふまえて論述している。③誤字脱字がないことも含めて適切な文章を作成する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストから幅広く出題するが、主としてテキストの記述内容を中心とした記述がされていることが基本的理解の判断の基準とする。そのうえで、主な論点については、参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等を検討した質の高い答案作成を期待する。なお、これまでの試験では、設問と全く関係のない解答がしばしば見受けられた。このような場合は、必ず不合格となるので注意すること。

科目修了試験の評価基準

設問の趣旨を理解し、テキストの内容をふまえて適切に解答ができているかを中心に評価する。そのうえで、参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等から得た知識により解答を深めた場合には、上記の評価に加点する。また、設問と関係のない解答内容は、評価の対象としないので注意すること。

参考文献

・山本克司 『福祉に携わる人のための人権読本』 法律文化社
・古川孝順 『現代社会福祉の争点（下） 社会福祉の利用と権利』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30032	科目名［単位数／学習時間］	子育てと社会［2単位／90時間］	科目担当	森　眞理
テキスト	●松村和子　『子ども家庭支援論』　建帛社				
ISBN	9784767950952	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25149
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（日本・米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部・初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）				

科目の目的

VUCA（先行きが不透明で、将来の予測が困難）の時代であると言われている現代において、子どもを取り巻く環境はますます複雑化し混沌化している。子どもの生活・育ちに携わる保育者は、子育て・家庭支援施策の理解と子ども一人ひとりの生育環境と文化背景を理解し、最善の利益を保障することが求められている。

本科目では、受講生が子ども理解を始点に、子育て支援の理念と施策を理解し、さらに保育施設と保育者の役割について学び、考察することから、子育て支援の当事者意識を育むことを目的とする。日米の幼児教育・保育施設における教諭・保育者経験等の実務経験を活かして、子どもの育ちと子育て支援について多角的な視座より教授する。

到達目標

子ども観をはじめ、子どもの生活と子育てのあり方は、歴史や社会文化の価値観が大きく影響する。本科目では、子育てとその支援について、子ども・家庭・保育の場・地域・社会・世界の変遷と現場を概観し理解を深め（知識）、さらに子どもの生活と成長に携わる当事者として（姿勢）、自らの実践のあり方（技能）を考え展望することを目標とする。

本科目テキストを丁寧に読み解き、子育ての最少単位である家庭・家族の意味と意義、保育者の役割、子どもの発達、子育て家庭をめぐる課題と支援制度、子育て支援のあり方等について学び、子どもの権利を保障することを根底にした家庭支援・子育て支援のアイディアと実践を考え、問題提起し解決のあり方を導き出す。

学習テーマ

1	子ども家庭支援の意義と役割①【学習のポイント：「家庭」「家族」の意味・意義と機能の変遷を理解する。＜テキスト第1章＞】
2	子ども家庭支援の意義と役割②【学習のポイント：子ども・大人、親理解と現代社会との関係性を理解する。＜テキスト第2章＞】
3	子ども家庭支援の意義と役割③【学習のポイント：保育所と保育士の役割を理解し、求められている役割を展望する。＜テキスト第3章＞】
4	保育所と保育者による家庭支援①【学習のポイント：保育士と保護者の関係性の構築について理解し、当事者意識を高める。＜テキスト第4章＞】
5	保育所と保育者による家庭支援②【学習のポイント：保育士の専門性について理解を深める。＜テキスト第5章＞】
6	保育所と保育者による家庭支援③【学習のポイント：保護者との相互理解と信頼関係の重要性と形成について、コミュニケーションとカウンセリングマインドの基本原則に学ぶ。＜テキスト第6章＞】
7	保育所と保育者による家庭支援④【学習のポイント：家庭の多様性を理解し、テキストの事例から当事者意識を持ち、関わり・対応のあり方を考える。＜テキスト第7章＞】
8	保育所と保育者による家庭支援⑤【学習のポイント：子ども・家庭支援の機関について、保育所・幼稚園・認定こども園及び地域を含めて、その特性と役割を理解する。＜テキスト第8章＞】
9	子育て家庭に対する支援体制①【学習のポイント：社会資源の理解を深め、今後の課題についても考える。＜テキスト第9章＞】
10	子育て家庭に対する支援体制②【学習のポイント：子育て支援施策の歴史を理解し、自分の貢献について考える。＜テキスト第10章＞】
11	多様な支援展開と関係諸機関との連携①【学習のポイント：切れ目のない支援の重要性と保育・幼児教育施設の働きを理解する。＜テキスト第11章＞】
12	多様な支援展開と関係諸機関との連携②【学習のポイント：保育所等利用家庭への支援とこれからを展望する。＜テキスト第12章＞】
13	多様な支援展開と関係諸機関との連携③【学習のポイント：地域の子育て支援の意義を理解しつつ、自分の地域の子育て支援の実践について知り、その意義と課題を考える。〈テキスト第13章＞】
14	多様な支援展開と関係諸機関との連携④【学習のポイント：要保護児童、要支援児童を始め、多様なニーズの子どもと家庭への理解を深め、課題と支援について考える。＜テキスト第14章＞】
15	多様な支援展開と関係諸機関との連携⑤【学習のポイント：子育て支援の現状と課題を理解し、自分の地域・社会貢献を考える。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子育て・保育の根本となる「児童の権利に関する条約（通称：子どもの権利条約）」について、1）その内容を要約し、2）「子どもは、権利の主体であるが、親（保護者）の適切な養育のもとにおいて発達することで、さまざまな意見を表明できるようになる」（テキストpp.13-14）ことについて、自分の見解（自分の養育についての考え）を述べなさい。

第2課題

子育て支援において、多様な支援展開と関係諸機関との連携が欠かせない。多様な支援展開と関係諸機関との連携について、1）その意味について要約し、2）多様なニーズの子どもと家庭への支援のあり方と課題について、自分の考えを含めてまとめなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

子育て支援には、まず子ども理解から、すなわち、子どもにとっての支援を考えることが最重要である。その基盤となる「児童の権利に関する条約（通称：子どもの権利条約）」の理解を深めると同時に、実際に子育て支援に携わる当事者意識をもって、子どもの権利を保障する（子どもの最善の利益を保障する）支援のあり方を具体的に表すことが求められる。（テキストの第 2 章を中心に、国連のホームページ等を検索することを推奨する。）レポートの構成に留意して取り組むこと。

第 2 課題の留意点

子育て支援には、多様な支援展開と関係諸機関との連携が欠かせない。そこで、まず多様な支援展開と関係機関の種類について理解を深めることが大前提である。そこから、要保護児童、要支援児童を始め、多様なニーズの子どもと家庭への支援について、自らが関心のある子育て支援のあり方に着目し、その有効性・可能性・課題意識を論じることが求められる。（テキストの第14章を中心に、テキスト全般との関係性を考えて記述すること。）

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確・具体性をもって記しているかについて評価する。レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。
・次の 6 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
③他人に読ませることを意識し、丁寧に作成している。（主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。）
④レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っていること。
⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。
⑥文献から引用・参考にする際は、その旨を明記し、本学の表記に準じて表すこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み理解を深めること。加えて、設題の趣旨を把握し、論旨を展開することを心がけることが必要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開することが求められる。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論（問題提起を含む）を記述することで高い評価に近づく。
・自筆の判読が難しい際（例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字）は、不可となることを心得ておくこと。

参考文献

・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
・倉橋惣三 『育ての心（上・下）』 フレーベル館
・近藤幹生 『保育の自由』 岩波新書
・近藤幹生　幸田雅治　小林美希 『保育の質を考える　安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて』 明石書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30033	科目名［単位数／学習時間］	子どもと人権［2単位／90時間］			
テキスト	●古橋エツ子　和田幸司　『人権論の教科書』　ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623091737	本体価格（円）（2025年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	25072	
科目担当	「親和通信」で連絡					
実務経験のある教員による科目	公立小・中学校の教員、管理職としての学校における人権教育に係わる実践的指導の経験、教育行政や一般行政における人権に係わる研修の企画・運営や講師経験等					

科目の目的

・人権教育は様々な立場の子どもの教育機会を保障するため、また人々が自由に社会参加できる市民社会をつくるために重要な教育実践であることから、同和問題をはじめとする子ども・女性・外国人等の個別の人権課題について学ぶことを通して、学校教育のなかで人権教育を進める際の基礎的な知識の獲得を目指す。
・人権教育の基本的な事項を学びながら、人権教育のポイントや教育実践の実例を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・様々な人権課題についての基礎的な知識を身に付け、その内容を説明することができる。
・人権教育の基本的な概念について、実例をあげながら説明することができる。
・子どもの人権が配慮された学校づくりについて、その特徴を整理することができる。

学習テーマ

1	人権教育について学びませんか【テキスト序章】
2	女性をめぐる人権を知ろう【テキスト第1章】
3	子どもをめぐる人権を知ろう【テキスト第2章】
4	「障害」をめぐる人権を知ろう【テキスト第4章】
5	同和問題を考えよう【テキスト第5章】
6	外国人をめぐる人権を考えよう【テキスト第6章】
7	性的マイノリティと人権【テキスト第7章】
8	ハラスメントを考えよう【テキスト第9章】
9	経済的格差・貧困を考えよう【テキスト第10章】
10	戦後日本における人権教育の成立と展開1―長期欠席と不就学問題と同和教育の組織化―【テキスト第11章】
11	戦後日本における人権教育の成立と展開2―教育条件整備、低学力の克服、進路・学力保障―【テキスト第12章】
12	グローバルスタンダードとしての人権教育の展開1―人権意識の実際、人権教育のための世界プログラム―【テキスト第12章】
13	グローバルスタンダードとしての人権教育の展開2―さらなる人権教育の課題―【テキスト第12章】
14	人権教育の授業構成【テキスト第13章】
15	多文化共生を実現しよう―多文化共生とは―【テキスト第14章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストを熟読し、① テキストにとり上げられている個別の人権課題の中から、あなたが子どもに係わる課題と考える人権課題を選び要約する。② なぜその課題が子どもの人権に係わる課題ととらえるのかを具体的に説明する。③ ①②を踏まえ、子どもの人権を守るために、教師として実践したい取組みを、あなたの体験を交え、具体的に述べなさい。

第2課題

テキストを熟読し、学校教育における人権教育の具体的な取組みについて、① 人権教育とはどのような教育であるのかテキストの趣旨を踏まえて概説する。② 同和教育との関連性について、テキストの趣旨、並びに、その他の資料（自身で探す）の内容を踏まえてまとめる。③ 小学生の実践（対象学年明記のこと）として、あなたが実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・「人権」とは何か、「人権教育」とは何かを、テキストに沿って定義すること。
・子ども、女性、外国人などの個別の人権課題について、テキストを熟読して、具体的に整理すること。
・テキストだけではなく、最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートになっていること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ずしっかりと展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。とくに人権教育は、テキストをベースにまとめること。
・人権教育、同和教育の関連性を踏まえた内容であること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ず論述すること。

レポートの評価基準

・個別の人権課題について、人権教育の現状と課題について、テキストの全編をよく読んで、理解しているか。
・同和教育と人権教育、それぞれが個別に理解されているか、また、その相互の関連性が理解されているレポートであるか。
・最新の国の動向等を理解し、その趣旨を踏まえたレポートであるか。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、レポート作成上の基本的ルールが守られているか。
・引用文は「　」でくくり、文献名や引用ページ等を明示しているか。
・抜き書きした文章の寄せ集めや論文の剽窃がなく、自分の考えが述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、個別の人権課題についての基礎的な理解を深めておくこと、特に子どもの人権や学校教育に係わる章について、関連を持たせながら、読み進めることが必要。例えば、第 5 章の同和問題と第12章のグローバルスタンダードとしての人権教育の展開は、同和教育と人権教育との関連性を理解する上で、同時に読み進めることが必要。その他、第 1 章と第 7 章、第 6 章と第14章も相互の関連性を考慮しつつ読み進めることが必要。
・序章の趣旨をよく理解した上で、すべての章を読み進めることが、人権、並びに、人権教育を理解することにつながる。
・キーワードは、人権、人権教育、同和問題、同和教育、個別の人権課題。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・文部科学省　人権教育の指導方法等に関する調査研究会議『人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］』
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm
・『令和 5 年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞』　チャイルド本社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・法務省・文部科学省『令和 6 年版人権教育・啓発白書（令和 5 年度人権教育及び人権啓発施策）』　勝美印刷
https://www.moj.go.jp/content/001420890.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30034	科目名[単位数/学習時間]	発達心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●中澤潤 『発達心理学の最先端 認知と社会化の発達科学』 あいり出版					
ISBN	9784901903257	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	25044	
科目担当	小川内 哲生					

科目の目的

発達心理学とは、時間的経過にともなって生じる精神（こころ）の変化の特徴を記述し、その背後にある法則性を明らかにする心理学の分野である。最近の発達心理学では、胎児、乳幼児、あるいは高齢者の発達的変化についての研究が精力的に行われ、目覚しい成果が報告されている。本科目では、発達の理論、認知の発達、パーソナリティの発達、あるいは社会性の発達の研究成果など、発達心理学の基本的な研究成果に加えて発達心理学の最新の成果の一端も学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から人間の発達を捉えていくことを目的とする。

到達目標

発達心理学の研究では、最近になって、乳幼児の研究と高齢者の研究、並びにヒトの生涯にわたるこころの発達（生涯発達心理学）を視野に入れた研究が精力的になされつつある。テキストでは、これまでの発達心理学で得られた個々の具体的な研究成果や知見だけでなく、発達心理学の最新の成果の一部も学習する。テキストにあるピアジェらの発達理論は、現在でも生きている。発達心理学では、私たちの日常の発達現象と発達研究の具体的な成果とを関連させて理解することで、その背後にある発達理論の理解を深める。

学習テーマ

1	発達の概念について【学習のポイント：発達心理学における発達の概念を理解する。】
2	発達の研究法について【学習のポイント：発達研究の基本的な方法を理解する。】
3	認知発達の理論について【学習のポイント：認知発達の理論を理解する。】
4	精神発達の理論について【学習のポイント：精神発達の理論を理解する。】
5	胎児期の発達について【学習のポイント：胎児期の心身の発達を理解する。】
6	乳児期の認知の発達について【学習のポイント：乳児期の認知の発達を理解する。】
7	乳児期の社会化の発達について【学習のポイント：乳児期の社会化の発達を理解する。】
8	幼児期の認知の発達について【学習のポイント：幼児期の認知の発達を理解する。】
9	幼児期の自己と社会化について【学習のポイント：幼児期の自己と社会性の発達を理解する。】
10	児童期の認知の発達について【学習のポイント：児童期の認知の発達を理解する。】
11	児童期の自己と社会性の発達について【学習のポイント：児童期の自己と社会性の発達を理解する。】
12	青年期の認知について【学習のポイント：青年期の認知について理解する。】
13	青年期の自己と社会性について【学習のポイント：青年期の自己と社会性を理解する。】
14	成人期の発達について【学習のポイント：成人期の諸機能の発達を理解する。】
15	老年期の発達について【学習のポイント：老年期の諸機能の発達を理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

ピアジェの認知発達段階の1つである前操作期の思考の基本的な特徴を、研究例あるいは具体例を引用して簡潔に説明しなさい。

第2課題

乳幼児期から児童期にかけて自己意識がどのように変化していくのか簡潔に説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

ピアジェの認知発達段階の1つである前操作期は幼児期を意味する。幼児期の思考の基本的な特徴をテキストや他の文献を参考にして、具体的な研究例あるいは日常の具体例を引用することで説明すること。ピアジェに関する文献は多数あるので、必ず参考にすること。

第2課題の留意点

乳児期、幼児期、児童期の子どもが自己をどのように捉えるのか、各発達段階における自己意識の発達を簡潔に説明すること。テキスト第3章pp.53-54、第5章pp.103-106 、第7章pp.151-152を参考にまとめると良い。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 7 章、第 9 章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・浅野敬子　丸山真名美　『保育・教育実践のための心理学』　みらい
・浜崎隆司　田村隆宏　『やさしく学ぶ発達心理学』　ナカニシヤ出版
・武藤隆　中坪史典　西山修　『発達心理学』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30035	科目名［単位数／学習時間］	社会心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●辻川典文　阿部晋吾　神原歩　田端拓哉『ライブラリ読んでわかる心理学　10　読んでわかる社会心理学』サイエンス社					
ISBN	9784781914886	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25045	
科目担当	辻川　典文					

科目の目的

人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。本科目では、社会心理学の特徴である「社会と個人の相互作用」の中でも、特に「自己認知と他者認知」、「他者に対する行動」、「集団と個人の行動の関係性」の問題を中心に、人間関係の維持・形成過程、集団が個人に及ぼす影響、およびその周辺領域について、社会心理学的観点から考察し、知識を深めていく。

到達目標

自分自身や他者に対する認識、そして対人行動や集団行動といった、社会心理学の中できわめて重要なテーマの知識習得に加え、学問上で得られた知見を現実の社会問題や自己の体験と結びつけて、よりよい社会のあり方や、個人にとって望ましいこれからの生き方について論考することを求める。そのためにも、テキストを通読して社会心理学の全体像をつかむことが必要である。

学習テーマ

1	社会心理学とは【学習のポイント：社会心理学とはどのような学問かについて理解する。】
2	社会の中の自己【学習のポイント：社会との関わり合いの中で、自分自身をどのように認識するか、その傾向を理解する。】
3	自尊感情と動機づけ【学習のポイント：自尊感情とは何か、自尊感情が行動に及ぼす影響について理解する。】
4	態度【学習のポイント：態度の認知的一貫性や説得について理解する。】
5	対人認知【学習のポイント：他者の印象がどのように形成されるかを理解する。】
6	社会的推論【学習のポイント：人の原因帰属や推論の特徴、歪みについて理解する。】
7	対人関係【学習のポイント：対人関係における心理について理解する。】
8	対人魅力・恋愛【学習のポイント：他者に魅力を感じるメカニズムについて理解する。】
9	援助と攻撃①【学習のポイント：援助行動やソーシャルサポートについて理解する。】
10	援助と攻撃②【学習のポイント：攻撃行動について、誘因やメカニズムを理解する。】
11	集団の中での人間関係①【学習のポイント：集団内の人々の行動が、自分自身の行動にどのような影響を及ぼしているかを理解する。】
12	集団の中での人間関係②【学習のポイント：集団内と集団間の人間関係の特徴について理解する。】
13	集団のパフォーマンス【学習のポイント：集団活動の落とし穴やリーダーシップについて理解する。】
14	家族の人間関係【学習のポイント：家族内の様々な人間関係や問題点を理解する。】
15	文化の影響、心の文化差【学習のポイント：人の心理や行動に対する文化の影響について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

人の行動を説明する際に、「自尊感情」の影響を考える必要がある。本課題では、「自尊感情とは何か」、「自尊感情を維持する仕組み」、「自尊感情を保とうとする理由」の3点について述べよ。また、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

第2課題

私たちの行動や判断は、自分の意思だけで行っているわけではなく所属している集団から様々な影響を受ける。集団から受ける影響についてどのようなものがあるか説明せよ。また、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

自尊感情は人の行動に様々に影響を及ぼす。自尊感情を維持する仕組みについては、「社会的比較」「自己評価維持モデル」、「自己高揚動機」の面から説明せよ。自尊感情を保とうとする理由については「存在脅威管理理論」、「ソシオメーター理論」をもとに説明すること。内容が比較的難しいものもあるが、内容を理解したうえで自分の言葉で説明すること。また、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

第2課題の留意点

集団から受ける影響について「集団規範」「同調」「少数派の影響」「服従と社会的勢力」の面から説明せよ。これらの理論や先行研究を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

レポートの評価基準

レポートの評価基準は次の 3 点である。1 点目は、レポートの基本的な書き方ができているかどうかである。2 点目は、課題であげた内容について、「社会心理学的な観点からの説明ができているかどうか」である。3 点目は、「テキストで学んだ内容を自身の経験に置き換えて考察できているかどうか」である。単にテキストをまとめるだけでなく、自分の経験と照らし合わせながらレポートの作成にあたってほしい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておいてほしい。特に、「原因帰属のエラーやバイアス」「態度の基本 3 成分と一貫性」「非言語的コミュニケーション」「対人魅力」「リーダーシップ」「自己認知の文化差」に関連する内容については十分理解しておいてほしい。

科目修了試験の評価基準

評価基準は次の 2 点である。1 点目は、テキストをどの程度熟読しているかを判断するため、「設題に関連する社会心理学の専門用語や先行研究をどの程度説明できているか」である。2 点目は、専門用語や先行研究の理解度を判断するために、「専門用語や先行研究について、具体例を用いてどの程度説明できるか」である。

参考文献

・池上知子　遠藤由美　『グラフィック社会心理学　第 3 版　Graphic text book』　サイエンス社
・竹村和久　『公認心理師の基礎と実践　11　社会・集団・家族心理学』　遠見書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30036	科目名［単位数／学習時間］	家族心理学［2単位／90時間］
テキスト	●相谷登　中村薫　築地典絵『ライブラリ読んでわかる心理学　14　読んでわかる家族心理学』サイエンス社		
ISBN	9784781914916	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,300
生協テキストNo.	25047		
科目担当	金山　健一		

科目の目的

「家族心理学」では、人間にとって家族とは何か、心身の健康に関わる家族システムとは何か、という課題に対する知見を学ぶ事を目的とする。

「家族心理学」は、心理学史上もっとも新しいフロンティアで、家族危機の時代とよばれる1980年代に誕生した心理学の一分野である。個人を家族や社会と切り離すことなく、所属する家族システムや社会システムの一員とみなす。そのシステム内の人と人との関係およびシステム間の関係を重視しつつ、家族への心理的援助を理解し、対人援助者として力量を形成する。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

・日本の家族、世界の家族、宗教と家族、国家と家族を理解する。
・家族の形成では、対人魅力、好意と愛情、恋愛と配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。
・家族の発達では、ステップファミリー、きょうだい、親子関係の変遷を理解する。
・家族の問題では、家庭内暴力、虐待、配偶者間暴力、家族の崩壊を理解する。
・家族の理論では、家族へのアプローチ、査定方法、ジェノグラム、家族療法を理解する。
・今後の家族関係では、高齢者家族、少子化、国際化を理解する。

学習テーマ

1	家族心理学とは何か【学習のポイント：家族心理学の概観を理解する。】
2	家族とは何か【学習のポイント：家族の定義、日本・世界の家族、宗教・国家と家族を理解する。】
3	家族関係の形成【学習のポイント：対人魅力、好意と愛情、配偶者選択、晩婚、非婚を理解する。】
4	家族の発達【学習のポイント：家族の発達、ステップファミリーを理解する。】
5	家族関係の問題【学習のポイント：きょうだい関係、親子関係を理解する。】
6	家族関係と社会の影響【学習のポイント：社会化、家族関係と非行を理解する。】
7	家族内の暴力【学習のポイント：配偶者間暴力、虐待、家庭内暴力を理解する。】
8	家族の崩壊【学習のポイント：夫婦関係崩壊、子どもに与える影響を理解する。】
9	家族理解の視点・理論【学習のポイント：学際的研究、精神医学、社会学からのアプローチを理解する。】
10	家族関係の査定【学習のポイント：査定方法、家族査定、ジェノグラムを理解する。】
11	家族関係の変容【学習のポイント：家族システム、家族療法を理解する。】
12	高齢者家族【学習のポイント：認知症、老老介護、看取り、孤独死を理解する。】
13	これからの家族関係①【学習のポイント：少子化、国際化を理解する。】
14	これからの家族関係②【学習のポイント：ハーグ条約、生殖医療、赤ちゃんポストを理解する。】
15	家族関係の専門機関【学習のポイント：国の機関、地方公共団体を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「家族の定義」「日本の家族・世界の家族」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

第2課題

「家族の発達」「ステップファミリー」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章2.1「家族の定義」、2.2「日本の家族・世界の家族」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第4章4.1「家族の発達」、4.2「ステップファミリー」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践を踏まえる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように活用するかを記述する。

・家族心理学の特色　（第1章　家族心理学とは何か　1.3）
・対人魅力　（第3章　家族関係はどのように形成されるのか　3.2）
・家族関係と非行の問題　（第6章　家族関係は社会にどのような影響を与えるのか　6.2）
・子ども虐待　（第7章　家族でどのような暴力が生じるのか　7.3）
・夫婦関係崩壊の実情　（第8章　家族関係はどのように崩壊するのか　8.1）
・家族システムと家族療法　（第11章　家族関係を変容させるにはどうすればよいのか　11.1）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・インスー・キム・バーグ　『家族支援ハンドブック　ソリューション・フォーカスト・アプローチ』　金剛出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30037	科目名［単位数／学習時間］	青年心理学［2単位／90時間］			
テキスト	●大野久 『シリーズ生涯発達心理学 4 エピソードでつかむ 青年心理学』 ミネルヴァ書房					
ISBN	9784623057375	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25046	
科目担当	山本 千恵					
実務経験のある教員による科目	心理カウンセラー（心療内科、中学校等）					

科目の目的

青年期というのは、子どもから大人へ移行する、その狭間にある大きな変化の時期である。「自分とは何者か」といった問いが芽生え、親子関係や友人関係にも大きな変化が見られるこの時期は、モラトリアムと呼ばれるように猶予期間ではあるものの、不安定で不適応を起こしやすい時期と言える。

そこで本科目では、この時期特有の心や体の変化を知り、起こりうる心理的危機についての知見を得ることで、「無事に青年期特有の危機を乗り越え、アイデンティティを確立し、大人として自立するとはどのようなことか」を考える機会として欲しい。実務経験を活かして教授する。

到達目標

エリクソンの漸成発達理論をベースに、「青年期の自我の発達」「青年期の恋愛の発達」「青年期の親子関係」「青年期の友人関係」といった4つのテーマ別に、アイデンティティ確立とは何か、真の自立とは何かについて考えて貰いたい。

学習テーマ

1	テキスト序章 青年期を理解する【エリクソンの漸成発達理論を理解する。】
2	テキスト序章 青年期の体と心の発達を理解する【体の発達の特徴と、ピアジェの心の発達理論を理解する。】
3	テキスト第Ⅰ章 アイデンティティとは何か【アイデンティティについて、その定義を理解する。】
4	テキスト第Ⅰ章 アイデンティティ達成とは何か【マーシャのアイデンティティ・ステイタスを理解する。】
5	テキスト第Ⅱ章 青年期以前の恋愛【青年期以前の「好き」になる傾向、特徴をおさえる。】
6	テキスト第Ⅱ章 青年期の恋愛【アイデンティティのための恋愛の特徴をおさえる。】
7	テキスト第Ⅱ章 青年期以降の恋愛【アイデンティティ達成後の恋愛の特徴をおさえる。】
8	テキスト第Ⅱ章 男女間における恋愛の違い【従来から言われている特徴を踏まえ、近年の傾向もおさえる。】
9	テキスト第Ⅲ章 親からの自立【自立とはどういうことか、その定義と近年の傾向を併せて理解する。】
10	テキスト第Ⅲ章 親子間の葛藤【親子の葛藤は自立にどの程度、必要か。新旧どちらの理論も習得する。】
11	テキスト第Ⅲ章 親子間の対話【オルソンの円環モデルを元に、自立を促す対話とは何かを理解する。】
12	テキスト第Ⅲ章 親の発達課題【自立していく子どもを持つ、親が抱える危機をおさえる。】
13	テキスト第Ⅲ＆Ⅳ章 親子関係と友人関係【親子関係と友人関係の違いをおさえ、友人の特徴を理解する。】
14	テキスト第Ⅳ章 友人関係の発達的変化【発達的＆男女別に見た友人関係の変化と、近年の特徴をおさえる。】
15	テキスト第Ⅳ章 友人関係の形成と孤独感【孤独感が友人関係のあり方にどう変化をもたらすのか理解する。】

レポートについて ワープロソフト使用可

第1課題

アイデンティティ達成前と達成後で恋愛に変化はあるのか。近年の傾向も加えて考察せよ。

第2課題

友人関係のあり方の発達的特徴と、孤独感から見た、友人関係の形成について述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

アイデンティティ達成前と達成後のパートナーとの関係性について、どのような違いがあるのか、近年の特徴についても述べること。

第2課題の留意点

「浅いー深い」「狭いー広い」をキーワードとし、友達との付き合い方の変化を発達的観点より述べた後、孤独感の発達から見た友人関係の変化についても言及すること。

レポートの評価基準

テキストの丸写しは不可。課題についての記述は、テキスト中に複数箇所で取り上げられている。それらを自分なりにまとめたレポートであること。なお、テキストだけでなく、参考文献やその他の手持ちの参考書なども盛り込み、より多角的に課題について述べられたレポートであれば、なお素晴らしい。（文献引用の際は、レポートの最後に著者名・書名・出版社名・ページ番号を明示すること。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、課題で挙げられたトピックスだけでなく、テキスト全ての内容を把握しておくこと。細かな専門用語や人名を覚えることより、テキストで書かれている内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

設題について、的確な専門用語も交えて論述できていればなお良いが、細かな専門用語は多少あやふやでも、要点がきちんと押さえられていれば合格点となる。たとえ設題について述べられていても、終始自身の体験などからくる個人的感想のみの解答は不合格となる。

参考文献

・丸島令子　日比野英子　『臨床心理学を基本から学ぶ』　北大路書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30038	科目名[単位数／学習時間]	家族援助論［2単位／90時間］			
テキスト	●石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』　みらい					
ISBN	9784860154882	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,100	生協テキストNo.	25121	
科目担当	北野　富美子					
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長					

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育者の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か
2	子どもと家庭を取り巻く環境
3	子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子ども家庭支援が必要とされる背景
5	保育者の専門性を活かした支援
6	子育て家庭を支える法・制度
7	子育て家庭を支える社会資源
8	保育者に求められる基本的態度
9	相談支援場面で必要な技術
10	保育場面における具体的な子育て支援の方法
11	地域の子育て家庭への支援
12	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
13	発達障害児等・子どもの貧困の理解と家庭への支援
14	要保護児童等とその家庭に対する施策
15	子ども家庭支援に関する現状と課題

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

保育者は子どもや保護者にかかわる際、家庭の状況を把握することが必要である。子どもの家庭の状況に応じた支援を行ううえで、保育者に求められる姿勢について述べなさい。

第2課題

保育者がソーシャルワーカーとしての役割を求められる背景や理由・根拠を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第7章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。

第2課題の留意点

テキスト終章、参考文献を精読し、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめること。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30043	科目名［単位数／学習時間］	人体の構造と機能及び疾病［1単位／45時間］	科目担当	木原　健二
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会　『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病　第3版』　中央法規出版				
ISBN	9784805851005	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません
実務経験のある教員による科目	理学療法士（病院・医療福祉センター等）				

科目の目的

人体の構造や機能について基本的な学習をしながら、社会福祉士が医療関係者と協働で業務が可能になるような知識を習得できるように、医学的な事項を総括的に学ぶ。疾病・障害の概要及び公衆衛生分野については、社会福祉士として働く上で、現場で役立つと考えられる事項を中心に学ぶ。またリハビリテーションの概要について学ぶとともに国際生活機能分類（ICF）について具体的事例で理解を深め、ケアの現場で活用できる力をつける。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・身体構造と機能及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。
・リハビリテーションの概要について理解する。
・国際生活機能分類（ICF）の概要及び基本的考え方について理解する。

学習テーマ

1	人の成長・発達と老化【学習のポイント：特に胎児期・乳幼児期の発達と老化について理解する。】
2	身体構造と心身の機能【学習のポイント：身体の生理的機能について図も参照して理解する。】
3	疾病の概要①【学習のポイント：テキスト第2章の知識と関連させて疾病の概要を理解する。】
4	疾病の概要②【学習のポイント：テキスト第2章の知識と関連させて疾病の概要を理解する。】
5	障害の概要①【学習のポイント：テキスト第2・3章の知識と関連させて障害の概要を理解する。】
6	障害の概要②【学習のポイント：テキスト第2・3章の知識と関連させて障害の概要を理解する。】
7	リハビリテーションの概要【学習のポイント：リハビリテーションの段階と各専門職の役割を理解する。】
8	ICFの概要、健康のとらえ方【学習のポイント：ICFの概要・目的、日本の健康施策を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ICFの概要及びICFを使用する目的について説明せよ。また認知症を有する独居の高齢者を例として、具体的な障害像（年齢・性別・運動機能・認知機能・生活環境・家族構成等）を設定し、支援におけるICFの具体的な活用事例について述べよ。

第1課題の留意点

・テキスト第4章「障害の概要」（pp.156-161）、第5章「リハビリテーションの概要」（pp.174-182）、第6章「国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要」（pp.194-203）等を参照して作成すること。
・国際障害分類（ICIDH）とICFの違い、ICFを使用する目的について記述すること。ICFを使用する目的については参考文献等から得た知見も踏まえて、特に重要と考えられるものについて重点を置いて説明すること。
・具体的な活用事例では、「心身機能と構造」の制限、「活動」・「参加」各々の制約及び背景因子を記載し、それらを踏まえてICFの考え方をどのように支援に活用するかについて記述すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、参考文献・参考Webページ等の情報を加味して課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。
・誤字脱字がない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・1問300字程度の記述問題（4問中2問を選択する）で行う。
・「疾病」や「障害」について事項を説明した上で、社会福祉士の視点でどう対応し、どのように支援するかについて記述する。「疾病」や「障害」の知識を踏まえた上で、個人の生活を支援することの視点をもって解答すること。参考文献等から得た知識も活用して論旨を展開することを心がける。
・自己学習においては、特に高齢者の身体機能（テキストpp.14-24、p.29）、疾病の概要（テキストpp.54-121を中心に）、障害の概要（テキストpp.141-172を中心に）、リハビリテーションの概要（テキストpp.174-189を中心に）、ICFの概要（pp.194-203）等について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し、誤字脱字がなく論理的に記述できていることと、指定文字数の2/3以上の記述があることを前提として評価する。
・論述問題1問につき50点の配点で採点する。

参考文献

・宮原伸二 『ホームヘルパーと介護者のための医療サイン』 創元社
・上田敏 『ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』 きょうされん
・山口和克 『病気の地図帳』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30044	科目名[単位数／学習時間]	福祉行財政と福祉計画［2単位／90時間］	科目担当	權　順浩
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会　『新・社会福祉士養成講座10　福祉行財政と福祉計画　第5版』　中央法規出版				
ISBN	9784805854303	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません

科目の目的

社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について学ぶ。

到達目標

・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割）について理解する。
・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

学習テーマ

1	テキスト第1章第1節、第2節【学習のポイント：福祉の法制度の変遷を理解する。】
2	テキスト第1章第3節【学習のポイント：福祉計画の概略を理解する。】
3	テキスト第2章第1節、第2節【学習のポイント：国と地方自治体の関係を理解する。】
4	テキスト第2章第3節､第4節【学習のポイント:福祉行政の組織と福祉サービスの利用方式の概略を理解する。】
5	テキスト第3章第1節、第2節【学習のポイント：社会保障給付費と一般会計予算を理解する。】
6	テキスト第3章第3節、第4節、第5節【学習のポイント：地方自治体の財政と民間社会福祉事業の財源と福祉サービス費用負担を理解する。】
7	テキスト第4章第1節、第2節、第3節、第4節【学習のポイント：第三者評価、苦情解決制度、福祉行政の専門機関を理解する。】
8	テキスト第4章第5節、第6節【学習のポイント：地域の相談システムと専門職を理解する。】
9	テキスト第5章【学習のポイント：社会福祉士が「福祉計画」にかかわる目的や意義を理解する。】
10	テキスト第6章【学習のポイント：福祉計画の過程を理解する。】
11	テキスト第7章第1節、第2節【学習のポイント：老人福祉計画・介護保険事業計画を理解する。】
12	テキスト第7章第3節【学習のポイント：障害者計画を理解する。】
13	テキスト第7章第3節【学習のポイント：障害福祉計画を理解する。】
14	テキスト第7章第4節【学習のポイント：次世代育成支援行動計画を理解する。】
15	テキスト第7章第5節【学習のポイント：地域福祉計画を理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

福祉行政の専門機関について述べなさい。

第2課題

福祉計画について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキスト第4章をよく読み、福祉事務所や児童相談所など専門機関の設置基準、役割、配置職員などについて述べてから、それぞれの機関が抱えている課題について自分なりの考えをまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲＜1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下＞でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

第2課題の留意点

・テキスト第5章と第6章をよく読み、福祉計画の目的と意義、ニーズ把握、評価、住民参加などについてまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲＜1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下＞でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

レポートの評価基準

・テキストに基づいていない内容が大半あるいは終始したものは合格水準に達していないと判断する。
・「各課題の留意点」に示している範囲の文字数（規定分量）で記述されていることを前提として評価するので、大幅な過不足は合格水準に達していないと判断する。規定分量の範囲でない場合減点とする。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない（例えば段落の最初は一字下げるなど）、引用・参考文献（テキストを含む）を明示していない場合は減点対象。なお、引用・参考文献は本文の文字数には含まれないので留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・必ず「学習テーマ」の内容を十分理解したうえで、テキストの内容に基づいて書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。
・テキスト第 2 章 1 節～ 3 節「福祉行政」、第 4 章の 4 節と 6 節「福祉行政の専門機関と専門職」や、第 5 章の「福祉計画の目的と意義」、第 6 章「福祉計画の理論と技法」などの内容を理解し深めて学習する必要がある。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・福祉行財政と福祉計画に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・総務省 『地方財政白書』 ※総務省ホームページでも閲覧可能
・財務省ホームページ 『予算・決算（国のお金の使い道）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30045	科目名［単位数／学習時間］	福祉サービスの組織と経営［2単位／90時間］	科目担当	權　順浩
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営　第5版』 中央法規出版				
ISBN	9784805854310	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協 テキストNo.	生協での取扱いはありません

科目の目的

本科目は、近年、社会福祉法人をはじめ、多様化している福祉サービスの供給組織を理解するとともに、福祉サービスの管理運営に関わる基礎理論と方法について理解を深めることが目的である。

到達目標

・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。
・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

学習テーマ

1	福祉サービスにおける組織と経営【学習のポイント：福祉サービスと経営管理との関係を理解する。】
2	法人とは何か【学習のポイント：社団法人と財団法人の相違と共通点を理解する。】
3	社会福祉法人【学習のポイント：社会福祉法人の仕組みと特徴を理解する。】
4	特定非営利法人、医療法人等【学習のポイント：各々法人の特徴と社会福祉法人との相違と共通点を理解する。】
5	事業計画と戦略【学習のポイント：経営戦略理論と事業計画作成のプロセスを理解する。】
6	組織と管理運営【学習のポイント：組織原則・形態、PDCAサイクル、ISO9001を理解する。】
7	集団の力学とリーダーシップ【学習のポイント：集団とリーダーシップの関係及び関連理論を理解する。】
8	サービスマネジメント【学習のポイント：福祉サービスの特徴と価値を理解する。】
9	サービスの質の評価【学習のポイント：第三者評価について理解する。】
10	苦情対応とリスクマネジメント【学習のポイント：リスクの発生構造とマネジメントを理解する。】
11	人事管理【学習のポイント：動機づけ理論と人事管理を理解する。】
12	労務管理と人材育成【学習のポイント：労働関係法令と職場研修を理解する。】
13	財務管理【学習のポイント：社会福祉法人の資金の流れと財務管理の特徴を理解する。】
14	会計管理【学習のポイント：会計基準省令と貸借対照表を理解する。】
15	情報管理と戦略的広報【学習のポイント：情報管理について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉法人と特定非営利活動法人のそれぞれの特徴と違いについて述べなさい。

第2課題

リーダーシップの基礎理論について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・本課題は、戦後、日本の社会福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人と特定非営利活動法人の歴史的背景と設立の手続き、仕組み（事業内容、理事・理事会・評議員・評議員会・監事の役割）、地域における公益的な取組等を理解してもらうためである。
・テキスト第2章第2節と第6章の内容を十分吟味し、理解を深めたうえで、レポートを作成すること。
・「レポートの評価基準」に沿って作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

第2課題の留意点

・ソーシャルワーカーは、要支援者への福祉サービス提供だけでなく、社会福祉組織において福祉現場のリーダーとして、あるいは経営・運営者としての役割を果たさないといけない場合がある。本課題は、その基礎理論であるリーダーシップについて理解してもらうためである。
・テキスト第6章を十分吟味し、リーダーシップ理論の系譜や各々理論の特徴を深めたうえで、レポートを作成すること。
・「レポートの評価基準」に沿って作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

レポートの評価基準

1. 不合格となる場合は以下のとおり。
   ①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
   ②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
   ③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
   ④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。
2. 評価項目と割合
   ①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
   ②序論ー本論ー結論（はじめにー本文ーおわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
   ③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
   ④誤字脱字はないか　5％
   ⑤文体は一致しているか　5％
   ⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
   ⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・必ず「学習テーマ」の内容を十分理解したうえで、テキストの内容に沿って書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。
・テキスト第2章2節と3節「社会福祉法人と特定非営利活動法人導入の社会的背景や目的、事業内容、設立要件、役員の役割、両法人の共通点と相違点など」、第3章4節「管理運営の基礎理論」、第3章6節「リーダーシップの基礎理論」、第4章2節「サービスの質の評価」、第4章3節「リスク発生のメカニズム理論」、第5章1節・2節「職員への動機づけ理論と職員研修の種類・目的」などの内容を理解し、深める必要がある。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・福祉サービスの組織と経営に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・金井壽宏　『リーダーシップ入門』　日本経済新聞出版社
・浦野正男　『社会福祉施設経営管理論』　社会福祉法人全国社会福祉協議会
その他、テキスト各章末の文献を参照のこと。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30046	科目名［単位数／学習時間］	社会調査の基礎［2単位／90時間］	科目担当	權　順浩
テキスト	●宮本和彦　梶原隆之　山村豊　福祉臨床シリーズ編集委員会 『社会福祉士シリーズ5　社会調査の基礎　第4版』 弘文堂				
ISBN	9784335611933	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協 テキストNo.	25150

科目の目的

本科目は、社会調査の意義と方法を学習することで、社会福祉の専門職として生活問題や社会現象等を客観的、科学的にとらえる能力を身につけることが目的である。そのため、社会福祉実践において調査・研究の意義と必要性を理解することが重要である。そのうえで、社会調査の方法や倫理、対象や内容に合わせた様々な調査·研究方法、標本の抽出方法、量的・質問研究方法について基礎的な知識を理解していく。

到達目標

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。
・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。
・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

学習テーマ

1	社会調査の目的と種類【学習のポイント：社会調査の目的と種類（横断・縦断調査等）を理解する。】
2	社会調査のプロセス【学習のポイント：社会調査の全体的な流れと用語（概念・仮説）を理解する。】
3	社会調査の倫理【学習のポイント：社会調査における倫理的配慮・統計法を理解する。】
4	量的調査の特徴と質問紙法の手順【学習のポイント：量的調査の特徴と手順を理解する。】
5	尺度、信頼性と妥当性【学習のポイント：尺度の種類、信頼性と妥当性の検証方法を理解する。】
6	研究デザイン【学習のポイント：さまざまな研究デザインの相違を理解する。】
7	調査対象の選定方法【学習のポイント：全数調査と標本調査、標本抽出法の相違を理解する。】
8	調査票作成と留意点【学習のポイント：調査票の構成要素と質問形式、留意点を理解する。】
9	ワーディング【学習のポイント：ワーディングの留意点を理解する。】
10	資料の配布と回収【学習のポイント：多様な資料の配布・回収方法の相違を理解する。】
11	データ整理【学習のポイント：データ整理時、留意点と度数分析を理解する。】
12	2変数のデータ分析【学習のポイント：クロス集計と相関関係を理解する。】
13	観察法【学習のポイント：参与・非参与観察法の相違とアクション・リサーチの特徴を理解する。】
14	面接法【学習のポイント：面接法の種類とデータ整理の留意点を理解する。】
15	ITを活用した調査設計と方法【学習のポイント：情報管理について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

量的調査の特徴と調査方法について述べなさい。

第2課題

質的調査の特徴と分析方法について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・課題の趣旨は、量的調査について理解を深めることである。そのため、次のようなことを留意しつつ、課題作成に取り組むことが重要である。
・テキスト第2章の内容を吟味したうえで、指定した参考文献を参考にしてレポートを作成すること。
・量的調査の目的、調査対象選定方法（全数調査と標本調査の特徴、標本抽出法）、質問紙作成時の留意点（ワーディング）、資料収集方法、信頼性と妥当性などの内容を必ず入れて作成すること。
・レポート作成の際、「レポート評価基準」を参考にしつつ作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

第2課題の留意点

・課題の趣旨は、質的調査の特徴と分析の際の留意点に対する理解を深めることである。そのため、次のようなことに留意しつつ、課題作成に取り組むことが重要である。
・テキスト第3章の内容を吟味したうえで、指定した参考文献を参考にしつつ作成すること。
・質的調査の目的、質的調査の特徴、資料収集方法（面接法と観察法）、アクション・リサーチ、分析方法（GTA、KJ法など）、分析の際の留意点、質的調査における信頼性と妥当性を確保する方法などをまとめつつ、作成すること。
・レポート作成の際、「レポート評価基準」を参考にしつつ作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

レポートの評価基準

1. 不合格となる場合は以下のとおり。
   ①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
   ②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
   ③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
   ④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。
2. 評価項目と割合
   ①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
   ②序論ー本論ー結論（はじめにー本文ーおわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
   ③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
   ④誤字脱字はないか　5％
   ⑤文体は一致しているか　5％
   ⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
   ⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストを参考にして、設題に応じてその内容が正確に書かれているかどうか。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。
・縦断調査の種類・目的（pp. 5 - 6 ）や面接法（p. 8 ）、調査票の配布と回収方法（pp.43-45）、ワーディング（pp.51-54）、標本抽出法（pp.55-59）、アクション・リサーチ（p.100）などの内容を深く理解し、学習する必要がある。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・社会調査に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・立石宏昭　『社会福祉調査のすすめ　実践のための方法論』　ミネルヴァ書房
・潮谷有二　杉澤秀博　武田丈　『MINERVA社会福祉士養成テキストブック5　社会調査の基礎』　ミネルヴァ書房
・近藤公彦　『ケース・スタディの方法』　千倉書房
・S・B・メリアム　『質的調査法入門ー教育における調査法とケース・スタディ』　ミネルヴァ書房
・平山尚　武田丈　呉栽喜　藤井美和　李政元　『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30047	科目名[単位数／学習時間]	保健医療サービス［2単位／90時間］	科目担当	藤林　慶子
テキスト	●児島美都子　成清美治　竹中麻由美　『保健医療と福祉』　学文社				
ISBN	9784762029776	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,700	生協テキストNo.	25151

科目の目的

本科目では、①相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解すること、②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解することを目的とする。

到達目標

・保健医療サービス（医療分野の中での福祉活動）の概要やその特徴等を理解する。
・保健・医療・福祉サービスが必要な対象者の生活課題を理解し、解決方法が提案できる。
・医療ソーシャルワーカーなど保健医療サービスにおける各専門職の役割や存在意義から、多機関連携・地域住民との協働・社会資源の開発などの重要性を認識できる。

学習テーマ

1	保健医療の動向【学習のポイント：保健医療、疾病構造の変化、在宅医療、保健医療における福祉的課題について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	保健医療の歴史的展開【学習のポイント：保健医療の歴史について学ぶ。＜テキスト第2章＞】
3	医療保険制度の概要①【学習のポイント：国民医療費の高騰、国民医療費に関する政策動向、医療費の国際比較について、理解する。＜テキスト第3章1・2・3＞】
4	医療保険制度の概要②【学習のポイント：医療保険制度、後期高齢者医療制度、公費負担医療制度について、理解する。＜テキスト第3章4・5・6＞】
5	保健医療対策の概要【学習のポイント：保健所の役割、医療計画、疾病、救急医療等、薬剤耐性対策、健康日本21と健康増進法等を理解する。＜テキスト第4章＞】
6	医療提供施設の概要【学習のポイント：医療法等による我が国の医療提供体制を理解する。＜テキスト第5章＞】
7	診療報酬制度①【学習のポイント：診療報酬とは何か等､診療報酬の基本を理解する。＜テキスト第6章1・2・3＞】
8	診療報酬制度②【学習のポイント：診療報酬から見える医療提供体制等の状況を理解する。＜テキスト第6章4・5・6＞】
9	保健医療における専門職の役割と連携・協働【学習のポイント：保健医療にかかわる各種の専門職の役割を理解し、連携・協働の重要性を理解する。＜テキスト第7章＞】
10	保健医療領域における支援の実際【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーの業務の方法や留意点、実際の支援を理解する。＜テキスト第8章＞】
11	地域包括ケアシステムと在宅医療【学習のポイント：地域包括ケアシステムとは何かを理解し、これからの在宅医療の在り方を理解する。＜テキスト第9章＞】
12	保健医療に係る倫理【学習のポイント：自己決定・意思決定、医療倫理について学び、医療に係わる倫理の課題を理解する。＜テキスト第10章＞】
13	病気・障害を抱える人びとや家族に対する相談・援助活動【学習のポイント：疾病・障害のある人と家族の状況等を理解し、実際の支援について学ぶ。＜テキスト第11章＞】
14	精神障害を抱えた人びとや家族に対する相談・援助活動【学習のポイント：精神保健の歴史、精神保健福祉の現状と課題、相談援助と精神保健福祉士について理解する。＜テキスト第12章＞】
15	高齢者福祉の問題を抱えた人びとに対する相談・援助活動【学習のポイント：高齢社会における高齢者福祉の問題を理解し、支援の実際を学ぶ。＜テキスト第13章＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保健医療サービスに関わる新聞等の記事を1つ探し、新聞名、掲載日時を記したうえで、内容をまとめ、それについての私見を述べなさい。

第2課題

自分の住んでいる地域の地域包括ケアシステムをインターネットで調べ、どういう状況にあるのかを説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

日本における疾病構造や人口高齢化などの状況変化をもとに、保健医療サービスとは何かをテキスト等を参考にして具体的にまとめる。（テキスト第1・4・7・8・11・12・13章、参考文献『厚生労働白書』、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

第2課題の留意点

地域包括ケアシステムを身近なものとするために、基本的な地域包括ケアシステムを理解し、インターネットやテキストを参考にして記述する。（テキスト第7・9章、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

レポートの評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献を参考にして適切に記述がなされていること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを精読して、理解を深めること。そして、設題の趣旨を正確に把握するように努めること。

科目修了試験の評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献も読んでいることが表われるような解答であること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

参考文献

・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省、都道府県・市町村のHP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30048	科目名［単位数／学習時間］	相談援助演習Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●一般社団法人日本社会福祉士養成校協会　『社会福祉士　相談援助演習　第2版』　中央法規出版				
ISBN	9784805851234	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目では、①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的なソーシャルワークの事例を体系的に取り上げ、さらに、②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心に学習する。また、これらを通して、ソーシャルワークの基礎である自己覚知、基本的コミュニケーション技術、基本的な面接技術について習得できるように、ソーシャルワークの理論的理解をする。実務経験を活かして教授する。

なお、ソーシャルワークと相談援助は同義である。

到達目標

ソーシャルワークに関する基礎を学ぶことを通して、社会福祉専門職として必要な基本姿勢と基本的技術を理解し、習得する。相談援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくため、ソーシャルワークに係る知識と技術について「相談援助演習Ⅱ」（スクーリング履修科目）と合わせて以下の課題に取り組む。

学習テーマ

1	ソーシャルワークの目的、意義、内容について理解する。
2	ソーシャルワークの倫理について理解する。
3	自己理解、他者理解について理解する。
4	クライエント理解のための面接について理解する。
5	人と環境について理解する。
6	価値と倫理について理解する。
7	ソーシャルワークにおける関係性について理解する。
8	ソーシャルワークの展開過程について理解する。
9	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術について理解する。
10	ケースカンファレンスについて理解する。
11	地域を基盤としたソーシャルワークについて理解する。
12	実践モデル、アプローチについて理解する。
13	社会問題を基盤とした相談援助について理解する。
14	対象別にみたソーシャルワークについて理解する。
15	ジェネラリストソーシャルワークの到達点について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークにおける面接の特性、基盤・技法について、記述しなさい。考察の最後に、学んで理解した内容について、自身の日常生活・活動のなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

第2課題

ソーシャルワークにおける価値とジレンマについて、説明しなさい。考察の最後に、学んで理解した内容について、自身の日常生活・活動、対人的関わりのなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章を中心によく読み、会話との違い、目的、基盤、応答技法をキーワードとして文中に用い、ソーシャルワークの専門面接について理解できるように学ぶ。

第2課題の留意点

テキスト第1章を中心に、とくに3節をよく読み、専門職倫理、行動規範、尊厳、自己決定をキーワードとして文中に用い、ソーシャルワーク実践に伴うジレンマについて理解できるように学ぶ。

レポートの評価基準

「課題の留意点」に沿って学習し、関連科目の「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の文献等も併せて参考にし、使用文献と引用箇所は明示すること。課題の趣旨に沿った内容、文章量、適切な文字表現から評価する。個人的な事例は書かないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの内容を理解し、社会福祉士が行うソーシャルワーク（相談援助・援助技術論）に関する関連科目のテキストや文献もよく読んで、理解を深めておくこと。レポート課題以外のテキストの範囲も学んで臨むこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨に沿った内容の解答をすること。文章量、文字表現の適切さも含めて評価する。
・個人的体験や事例等で文章量を確保したり、趣旨から離れた観点からの意見は評価に値しないので、気をつけること。

参考文献

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習［共通科目］』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30054	科目名［単位数／学習時間］	権利擁護と成年後見制度［2単位／90時間］	科目担当	福島　健太
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座19　権利擁護と成年後見制度　第4版』 中央法規出版				
ISBN	9784805839362	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200	生協 テキストNo.	生協での取扱いはありません
実務経験のある教員による科目	弁護士、日弁連高齢者障害者権利支援センター委員				

科目の目的

権利擁護の意義を理解し、権利擁護支援とは何か、から学び、権利擁護支援の手段としての成年後見制度について、後見・保佐・補助の違いとその理由を理解し、さらに後見人等に求められる義務についても理解する。また、どのような場合に後見制度を利用すべきかについても、具体的事案をもとに理解を深める。そして、任意後見制度についても法定後見と比較しながら理解する。そして、近時の後見制度の変革についても理解する。実務経験を生かして教授する。

到達目標

権利擁護支援がなぜ求められているのか、その上で成年後見制度がどのような役割を果たすのかを理解し、適切な場面で成年後見制度の利用につなげられるよう、関係機関の役割等も理解することが目標である。そのためには、権利擁護の意義、成年後見制度の全般的な理解がまずは必要になる。さらに、権利擁護に関わる関係機関や成年後見制度以外の他の制度も理解し、どの制度を選択すべきなのかを理解することが重要である。以上について、国家試験の過去の出題傾向を意識し、過去問も併せて解きながら必要な知識を得る。

学習テーマ

1	権利擁護について【学習のポイント：権利擁護とは何か、を学ぶ。】
2	憲法の理解【学習のポイント：関連する範囲で憲法を学ぶ。】
3	行政法の理解【学習のポイント：関連する範囲で行政法を学ぶ。】
4	民法の理解①【学習のポイント：関連範囲で民法（不法行為中心）を学ぶ。】
5	民法の理解②【学習のポイント：関連範囲で民法（家族法中心）を学ぶ。】
6	後見制度の概要と法定後見【学習のポイント：制度の概要と法定後見制度の具体的な内容について学ぶ。】
7	申立及び選任後の手続【学習のポイント：具体的な制度の利用の仕方について学ぶ。】
8	近年の動向と関連機関について【学習のポイント：関連機関等について学ぶ。】
9	関連する他の制度について【学習のポイント：日常生活自立支援事業など関連制度を学ぶ。】
10	任意後見制度について【学習のポイント：任意後見制度について法定後見と比較して学ぶ。】
11	後見制度のおさらい【学習のポイント：後見制度全般を再度確認する。】
12	虐待防止法について【学習のポイント：関連する範囲で虐待防止法について学ぶ。】
13	債務整理や消費者被害その他関連する法的な問題【学習のポイント：関連分野について学ぶ。】
14	これまでの学習のおさらい【学習のポイント：学んできた内容を整理し再確認する。】
15	修了試験と全体のまとめ【学習のポイント：現時点での理解度を確認し今後の学習ポイントを把握する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

成年後見制度は、どのような場面で利用されるものか。

第2課題

日常生活自立支援事業について、説明せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

成年後見制度がどのような目的で改正されたのかを理解し、利用場面を検討する。

第2課題の留意点

制度の概略や実施主体、対象となるものについて示すこと。

レポートの評価基準

まずは、それぞれ問われている言葉や制度の説明が適切にできているかどうか、分かり易く的確に記入されているか、が判断基準となる。

課題に答えていない場合や、説明として明らかに不十分な場合は、評価を低くせざるを得ない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

成年後見制度については、テキスト第2章全体を十分読み込み、後見・保佐・補助の各類型について、申立手続から選任後の権限の違いなどについて理解する必要がある。また、後見人等の義務についても理解しておくこと。さらに、後見制度と関連する他の制度についてもテキスト第3章、第4章をよく読んでおくこと。そして、後見制度の現状や課題についてもテキスト第2章第7節を読み理解すること。

また、憲法や民法、行政法については概要を理解できるよう、社会福祉士国家試験過去問で出題されている部分（テキストpp. 8 -18、pp.31-42、pp.56-78）を中心に目を通しておくこと。

科目修了試験の評価基準

6割程度理解できていると評価できれば合格とする。

参考文献

・PASネット　『権利擁護支援ハンドブック』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30057	科目名[単位数/学習時間]	社会福祉学特殊講義A（福祉と女性）[2単位/90時間]	科目担当	久保木　亮子
テキスト	●森田明美　『よくわかる女性と福祉　やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623059560	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	25152
実務経験のある教員による科目	公立保育園長、公立保育園・幼稚園兼務園長、子育て支援センター長				

科目の目的

現代女性の子ども期、子育て期、壮年期、高齢期のライフステージに焦点を当て、女性が働きながら子どもを育てる困難さなど女性の権利や様々な権利の課題について考えながら、社会福祉の観点からどのような考え方ができるかを考えていく。また、女性の社会的地位、女性の人生設計、女性と労働、子育てなどについて世界各国の女性との状況から比較を行いながら検討していく。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキスト全体を通読し、
・急速な少子高齢化社会の動向に関心を持ち、様々な対策について考える。
・諸外国の女性政策と女性の意識について学ぶ。
・女性の社会保障の向上に向けての雇用環境や政策等について考える。
・女性の生き方、真の自立について学びを深める。
などについて学びを深める。

学習テーマ

1	福祉とは【学習のポイント：福祉とは何かについて考察する。】
2	女性の生き方について学ぶ①【学習のポイント：乳幼児期～学童期の問題と改善について】
3	女性の生き方について学ぶ②【学習のポイント：学童期～青年期の問題と改善について】
4	女性の生き方について学ぶ③【学習のポイント：青年期～壮年期の問題と改善について】
5	女性の生き方について学ぶ④【学習のポイント：壮年期～高齢期の問題と改善について】
6	仕事と子育ての両立について学ぶ①【学習のポイント：子育て支援制度と活用について考える。】
7	仕事と子育ての両立について学ぶ②【学習のポイント：両立可能な社会を目指す体制について考える。】
8	少子高齢化社会について学ぶ【学習のポイント：動向と対策について学習する。】
9	女性の貧困について考える【学習のポイント：現状から原因、解決について考える。】
10	女性のライフステージについて学ぶ①【学習のポイント：自立への道筋について考える。】
11	女性のライフステージについて学ぶ②【学習のポイント：年代、期別毎の問題を考える。】
12	日本の社会福祉について学ぶ【学習のポイント：歴史、問題点、課題を探る。】
13	世界の女性政策について学ぶ【学習のポイント：先進諸国の現状を知る。】
14	女性政策の在り方を考察する【学習のポイント：世界と比較しながら課題解決を探る。】
15	以上の学びの振り返り

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

女性が自分らしく生活することを阻むものは何か？ライフステージ毎の問題点と安心して生活できる社会体制作りを述べなさい。

第2課題

女性が働き続け、働きながら子育てと仕事の両立が当たり前となる体制作りについて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

女性のライフステージは多様化してきた。女性が自立して生きていくために様々な問題に遭遇している。その課題とは何かを検討する。（テキストⅢ ライフスタイルの選択 pp.42-54を熟読し考察すること。）

第2課題の留意点

諸外国の女性政策と比較、検討しながら各国の政策を端的にまとめ、日本でも女性が働き、仕事と子育ての両立が続けられる社会実現について述べる。（テキストⅪ 海外の女性と福祉 pp.182-192を参考に考察すること。）

レポートの評価基準

学びを理解したうえで、日本における女性政策と世界の動向に目を向け、女性が自立を目指すための課題と解決策について述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストを読んで理解を深め、テキスト学習より得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れ作成する。自身の経験や自説を記入しても評価しない。
・社会情勢に目を向け、女性の自立と活躍に向けてどのように取り組んでいくかに焦点を当て作成すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字以上程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

内閣府男女共同参画局HP

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30058	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉学特殊講義B（福祉と歴史）[2単位／90時間]	科目担当	權　順浩
テキスト	●山縣文治　岡田忠克　『よくわかる社会福祉　第11版　やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623076765	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25153

科目の目的

社会福祉の発展にはその歴史を学ぶことが必要である。社会福祉の現状を取り巻く問題をより深く理解しようとするとき、社会福祉発達史やその社会的背景に関しての知識を学ぶことが重要となる。
併せて、日本の社会福祉及び欧米の社会福祉の歴史的展開をふまえながらソーシャルワークの歴史的展開も学ぶ。

到達目標

・社会福祉の基礎概念を理解する。
・社会福祉を取り巻く状況について理解する。
・社会福祉の歴史（日本・イギリス・アメリカ）について理解する。
・社会福祉基礎構造改革について理解する。
・社会福祉専門職について理解する。

学習テーマ

1	社会福祉の基礎概念としてのノーマライゼーションについて理解する。
2	社会福祉を取り巻く状況としての現代家庭の動向と変化及び貧困について理解する。
3	社会福祉の歴史と展開としての戦前・戦後及び欧米の社会福祉の動向について理解する。
4	社会福祉の仕組みと運営としての社会福祉の財政とサービスの利用と提供について理解する。
5	社会福祉の機関と施設について理解する。
6	社会福祉の援助の方法について理解する。
7	社会保障（公的年金・医療保険制度）・公的扶助（生活保護の実施体制等）について理解する。
8	子ども家庭福祉制度と児童虐待について理解する。
9	高齢者福祉と介護保険制度及び地域包括ケアシステムについて理解する。
10	障害者福祉と障害者総合支援法及び障害者雇用対策の現状と課題について理解する。
11	障害者の権利保障とアドボカシー（権利擁護）について理解する。
12	地域福祉とコミュニティケア及び成年後見人制度について理解する。
13	地域の組織化と福祉の組織化及びソーシャル・サポート・ネットワークについて理解する。
14	これからの福祉の課題としての苦情解決と福祉オンブズパーソンについて理解する。
15	福祉を支える人たちとしての社会福祉専門職の現状と課題について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

日本とイギリスの社会福祉の歴史についてまとめなさい。

第2課題

ソーシャルワークの体系と歴史的展開についてまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキストⅢ社会福祉の歴史と展開を熟読してまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲＜1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下＞でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

第2課題の留意点

・テキストⅥ社会福祉の援助と方法を熟読してまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲＜1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下＞でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

レポートの評価基準

・テキストに基づいていない内容が大半あるいは終始したものは合格水準に達していないと判断する。
・「各課題の留意点」に示している範囲の文字数（規定分量）で記述されていることを前提として評価するので、大幅な過不足は合格水準に達していないと判断する。規定分量の範囲でない場合減点とする。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない（例えば段落の最初は一字下げるなど）、引用・参考文献（テキストを含む）を明示していない場合は減点対象。なお、引用・参考文献は本文の文字数には含まれないので留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「到達目標」をふまえ、テキストの該当する各章を熟読し、ポイントを整理して理解しておくこと。
・社会福祉の基礎概念（pp.20-21）を十分理解するうえで、日本やイギリスの社会福祉の歴史と展開（pp.32-41）やソーシャルワークの体系と展開過程（pp.80-85）、社会保障制度の体系と機能（pp.108-109）、成年後見制度と日常生活自立支援事業（pp.206-207）、社会福祉専門職者の現状と課題（pp.222-225）といった基礎的な内容をきちんと学習し、深める必要がある。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができていること。
・テキストに基づいていない内容のみでは合格水準に達していないと判断する。
・「科目の目的」や「到達目標」をふまえずに自説を記入しても評価しない。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない場合は減点対象。

参考文献

・右田紀久恵　高澤武司　古川孝順 『社会福祉の歴史　政策と運動の展開』 有斐閣

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30060	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉学特殊講義D（福祉と国際社会）[2単位／90時間]	科目担当	權　順浩
テキスト	●仲村優一　慎燮重　萩原康生　『グローバリゼーションと国際社会福祉』　中央法規出版				
ISBN	9784805822135	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	25154

科目の目的

本科目は、国際社会福祉の観点から国際社会が抱えているさまざまな課題、もしくは国内の外国人問題を深く理解し、その支援活動を学習することが目的である。そのため、国際社会福祉の理論や理念、価値、歴史などを学習し、国際社会へ大きな影響を及ぼしているグローバリゼーションを社会的、経済的、文化的、政治的など、多様な側面からとらえ、その問題と課題を理解する。そして、それらの問題に対する支援活動を学習する。さらに、日本国内の問題として在日外国人が抱えている課題、その背景や支援活動、制度的取り組みについて学習する。

到達目標

・グローバリゼーションによる肯定的・否定的影響を多角的な側面から理解を深めること。
・国際社会が抱えている問題と課題を深く理解するため、必要な専門的知識と国際社会福祉の理念を身につけること。
・在日外国人が抱えている課題とその支援活動を理解するための国際的観点を身につけること。

学習テーマ

1	グローバリゼーション時代における国際福祉の意義【学習のポイント：多様な側面からグローバリゼーションの意義を理解する。】
2	国家福祉の現状と展望①【学習のポイント：国際福祉の諸理論を理解する。】
3	国家福祉の現状と展望②【学習のポイント：福祉国家の類型、発展理論、福祉社会との相違を理解する。】
4	国際社会福祉の理念と歴史【学習のポイント：国際福祉の目標・理念・歴史を理解する。】
5	国際社会福祉の現状と展望【学習のポイント：先進国と発展途上国の社会福祉の違い、国際社会福祉活動を理解する。】
6	国際社会福祉の課題【学習のポイント：アマルティアセンの自由の本質的役割から国際社会福祉の課題、任務・要件を理解する。】
7	アジアの貧困と貧困の再生産【学習のポイント：アジアの貧困と環境問題、貧困の再生産を理解する。】
8	貧困と女性・子ども問題【学習のポイント：女性・子どもにおける貧困問題が及ぼす影響を理解する。】
9	国際福祉システム【学習のポイント：国際福祉のさまざまなシステムと機能を理解する。】
10	永住外国人の福祉問題【学習のポイント：日本に滞在する外国人の生活問題を理解する。】
11	国際社会福祉における日本の役割【学習のポイント：国際社会福祉における日本の活動と役割を理解する。】
12	国際社会福祉の背景と国際協力【学習のポイント：国際社会福祉の背景と国際協力の成果・課題を理解する。】
13	地球社会共生のための国際協力【学習のポイント：国際協力の仕組みと活動を理解する。】
14	社会開発の歴史と枠組み【学習のポイント：社会開発の歴史と国際動向を理解する。】
15	社会開発と開発型福祉【学習のポイント：CBRの意義、開発型福祉と従来型福祉の相違を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

国際社会福祉の意義と展望について述べなさい。

第2課題

国際社会福祉における日本の役割について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・「レポートの評価基準」を参考にして、レポートを作成すること。
・テキスト第2章の内容を吟味し、まとめること。
・国際社会福祉の定義や目標、理念、歴史、現状などの内容がバランスよく国際社会福祉の意義と展望を書くことが重要である。
・参考文献、引用文献を明確に示すこと。

第2課題の留意点

・「レポートの評価基準」を参考にして、レポートを作成すること。
・日本は、国際社会福祉の発展にどのように貢献しているのか、その現状と課題、そして、今後の方向性等について、テキスト第5章の内容を吟味し、まとめること。
・参考文献、引用文献を明確に示すこと。

レポートの評価基準

1.不合格となる場合は以下のとおり。
①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。

2.評価項目と割合
①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
②序論ー本論ー結論（はじめにー本文ーおわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
④誤字脱字はないか　5％
⑤文体は一致しているか　5％
⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの専門用語を正確に理解し、書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。
・テキスト第1章4節（国家福祉の理論と現状）や第2章1節・2節・4節（国際社会福祉の定義や目標、理念、アプローチなど）、第3章3節・4節・5節（アジアの貧困問題や女性問題、子ども問題）などの内容を深く理解し、学習する必要がある。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・関連専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・川村匡由　『国際社会福祉論』　ミネルヴァ書房
・田中宏　『在日外国人　法の壁、心の溝』　岩波書店
・安田浩一　『ルポ　差別と貧困の外国人労働者』　光文社
・高賛侑　『ルポ　在日外国人』　集英社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30066	科目名［単位数／学習時間］	医療福祉論［2単位／90時間］	科目担当	藤林　慶子
テキスト	●小西加保留　田中千枝子『よくわかる医療福祉　保健医療ソーシャルワーク　やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ』ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623055746	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません

科目の目的

本科目では、医療福祉の概念や医療領域におけるソーシャルワークの役割等について学ぶことにより、疾病や障がいを抱える当事者や家族に対する支援の重要性について理解する。

到達目標

本科目は、医療領域におけるソーシャルワーク支援の重要性について学ぶものである。テキストに基づいて、具体的な学習内容をあげると以下のとおりとなる。

①医療福祉の概念・概要を理解する、②医療福祉を取り巻く環境を理解する、③医療ソーシャルワーカーの歴史を理解する、④患者と家族を理解する、⑤医療現場におけるソーシャルワークの倫理を理解する、⑥病院の機能と組織における業務展開を理解する、⑦医療福祉と連携・チームワークを理解する、⑧医療ソーシャルワークの視点と援助過程を理解する。

学習テーマ

1	医療福祉の基礎概念【学習のポイント：社会福祉、ソーシャルワーク、医療福祉の概念について整理し、理解をする。＜テキスト第1章＞】
2	医療福祉を取り巻く背景【学習のポイント：医学と医療の変遷、医療制度（日本、諸外国）、医療政策について具体的に理解する。＜テキスト第2章＞】
3	医療ソーシャルワーカーの歴史【学習のポイント：アメリカ、イギリス、日本における医療ソーシャルワーカーの歴史を具体的に理解する。＜テキスト第3章＞】
4	患者と家族の理解【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーの支援の対象である患者とその家族について、心理や支援とは、関わり等を理解する。＜テキスト第4章＞】
5	医療現場におけるソーシャルワークの倫理【学習のポイント：ソーシャルワークの倫理について、総論、小児医療、神経難病、終末期医療等の具体的な例から理解する。＜テキスト第5章＞】
6	病院の機能と組織における業務展開【学習のポイント：医療機関の種別を法令等から具体的に理解する。＜テキスト第6章＞】
7	医療福祉と連携・チームワーク【学習のポイント：今後ますます重要になる多職種連携やチーム医療について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	医療ソーシャルワークの視点と援助①　総論、医療保障、HIV患者【学習のポイント：具体的な援助過程等の総論と医療保障、HIV感染症から理解する。＜テキスト第8章1・2・3＞】
9	医療ソーシャルワークの視点と援助②　女性、がん医療、リハビリテーション【学習のポイント：具体的な援助過程について、女性、がん医療、リハビリテーションから理解する。＜テキスト第8章4・5・6＞】
10	医療ソーシャルワークの視点と援助③　認知症、高齢者、小児【学習のポイント：具体的な援助過程を認知症、高齢者、小児について、理解する。＜テキスト第8章7・8・9＞】
11	医療福祉に関わる医療保障制度①　医療法、保健医療従事者【学習のポイント：医療保障制度について、病院等の医療機関や医療供給体制を規定している医療法と医療に関わる医療従事者について理解する。＜テキスト第9章1・2＞】
12	医療福祉に関わる医療保障制度②　医療保険制度と診療報酬制度【学習のポイント：我が国の医療保険制度と診療報酬制度について理解する。＜テキスト第9章3＞】
13	医療福祉に関わる医療保障制度③　社会保険及び社会福祉各法と医療福祉【学習のポイント：社会保険と社会福祉の法律を理解し、医療福祉との関連を学ぶ。＜テキスト第9章4＞】
14	医療福祉の今後の課題①　医療の変遷と医療福祉の今後、直接的支援とその対応、組織と地域における課題、マクロな課題とその対応【学習のポイント：医療福祉の今後の課題を具体的に理解する。＜テキスト第10章1・2・3・4＞】
15	医療福祉の今後の課題②　医療ソーシャルワーカーとしてのアドボカシー、医療ソーシャルワーカー業務指針【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーのアドボカシーを理解する。資料にある医療ソーシャルワーカー業務指針からどのような業務を行うかを理解する。＜テキスト第10章4、資料＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

具体的な事例を使って、医療ソーシャルワーカーの役割と課題について述べなさい。

第2課題

テキストや参考文献、インターネット等から引用して、医療ソーシャルワーカーの具体的業務について、述べなさい。なお引用部分については、適切な引用方法を調べ、それに準じて記入すること。間違った引用方法は認められない。文末に必ず引用文献を載せること。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

例えば、参考文献『困ってるひと』を読んで、患者としての立場だけではなく、その人が社会の中で置かれている環境についても理解し、役割と課題について考える。（テキスト第 4 章、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

第 2 課題の留意点

地域包括ケアや地域共生社会等の状況を新聞記事や雑誌を参考として、患者や家族がおかれている状況を考えたうえで、保健・医療・福祉の連携による医療ソーシャルワーカーの具体的業務について考える。（テキスト第 7 章、参考文献『厚生労働白書』、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

レポートの評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献を参考にして適切に記述がなされていること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況などについても丁寧に論述していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを精読して、理解を深めること。そして、設題の趣旨を正確に把握するように努めること。

科目修了試験の評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献も読んでいることが表われるような解答であること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

参考文献

・日本医療社会事業協会　『保健医療ソーシャルワーク原論』　相川書房
・大谷昭　『医療ソーシャルワーク実践50例　典型的実践事例で学ぶ医療福祉』　川島書店
・大野更紗　『困ってるひと』　ポプラ社
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・厚生労働省HP　『厚生労働白書（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30068	科目名［単位数／学習時間］	生涯スポーツ学習論［2単位／90時間］	科目担当	中瀬古　哲
テキスト	●日下裕弘　加納弘二　『生涯スポーツの理論と実際　豊かなスポーツライフを実現するために　改訂版』　大修館書店				
ISBN	9784469266986	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,300	生協 テキストNo.	25156

科目の目的

今日、スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠な、全ての人々の権利であると考えられている。スポーツ抜きに福祉の充実を語ることはできない。我が国においても、その権利を保障する、「生涯スポーツ学習社会」構築に向けて模索が展開されている。本科目は、「生涯スポーツ」の理念並びにそれを実現するための諸課題について、ライフステージをふまえて考察することを目的とする。

到達目標

・「生涯スポーツ」概念が、人間本来の姿・生活・生き方を問いつつ、現代社会における人間疎外の状況に警鐘を鳴らし、その克服を視野に入れた、総合的・福祉的なものであることを理解する。
・我が国の、「生涯スポーツ学習社会」の現状と課題について、「子ども」「青年」「成人」「高齢者」の4つのライフステージ毎に理解を深める。
・ライフステージ毎の「生涯スポーツ」の考察を通して、「福祉サービス」「コミュニティ」「地域社会」の意味を問い直し、そこでの課題を把握する。

学習テーマ

1	生涯スポーツの概念について【学習のポイント：ライフステージの考え方とライフステージ毎の課題を理解する。＜テキストpp. 2 -15＞】
2	我が国のスポーツ振興施策について【学習のポイント：我が国のスポーツ振興施策に関わる取り組みについての理解を深める。＜テキストpp.16-28＞】
3	子どもにとってのスポーツの意味について【学習のポイント：遊びについての理論について理解するとともに遊びの観点からスポーツの意味を掘り下げる。＜テキストpp.30-55＞】
4	子どもの自然遊び・外遊びについて【学習のポイント：実際の遊びについての理解を深める。＜テキストpp.55-66＞】
5	子どもに遊びを保障する手立てについて【学習のポイント：「3つの間」と「3つの場」を保障することの意義と手立てについて理解する。＜テキストpp.67-100＞】
6	青年期の発達課題とスポーツの関係について【学習ポイント：若者にとってのスポーツの現状と課題について理解する。＜テキストpp.102-108＞】
7	スポーツ概念について【学習のポイント：スポーツの本質規定に関わる諸理論を理解する。＜テキストpp.109-123＞】
8	青年期のスポーツについて【学習のポイント：球技スポーツの歴史とアスリートの事例を通して、青年期のスポーツの実際と指導の課題について理解する。＜テキストpp.120-150＞】
9	レジャー概念について【学習のポイント：人間の生活におけるレジャーの意義を理解する。＜テキストpp.156-159＞】
10	コミュニティ概念について【学習のポイント：コミュニティという観点から地域づくりの課題を理解する。＜テキストpp.159-164＞】
11	総合型地域スポーツクラブについて①【学習のポイント：地域スポーツの新しい形としての総合型地域スポーツクラブの特徴と課題について理解する。＜テキストpp.152-155並びにpp.164-171＞】
12	総合型地域スポーツクラブについて②【学習のポイント：実践事例を通して総合型地域スポーツクラブの特徴と課題について理解を深める。＜テキストpp.177-184＞】
13	成人期のレジャースポーツについて【学習のポイント：諸外国の先進事例を通してレジャースポーツの実際について理解する。＜テキストpp.172-176＞】
14	地域スポーツの現状と課題【学習のポイント：スポーツプローモーションという観点から新しいスポーツ価値の創造について理解する。＜テキストpp.185-193＞】
15	高齢者のスポーツについて【学習のポイント：QOLとスポーツの関係とそれをふまえたスポーツの在り様について理解する。＜テキストpp.196-246＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「子ども」「青年」「成人」「高齢者」、それぞれのステージの発達課題と生涯スポーツ実践のあり方について整理し、そこでの実践的課題を指摘するとともに、課題解決に向けての自身の見解を述べなさい。

第2課題

我が国の「生涯スポーツ」振興政策の特徴を整理し、そこでの実践的課題を指摘するとともに、課題解決に向けての自身の見解を述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

ステージごとの発達課題と実践のあり方の整理においては、テキストに出てくるキーワードを正確に理解しそれをふまえて論述する。実践的課題・解決策の指摘・提起においては、自身の体験や関連する時事問題等もふまえて、主体的・具体的に述べる。その他の文献や資料を参考にした場合は、必ずその出典を明示すること。

第 2 課題の留意点

整理においては、我が国のスポーツ振興政策の流れ、背景にある理念や実践、取り組みを阻害する要因、についてテキストをふまえて述べる。実践的課題・解決策の指摘・提起においては、自身の体験や関連する時事問題等もふまえて、主体的・具体的に述べる。その他の文献・情報を参考にした場合は、必ずその出典を明示すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を、十分咀嚼し、自身の考えをわかりやすく述べているかどうかを重視し評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストにおける重要なキーワードを適切に使用している。
②自身の体験、時事問題等、テキスト以外の情報・資料を、加味して論述している。
③テキストや他の参考文献をふまえつつ、自身の主張・見解が明記されている。
④論理展開に一貫性があり、丁寧な表現でわかりやすいこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われたテーマから出題する。解答に当たっては、テキスト内のキーワードを用いて、現状の問題点や実践変革の展望・見通し・課題について、論述する。キーワードの羅列・解説、或いは、自身の経験や主張の列挙ではなく、両者の往還の過程を論理的に記述する。

科目修了試験の評価基準

・テキストから学んだ内容を、十分咀嚼し、自身の考えをわかりやすく述べているかどうかを重視し評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストにおける重要なキーワードを適切に使用している。
②自身の体験、時事問題等、テキスト以外の情報・資料を、加味して論述している。
③テキストや他の参考文献をふまえつつ、自身の主張・見解が明記されている。
④論理展開に一貫性があり、丁寧な表現でわかりやすいこと。

参考文献

・日本レクリエーション協会HP 『ライフステージに応じたスポーツ活動推進のための調査研究』
https://recreation.or.jp/activities/survey/lifeatage/
・文部科学省HP 『スポーツ基本法』 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/
・文部科学省HP 『スポーツ立国戦略』 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm
・文部科学省HP 『総合型地域スポーツクラブ』 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/index.htm
・井上俊　亀山佳明 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社
・西尾達雄 『生涯スポーツの時代　スポーツの現代的認識と国民スポーツの課題』 時潮社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30069	科目名［単位数／学習時間］	子どもの食と栄養［2単位／90時間］	科目担当	廣田　有加里
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第2版』　羊土社				
ISBN	9784758109116	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	生協での取扱いはありません
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義【学習のポイント：子どもの健全育成のための食生活について理解する。】
2	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能①【学習のポイント：糖質、脂質、たんぱく質の特徴と働きについて理解する。】
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能②【学習のポイント：ミネラル、ビタミンの特徴と働き、エネルギー代謝について理解する。】
4	栄養に関する制度【学習のポイント：日本人の食事摂取基準（2020年版）の策定の目的とその活用方法と献立作成・調理の基本を理解する。】
5	妊娠期と授乳期の特徴と食生活【学習のポイント：妊娠前からの食生活の重要性と妊娠期・授乳期の栄養素の過不足および嗜好品の問題について理解する。】
6	乳児期の心身の特徴と食生活の関係【学習のポイント：乳児期の食べる機能と乳汁栄養の方法について理解する。】
7	離乳の意義とその実践【学習のポイント：離乳の必要性を理解し、発達に応じた進め方を理解する。】
8	幼児期の心身の発達と食生活【学習のポイント：幼児期特有の食行動を理解し、この時期に獲得した咀嚼の習慣はその後にも影響を及ぼすことを理解する。】
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活【学習のポイント：学童期・思春期の心身の特徴と発達および食生活上の問題への対応について理解する。】
10	成人期・高齢期の健康上の課題と対策【学習のポイント：成人期および高齢期の生活習慣病とその対策について理解する。】
11	食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画及び評価【学習のポイント：保育所保育における養護と教育が一体となって実践する食育について理解する。】
12	食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援【学習のポイント：子どもが食に関する豊かな体験ができるように幅広い関係者と積極的に連携をもつ必要性を理解する。】
13	家庭および児童福祉施設における食事と栄養【学習のポイント：生活環境別に食生活の実態と問題点を理解する。】
14	体調不良、疾患の子どもおよび障害のある子どもへの対応【学習のポイント：子どもに多い疾病の特徴および障害の種類、特徴に対応した食生活について理解する。】
15	食物アレルギーのある子どもの食と栄養【学習のポイント：食物アレルギーのある子どもへの対応と保護者への対応と食事提供の配慮について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

家庭や児童福祉施設における食育の意義と実践について述べよ。

第2課題

母乳栄養の利点と留意点および保育所における冷凍母乳の取り扱いについて述べよ。

各課題の留意点

第１課題の留意点

テキスト第10章（pp.132-143）、『食育基本法』『第４次食育推進基本計画』および『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』など数多くの参考文献を熟読し、社会環境や家庭環境の変化に伴う子どもの食を取り巻く現状を理解した上で、家庭や児童福祉施設における栄養・食生活のあり方や給食の役割を含め、食育の意義および実践方法について、数多くの参考文献から理解を深め論理的に記述する。レポートのまとめとして、学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第２課題の留意点

『平成27年乳幼児栄養調査』の結果では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取り組みをしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。テキスト第５章（pp.64-65）、『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』および『平成27年乳幼児栄養調査』など、数多くの参考文献から理解を深め論理的に記述する。レポートのまとめとして、学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

レポートの評価基準

・指定テキストだけでなく、多数の参考文献に目を通し、理解を深め論理的に、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
・レポートの課題の趣旨を理解し、論理的にわかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・乳幼児の食べる機能や味覚の発達が及ぼす精神面への影響について理解を深める。（テキスト第１章pp.16-19、第５章pp.68-69）
・給食の献立作成の基本を理解し、どのような工夫が必要であるかを理解する。また、外食や市販食品の利用に対応できるように、食品の選び方や配膳方法などについても理解する。（テキスト第３章pp.36-46）
・子どもの健康及び安全に関する共通認識を深め、感染症対策に組織的に取り組むことが求められることから、衛生管理や窒息事故を予防するための対応について理解を深める。（テキスト第３章pp.45-46、テキスト第６章pp82-83、『授乳・離乳の支援ガイド2019年　改定版』、『保育所における感染症対策ガイドライン』）
・妊婦の栄養状態が、胎児の発育だけでなく、産まれてくる子どもの生活習慣病の発症リスクに大きく影響する可能性があることから、生理的特徴と食生活の留意点などの理解を深めておく。（テキスト第４章pp.48-57）
・乳汁栄養である育児用ミルクの種類と特徴を理解し、子どもを感染症から防ぐための留意点を学習する。（テキスト第５章pp.62-68）
・保育の一環としての食育実践をめざしていくためには、「保育所保育指針」および第４次食育推進基本計画の内容を理解しておく。成長期の子どもに対する食育は、生涯にわたり食を営む力を育むことができるよう、連続性をもった取り組みと環境づくりについて学習する。（テキスト第９章pp117-129、参考文献『食育の推進』、『第４次食育推進基本計画』）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：摂食機能、味覚、食育、人工栄養、献立、安全

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・指定文字数９割に満たない場合や指定文字数を終えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得られた基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・字は読みやすく、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・上田玲子 『子どもの食生活』 ななみ書房
・堤ちはる　土井正子 『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』 萌文書林
・森脇千夏 『イラスト子どもの食と栄養』 東京教学社
・飯塚美和子 『子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために』 学建書院
・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08517.html
・厚生労働省『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省『平成27年度乳幼児栄養調査結果』
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省 『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』
https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf
・厚生労働省 『食物アレルギーの栄養食事指導の手引き2022』
https://www.foodallergy.jp
・農林水産省 『健全な食生活の実現』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省 『食事バランスガイドと従来の分類法との関連』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省 『食育ガイド』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/guide/pdf/00_jp_guide.pdf
・農林水産省 『第４次食育推進基本計画』
https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html
・農林水産省 『ライフステージ別の現状と取組』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30_wpaper.html
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30070	科目名[単位数／学習時間]	子どもの保健［2単位／90時間］			
テキスト	●大森正英 『図解 新・子どもの保健』 みらい					
ISBN	9784860155636	本体価格(円)(2025年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	25122	
科目担当	小島 光華					

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患の特徴と予防に必要な知識を学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの健康と保健活動の意義を理解する。②子どもの健康に関する現状と課題を理解する。③子どもの発育発達と保健について理解する。④子どもの心身の健康状態の把握と対応について理解する。⑤子どもの疾病と対応について理解する。

学習テーマ

1	健康の定義と子どもの健康
2	子どもに係る保健活動の目的と内容
3	子どもの健康指標
4	母子保健対策にみる現状と課題① 母子保健活動と母子保健対策
5	母子保健対策にみる現状と課題② 地域保健活動と子どもの虐待防止
6	子どもを取り巻く環境
7	子どもの身体の発育と保健
8	子どもの心身の発達と保健① 運動機能と精神機能の発達
9	子どもの心身の発達と保健② 感覚器と生理機能の発達
10	子どもの健康状態の把握と評価
11	健康診断の意義と概要
12	子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴
13	子どもに多くみられる感染症の特徴と対応
14	アレルギー疾患の理解と対応
15	乳幼児期の基本的生活習慣形成の意義と健康問題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

子どもの成長・発達及び評価方法についてまとめ、発育を評価するうえでのポイントを述べなさい。

第2課題

子どもが病気にかかりやすい理由を述べ、保育施設における感染予防について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの発育と発達の特徴を理解した上で、次の視点を含めて説明する。
・発達の6原則
・スキャモンの発育曲線の特徴
・評価方法と判定基準

第2課題の留意点

子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴を説明する。感染予防については感染源、感染経路、宿主への対策を述べる。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。文字数は1,200字以上1,500字以下とすること。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、特に子どもの成長・発達の特徴や疾患に対する理解（種類、原因、対応など）を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること 。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
・指定文字数の９割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

・小野次朗　榊原洋一　『幼児と健康　日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』　ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30072	科目名［単位数／学習時間］	養護児童援助論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える＜演習＞社会的養護Ⅱ　第2版』　萌文書林				
ISBN	9784893474209	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25119
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

様々な事情で保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない子どもがいる。こうした子どもには公的責任で社会的な連携のもとで養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への社会的な支援を行うことが必要である。それは、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」ことを理念としているからである。要保護児童に対する支援を歴史的展開の中で捉え、法制度を理解することが重要である。また、児童福祉施設等における援助や権利擁護の問題等を学び、併せて、養育・自立支援のためのあり方や社会的養護の援助技術等についても学んでいく。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・社会的養護における支援者の資質と倫理とは何かについて理解する。
・子どもと家庭をとりまく現状と権利擁護の問題について理解する。
・社会的養護の法制度と自立支援施策について理解する。
・社会的養護の基本的な養育と自立支援のあり方及び方法について理解する。
・演習としての事例検討の理解と自立支援計画を作成することができるようになる。

学習テーマ

1	社会的養護における子ども理解と支援の基本・「児童の権利に関する条約」＜テキスト第1章＞
2	社会的養護における保育士等の専門性＜テキスト第1章＞
3	社会的養護における支援者としての資質と倫理＜テキスト第1章＞
4	子どもの権利擁護と児童自立支援計画の作成＜テキスト第1章＞
5	子どもの権利擁護、子どもの養育・事例検討＜テキスト第1章＞
6	社会的養護の実際・児童養護の体系と児童福祉施設の概要＜テキスト第2章＞
7	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際＜テキスト第2章＞
8	保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践＜テキスト第3章＞
9	社会的養護における保育士の業務＜テキスト第3章＞
10	親子関係の調整＜テキスト第3章＞
11	地域連携と家庭支援＜テキスト第4章＞
12	施設の小規模化・地域分散化＜テキスト第4章＞
13	グループホームにおける個別ケア・事例検討＜テキスト第4章＞
14	地域住民と施設の関係＜テキスト第4章＞
15	地域と入所児童のかかわり・事例検討＜テキスト第4章＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会的養護における児童自立支援計画について、記述しなさい。考察の最後に、本課題で学んだことが自身の日頃の活動（仕事・活動・生活場面）に、どのように役立つか具体的に記述する。

第2課題

社会的養護における親子関係の調整について、記述しなさい。考察の最後に、本課題で学んだことが自身の日頃の活動（仕事・活動・生活場面）に、どのように役立つか具体的に記述する。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章Ⅰを中心に、とくに§3をよく読み、基準、アセスメント、ストレングス、意見表明、記録、評価をキーワードとして文中に用い、学んで理解したことを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第3章Ⅱを中心に、とくに§1をよく読み、子どもの権利、親権、児童相談所、家族再統合、最善の利益をキーワードとして文中に用い、学んで理解したことを記述する。

レポートの評価基準

・テキスト以外にも最新のデータを報道や白書などから引用していること。
・まとめ（結論）は、「個人的な感想」にとどまってはならない。
・すべての課題に共通であるように、2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示すこと。テキストであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。
・日本語の文法に適う文章であること。
・「課題の留意点」に注意し、理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査して評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、十分理解を深めておくことが大切である。改正された「児童福祉法」の理念について理解できているか確認が必要である。また、社会的養護の各施設の概要、社会的養護に携わる各専門職の概要、里親を含めた家庭養護の概要、子どもおよび家族が抱える問題、施設における子どもの権利擁護について理解を深めておくことが必要である。

科目修了試験の評価基準

・「児童の権利に関する条約」の意義、特に「子どもの最善の利益を護る」「意見表明権」が社会的養護の基盤にあることを理解することが重要である。
・「児童の権利に関する条約」と、改正された「児童福祉法」の理念について理解する。
・社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
・社会的養護の制度や実施体系、施設養護および家庭養護の体系について理解する。
・児童自立支援計画作成におけるアセスメントの重要性について理解する。
・社会的養護に関わる地域の資源、住民との連携について理解する。
・施設の職員による児童へのケアは、エンパワーメントアプローチによる実践が行われる。エンパワーメントおよびアドボカシーについて理解する。

以上の点について、テキストの学習を十分にしておくことが大切である。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞（平成29年告示）』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30077	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉学特殊講義C(福祉とボランティア)[2単位／90時間]	科目担当	溝渕　淳
テキスト	●内海成治　中村安秀　『新ボランティア学のすすめ　支援する／されるフィールドで何を学ぶか』　昭和堂				
ISBN	9784812214183	本体価格(円)(2025年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	25157

科目の目的

現代社会でのボランティアに焦点をあて、社会福祉の視点を広めるために学習を進める。そして、幅広くボランティアへの正しい知識や価値観を習得し、受講者自らのボランティア観を構築するとともに、相談援助や地域作りに活用できるきっかけとすることを目指す。

到達目標

テキストを中心に、ボランティアについて正しい知識や価値観を習得する。そのために、社会情勢に常に関心をもつ姿勢、自分自身のボランティア観を問い直し、育む姿勢を涵養する。さらに、受講生自身が経験したボランティア活動をさらに発展させるため、振り返りの機会をもちながら、今後の課題について考察する。

ボランティア活動の経験がない場合には、今後の取り組み等に活かすことができるよう、ボランティア活動を身近にとらえ、実践していくことができるような意識の涵養を目指す。

学習テーマ

1	ボランティアとは何か【ボランティアの条件を把握し、ボランティア全般について理解を深める。】
2	ボランティアの制度と政策【公私協同、民間非営利活動、特定非営利活動をキーワードに学習する。】
3	ボランティアからとらえる現代社会【ボランティアに対する社会学的研究の概要を把握する。】
4	ボランティアと教育【サービスラーニングの理解、学校教育とボランティア活動の関係性の把握。】
5	大学生とボランティア【大学生とボランティアとの特性を考察する。】
6	外国人とボランティア【わが国のボランティアと外国人とのつながりについて事例を通して学ぶ。】
7	障がい者とボランティア【障がい者とボランティアの関係性を理解し、考察する。】
8	平和運動とボランティア【ボランティア活動を歴史から学び、具体的活動から理解を深める。】
9	開発援助とボランティア【自立支援を理解し、自立支援を目指すボランティアについて考察する。】
10	途上国とボランティア【保健医療の視点から事例を通してボランティアの果たす役割を理解する。】
11	人道支援とボランティア【人道支援の意味を理解し、人道危機への支援を考察する。】
12	災害ボランティアの新たな課題【災害ボランティアの必要性と意義ならびに課題について考察する。】
13	ボランティアの相互扶助論【国境を越えたボランタリーな支援について理解する。】
14	ボランティア学はどう変わるのか【共存社会を目指し、自然災害や国際NPO等の理解を深める。】
15	まとめ【さまざまな視点から学びを深めたボランティアに対し、受講生自身が今後の課題を見出す。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章「ボランティアとは何か」を参考にして、ボランティアの条件1～3について説明した上で、現在日本で実施されている、あるいはこれまで自身が参加したことのあるボランティア活動について、この3つの条件を用いて分析しなさい。

第2課題

あなたの居住地における「ボランティアの活用が展望できる課題」を挙げ、その現状と、なぜボランティアの活用が展望できるのかについて、理由を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読した上で、ボランティアの条件をしっかりと説明すること。また、現在日本で実施されているボランティア活動あるいは、自身がこれまで参加したことのあるボランティア活動の概要を示し、この活動について、3つの条件が満たされているのかについて具体的に分析すること。

第2課題の留意点

居住地における課題については、客観的なデータ等を示し、「課題である」ことの裏付けを行うこと。また、ボランティア活用の展望については、その活動内容、運営体制等についてできるだけ具体的に述べること。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。
・文章の内容が正確であるだけでなく、課題の趣旨に合致したものであること。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいること。
・テキストの転記ではなく、参考文献や関係資料を活用してレポート作成に取り組んでいること。
・引用文献、参考文献を適切に明示していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・第１章の４～５、第２章の１～２、第３章、第４章、第７章、第Ⅲ部の内容が試験の問題と関連している。
・テキストの熟読により正しい知識を習得し、設題の内容を正解に理解すること。
・論理的な文章で記されており、自分の意見を記す場合は、テキストの内容との関連性を明確に示すこと。
・自分自身の考えを全面に押し出すだけでは感想文になってしまうため、できる限り客観的視点に基づいた記述を徹底すること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキストからの出題であるため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答し、自分の意見を述べる場合には、テキストとの関連性が明確に示されていること。
・解答した文章の内容が正確であるだけでなく、設題の趣旨に合致したものであること。
・設題とは無関係の私的な文章が記されている解答は、減点の対象となる場合がある。

参考文献

常に現代社会の状況に関心を持つよう、新聞、文献、インターネット等を資料として推奨する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

＜対象：科目等履修生＞

認定こども園法改正に伴う
幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の
特例制度にかかる科目

認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生を対象とした科目です。

正科生・課程正科生は該当しませんので、注意してください。

科目コード	20026	科目名［単位数／学習時間］	教職論［2単位／90時間］
テキスト	●佐久間裕之　『教職概論　改訂　第2版』　玉川大学出版部		
ISBN	9784472406331	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,500
生協テキストNo.	25048		
科目担当	小坂　明		
実務経験のある教員による科目	公立小学校長		

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

1	教職の意義①　教職とは何か
2	教職の意義②　教員に求められるもの
3	教員の職務①　教員の身分
4	教員の職務②　教員の服務
5	教員養成　教員養成の歴史と現状
6	教員資格と教員の採用　教員免許状と教員採用試験
7	教員の資質能力　求められる資質能力
8	教員の研修と教員評価
9	教員と学校経営
10	専門職としての教職①　令和の日本型教育
11	専門職としての教職②　学習指導要領
12	専門職としての教職③　幼稚園教育
13	専門職としての教職④　特別支援教育
14	専門職としての教職⑤　生徒指導と道徳教育
15	教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

教員に服務遵守が求められている。その理由について考察せよ。

第2課題

教員の資質能力について、「変わるもの」と「変わらないもの」が挙げられている。あなたが最も大切だと思うものを一つ選び、論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「公の性質」を持つ学校教員の服務は、教育基本法をはじめ、法令等でどのように規定されているかを調べ、法律にしたがって仕事をする自覚と責任感について考察する。

第2課題の留意点

いつの時代の答申でも教員に必要な素養がまず述べられ、そして、社会の情勢や進歩に対応できる教員像が求められている。「令和の日本型学校教育で求められる教師像」の観点も踏まえ、教員に求められる資質能力について論じる。

レポートの評価基準

・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確であること。
・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの構成（目的）を参考にして、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説　総則編』、『幼稚園教育要領解説』、『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも重要である。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、適切な文章表現ができていること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年７月＞』　東京書籍又は文部科学省HP
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編＜平成30年３月＞』　開隆堂又は文部科学省HP
・文部科学省　『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編＜平成29年７月＞』　あかつき教育図書又は文部科学省HP
・文部科学省　『生徒指導提要（令和４年12月）』　東洋館出版社
・文部科学省　『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日）』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和３年１月26日）』　中央教育審議会答申
・法務省　『人権教育・啓発に関する基本計画』　平成14年３月15日閣議決定（策定）平成23年４月１日閣議決定（変更）
・金子邦秀　『新しい教職基礎論』　サンライズ出版
・今津孝次郎　『教師が育つ条件』　岩波新書
・文部科学省　『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和４年12月19日）』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（令和６年８月27日）』　中央教育審議会答申
・武田信子　多賀一郎　『教師の育て方』　学事出版

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名［単位数／学習時間］	教育社会学［2単位／90時間］			
テキスト	●陣内靖彦　穂坂明徳　木村敬子　『教育と社会　子ども・学校・教師』　学文社					
ISBN	9784762022579	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25052	
科目担当	間渕　泰尚					

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 ＜テキスト第1章＞
2	現代の子育てとその支援 ＜テキスト第2章＞
3	社会の変化と幼児教育 ＜テキスト第3章＞
4	日本の社会と学校①　戦前から戦後へ ＜テキスト第4章＞
5	日本の社会と学校②　戦後の教育改革 ＜テキスト第4章＞
6	カリキュラムと教科書 ＜テキスト第5章＞
7	学校生活の社会学①　学校と学級制度 ＜テキスト第6章＞
8	学校生活の社会学②　学校文化・隠れたカリキュラム ＜テキスト第6章＞
9	消費社会・情報社会と子ども文化①　消費社会と子ども ＜テキスト第7章＞
10	消費社会・情報社会と子ども文化②　子どもとネット社会 ＜テキスト第7章＞
11	日本の社会と教師①　教師のリーダーシップ ＜テキスト第8章＞
12	日本の社会と教師②　教員免許制度と教師の仕事 ＜テキスト第8章＞
13	世界、アジア、日本の教育改革 ＜テキスト第9章＞
14	地域と学校の連携 ＜参考文献：資料①　文部科学省（中教審第186号）＞
15	学校安全への対応 ＜参考文献：資料②　文部科学省（中教審第199号）＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

憲法の条文を踏まえた上で、現行の教育振興基本計画に掲げられている「経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保」という目標を実現するために必要な方策について論じなさい。

第2課題

次の2つのテーマから1つを選んで論じなさい。

1）「こども誰でも通園制度」が効果を上げるために必要な方策について論じなさい

2）教職の魅力を向上させるため、今後必要な方策について論じなさい

各課題の留意点

各課題共通の留意点

単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第1課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第4章、第5章および第9章を参考にすること。教育振興基本計画については、現行のものを文部科学省のHPから探して参照すること。概要版もしくはパンフレットでも構わない。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料①　文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。資料の要約に止まらぬよう、テキストの内容と関連付けて論じること。

第 2 課題の留意点

1）テキスト第 1 章から第 3 章までの内容を参考にすること。「こども誰でも通園制度」の内容についてはこども家庭庁のHPなどから各自資料を探すこと。資料の要約だけにとどまらず、必ずテキストの内容とも関連付けて論じること。

2）テキスト第 6 章から第 8 章までの内容を参考にすること。必要に応じて中教審答申『「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について』も参照すること。参考文献の『資料②　文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の 4 点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法に慣れておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点× 2 問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

・資料①　文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365761.htm
・資料②　文部科学省（中教審第199号）『第 2 次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1384125.htm

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20905	科目名［単位数／学習時間］	幼児教育課程特論［1単位／45時間］			
テキスト	●戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成　保育カリキュラムの基礎理論　教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版					
ISBN	9784865550542	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	25055	
テキスト	●文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814222	本体価格（円）（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25056	
テキスト	●厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814239	本体価格（円）（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25057	
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814246	本体価格（円）（2025年1月現在）	149	生協テキストNo.	25058	
科目担当	森　眞理					
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（日本・米国）、幼稚園園長（日本）、幼児部・初等部教諭（米国ニューヨーク補習授業校）					

科目の目的

本科目は、乳幼児教育・保育実践に欠かせない教育課程、すなわちカリキュラムについて学び、理解を深めることから、子どもの最善の利益を保障する乳幼児教育・保育の当事者としての意識を明確化することを目的としている。保育を実践するにあたり、現在、幼稚園では「教育課程」を編成し、保育所と認定こども園では、「全体的な計画」を編成する。本科目（テキスト）では、双方を含めて「保育カリキュラム」と称する。保育カリキュラムの意味と意義を理解することから始め、その歴史的変遷、保育における指導計画の捉え方と内容、小学校教育との連携におけるカリキュラム、そして、実践、及び記録と評価の関係について学び、幼児教育課程についての基礎を理解する。実務経験のある教員による課題に取り組むことから、より幼児教育・保育実践に携わっているとの実践意識を高めたい。

到達目標

本科目の到達目標は、以下の通りである。

・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの意味と意義を理解する。
・子どもの育ちの道のり（発達）にふさわしい保育カリキュラムの重要性について学ぶ。
・保育カリキュラムの構成を学び、乳幼児期にふさわしい保育内容について理解を深める。
・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び、その意義について理解する。
・評価の根本について学び、評価の意義を理解する。

学習テーマ

1	授業内容の構造（学びの概要）を理解する【学習のポイント：テキストを概観する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』まえがきと全章に目を通す。）】
2	幼児教育・保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育・保育の根本について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』1章）】
3	保育カリキュラムについて理解する【学習のポイント：カリキュラム作成と、計画の意義について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和時代のカリキュラムの変遷について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』2章）】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』3章）】
8	保育カリキュラムと指導計画【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
9	0歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
10	1、2歳児の育ちと指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
11	3歳以上児の育ちと指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：さまざまな指導計画の考え方と内容について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』4章）】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の重要性と指導計画の関係性を理解する。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』5章）】

14	保育の評価【学習のポイント：保育の質向上のための評価のあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 5 章）】
15	まとめ【学習のポイント：授業内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。（テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 5 章）】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

本科目における 1 ）「保育カリキュラム」の意味（基本的な考え方）について述べ、 2 ）教科カリキュラムと経験カリキュラムを比較し、それぞれの長所と短所について考察し、述べなさい。

第 1 課題の留意点

テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の「まえがき」から「 1 章、 2 章、 3 章」を熟読し、保育カリキュラムの意味と意義を把握すること。加えて、保育カリキュラムの捉え方について、参考文献『幼稚園教育要領解説』及び『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』から示唆が与えられるので、一読すること。

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確・具体性をもって記しているかについて評価する。
・次の 6 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
③他人に読ませることを意識し、丁寧に作成している。（主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。）
④レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っていること。
⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。
⑥文献から引用・参考にする際は、その旨を明記し、本学の表記に準じて表すこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

＊科目修了試験への心構えと受験については下記の項目を留意することが肝心である。
・試験問題を丁寧に読み、その趣旨を理解して、キーワードや事項の意味を捉えて正確に説明すること。
・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開すること。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論（問題提起を含む）を記述することで高い評価に近づく。
・自筆の判読が難しい際（例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字）は、不可となることを心得ておくこと。
＊テキストの熟読と科目修了試験との関係性については、下記の項目を留意すること。
・「 1 章」からは、「教育課程」と「全体的な計画」、すなわち、「保育カリキュラム」の意味とその独自性について理解しておくこと。
・「 2 章」からは、今日の保育カリキュラムの現状と課題を理解し、問題解決へと一歩踏み出すための施策について、自分なりに考えておくこと。
・「 3 章」からは、幼稚園・保育所・認定こども園のカリキュラムの基本的編成について、それぞれの教育・保育施設の特性との関係から理解しておくこと。
・「 4 章」からは、 1 ） 0 - 5 歳児の発達の特性と指導計画立案においての留意点について学んでおくこと、加えて、小学校との連携のカリキュラムの重要性について理解し、課題について考えておくこと。
・「 5 章」からは、子ども理解と記録・評価の関係性について学び、その意義について理解しておくこと。
＊各章の重要な用語については、説明できるように整えておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があること。
・主語・述語の関係を留意した文章であること。改行、改節等に留意していること。
・判読可能な丁寧な文字で記していること。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20906	科目名［単位数／学習時間］	保育内容の研究・特別総論［1単位／45時間］
テキスト	●森眞理　猪田裕子　『子どもの権利との対話から学ぶ　保育内容総論』　北大路書房		
ISBN	9784762831904	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,200
生協テキストNo.	25115		
科目担当	猪田　裕子		
実務経験のある教員による科目	私立幼稚園教諭		

科目の目的

乳幼児教育を総合的な視点で理解し、遊びを通じて学びに向かう子どもの力を捉える。そのために必要な環境構成の知識や技能を習得することを目的とする。

到達目標

・乳幼児期における教育（遊びの中から学びに向かう力を捉える）の基本を理解する。
・子ども理解に基づく指導計画の作成、展開、評価の考え方を理解する。
・乳幼児の興味・関心や心身の発達等に応じた具体的な指導のあり方を理解する。

学習テーマ

1	子どもの権利を軸とした保育内容【学習のポイント：保育内容総論を学ぶ意味と意義を考察する】
2	子どもの最善の利益を保障すること【学習のポイント：子どもには権利があるという視点から保育内容総論を考える】
3	子どもの育ちと保育内容との関係性【学習のポイント：生きる力を育む保育内容の実際を探究する】
4	子どもの遊びと保育内容の関係性【学習のポイント：「遊びこそ学び」との視点から保育内容を考える】
5	環境を通して行う保育【学習のポイント：「ヒト」「モノ」「コト」を通して保育環境を考える】
6	子どもの生活から保育内容を考える【学習ポイント：保育の歴史的変遷を踏まえながら、保育内容を考える】
7	乳児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点を考察する】
8	幼児期の特性と保育内容【学習のポイント：子どもの発達に応じた遊びと学びの視点及び保育の質について考察する】
9	子どもの育ちと学びの可視化【学習のポイント：「今を生きる子ども」の姿を記録する意味や意義について考える】
10	保育の多様性【学習のポイント：子どもの権利の視点から、多様性を尊重する意味を考える】
11	保育の場におけるインクルージョン【学習のポイント：保育の場でインクルージョンを実現することの大切さを理解する】
12	保育におけるSDGsとESD【学習のポイント：SDGsやESDと、幼稚園教育要領・保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について考える】
13	世界の保育内容を学ぶ【学習のポイント：各国で行われている保育内容やその工夫について調べてみる】
14	子どもの権利を保障する保育者の姿【学習のポイント：子どもの願いや気づきに聴き入る保育者の姿の意味を考える】
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの発達段階に応じた遊びの具体例を2つ挙げ、それらがどのように学びにつながるかを説明しなさい。

第1課題の留意点

「遊びこそ学び」という考え方を正しく理解し、遊びと学びの関係性を具体的に述べることが求められる。子どもの発達段階に応じた具体例を挙げ、その遊びがどのように成長や学びに結びつくのかを論理的に説明する必要がある。保育者の視点を意識し、遊びを支える保育環境の構成についても言及すると良い。テキストの内容を活用しながら、自分の考えを簡潔かつ明確に表現することが重要である。

レポートの評価基準

・テキストの内容の理解と整理：テキストを精読し、その内容を的確に整理していること。また、参考文献などの情報を活用し、論理的に自らの考えを述べていること。
・課題の趣旨の理解と論旨の展開：課題の趣旨を正確に把握し、論旨が一貫して展開されていること。論理的な構成で、読み手に伝わりやすい内容となっていること。
・形式および表現の正確さ：レポートの形式（文字数、構成、書式など）を遵守していること。文法や文章表現に誤りがなく、誤字脱字がないこと。
・参考文献の適切な使用と明記：使用した参考文献が適切であり、レポート内でその内容を正確に活用していること。また、すべての参考文献を正しい形式で明記していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・問題文を正確に把握し、求められている内容を的確に答え、具体例や根拠を盛り込み、論理的に述べることが重要である。
・テキストを活用しつつ、自分の考えをわかりやすく述べ、引用がある場合は適切に説明を加えることが必要である。
・形式と文章表現に配慮し、誤字脱字を避け、簡潔で読みやすい構成を心がけることが求められる。
・具体例と実践的な視点を重視し、子どもの発達や保育現場に基づいた事例を用いて説得力のある回答を作成することが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題を正しく理解し、明確かつ的確な答えが書かれており、設題の趣旨を的確に捉えているかを評価する。
・答案が論理的に構成され、一貫性が保たれており、序論・本論・結論が明確で筋道が通っているかを重視する。
・テキスト内容を踏まえた具体的な事例や考察が含まれており、表面的な説明に留まらず深い理解が伝わる内容であるかを評価する。
・文法や言葉遣いが適切で、誤字脱字がなく、表現が明確で読みやすい文章であるかを確認する。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20907	科目名［単位数／学習時間］	教育方法・技術特論（初等）［1単位／45時間］			
テキスト	●堀田龍也　佐藤和紀　『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』　三省堂					
ISBN	9784385362649	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	25136	
テキスト	●文部科学省　『幼稚園教育要領解説（平成30年2月）』					
ISBN		本体価格（円）（2025年1月現在）		生協テキストNo.		文部科学省HPよりダウンロード可能
テキスト	●文部科学省　『教育の情報化に関する手引ー追補版ー（令和2年6月）』（インターネットにて閲覧）					
ISBN		本体価格（円）（2025年1月現在）		生協テキストNo.		https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
科目担当	中尾　尊洋					
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（情報担当）					

科目の目的

Society5.0を目指した社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や学習基盤としての情報活用能力の育成について理解を深めると共に、様々な教育の方法や指導技術についての知識に基づく情報技術を活用した学習方法の在り方について理解する。教育の情報化についての現状、及び児童の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な学習の方法について、実務経験を踏まえて教授する。

到達目標

・Society5.0を目指す社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
・教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
・教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1	学習指導要領と授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第1章】
2	教育方法の原理と学習評価【学習のポイント:テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第2章、『幼稚園教育要領解説』第1章第4節4幼児理解に基づいた評価の実施】
3	授業中の教師の意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第3章、『幼稚園教育要領解説』第1章第4節3指導計画作成上の留意事項】
4	授業における発問と指示【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第4章】
5	教材活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第6章、『幼稚園教育要領解説』第1章第1節幼稚園教育の基本】
6	教師によるICT活用、学校放送番組の活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第7章～第8章、テキスト『幼稚園教育要領解説』第1章第4節】
7	思考力を育てる授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第9章、『幼稚園教育要領解説』第2章第2節各領域に示す事項】
8	情報活用能力の育成【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章、『教育の情報化に関する手引』第2章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

学習の基盤となる資質・能力の育成につなげるための幼児教育におけるICT機器活用のあり方について、具体的な事例を挙げて考察しなさい。

第1課題の留意点

学習の基盤となる資質・能力について把握した上で、幼児期に期待されるICT機器活用に求められている内容について理解する。その上で、テキスト『幼稚園教育要領解説』に示されているICT機器の取り扱いを踏まえ、小学校以降の教育へとスムーズに移行させるためのICT機器活用のあり方等について考察する。その際、具体的なICT活用事例を挙げ、どのように資質・能力につながるのかを説明すること。なお、具体的な事例に関してWeb等に公開されたものを用いた場合、参考文献として明示すること。文献は持論の根拠を示すものとし、文献の引用を主張そのものとした場合は評価しないので留意すること。

レポートの評価基準

次の項目が説明されていること。
①学習の基盤となる資質・能力について説明されている。
②幼児教育におけるICT機器の扱いについて、適切に説明されている。
③幼児教育における具体的なICT活用事例を挙げ、資質・能力へのつながりについて考察されている。
なお、図表を用いてもよいが、必要最小限とし、過度に多くならないようにする。分量はA4用紙3枚以内にまとめること。文献は適切に記載されていない場合、評価の対象とならないため注意すること（文献の記載方法はバンクーバー方式とする）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第 1 章、及び『幼稚園教育要領解説』をよく読み、最新の学習指導要領の特徴及び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について説明できるようにしておく。
・テキスト『幼稚園教育要領解説』の第 1 章第 4 節「幼児理解に基づいた評価」をよく読み、幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価を実施する際の配慮事項について説明できるようにしておく。
・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第 6 章及び、『幼稚園教育要領解説』第 1 章第 1 節幼稚園教育の基本をよく読み、環境を通して行う教育の意義及び幼児教育における教材のあり方について説明できるようにしておく。
・テキスト『幼稚園教育要領解説』第 1 章第 4 節「幼児理解に基づいた評価」をよく読み、幼児教育において計画的に指導を行うために重要な 2 点をおさえ、具体的な事例を挙げて説明できるようにしておく。
・テキスト『情報を支える教師になるための教育の方法と技術』の第11章、及び『教育の情報化に関する手引』の第 2 章をよく読み、情報活用能力の 3 観点 8 要素について説明できるようにしておく。また、幼児教育における情報機器の活用について留意すべき事項を説明できるようにしておく。
・テキスト『幼稚園教育要領解説』第 2 章第 2 節 2 人との関わりに関する領域「人間関係」をよく読み、幼児が自分自身の生活を確立し、自分の力で行うことの充実感を味わうようになるために、教師が配慮すべき事項について説明できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないので注意。
・専門用語の誤字脱字・誤りが無いこと（例：○形成的評価　×形式的評価　など）。
・自分の考えを述べるように問題文に明示されていない場合は、自分の考えを述べる必要はない。

参考文献

・狩野さやか　『 3 つのキーワードで新学習指導要領案を見る！～「学びの質」に大きくシフトして必要になるものは？(2017)』
https://ict-toolbox.com/report/2017/03/1493/
・文部科学省　『幼稚園教育要領（平成29年告示)』
https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_2.pdf
・文部科学省　『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
・内田洋行教育総合研究所　『意外と知らない"情報活用能力"（2018)』（第 1 回～第 3 回）
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017812.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017814.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017815.html
・NHK for School　『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20908	科目名［単位数／学習時間］	幼児理解特論［1単位／45時間］
テキスト	● 文部科学省 『幼児理解に基づいた評価（平成31年3月）』 チャイルド本社		
ISBN	9784805402832	本体価格（円）（2025年1月現在）	250
生協テキストNo.	25068		
科目担当	権藤 眞織		

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、自分の保育観に基づいて保育を展開していくには、まず、「子ども理解」の基礎・基本、原理・原則を掴んでおく必要がある。基本をしっかりと理解して、自分らしい豊かな保育を展開し、実践力のある保育者を目指してほしい。

到達目標

「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。

・保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
・生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
・「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
・個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
・保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
・環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
・保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
・保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	幼児理解に基づいた評価の意義とは
2	評価の考え方①：幼児教育における基本的な視点
3	評価の考え方②：発達を見通した評価の視点
4	よりよい保育を作り出すために
5	幼児理解に基づいた評価の考え方とは
6	保育における幼児理解と評価とは
7	よりよい保育に繋がる保育記録①：幼児の姿と保育
8	よりよい保育に繋がる保育記録②：教室の視点と保育
9	日常の保育と保育記録
10	幼児理解に基づいた評価の実際①：実践事例（テキストより事例1・2）
11	幼児理解に基づいた評価の実際②：実践事例（テキストより事例3・4・5）
12	幼児理解に基づいた評価の実際③：実践事例（テキストより事例6・7）
13	「幼児理解」に関連する根拠法令のポイントを理解する。
14	「幼児理解」に関連する記録（指導要録や児童保育要録など）の作成のポイントや留意点を理解する。
15	まとめ：テキストからキーワードを抽出して、自分なりの「幼児理解」「保育における評価」についてまとめる。そして、自分の保育観や保育実践と、「幼児理解」や「評価」の基本姿勢を比較検討し、基本を踏まえた上で、自分らしい保育を行うには、どんな工夫や配慮ができるか考察する。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

幼児理解に基づいた評価の意義について解説しなさい。そして、レポートの最後で、課題に取り組んでみて、あなたなら、「幼児理解」を行う際、最も重視すべき点と、なぜ、それを重視すべきなのか、説明しなさい。

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読し、どのような意義があるのかを理解し、何が大切かを説明する。そして、保育者として、「幼児理解」を行う際のポイントや留意点を述べ、なぜ大切なのか、自身の考えを述べること。

レポートの評価基準

職業人として「保育」を実践していくためのスキルを身につけていく基礎として、「幼児理解」の考え方を把握できているか評価する。テキストは日本の保育や幼児教育のガイドラインの1つであるため、要点を捉えて解説できているか評価する。そして、具体的な例を挙げながら解説しているか、また最後に、課題に取り組んでみて自分がどのように感じ、考え、気づいたのか、私見を述べているかを評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み、キーワードを掴むことが大切である。幼児理解のポイントを捉えて、実際の子どもと関わる際には、実践が求められる。専門的な用語や内容を説明する際には、何らかの具体例や子どもの事例などを例示しながら解説すると、わかりやすく、伝わりやすい論述となる。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の趣旨に沿って適切に解説すること。また、解答用紙表面が埋まる程度＜1行30字×27行（810字程度）＞の記述が必要。誤字脱字にも留意が必要。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館又は文部科学省HP
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
その他、各自でも工夫して、関連するさまざまな資料やニュース、参考文献にも目を通してみる。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20901	科目名［単位数／学習時間］	福祉と養護［2単位／90時間］			
テキスト	●「福祉と養護」編集委員会　『福祉と養護　第3版』　みらい					
ISBN	9784860155094	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,700	生協テキストNo.	25138	
テキスト	●『令和5年度最新版　幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』 チャイルド本社					
ISBN	9784805403303	本体価格（円）（2025年1月現在）	800	生協テキストNo.	25097	
科目担当	藤原　伸夫					
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）、福祉事務所係長、公立施設長					

科目の目的

本科目は、保育士試験免除（特例制度）に必要な履修科目「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護」の3科目の内容を含んだ科目である。「子ども家庭福祉」を軸に、そのベースとなる「社会福祉」および家庭養育が困難な児童を対象とする「社会的養護」について学習する。社会福祉の実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
・社会福祉と子ども家庭福祉の役割について理解する。
・社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・施設養護の実際について理解する。

学習テーマ

1	現代社会における社会福祉･子ども家庭福祉および社会的養護の意義①（社会福祉の理念と概念）＜テキスト『福祉と養護』第1章＞
2	現代社会における社会福祉・子ども家庭福祉および社会的養護の意義②（現代社会と子ども家庭福祉、社会的養護の理念と基本原理）＜テキスト『福祉と養護』第1章＞
3	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史的変遷①（イギリスとアメリカにおける社会福祉の歴史）＜テキスト『福祉と養護』第2章＞
4	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史的変遷②（日本における社会福祉・子ども家庭福祉の歴史）＜テキスト『福祉と養護』第2章＞
5	社会福祉と子ども家庭福祉の役割①（社会福祉分野としての子ども家庭福祉、子ども家庭福祉分野としての子育て家庭支援・社会的養護）＜テキスト『福祉と養護』第3章＞
6	社会福祉と子ども家庭福祉の役割②（子どもの権利と権利擁護）＜テキスト『福祉と養護』第3章＞
7	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制①（社会福祉の法体系と財政、子ども家庭福祉の法体系と財政）＜テキスト『福祉と養護』第4章＞
8	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制②（社会福祉・子ども家庭福祉の行政機関、福祉の民間専門機関と団体）＜テキスト『福祉と養護』第4章＞
9	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職①（社会福祉と子ども家庭福祉の施設）＜テキスト『福祉と養護』第5章＞
10	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職②（社会福祉と子ども家庭福祉の専門職）＜テキスト『福祉と養護』第5章＞
11	社会的養護の実施体制と仕組み（社会的養護の体系、社会的養護の実施体制、措置制度と利用契約制度）＜テキスト『福祉と養護』第6章＞
12	子ども家庭福祉の現状と課題①（母子保健、子どもの健全育成、子ども虐待、ドメスティックバイオレンス）＜テキスト『福祉と養護』第7章＞
13	子ども家庭福祉の現状と課題②（社会的養護、障害のある子どもへの対応、少年非行、子どもの貧困対策、外国籍の子どもへの支援）＜テキスト『福祉と養護』第7章＞
14	施設養護の実際①（施設養護の基本原理、施設養護の展開過程、施設養護のインケアの実際）＜テキスト『福祉と養護』第8章＞
15	施設養護の実際②（児童養護系施設、障害児系施設、治療・行動系施設）＜テキスト『福祉と養護』第8章＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

わが国における子どもの権利擁護の取り組みの現状と課題について述べなさい。

第2課題

社会的養護のこれからの在り方と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・必ず、児童の権利に関する条約の批准にふれて述べること。
・テキスト『福祉と養護』第 3 章を精読すること。しかし、テキストの引用だけではなく、「こども基本法」施行など最近の動向も参考とすること。

第 2 課題の留意点

・まず、社会的養護とはどのようなことをいうのか説明すること。
・テキスト『福祉と養護』第 3 章と第 6 章を精読し「新しい社会的養育ビジョン」を参照すること。しかし、テキストの引用だけではないこと。

レポートの評価基準

・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの全範囲のからの出題となるが、特に課題で取り上げられたことの他、現代社会福祉の背景について理解しておくこと。
・子ども家庭福祉に関する機関および施設の概要について理解しておくこと。
・子ども家庭福祉の実施体制と仕組みについて理解しておくこと。
・在宅児童を対象とする子ども家庭福祉サービス・活動の概要について理解しておくこと。
・子ども家庭福祉サービスを支える専門職の概要について理解しておくこと。
・戦後の日本における子ども家庭福祉の歴史的展開について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護の共通基盤である「福祉」というとらえ方が理解できているか。
・子ども家庭福祉および社会的養護の制度や実施体系等について理解しているか。
・子ども家庭福祉および社会的養護の歴史、現状および課題について理解しているか。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・設問に関係する専門用語の正確な記述と誤字脱字がないこと。

参考文献

・厚生労働省HP
・こども家庭庁HP
・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会
・社会福祉法人大阪ボランティア協会　『福祉小六法（最新版）』　中央法規出版

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20903	科目名［単位数／学習時間］	保健と食と栄養［2単位／90時間］ 子どもの保健分野：子どもの保健特論

テキスト	●大森正英　『図解　新・子どもの保健』　みらい					
ISBN	9784860155636	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25122	
科目担当	小島　光華					

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患の特徴と予防に必要な知識を学ぶ。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの健康と保健活動の意義を理解する。②子どもの健康に関する現状と課題を理解する。③子どもの発育発達と保健について理解する。④子どもの心身の健康状態の把握と対応について理解する。⑤子どもの疾病と対応について理解する。

学習テーマ

1	健康の定義と子どもの健康
2	子どもに係る保健活動の目的と内容
3	子どもの健康指標
4	母子保健対策にみる現状と課題①　母子保健活動と母子保健対策
5	母子保健対策にみる現状と課題②　地域保健活動と子どもの虐待防止
6	子どもを取り巻く環境
7	子どもの身体の発育と保健
8	子どもの心身の発達と保健①　運動機能と精神機能の発達
9	子どもの心身の発達と保健②　感覚器と生理機能の発達
10	子どもの健康状態の把握と評価
11	健康診断の意義と概要
12	子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴
13	子どもに多くみられる感染症の特徴と対応
14	アレルギー疾患の理解と対応
15	乳幼児期の基本的生活習慣形成の意義と健康問題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第１課題

子どもの成長・発達及び評価方法についてまとめ、発育を評価するうえでのポイントを述べなさい。

第１課題の留意点

子どもの発育と発達の特徴を理解した上で、次の視点を含めて説明する。
・発達の６原則
・スキャモンの発育曲線の特徴
・評価方法と判定基準

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。文字数は1,200字以上1,500字以下とすること。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、特に子どもの成長・発達の特徴や疾患に対する理解（種類、原因、対応など）を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること 。
・解答用紙表面が埋まる程度＜ 1 行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。
・指定文字数の 9 割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字が無いこと。

参考文献

・小野次朗　榊原洋一　『幼児と健康　日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識』　ジアース教育新社

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20904	科目名［単位数／学習時間］	保健と食と栄養［2単位／90時間］ 子どもの食と栄養分野：子どもの食と栄養特論
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第3版』　羊土社		
ISBN	9784758113809	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,600
生協テキストNo.	25104		
科目担当	廣田　有加里		
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）		

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。健康管理の実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3	妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
4	乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践
5	幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義
6	学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応
7	食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援
8	特別な配慮を要する子どもへの対応

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期の心身の発育・発達の特徴と健康への対応について述べよ。

第1課題の留意点

食生活の基礎は離乳期から小学校入学までに築かれるといわれている。幼児期の発育・発達段階に応じた食生活の関係と食生活上の問題を理解し、健康に成長するために、保育者として、どのような対応が必要であるか具体的に記述する。テキスト第6章とその他の参考文献に目を通した上で、自分なりの視点を持って課題を考察する。

指定テキスト以外にも、多数の最新の参考文献などを熟読し理解した上で、自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

レポートの評価基準

・指定テキストだけでなく、多数の最新の参考文献に目を通し、理解を深めた上で、レポートの基本的な構成である「序論」「本論」「結論（まとめ）」の形式で記述している。「序論」は「本論」への導入部分であるため、必ず記述し、「結論」として、図表の解釈や欄外の用語なども取り入れて考察をしている。
・レポートの課題の趣旨を理解し、論理的にわかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成し、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
・文字数は、1,800字以上2,000字以下とすること。
以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。
※「まる写し」、「引き写し」、「コピーペースト」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・１日に何をどれだけ食べればよいか、必要なエネルギーおよび栄養素の基準が定められている『日本人の食事摂取基準（2025年版）』について理解した上で、献立作成や調理に役立つ食事バランスガイドについても、関連付けて理解を深めておく。（テキスト第３章pp.36-46）
・『平成27年度乳幼児栄養調査の結果の概要』では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取り組みをしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。（テキスト第５章pp.62-64、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査の結果の概要』）
・離乳食の意義と離乳食を開始する発達の目安を理解し、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第５章pp.68-75、第10章pp.132-143）
・幼児期の生理的特徴と食行動の問題について、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第６章pp.76-89、参考文献『授乳・離乳の支援ガイド2019年改定版』、『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』）
・子どもの食環境や社会環境の現状や課題を認識した上で、食育は日常生活のなかの一部であり、保育の一環としての食育実践を目指していくことを理解しておく。（テキスト第９章pp.117-131）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：母乳、離乳、食事摂取基準、食事バランスガイド、食物アレルギー、食育

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・指定文字数９割に満たない場合や指定文字数を超えた場合は評価しない。
・テキスト学習により得られた基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。
・字は読みやすく、漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・上田玲子　『子どもの食生活』　ななみ書房
・厚生労働省　『日本人の食事摂取基準（2025年版）』策定検討会報告書
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44138.html
・厚生労働省　『健康日本21（第三次）の概要』
https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001158810.pdf
・厚生労働省　『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』
https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf
・厚生労働省　『授乳・離乳の支援ガイド（2019年改定版）』
https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000496257.pdf
・厚生労働省　『平成27年度乳幼児栄養調査結果の概要』
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省　『食物アレルギーの栄養食事指導の手引き2022』
https://www.foodallergy.jp/wp-content/themes/foodallergy/pdf/nutritionalmanual2022.pdf
・農林水産省　『健全な食生活の実現』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省　『食事バランスガイドと従来の分類法との関連』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省　『乳幼児の発達段階に応じた栄養指導の充実』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h28/h28_h/book/part2/chap1/b2_c1_2_02.html
・農林水産省　『食育の推進』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html
・農林水産省　『第４次食育推進基本計画』啓発リーフレット
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/plan/4_plan/attach/pdf/index-28.pdf
・農林水産省　『子どもの食育』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/index.html
・子ども家庭庁　「乳幼児期の栄養について」
https://www.cfa.go.jp/policies/boshihoken/eiyou
・消費者庁　『栄養や保健機能に関する表示制度とは』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/health_and_nutrition_labelling
・消費者庁　『食品表示について』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/
・消費者庁　『食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！』
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/assets/caution_047_210120_0001.pdf
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20909	科目名［単位数／学習時間］	子ども家庭支援論［2単位／90時間］ 子ども家庭支援論分野：子ども家庭支援特論
テキスト	●石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』　みらい		
ISBN	9784860154882	本体価格（円）（2025年1月現在）	2,100
生協テキストNo.	25121		
科目担当	北野　富美子		
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長		

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育者の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か
2	子どもと家庭を取り巻く環境
3	子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子ども家庭支援が必要とされる背景
5	保育者の専門性を活かした支援
6	子育て家庭を支える法・制度
7	子育て家庭を支える社会資源
8	保育者に求められる基本的態度
9	相談支援場面で必要な技術
10	保育場面における具体的な子育て支援の方法
11	地域の子育て家庭への支援
12	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援
13	発達障害児等・子どもの貧困の理解と家庭への支援
14	要保護児童等とその家庭に対する施策
15	子ども家庭支援に関する現状と課題

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

保育者は子どもや保護者にかかわる際、家庭の状況を把握することが必要である。子どもの家庭の状況に応じた支援を行ううえで、保育者に求められる姿勢について述べなさい。

第１課題の留意点

テキスト第７章を精読した上で、必要箇所を取り上げ考察も入れながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めたうえで、文中に用いることも可能である。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育者が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。
・解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞に記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20914	科目名［単位数／学習時間］	乳児保育［2単位／90時間］ 乳児保育Ⅰ分野：乳児保育特論

テキスト	●乳児保育研究会　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房					
ISBN	9784894642539	本体価格（円）（2025年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	25117	
科目担当	大江　まゆ子					

科目の目的

乳児保育の基本、保育の実際について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。

・乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
・保育の計画の重要性と乳児保育の実際を学ぶ。
・乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
・保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

・乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
・乳児保育における保育の計画の作成について、特に月齢差、個人差が著しい乳児期は個別に作成し、0歳・1歳・2歳児ともに年間を通して発達の過程を見通す重要性についての理解を深める。また、個々の子どもの姿や家庭状況をよく把握する重要性を理解する。
・乳児保育の歩みや現状、保育制度についても理解を深める。
・保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。
・在園児の保護者支援とともに、地域の子育ての専門機関として、在宅の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育における健康及び安全管理【学習のポイント：月齢や発達による健康及び安全管理における保育士の配慮事項を理解する。＜テキストpp.40-61＞】
3	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方、遊びを通した乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
4	0歳児期の遊びと援助【学習のポイント：0歳児の月齢や発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.62-63、pp.65-68、pp.69-71、pp.73-75＞】
5	1歳児期の遊びと援助【学習のポイント：1歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.63-64、p.68、p.72、pp.74-76＞】
6	2歳児期の遊びと援助【学習のポイント：2～3歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.64-65、p.69、pp.76-77＞】
7	乳児保育における遊びと環境【学習のポイント：発達に応じた遊び環境とはどのようなものか、またあそび文化について理解する。＜テキストpp.77-87＞】
8	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
9	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：3歳児神話はどのようなものか、またボウルビー学説から学ぶべき点について理解する。＜テキストpp.108-111＞】
10	子どもの発達と乳児保育【学習のポイント：子どもの発達によい影響を与える保育条件とはどのようなものか、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.111-115＞】
11	親としての発達に関わる要因【学習のポイント：育児不安と親の就労環境、赤ちゃんの気質などの親としての発達に関わる要因について理解する。＜テキストpp.116-121＞】
12	親子の豊かな育ちに必要な保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
13	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
14	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
15	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

乳児期からの家庭外の保育経験が子どもの発達を支えるものとなるために求められる保育の質や保育士の援助とはどのようなものであるか、述べなさい。

第１課題の留意点

乳児保育の重要な論点に「３歳児神話」がある。すべての子どもが健やかに育つことを保障する乳児保育を行うために、求められる保育の質や保育士の専門性について考察することが必要である。テキストでは特に第５章を読み込み、子どもと保護者の豊かな育ちを支える保育士の役割を理解してレポート作成することが重要である。テキストや参考文献以外にも３歳児神話に関連する文献を読み、すべての子どもの育ちを保障する保育の観点から考えることが重要である。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
・課題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
・次の３点を評価基準とする。
　①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
　②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
　③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面が埋まる程度＜１行30字×27行（810字程度）＞の記述があることを前提として評価する。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・ChaCha Children & Co.　『見る・考える・創りだす　乳児保育　Ⅰ・Ⅱ』　萌文書林

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

ー「音楽」用　五線紙 ー

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーまたは「親和deネット」の＝お知らせ＝からダウンロード（プリントアウト）をして使用してください。

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーまたは「親和deネット」の＝お知らせ＝からダウンロード（プリントアウト）をして使用してください。

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーまたは「親和deネット」の＝お知らせ＝からダウンロード（プリントアウト）をして使用してください。

送信方向

※この用紙は、コピーしてご使用ください。
※FAX番号を間違えないよう注意してください。

FAX番号
神戸親和大学生協　通信テキスト係
078-595-0565
〒651-1111　神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1
TEL 078-595-0303

『通信教育部』専用 テキスト購入FAX（郵送）申込書

お届け方法（いずれかに○をつける）

・下記住所に郵送　　・神戸親和大学内 生協店舗での受取り

★組合員の方は組合員番号をご記入ください。ご記入のない場合は組合員割引になりませんので、ご了承ください。

学籍番号		学　科	
郵便番号	〒　　—	組合員番号	
ご住所	ふりがな		
お名前	ふりがな	電話番号（携帯番号）	— —
e-mail		FAX番号	— —

※単価・金額は本体価格にて計算のこと

テキストNo.	書　名	数　量	単　価	金　額

★太枠の中の必須事項をお書き込みください。
★ご注文が２枚以上にわたる場合は送付枚数をご記入の上まとめてお送りください。

お申込金額	
合　計	

ご自宅等に送付希望の方には、後日請求書をお送りいたしますので、指定の口座にお振込みください。入金が確認でき次第、商品を送付いたします。

★ご請求時には合計金額に対して消費税が加算されます。

送付枚数	枚

※生協出資金をお振込みの方で組合員証がお手元に届いていない方は、お振込み日をご記入ください。

月　　日　振込済み

レポート作成時および提出時のチェックポイント

◆レポート作成・提出の際は、次のチェックポイントに注意してください。

レポート作成時

【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

□ 最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して作成した。
□ 2,000 字程度＜自筆の場合は、本学所定レポート用紙 5 枚程度＞で作成した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
□ レポート本文には、枚数がわかるようにページ番号を記入した。
□ 基本的な原稿用紙の使い方（段落の初めは 1 字下げるなど）で作成し、段落は適切にとった。
□ 句読点（「、」「。」）を適切に打った。
□ 常体（「だ・である調」）で作成した。
□ 誤字や脱字がないことを確認した。
□ 引用文がある場合は、「　」でくくり、そのあとに注番号を打ち、引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

＜自筆の場合＞
レポート用紙下欄に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

＜ワープロソフト使用の場合＞
文末（最終ページ）に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

□ 参考文献がある場合（引用ではなく）は、文末（最終ページ）に著者名、『書名』、出版社名、出版年を挙げた。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

【自筆の場合】

□ レポート用紙はタテ型で横書きにした。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
□ 黒インクのボールペンまたはペンで記入した。（※消せるボールペン・鉛筆使用不可。）
□ 他人が読むことを意識して丁寧に記入した。

【ワープロソフト使用の場合】

□ 指定様式（用紙、用紙サイズ、書字方向、フォント、文字色、文字サイズ、文字数、1 行の文字数、1 ページの行数、余白（上、下、左、右）、ヘッダー、フッター）のとおりに作成した。

レポート提出時　【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

□ レポート表紙は黒インクのボールペン又はペンで記入（※消せるボールペン･鉛筆使用不可。）し、報告課題評価票は鉛筆で記入した。
□ 報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の科目名や課題番号はすべて間違いない（不一致が無い）ことを確認した。
□ 上から、報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の順にホッチキス留め（3 か所）した。
□ 再提出の場合は、レポート表紙に「作成にあたって前回より注意した点」を記入し、不合格となったレポートを添付（クリップ等でまとめる）した。（※再提出分も最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して記入する。）

神戸親和大学
KOBE SHINWA UNIVERSITY

通信教育部事務室

〒651-1194 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1
TEL 078-591-8796 FAX 078-591-8797
URL https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/